

令和3年度

事業報告書

社会福祉法人にしあいづ福祉会

(1)	本部	1 ~	8
(2)	特別養護老人ホームさゆりの園	9 ~	40
(3)	さゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業所	41 ~	65
(4)	さゆりの園デイサービスセンターⅡ	66 ~	81
(5)	西会津町訪問介護事業所	82 ~	95
(6)	西会津町居宅介護支援事業所	96 ~	104
(7)	にしあいづ地域包括支援センター	105 ~	139
(8)	障がい相談事業所にしあいづ	140 ~	144
(9)	グループホームのぞみ	145 ~	150
(10)	西会津町こゆりこども園	151 ~	162
(11)	西会津町小規模多機能型居宅介護施設高陽の里	163 ~	167
(12)	介護老人保健施設「憩の森」	168 ~	199
(13)	「憩の森」短期入所療養介護事業所	200 ~	215
(14)	「憩の森」通所リハビリテーション事業所	216 ~	229
(15)	西会津町地域ふれあいセンター居住部門	230 ~	234

1 基本方針

理念・指針のもと、社会の変化と地域住民のニーズに的確に対応し、健全経営に努め信頼され「利用したい施設NO1」、「働きたい施設NO1」を目指し、

- 1) 健康経営
- 2) 清潔で安全な施設
- 3) 笑顔と質の高いサービス

この3つを重視し、職員一丸となって、以下の重点目標に基づき事業を展開することができた。

2 重点目標

(1) 地域への貢献

- ①町立小中学校PTAの廃品回収への人的支援
- ②介護用具の貸し出し ③地域行事への参加（コロナ禍で中止）
- ④ブラサボひだまり食堂（コロナ禍で中止） ⑤認知症カフェの開催

※コロナ感染防止で中止の活動がほとんどであったが、今後も地域貢献を継続していく。

(2) 人材の確保と育成

- ①退職者 介護員5名、看護職員2名、管理栄養士1名、保育士3名
計 11名

新採用 介護員6名、看護職員3名、理学療法士1名、介護支援専門員1名、事務員1名、保育士2名
計 14名

※パート職員含む

(3) 職員の健康づくり

健康事業所宣言のもとに、西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用した健康管理、健康経営優良事業所認定に向け手続きを行っている。

(4) 環境の整備

施設設備の充実と事務処理の効率化を図り、職員の福利厚生の実現に取り組み、改善提案制度等を活用し、利用したい・働きやすい環境の一層の整備に努めてきた。

(5) 社会の変化への適切な対応

社会変化に伴う制度改正等を確実に把握して、働き方改革を進め、給与改

善に対応した。

また、効率化・省力化・サービスの向上に向けてデジタル化推進チームを立ち上げ進めている。

理事会開催状況

	開催通知施行 年月日	開催年月日	出席者数 定数	出席者の 書面決議書	議案等の名称	欠席者氏名	監事出席者の 氏名
本年度	令和3年4月28日	令和3年5月27日	6/6	あり	有価証券の資金運用報告について 令和2年度社会福祉法人にしあいづ福祉会事業報告について 社会福祉法人にしあいづ福祉会苦情解決委員会要項の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会経理規程の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会人事考課規程の一部改正(案)について 令和2年度社会福祉事業区分補正予算(第4次)(案)について 令和2年度公益事業区分補正予算(第4次)(案)について 令和2年度にしあいづ福祉会拠点区分決算について 令和2年度にしあいづ福祉会決算について 令和3年度社会福祉事業区分補正予算(第1次)(案)について 理事候補者の推薦の提案について 監事候補者の推薦の提案について 評議員候補者の推薦の提案について 費用議員選任・解任委員の選任について 評議員会提出議案及び開催日時の決議について		薄定雄 岩原稔
	令和3年5月27日	令和3年6月18日	6/6	なし	社会福祉法人にしあいづ福祉会理事長の選定について 社会福祉法人にしあいづ福祉会業務執行理事の選定について 社会福祉法人にしあいづ福祉会給与規程の一部改正(案)について 令和2年度社会福祉法人にしあいづ福祉会社会福祉事業区分補正予算(第2次)(案)について		薄定雄 岩原稔
	令和3年11月5日	令和3年12月8日	6/6	なし	社会福祉法人にしあいづ福祉会資金運用報告について 社会福祉法人にしあいづ福祉会運営規程の一部改正について 社会福祉法人にしあいづ福祉会就業規則の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会給与規程の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会運営規程の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会預り金管理要領の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会ハラスメント防止規程(案)の制定について		薄定雄 岩原稔

開催通知施行 年月日	開催年月日	出席者数 定数	出席者の 書面決議書	議案等の名称	欠席者氏名	監事出席者の 氏名
				令和3年度社会福祉法人にしあいづ福祉会社会福祉事業区分補正予算(第3次) (案)について 令和3年度社会福祉法人にしあいづ福祉会公益事業区分補正予算(第3次)(案) について		
令和4年2月9日	令和4年3月9日	6/6	なし	社会福祉法人にしあいづ福祉会資金運用報告について 社会福祉法人にしあいづ福祉会就業規則の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会給与規程の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会運営規程の一部改正(案)について 令和3年度社会福祉法人にしあいづ福祉会社会福祉事業区分補正予算(第4次) (案)について 令和3年度社会福祉法人にしあいづ福祉会公益事業区分補正予算(第4次)(案) について 令和4年度社会福祉法人にしあいづ福祉会事業計画(案)について 令和4年度社会福祉法人にしあいづ福祉会社会福祉事業区分予算(案)について 令和4年度社会福祉法人にしあいづ福祉会公益事業区分予算(案)について 評議員会提出議案及び開催日時の決議について		岩原稔

評議員会開催状況

	開催通知施行 年月日	開催年月日	出席者数 定数	議案等の名称	欠席者氏名	監事出席者の 氏名
本年度	令和3年5月27日	令和3年6月16日	7/8	有価証券の資金運用報告について 社会福祉法人にしあいづ福祉会定款の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会役員等報酬規程の一部改正(案)について 令和2年度社会福祉事業区分補正予算(第3次)(案)について 令和2年度公益事業区分補正予算(第3次)(案)について 令和3社会福祉法人にしあいづ福祉会事業計画(案)について 令和3年度社会福祉法人にしあいづ福祉会社会福祉事業区分予算(案)について 令和3年度社会福祉法人にしあいづ福祉会公益事業区分予算(案)について	荒海孝子	
	令和4年3月9日	令和4年3月29日	7/8	社会福祉法人にしあいづ福祉会資金運用報告について 社会福祉法人にしあいづ福祉会役員等報酬規程の一部改正(案)について 令和3年度社会福祉法人にしあいづ福祉会社会福祉事業区分補正予算(第2次)(案)について 令和3年度社会福祉法人にしあいづ福祉会公益事業区分補正予算(第2次)(案)について 令和4社会福祉法人にしあいづ福祉会事業計画(案)について 令和4年度社会福祉法人にしあいづ福祉会社会福祉事業区分予算(案)について 令和4年度社会福祉法人にしあいづ福祉会公益事業区分予算(案)について	佐藤健一	

1. 施設外研修

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	場所	研修結果の報告方法
1	令和3年度 社会福祉法人監事監 査研修	社会福祉法人監事が担う実務の基本と監事監査 のポイントについて 税理士法人MASTAK佐藤会計 所長代理・公認会計士 遠藤和男 氏	監事	薄 定雄 岩原 稔	令和4年9月10日	福島県農業総合 センター	
2	令和3年度 社会福祉法人理事研修	これからの社会福祉法人経営と理事の役割 独立行政法人福祉医療機構 経営サポートセンター リサーチグループチームリーダー 荒牧登史 氏	理事長 業務執行理事 理事 理事 理事	廣瀬 涉 若林陽三 伊藤哲雄 嶋田純子 渡部英樹	令和4年10月26日	福島県農業総合 センター	
3	令和3年度 安全運転管理者講習 会	安全運転管理	業務執行理事 事務係長	若林陽三 津川修二	令和3年12月21日	喜多方プラザ	復命書

2. 施設内研修

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	場所	研修結果の報告方法
	なし						

評議員選任・解任委員会開催状況

	開催通知施行 年月日	開催年月日	出席者数 定数		議案等の名称	欠席者氏名
本 年 度	令和3年4月28日	令和3年6月3日	5/5		社会福祉法人にしあいづ福祉会評議員の選任について	

令和3年度苦情受付・解決状況

事業所名：法人全体

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	2	0	0	0	0	0	2
	家族	0	1	1	0	0	0	1	3
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	3	1	0	0	0	1	5

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度(接遇)	3	0	0	0	0	1	4
サービスの質(内容)	1	0	0	0	0	0	1
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	0	0	0	0	1	5

令和3年度

特別養護老人ホームさゆりの園事業報告書

<事業の概況>

令和3年度は、運営方針・基本方針に従い、施設サービス計画に基づき入所者が有する能力に応じ、自立した日常生活、そして満足感のある日常生活を営むことが出来るように、各専門職がその専門性を活かしながら、チームとして連携し日々の支援を実践してきた。

入退所に関しては今年度も14名と多くあったが、入所優先順位決定過程の透明性と公平性に基づき、真にサービスを必要とする者の円滑な施設入所に資すると共に、スムーズな入所待機の解消に努めてきた。又、やむを得ない事由による措置入所依頼等、緊急性の高いケースにも柔軟に対応し、特別養護老人ホームの一つの役割としての使命を果たしてきた。

そして、令和3年度も引き続き新型コロナウイルス感染症対策を継続すると共に、この時代に合わせ入所者及びご家族等への関わりやサービス提供を工夫しながら、業務継続してきた。

<重点目標>

(1) 利用者の生活の豊かさ向上への関わりと実践

認知症を有していたり身体的重度者の多い特別養護老人ホームにおいても、個別ニーズに対応する取り組みとして、コミュニケーション機会の確保とニーズの抽出を重視し、個々の習慣、楽しみ、嗜好、医療、健康増進、快適な施設生活の為の環境整備など、様々なニーズへの対応を実践してきた。又、新型コロナウイルス感染症予防で、面会制限等大切な方との思うような交流が出来ない中、面会方法の工夫や入所者の日頃の様子を少しでも感じ取れるような取り組みを実施し、入所者や家族心情に配慮した。

(2) 認知症ケアの向上と尊厳あるケアの実践

認知症ケアを推進・強化することで権利擁護の更なる意識向上につなげる為、権利擁護・認知症ケア推進委員会を中心に内部研修会の実施、認知症ケアスキルアップ研修会の参加と実践でセンター方式を活用したアセスメント、様々なケア場面、機能訓練、医療提供場面でのユマニチュード技法の導入を積極的に行ってきた。直接処遇職員だけでなく多職種皆で認知症の理解、関わり方を更に深められた。

(3) 法人キャリアパスに基づいたOJT実践の強化と人材育成

法人キャリアパスに基づいた職務遂行とOJTとして、新人職員への教育プログラムの見直し、介護リーダー職の課業の明確化及び役割分担と実践で、少しずつ施設内OJTが定着しているところである。又、職員の健康増進を目的として、こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用し自身の健康状態の把握と改善のための取り組みを行い、健康経営の推進を図っている。

＜各係実施報告＞

(1) 利用者の生活の豊かさ向上への関わりと実践

係	実施内容	結果
相談	① 入所者・ショートステイ利用者との定期個別面談を実施し、より具体的なニーズを聴取する。内容についてはチームで共有し、具体的計画を協議し実行に繋げる。	11月に個別面談を実施。個別でゆっくり話す時間を持てたことで、本音をお話し頂ける利用者もいた。抽出したニーズや要望を様々な会議等で共有し、施設サービス計画等に反映させ実践している。
	② 新型コロナウイルス感染症対策で、ご家族などの入所者にとって大切な方とのつながりが希薄になるのを少しでも緩和する取り組みを実施していく。(オンライン面会の推進や、入所者の写真や手紙を同封した郵送での近況報告等)	入所者の近況や写真を添付したメッセージカードを3ヶ月毎にご家族等に送付することで、少しでも大切な方を感じて頂く取り組みを実施し、反応も好評だった。又、ご家族等に報告する為、居室担当職員も自身の担当利用者の近況や日頃のケアを改めて振り返る機会をもてた。面会については制限ある中で、窓ガラス越し面会を更に充実したものとする為、内外で会話のできるワイヤレスインターホンを導入。会話が可能となり、声が届くため利用者・ご家族等からも好評だった。
看護	係内で分担し定期的に利用者と面談、健康面の悩みや心情を傾聴する機会を作る。内容により他職種と協働で思いに寄り添える対応を検討していく。	ご利用者との面談は定期的には出来なかったが、日常の業務の中で利用者の健康面の悩みを伺い、体調を観察し変化があった場合は家族へ説明をして、思いに寄り添える対応を検討しながら関わった。又、希望する医療の聞き取りから5件の歯科受診に対応出来たことで、利用者の口腔機能維持に繋げることができた。歯科受診後の聞き取りでは「しっかり噛める」「行って良かった」等返答があり、ご利用者の思いに寄り添えた。新型コロナワクチン接種では他職種と協働して対応方法を検討し、効率的で安全な接種ができた。
介護	各居室担当職員は担当利用者と毎月、月初めに1度はゆっくりと話す機会をつくり、利用者の希望や思いを伺う。利用者を楽しみを持って生活して頂けるように、ユニット会議で具体化し、施設サービス計画と連動しながら計画的に実行していく。	担当利用者との月1回のニーズ聞き取りの方法について、当初の計画とのずれが生じたが、聞き取りをした内容のリストを作成し、ユニット会議で話を進めることができた。しかし、具体化にまでは至らなかった。ただ、数人に対してではあるが、自宅に行きたいという方へのドライブを兼ねた外出支援、プランターでの野菜作り、嗜好品や趣味への対応等、希望された方には随時実施できた。

		上記を実践した結果、担当職員が声掛けする頻度が多くなり、関りが増えた。又、利用者が自身で考えたことを実施することで、笑顔や会話が増え、楽しみを持った生活に繋がった方もいた。
栄養	① 既存の厨房機器を活用した調理の動画研修を受講する。その中で習得した調理方法や調理手順、利用者に適する献立があれば献立に取り入れ、栄養係全体で調理に取り組み、利用者に喜ばれる食事を提供する。	今年度はスチームコンベクションオープンの動画研修会を2回実施でき、調理技術向上に繋げることができた。ただ、調理をする上での手間や工夫がある為、実際の調理、食事提供には至らなかった。次年度に計画的に実施していく。
	② 食事量低下の利用者に対し、不足した栄養量や栄養素を補う代替食品を個別に食事に追加し、口から食べる幸せを持ち続けてもらえるような取り組みをする。	褥瘡リスク者や発生者、食事摂取量低下の方には、体重や疾病、身体状況から必要な栄養素の分析を行い、栄養補助食品の追加提供ができた。
機能訓練	① リハビリの充実を図る。 ・リラックス効果と関節拘縮予防の促進の為、関節可動域訓練に温マッサージを取り入れる。 ・楽しみを持ってもらえるよう、午後離床している利用者に対して作業活動（作品を作る等）を行う。	・上半期では、認知機能の低下や季節や気温等で拒否される利用者が居たこともあり、温マッサージの実施には至っていなかったが、浮腫みが見られる利用者にもドマーや足台などの導入ができた。下半期では、利用者の状態や希望に応じて温マッサージを取り入れて実施する事が出来た。実施した利用者からは「気持ちいい。ありがとう」との返答が聞かれたため、今後も気温や状態に応じて導入していく。 ・上半期では短期利用者が減っており、作業活動を実施できる利用者が午後離床しておらず作品作成には至らなかった。ただ、一部利用者に対して作業療法としてパズルの提供は実施できた。下半期にて、地域の感染状況などを踏まえ感染予防対策をしっかりと行って出来る作業活動を検討していたが、感染状況の悪化等で実施のアイデアが出ず、機能訓練係として実施に至らなかった。
	② 他職種と協力しながら、散歩等屋外活動の支援を行っていく。	気温や気候が落ち着いた季節に、多職種と協力しさゆり公園の野球場周辺に散歩へ出かける事ができた。下半期は、気温が下がり屋外へ散歩に出ることは難しいため、施設内から外を眺める等の季節を感じられる支援を検討。特に訓練室での集団体操前などは、訓練室前から外の花を眺めて楽しんでいた。

事務	安心で明るい生活空間を維持できるよう、定期的（四半期に一度）に施設内を見回り環境維持及び整備に心掛ける。	・危険箇所や改善箇所等の有無を思索しながら定期的に見回りを行ない、改善が必要な場合には速やかに補強や修繕を行った。早急な修繕を要しないものは、必要時にすぐに対応できるよう準備し、利用者にとって快適な生活環境と、職員にとって働きやすい環境整備に繋がられた。 ・物品購入では県の補助金を活用し、有事の際に備えて簡易陰圧装置を1台購入できた。支出状況や予算計上品の購入状況を確認しながら、必要に応じて声掛けをし、経費削減の意識付けや未購入品等に関わる手続を促すことで環境整備に繋がった。社会情勢により納品に月単位の期間を要するものもあり、計画している物品については、次年度も継続して早期の手続きを促していく。
----	---	---

(2) 認知症ケアの向上と尊厳あるケアの実践

係	実施内容	結果
相談	①主任介護支援専門員と協同で、認知症ケアに焦点を置いた施設内事例検討会を、年2回以上企画・実施する。	今年度は町主催の認知症スキルアップ研修が開催された為、7名2チームで参加。一人の利用者に焦点を当て、関わりの気づきを得た内容についてグループワークを実施し、研修会での内容を日頃の実践に活かすことができた。
	②ユマニチュード技法による認知症ケアを、施設内で少しずつ浸透させる為の取り組みの一つとして、もう一度、「病態に合わせた対応」や「ユマニチュード」についての勉強会を委員会と一緒に企画・実施していく。	ユマニチュード研修受講職員と権利擁護・認知症ケア推進委員会で、虐待予防や身体拘束廃止の内容を交えた、認知症ケアについての勉強会を全職員対象で実施した。振り返りシートでは、「勉強になった」「ユマニチュードの4つの柱を意識して取り入れたら、利用者の反応が良かった」等の意見もあり、意識したケアに取り組む職員が増えた。
看護	専門的観点から認知症の病状を一人ひとり分析、表に見える化しケアスタッフ内で日々の認知症ケアに生かせるよう提案していく。	年度途中の人員不足から計画通りの遂行が難しくなり、中間評価において状況に応じた計画の変更と遂行をとのアドバイスから、認知症ケア向上と尊厳あるケアの実践に計画を変更した。ユマニチュードの関わりを意識し、話しかけながら寝たきりの経管栄養の方の口腔ケアを行うように計画し実施した。結果、意識した利用者の表情観察ができ、清潔も保て誤嚥性肺炎の予防に繋がった。

介護	① ユマニチュード研修会参加者を中心に、ユマニチュード技法の勉強会を再度実施することで、知識と理解を深める。又、毎週実施しているタッチングケアの際にユマニチュード技法を取り入れ、「見て・触れて・話しかける」を実践していく。 ② 「介護指導者向け研修」で、学んだ技術のポイントをケアスタッフ会議等で周知しケアに取り入れ、実践していく。	ユマニチュード研修会参加した介護員と権利擁護委員会が中心となり勉強会を実施した。4つの柱を基本とし5つのステップに分けて実践するユマニチュード技法を、毎週実施しているタッチングケアの際に取り入れ実践している。「見て・触れて・話しかける」を意識した関わりで、普段は声も出さない、体操もしない方が、指折りをしたり歌を唄ったりするなど成果が見られている。又、利用者の尊厳を守るケアを意識した事で、利用者との関係性が密になったと感じている職員もいた。 毎月、介護指導者向け研修会での新しい情報をケアスタッフ会議でポイントとして周知した。しかし、実際のケア実践に活かすようにマッサージ等を機能訓練係と共にやり記録をするとしていたが、継続しなかった。研修会で学んだ事のポイントは今後もケアスタッフ会議で周知していく。次年度は、研修で学んだ事のポイントを1つに絞り、伝達していく事で実践に取り入れやすくなるようにしていく。
栄養	管理栄養士は認知症における摂食・嚥下障害に対する知識と安全な嚥下食の調理技術の研修会を企画・運営する。調理員は大量調理における機器を活用した嚥下食の調理技術に取り組み、その結果について栄養係内で共有する。	① 管理栄養士が「食形態の学会分類」「とろみの分類」「食事ととろみの基本」の研修会を実施した。とろみの分類は厨房でとろみを使用したソフト食を提供しているので分かりやすい内容であったが、食形態の分類は係全員が理解するには難しい内容であった。次年度は会議内でワンポイント的な分かりやすい内容で実施していきたい。 ② 主担当調理員が「嚥下食の調理方法」の研修会を実施した。とろみ剤を使用したソフト食（焼肉）献立の提案発表があった。年度内でその献立を実際に調理し提供したかったが、作業工程が複雑であり、現時点では提供するには至っていない。
機能訓練	① ユマニチュード研修会で学んだ内容を振り返り、実践していく。機能訓練介入時に5つのステップを意識する。 (1. 出会いの準備 2. ケアの準備 3. 知覚の連結 4. 感情の固定 5. 再開の約束)	機能訓練の介入の際には、ユマニチュードの研修で学んだ5つのステップを意識したうえで、各利用者に応じた対応や介入を行ってきた。1年間を通して、ユマニチュードの5ステップを意識した介入を継続して実施できた。

	② ユマニチュードの4つの柱(見る・話す・触れる・立つ、歩く)について職員に周知し、タッチングケアに取り入れられるような仕組みを作る。	ユマニチュード研修を受けた職員との共同で、権利擁護委員会にて法定研修を実施した。そのため、職員への周知は完了。タッチングケアの際に、意識して取り入れている様子が見られている。
事務	コミュニケーション技術と対人援助技術(感情コントロール等)を含め、認知症に対する理解と知識を持ち、相手に対して傾聴の姿勢と受け止める態度で利用者やご家族の方と対応する。	施設内研修や研修復命等で認知症や利用者に対する理解を深め(基本の再確認と症状が少しでも軽減し心穏やかに過ごして頂くために、生活環境の障害を取り除くことなど)、利用者やご家族へ傾聴を行ない、依頼や質問を受けた際には受け止める態度で接するよう心掛けた。機会は少なかったが、声掛けや会話をした際に安堵感や笑顔が見られたりした。又、立ち止まりよくお話を伺うことで、内容によって直接処遇職員に繋ぐことが出来た。

(3) 法人キャリアパスに基づいた OJT 実践の強化と人材育成

係	実施内容	結果
相談	誰しものが受け付ける可能性のある苦情・要望等に対応できるよう、苦情解決に向けたプロセスの理解に関する勉強会を年1回企画・実施する。	「苦情解決に向けたプロセスとその理解」に関する勉強会を職員会議内で実施。苦情は利用者・家族等のニーズであり、拾い上げることでサービス質向上に繋げていく為のものであること。又、だれもが受け付ける可能性があることを共有できた。
看護	看護職としての倫理観を振り返り係内で職場研修を実施、人材育成へ繋げる。	今年度は、年度途中の人員不足から予定の職場内研修の実施や外部研修参加ができなかった。次年度は外部研修に参加しキャリアアップを目指す。又、施設内研修を企画・実施し人材育成にも繋げられるようにする。
介護	OJT リーダーを担うリーダー職の課業を定め後輩への指導・助言を中心とした OJT を実行していく。	4人のリーダーにそれぞれ OJT の役割分担を定め実施してきた。 ①「事故報告、ヒヤリハット等のチェックと OJT」では、対策が実践に繋がっているか確認。意識化は出来たが、改善案の具体性には課題が残る。 ②「新人・初任者教育」では、新しい教育プログラムを作成し、新人、初任者職員に対し計画的に指導を実施。社会人としての基本及び、業務については1つ1つ確実に覚え実行に繋がる内容で実施した。 ③「不適切ケアのチェック・仕組み作り、随時の指導」では、特に利用者

		が不安や不快に感じられるようなことに対しOJTを行っていた。 ④「介護技術の再確認」では、介護技術や普段の業務で適切でないと感じたこと（トランスファー方法、口腔ケアの重要性、感染予防等など）を休憩室に掲示して周知した。 次年度も、各自OJTリーダーとしての自覚と役割を再認識し、更に効果的なOJTを実践していく。
栄養	一人ひとりの食の知識や調理技術の向上と、働く意欲を引き出す機会を作る為に料理レシピコンテストに年1回参加する。	市販の介護食を活用したレシピコンテストに1回応募した。受賞には至らなかったが、主副担当者が中心となり皆が意見を出し合い、試行錯誤しながらのプロセスが、調理員のモチベーション向上に繋がった。
機能訓練	計画的にキャリアパス対応生涯研修課程を受講し、キャリアパスの仕組みについて知識を深める。	研修の受講予定は今年度の予定に入っていたが、申し込み定員等の都合にて受講に至っていない。次年度の研修計画に受講予定を再度組み込んでいく。又、キャリアパスの推奨資格である介護支援専門員資格の取得に向けて準備を進めた結果、合格することができた。
事務	① 外部及び内部研修に計画的に参加し、人材育成や各業務のスキルアップとモラルの向上を図る。事務処理及びコミュニケーション能力や接遇マナーは、気付いた時など随時声掛けや指導を行なう。	・計画としてあげていた研修で通知があったもののほか、会計実務に関わる実践的な研修(初任者については基礎)を受講。月次処理を正確に、決算業務をスムーズに行えるよう業務に活かしていく。会計事務は毎月の月次試算表を正確に作成し適正に経理が行われるよう努めたが、提出が遅滞する月があった。声掛けをして促し、誤った処理に気づいた際には速やかに修正を行なった。社会保険や雇用保険等の申請事務においても、速やかに準備し届出るよう努めた。又、内部研修には出来る限り参加し、安全対策や利用者の権利擁護など研鑽に努めた。 ・接遇マナーについては、身だしなみや言葉遣い等気づいた際には声掛けを行ない、組織人としての自覚を促した。今後も働きやすい労働環境づくりなど、健康経営に今後も取り組んでいく。

	② 毎日5分程度の体操（ストレッチ、ラジオ体操等）を取り入れ、各自健康づくりをする。また、職員それぞれ8つの健康習慣改善（適正体重・朝食・間食・飲酒・運動・禁煙・睡眠・ストレス）等を意識し、各々にあったツール（こゆりちゃん健康ポイント手帳や様々なアプリ等）を活用し、健康状態を記録・把握し健康管理に活かす。	各自で体操等を行ない健康づくりに取り組むこととしていたが、職場での時間確保は行えていなかった。8つの健康習慣改善については、血圧等良好に維持できた者、運動不足の解消に繋がらなかった者、ストレスの自己管理等個人差があった。こゆりちゃん健康ポイント手帳やアプリの使用などを健康管理に活かすことは出来なかったが、記録・把握する意識付けは出来た。
--	--	--

<令和3年度のボランティア活動実績>

※新型コロナウイルス感染症予防対策で、基本的に館内でのボランティア活動は中止している状況

1) 随時

ボランティア名	活動内容	活動日
シルバー人材センター	施設周囲の除草等	R3.10.15
東北電力会津ダム管理センター 阿賀野川ダム管理所	施設周囲のくもの巣取り、落ち葉集め	R3.11.19

<令和3年度の実習生受け入れ実績>

受入日時	実習者名や団体名
令和3年 11月17日	介護職員初任者研修（岩橋純子）
令和3年 11月19日	介護職員初任者研修（小椋健一、永島美恵子）

令和3年度 特別養護老人ホームさゆりの園利用実績・入所者の状況

(1) 入所利用実績 (年間)

	実人数						延べ人数
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	
R3.4	1	1	7	23	19	51	1,500
R3.5	1	1	8	23	18	51	1,487
R3.6	1	0	8	24	18	51	1,448
R3.7	1	0	10	20	18	49	1,504
R3.8	1	0	10	22	17	50	1,492
R3.9	1	0	8	25	16	50	1,494
R3.10	1	0	8	25	16	50	1,550
R3.11	1	0	8	26	17	52	1,472
R3.12	1	0	8	26	15	50	1,530
R4.1	2	0	9	27	13	51	1,560
R4.2	2	0	10	27	13	52	1,396
R4.3	2	0	10	25	14	51	1,528
合計	15	2	104	293	194	608	17,961

(2) 新規入所状況 (年間)

	自宅		病院		老健		有料		GH		小規模		特養等		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
R3.4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R3.5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R3.6	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
R3.7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R3.8	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
R3.9	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R3.10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R3.11	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
R3.12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R4.1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R4.2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R4.3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	3	5	1	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	14

(3) 退所状況 (年間)

	死亡		施設看取り での死亡		家族引取り		長期入院		他施設へ移 動		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
R3.4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
R3.5	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
R3.6	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
R3.7	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
R3.8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
R3.9	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
R3.10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R3.11	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
R3.12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R4.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R4.2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
R4.3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	5	1	2	5	0	0	0	1	0	0	14

※令和4年3月31日現在、入所者数50名にて

(4) 年齢別性別入所者状況

(単位:人)

	～64 歳	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95～ 99歳	100 歳～	合計
男性	1	2	1	2	2	2	1	0	0	11
女性	0	3	1	3	1	12	15	4	0	39
合計	1	5	2	5	3	14	16	4	0	50
比率(%)	2	10	4	10	6	28	32	8	0	100

平均:85.4歳 (最高99歳 最低64歳)

(5) 介護度区分状況

(単位:人)

	男性	女性	合計	比率(%)
要介護1	1	1	2	4
要介護2	0	0	0	0
要介護3	3	7	10	20
要介護4	5	20	25	50
要介護5	2	11	13	26
更新申請・区変中	0	0	0	0
合計	11	39	50	100

平均介護度:3.9

(6) 在所期間状況

(単位：人)

	1年未満	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15～20年	20～25年	25年以上	合計
男性	5	1	2	3	0	0	0	0	11
女性	7	19	7	4	1	0	1	0	39
合計	12	20	9	7	1	0	1	0	50
比率(%)	24	40	18	14	2	0	2	0	100

男性平均 2年10ヶ月 女性平均 3年4ヶ月 全体平均 3年3ヶ月

男性最高 8年2か月 女性最高 24年3ヶ月

(7) 出身市町村別

(単位：人)

	男性	女性	合計	比率(%)
西会津町	10	37	47	94
会津若松市	1	0	1	2
喜多方市	0	1	1	2
大熊町	0	1	1	2
合計	11	39	50	100

(8) 介護状況

① 食事摂取動作状況

(単位：人)

	男性	女性	合計	比率(%)
自立	10	19	29	58
一部介助	0	6	6	12
全介助	1	10	11	22
経管栄養	0	4	4	8
合計	11	39	50	100

② 行動

(単位：人)

	男性	女性	合計	比率(%)
主にベッド上	0	4	4	8
車椅子(自立)	7	9	16	32
車椅子(介助)	3	22	25	50
歩行器等使用	1	2	3	6
独歩	0	2	2	4
合計	11	39	50	100

③ 排泄状況

(単位：人)

	性別	日中	合計	比率 (%)	夜間	合計	比率 (%)
オムツ交換	男性	5	34	68	9	42	84
	女性	29			33		
誘導(トイレ・P トイレ使用)	男性	5	13	26	1	4	8
	女性	8			3		
自立(トイレ・P トイレ使用)	男性	1	3	6	1	4	8
	女性	2			3		
合計		50	50	100	50	50	100

④ 入浴状況

(単位：人)

	男性	女性	合計	比率 (%)
一般浴	1	4	5	10
中間浴 (座位式リフト)	9	22	31	62
機械浴 (臥床式)	1	13	14	28
合計	11	39	50	100

ア 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	令和3年度ネイリスト養成研修	ハイジエニックビューティシヤンの基本姿勢 トリートメント（ハンド・フット） 爪の切り方、爪の構造・役割、皮膚の構造	介護員	大八木辰巳	R3.4.12～13 R3.4.19～20 R3.4.26～27	社会福祉法人にしあい づ福祉会 生活支援ハウスふれあい コーナーひだまり	復命書 職員会議にて発表
2	令和3年度ネイリスト養成研修	ハイジエニックビューティシヤンの基本姿勢 トリートメント（ハンド・フット） 爪の切り方、爪の構造・役割、皮膚の構造	介護員	渡部知香	R3.4.12～13 R3.4.19～20 R3.4.26～27	社会福祉法人にしあい づ福祉会 生活支援ハウスふれあい コーナーひだまり	復命書 職員会議にて発表
3	令和3年度全会津介護支援専門員協会総会時記念講演（オンライン研修）	令和3年度介護報酬改定の解説 講師 （一社）あたご研究所 後藤早苗 氏	課長兼 介護支援専門員 兼生活相談員	伊藤健治	R3.4.16	全会津介護支援専門員 協会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
4	令和3年度第1回新任認定調査員研修会	（1）本県における介護保険制度の運営状況 （2）要介護認定の基本事項 （3）認定調査の実施方法	生活相談員兼 介護支援専門員	瓜生彩香	R3.4.22	福島県保健福祉部 高齢福祉課 福島テルサ	復命書 職員会議にて発表
5	令和3年度機能訓練担当職員研修会（動画配信）	トランスファー ～当たり前だけど新しい視点～ 講師 ふくしまをリハビリで元気にする会 岡本宏二 氏	作業療法士	中田菜津美	R3.6.1～6.30	福島県老人福祉施設協 議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
6	福島県認知症対応型サービス事業開設者研修	認知症高齢者の基本理解 認知症高齢者のケアのあり方 講師 豊心会 橋本好博 氏 家族の理解・高齢者との関係の理解 講師 （公）認知症の人と家族の会 佐藤和子氏 家族が求める事業所とは 講師 （社福）ライフタイム福島 高橋英明氏 労働環境について 講師 きらり健康生活協同組合 様 体験オリエンテーション、自己知覚 人材確保・育成のあり方について 講師 柿沼充 氏 高齢者疑似体験 地域のあるき方について・理想的な事業所 講師 （社福）ライフタイム福島 高橋英明氏	課長兼 介護支援専門員 兼生活相談員	伊藤健治	R3.6.29	福島県 男女共生センター	復命書 職員会議にて発表

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
7	福島県認知症介護実践者研修	認知症ケアの理念・倫理と意思決定支援 生活支援のためのケアの演習1・2 QOLを高める活動と評価の観点 家族介護者の理解と支援方法 権利擁護の視点に基づく支援 地域資源の理解とケアへの活用 学習成果の実践展開と共有 アセスメントとケアの実践の基本 職場実習1・2、報告会	介護員リーダー	石川修	R3.7.2~3 R3.7.20~21 R3.9.3	福島県 とうほうみんなの文化センター	復命書 職員会議にて発表
8	令和3年度福島県障がい者相談支援従事者養成研修	相談支援の目的・基本視点・基本姿勢、ケアマネジメントのサイクル、インテークとは、アセスメントとは、ストレングスの視点、主訴とニーズの違い、サービス等利用計画について、サービス担当者会議とは、モニタリングの意味・視点、終結と評価について	生活相談員兼 介護支援専門員	瓜生彩香	R3.7.13~14 R3.9.8~9 R3.10.13~14 R3.11.25	福島県 さゆりの園会議室 郡山総合福祉センター	復命書 職員会議にて発表
9	令和3年度災害リスク対応研修会	社会福祉施設のBCP策定の基本視点と方法 講師 東北福祉大学 森明人氏 介護施設におけるBCP策定のポイント 講師 特別養護老人ホームファミリオ設楽順一氏	施設長	若林陽三	R3.7.14	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
10	令和3年度災害リスク対応研修会	社会福祉施設のBCP策定の基本視点と方法 講師 東北福祉大学 森明人氏 介護施設におけるBCP策定のポイント 講師 特別養護老人ホームファミリオ設楽順一氏	事務課長	津川修二	R3.7.14	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
11	令和3年度災害リスク対応研修会	社会福祉施設のBCP策定の基本視点と方法 講師 東北福祉大学 森明人氏 介護施設におけるBCP策定のポイント 講師 特別養護老人ホームファミリオ設楽順一氏	栄養係長	石川美智子	R3.7.14	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
12	令和3年度災害リスク対応研修会	社会福祉施設のBCP策定の基本視点と方法 講師 東北福祉大学 森明人氏 介護施設におけるBCP策定のポイント 講師 特別養護老人ホームファミリオ設楽順一氏	介護係長	渡部美穂子	R3.7.14	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
13	令和3年度災害リスク対応研修会	社会福祉施設のBCP策定の基本視点と方法 講師 東北福祉大学 森明人氏 介護施設におけるBCP策定のポイント 講師 特別養護老人ホームファミリオ設楽順一氏	看護係長	登島純子	R3.7.14	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
14	令和3年度災害リスク対応研修会	社会福祉施設のBCP策定の基本視点と方法 講師 東北福祉大学 森明人氏 介護施設におけるBCP策定のポイント 講師 特別養護老人ホームファミリオ設楽順一氏	介護副係長	小島敏夫	R3.7.14	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
15	令和3年度災害リスク対応研修会	社会福祉施設のBCP策定の基本視点と方法 講師 東北福祉大学 森明人 氏 介護施設におけるBCP策定のポイント 講師 特別養護老人ホームファミリオ設楽順一氏	介護員リーダー	鈴木由紀	R3. 7. 14	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
16	令和3年度災害リスク対応研修会	社会福祉施設のBCP策定の基本視点と方法 講師 東北福祉大学 森明人 氏 介護施設におけるBCP策定のポイント 講師 特別養護老人ホームファミリオ設楽順一氏	介護員リーダー	新澤文枝	R3. 7. 14	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
17	令和3年度災害リスク対応研修会	社会福祉施設のBCP策定の基本視点と方法 講師 東北福祉大学 森明人 氏 介護施設におけるBCP策定のポイント 講師 特別養護老人ホームファミリオ設楽順一氏	課長兼 介護支援専門員 兼生活相談員	伊藤健治	R3. 7. 16	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
18	令和3年度災害リスク対応研修会	社会福祉施設のBCP策定の基本視点と方法 講師 東北福祉大学 森明人 氏 介護施設におけるBCP策定のポイント 講師 特別養護老人ホームファミリオ設楽順一氏	事務係長	齋藤恵子	R3. 7. 16	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
19	令和3年度災害リスク対応研修会	社会福祉施設のBCP策定の基本視点と方法 講師 東北福祉大学 森明人 氏 介護施設におけるBCP策定のポイント 講師 特別養護老人ホームファミリオ設楽順一氏	介護副係長	須藤正子	R3. 7. 16	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
20	令和3年度災害リスク対応研修会	社会福祉施設のBCP策定の基本視点と方法 講師 東北福祉大学 森明人 氏 介護施設におけるBCP策定のポイント 講師 特別養護老人ホームファミリオ設楽順一氏	介護員リーダー	齋藤まき	R3. 7. 16	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
21	令和3年度災害リスク対応研修会	社会福祉施設のBCP策定の基本視点と方法 講師 東北福祉大学 森明人 氏 介護施設におけるBCP策定のポイント 講師 特別養護老人ホームファミリオ設楽順一氏	介護員リーダー	石川修	R3. 7. 16	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
22	令和3年度災害リスク対応研修会	社会福祉施設のBCP策定の基本視点と方法 講師 東北福祉大学 森明人 氏 介護施設におけるBCP策定のポイント 講師 特別養護老人ホームファミリオ設楽順一氏	介護員	佐藤康弘	R3. 7. 16	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
23	令和3年度災害リスク対応研修会	社会福祉施設のBCP策定の基本視点と方法 講師 東北福祉大学 森明人 氏 介護施設におけるBCP策定のポイント 講師 特別養護老人ホームファミリオ設楽順一氏	作業療法士	中田菜津美	R3. 7. 16	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
24	令和3年度災害リスク対応研修会	社会福祉施設のBCP策定の基本視点と方法 講師 東北福祉大学 森明人 氏 介護施設におけるBCP策定のポイント 講師 特別養護老人ホームファミリオ設楽順一氏	生活相談員兼 介護支援専門員	瓜生彩香	R3. 7. 16	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
25	令和3年度介護職員研修会（動画配信）	看取りのケアについて 講師 星総合病院 尾形育恵 氏	介護係長	渡部美穂子	R3. 8. 1～8. 31	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
26	令和3年度全会津介護支援専門員協会 第1回研修会	演題：高齢者虐待の事案から考える養護者支援 講師 認知症介護研究・研修仙台センター 吉川悠貴 氏	課長兼 介護支援専門員 兼生活相談員	伊藤健治	R3. 8. 24	全会津介護支援専門員協会 アビオスペース	復命書 職員会議にて発表
27	令和3年度全会津介護支援専門員協会 第1回研修会	演題：高齢者虐待の事案から考える養護者支援 講師 認知症介護研究・研修仙台センター 吉川悠貴 氏	生活相談員兼 介護支援専門員	瓜生彩香	R3. 8. 24	全会津介護支援専門員協会 アビオスペース	復命書 職員会議にて発表
28	令和3年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者研修	福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念・倫理の基礎を理解する 組織の一員としてのフォローアップの醸成 対人関係マナーとコミュニケーション 講師 福島県社会福祉事業団 柴田尚巳 氏 啓発科目の講義と演習 理解促進シート相互紹介 行動指針マップの策定 キャリアデザインとアクションプランの策定 講師 福島県社会福祉協議会 齋藤史郎 氏	介護員	服部力裕	R3. 9. 7～9. 9	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター	復命書 職員会議にて発表
29	令和3年度ハラスメント対策研修会	ハラスメントに関する統計結果 ハラスメント問題と企業への影響 ハラスメント規制法の概要 ハラスメントの種類と法的責任 ハラスメントに関する労使紛争事例 ハラスメントの対応 講師 (株)TMC経営支援センター 新保健二氏	施設長	若林陽三	R3. 9. 14	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
30	令和3年度ハラスメント対策研修会	ハラスメントに関する統計結果 ハラスメント問題と企業への影響 ハラスメント規制法の概要 ハラスメントの種類と法的責任 ハラスメントに関する労使紛争事例 ハラスメントの対応 講師 (株)TMC経営支援センター 新保健二氏	事務課長	津川修二	R3.9.14	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
31	令和3年度ハラスメント対策研修会	ハラスメントに関する統計結果 ハラスメント問題と企業への影響 ハラスメント規制法の概要 ハラスメントの種類と法的責任 ハラスメントに関する労使紛争事例 ハラスメントの対応 講師 (株)TMC経営支援センター 新保健二氏	課長兼 介護支援専門員 兼生活相談員	伊藤健治	R3.9.14	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
32	令和3年度ハラスメント対策研修会	ハラスメントに関する統計結果 ハラスメント問題と企業への影響 ハラスメント規制法の概要 ハラスメントの種類と法的責任 ハラスメントに関する労使紛争事例 ハラスメントの対応 講師 (株)TMC経営支援センター 新保健二氏	栄養係長	石川美智子	R3.9.14	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
33	令和3年度ハラスメント対策研修会	ハラスメントに関する統計結果 ハラスメント問題と企業への影響 ハラスメント規制法の概要 ハラスメントの種類と法的責任 ハラスメントに関する労使紛争事例 ハラスメントの対応 講師 (株)TMC経営支援センター 新保健二氏	介護係長	渡部美穂子	R3.9.14	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
34	令和3年度ハラスメント対策研修会	ハラスメントに関する統計結果 ハラスメント問題と企業への影響 ハラスメント規制法の概要 ハラスメントの種類と法的責任 ハラスメントに関する労使紛争事例 ハラスメントの対応 講師 (株)TMC経営支援センター 新保健二氏	事務係長	齋藤恵子	R3.9.14	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
35	令和3年度ハラスメント対策研修会	ハラスメントに関する統計結果 ハラスメント問題と企業への影響 ハラスメント規制法の概要 ハラスメントの種類と法的責任 ハラスメントに関する労使紛争事例 ハラスメントの対応 講師 (株) TMC経営支援センター 新保健二氏	介護副係長	小島敏夫	R3. 9. 14	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
36	令和3年度ハラスメント対策研修会	ハラスメントに関する統計結果 ハラスメント問題と企業への影響 ハラスメント規制法の概要 ハラスメントの種類と法的責任 ハラスメントに関する労使紛争事例 ハラスメントの対応 講師 (株) TMC経営支援センター 新保健二氏	介護副係長	須藤正子	R3. 9. 14	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
37	介護施設における安全対策担当者養成研修	制度説明と目的 講師 (公社) 全国老人福祉施設協議会 近藤辰比古 氏 介護事故の実態とリスクマネジメント ヒヤリハット活用及び苦情窓口対応等の運用 講師 (株) 福祉リスクマネジメント研究所 鳥野猛 氏 介護事故の実態と対応 (転倒、誤嚥事故) 身体拘束の適正化と虐待防止 講師 (公社) 全国老人福祉施設協議会 山中康平 氏 介護事故が発生した場合の対応や紛争予防策について 講師 宮澤潤法律事務所 長野佑紀 氏	介護係長	渡部美穂子	R3. 9. 22	(公社) 全国老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
38	介護施設における安全対策担当者養成研修	制度説明と目的 講師 (公社) 全国老人福祉施設協議会 近藤辰比古 氏 介護事故の実態とリスクマネジメント ヒヤリハット活用及び苦情窓口対応等の運用 講師 (株) 福祉リスクマネジメント研究所 鳥野猛 氏 介護事故の実態と対応(転倒、誤嚥事故) 身体拘束の適正化と虐待防止 講師 (公社) 全国老人福祉施設協議会 山中康平 氏 介護事故が発生した場合の対応や紛争予防策について 講師 宮澤潤法律事務所 長野佑紀 氏	介護副係長	須藤正子	R3. 9. 22	(公社) 全国老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
39	成年後見制度支援者向け研修会	成年後見制度と成年後見人等の役割 講師 谷川社会福祉士事務所 谷川ひとみ 氏	課長兼 介護支援専門員 兼生活相談員	伊藤健治	R3. 9. 29	あいづ安心ネット さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
40	成年後見制度支援者向け研修会	成年後見制度と成年後見人等の役割 講師 谷川社会福祉士事務所 谷川ひとみ 氏	生活相談員兼 介護支援専門員	瓜生彩香	R3. 9. 29	あいづ安心ネット さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
41	福島県認知症介護基礎研修	認知症及び認知症の人を取り巻く我が国の現状、施策の基本 講師 福島県高齢福祉課 松原美帆 氏 認知症の定義と原因疾患 認知症の中核症状と行動・心理症状の理解 認知症ケアにおいて基礎となる理念や考え方 講師 (一財) 竹田健康財団 遠藤祐子 氏 認知症ケアの基本技法 認知症の人とのコミュニケーション 講師 特別養護老人ホーム愛日荘園佐々木研二氏 行動の背景を理解したケアの工夫 自事業所の状況や自身のこれまでの竹の振り返り 講師 すこやかのかの里デイサービスセンター 野口康博氏	介護員	服部力裕	R3. 9. 30	福島県 郡山湯ラックス熱海	復命書 職員会議にて発表
42	令和3年度安全対策研修会(動画配信)	介護事故防止に向けた安全対策担当者研修 講師 (株) 福祉リスクマネジメント研究所 鳥野猛 氏	介護副係長	須藤正子	R3. 10. 1～ 10. 31	福島県老人福祉施設協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
43	熱中！レクリエーション	新型コロナウイルス感染症予防を図りながらのできることや工夫点 片麻痺、寝たきり、認知症などの方へのレクリエーション レクリエーションのアレンジ 講師 福島県レクリエーション協会 佐藤喜也氏	介護員	三留江利子	R3. 10. 13	福島県福祉サービス振興会 福島県文化センター	復命書 職員会議にて発表
44	令和3年度新人向けOJT（プリセプター）促進研修	人材育成におけるOJTの役割 事業所におけるOJTの現状アセスメント 職場における学びの環境アセスメント 個別指導に向けたアセスメントシートの作成 職業人としての共通価値を作る 指導の実際～成熟度をアセスメントする OJTの実践と仕組みの運用 講師 (株) エイデル研究所 丹羽勝氏 川崎理代氏	介護リーダー	齋藤まき	R3. 10. 12～ 10. 13	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
45	令和3年度新人向けOJT（プリセプター）促進研修	人材育成におけるOJTの役割 事業所におけるOJTの現状アセスメント 職場における学びの環境アセスメント 個別指導に向けたアセスメントシートの作成 職業人としての共通価値を作る 指導の実際～成熟度をアセスメントする OJTの実践と仕組みの運用 講師 (株) エイデル研究所 丹羽勝氏 川崎理代氏	介護リーダー	鈴木由紀	R3. 10. 12～ 10. 13	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
46	令和3年度新人向けOJT（プリセプター）促進研修	人材育成におけるOJTの役割 事業所におけるOJTの現状アセスメント 職場における学びの環境アセスメント 個別指導に向けたアセスメントシートの作成 職業人としての共通価値を作る 指導の実際～成熟度をアセスメントする OJTの実践と仕組みの運用 講師 (株) エイデル研究所 丹羽勝氏 川崎理代氏	介護員	佐藤康弘	R3. 10. 12～ 10. 13	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
47	令和3年度新人向けOJT (プリセプター) 促進 研修	人材育成におけるOJTの役割 事業所におけるOJTの現状アセスメント 職場における学びの環境アセスメント 個別指導に向けたアセスメントシートの作成 職業人としての共通価値を作る 指導の実際～成熟度をアセスメントする OJTの実践と仕組みの運用 講師 (株) エイデル研究所 丹羽勝 氏 川崎理代 氏	介護リーダー	新澤文枝	R3. 11. 1～ 11. 2	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
48	令和3年度新人向けOJT (プリセプター) 促進 研修	人材育成におけるOJTの役割 事業所におけるOJTの現状アセスメント 職場における学びの環境アセスメント 個別指導に向けたアセスメントシートの作成 職業人としての共通価値を作る 指導の実際～成熟度をアセスメントする OJTの実践と仕組みの運用 講師 (株) エイデル研究所 丹羽勝 氏 川崎理代 氏	介護リーダー	石川修	R3. 11. 1～ 11. 2	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
49	令和3年度新人向けOJT (プリセプター) 促進 研修	人材育成におけるOJTの役割 事業所におけるOJTの現状アセスメント 職場における学びの環境アセスメント 個別指導に向けたアセスメントシートの作成 職業人としての共通価値を作る 指導の実際～成熟度をアセスメントする OJTの実践と仕組みの運用 講師 (株) エイデル研究所 丹羽勝 氏 川崎理代 氏	介護員	三留江利子	R3. 11. 1～ 11. 2	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
50	令和2年度福祉職員キャ リアパス対応生涯研修 課程管理職員研修	管理職員としてのキャリアデザインと環境整備 福祉サービスの基本理念・倫理を推進する 組織・部門管理者としてのリーダーシップの醸成 人材アセスメント 啓発科目の講義・演習 行動指針マップの策定 キャリアデザインとアクションプランの策定 講師 (株) エイデル研究所 田中幹也 氏	事務課長	津川修二	R3. 10. 14～ 10. 15	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉セ ンター	復命書 職員会議にて発表

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
51	ユマニチュード研修	ユマニチュードとは 良い関係性を結ぶケア技術 5つのステップ ケアする人とは何か	介護員	神田翔太	R3.10.17	(株)エクサウィザーズ ユマニチュード事務局 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
52	令和3年度給食担当職員 研修会(動画配信)	介護報酬改定の概要について 加算の取得要件と算定の仕方について 講師 (公社)日本栄養士会 加藤すみ子 氏	栄養係長	石川美智子	R3.11.1~ 11.30	福島県老人福祉施設協 議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
53	令和3年度生活相談員研 修会(動画配信)	高齢者虐待防止について ～虐待を起こさない職場作りを目指して～ 講師 谷川社会福祉士事務所 谷川ひとみ 氏	生活相談員兼 介護支援専門員	瓜生彩香	R3.11.1~ 11.30	福島県老人福祉施設協 議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
54	令和3年度喜多方地方定 住自立圏認定調査員合 同勉強会	認定調査票(特記事項)記載ポイント 模擬演習(グループワーク) 認定調査に関する問題出題	課長兼 介護支援専門員 兼生活相談員	伊藤健治	R3.11.15	西会津町 喜多方プラザ	復命書 職員会議にて発表
55	令和3年度喜多方地方定 住自立圏認定調査員合 同勉強会	認定調査票(特記事項)記載ポイント 模擬演習(グループワーク) 認定調査に関する問題出題	生活相談員兼 介護支援専門員	瓜生彩香	R3.11.15	西会津町 喜多方プラザ	復命書 職員会議にて発表
56	令和3年度全会津介護支 援専門員協会 第2回 研修会	演題:ハラスメント対策～事業所に 今後求められるハラスメント対策とは～ 講師 (一社)神奈川県介護支援専門員協会 松川竜也 氏	生活相談員兼 介護支援専門員	瓜生彩香	R3.11.19	全会津介護支援専門員 協会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
57	令和3年度苦情受付担当 者研修	苦情解決制度の仕組みと意義について 講師 福島県運営適正化委員会 大川原順子氏 福祉サービスの質の向上と権利擁護 講師 福島県運営適正化委員会 村田清 氏 ディスカッション「事例から学ぶ苦情解決」	生活相談員兼 介護支援専門員	瓜生彩香	R3.11.26	福島県運営適正化委員 会 福島県総合社会福祉セ ンター	復命書 職員会議にて発表
58	令和3年度「退職共済事 業」事務説明会	社会福祉事業施設団体職員共済事業新任事務担当 者説明会	事務員	武藤恵子	R3.11.29	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
59	令和3年度「退職共済事 業」事務説明会	社会福祉事業施設団体職員共済事業新任事務担当 者説明会	事務員	山口裕太	R3.11.29	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
60	令和3年度「退職共済事 業」事務説明会	社会福祉施設等退職手当共済事業事務説明会	事務課長	津川修二	R3.11.29	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
61	令和3年度社会福祉施設 栄養士研修（動画配 信）	加齢で食べにくくなった方への食事提供 ～低栄養と不足しがちな栄養素について～ 不足しがちな栄養をしっかりと摂るレシピ・感染症 に負けない体を作るための食事 ～レシピや在宅での調理の工夫など～ 講師 福島学院大学 田村佳奈美 氏	栄養係長	石川美智子	R3.12.8	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
62	高齢者施設における虐 待防止研修会	介護施設等における虐待防止体制等の整備につ いて 講師 福島県高齢福祉課 坂本奨 氏 鼻めがねという暴力～どうすれば認知症の人への 虐待を止められるか 講師 社会福祉士 林田俊弘 氏	介護員	白井和男	R3.12.14	（一社）福島県社会福 祉士会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
63	高齢者施設における虐 待防止研修会	介護施設等における虐待防止体制等の整備につ いて 講師 福島県高齢福祉課 坂本奨 氏 鼻めがねという暴力～どうすれば認知症の人への 虐待を止められるか 講師 社会福祉士 林田俊弘 氏	准看護師	齋藤恵美	R3.12.14	（一社）福島県社会福 祉士会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
64	令和3年度福島県介護 支援専門員実務研修	介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント ケアマネジメントに係る法令等の理解 地域包括ケアシステム及び社会資源 ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働 の意義 人格の尊重及び権利擁護並びに介護支援専門員の 倫理 ケアマネジメントのプロセス 自立支援のためのケアマネジメントの基本 相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助 技術の基礎 利用者多くの職種の専門職などへの説明および合 意 介護支援専門員に求められるマネジメント ケアマネジメントに必要な基礎知識及び技術①～⑤ 見学・観察実習・模擬ケアプラン作成実習 ケアマネジメントの展開①～⑥ アセスメント及び居宅サービス計画等作成の総合 演習	理学療法士	赤城夕奈	R3.12.15～ R4.1.5 R4.1.12～13 R4.1.18～ 2.24 R4.3.3～3.4 R4.3.8～10	福島県社会福祉協議会 ビッグハットふくしま 西会津町居宅介護支援 事業所 機能訓練室	復命書 職員会議にて発表

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
65	令和3年度福島県介護支援専門員専門研修Ⅱ	介護保険制度及び地域包括ケアシステムの今後の展開 ケアマネジメントの実践事例の研究及び発表 (入退院・リハビリ・看取り・認知症・地域密着・家族支援・社会資源)	課長兼 介護支援専門員 兼生活相談員	伊藤健治	R3. 12. 17	(一社) 福島県介護支援専門員協会 相談室 アピオスペース	復命書 職員会議にて発表
66	令和3年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修 課程チームリーダー研修	チームリーダーとしてのキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念・倫理を推進する チームリーダーとしてのリーダーシップの醸成 OJTの効果的推進 意図的・計画的職員指導・育成の展開 講師 社会福祉法人つどい 八幡嘉晃 氏 啓発科目の講義と演習 行動指針の策定 キャリアデザインとアクションプランの策定 講師 福島県社会福祉協議会 村島克典 氏	事務員	武藤恵子	R3. 12. 23～24	福島県社会福祉協議会 福島県総合社会福祉センター	復命書 職員会議にて発表
67	令和3年度老人福祉施設職員研修Ⅱ ～身体拘束の廃止に向けて～	施設における身体拘束等廃止の取り組み等について 講師 認知症介護研究・研修仙台センター 吉川悠貴 氏	介護員	齋藤良平	R3. 12. 24	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
68	令和3年度老人福祉施設職員研修Ⅱ ～身体拘束の廃止に向けて～	施設における身体拘束等廃止の取り組み等について 講師 認知症介護研究・研修仙台センター 吉川悠貴 氏	介護員	大八木辰巳	R3. 12. 24	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
69	介護事業者のための業務継続計画(BCP)作成セミナー	BCP作成における重要ポイント 講師 信州大学 本田茂樹 氏 BCP作成の具体的進め方 講師 (一社) 中部産業連盟 前田和彦 氏	施設長	若林陽三	R4. 2. 2	厚生労働省 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
70	介護事業者のための業務継続計画(BCP)作成セミナー	BCP作成における重要ポイント 講師 信州大学 本田茂樹 氏 BCP作成の具体的進め方 講師 (一社) 中部産業連盟 前田和彦 氏	事務課長	津川修二	R4. 2. 2	厚生労働省 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
71	高齢者施設における新型コロナウイルス感染症のクラスター対応に係る緊急Web研修会	施設クラスターの感染制御における注意点 ～最近の事例を踏まえて～ 講師 福島県立医科大学 金光敬二 氏 施設クラスターの対応 ～自施設でクラスターが発生したら～ 講師 福島県立医科大学 箱崎貴大 氏	准看護師	齋藤恵美	R4. 2. 16	福島県高齢福祉課 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
72	高齢者施設における新型コロナウイルス感染症のクラスター対応に係る緊急Web研修会	施設クラスターの感染制御における注意点 ～最近の事例を踏まえて～ 講師 福島県立医科大学 金光敬二 氏 施設クラスターの対応 ～自施設でクラスターが発生したら～ 講師 福島県立医科大学 箱崎貴大 氏	生活相談員兼 介護支援専門員	瓜生彩香	R4. 2. 16	福島県高齢福祉課 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
73	令和3年度福祉サービス第三者評価研修会	第三者評価の実施状況と課題 福祉サービスの質の向上と第三者評価 講師 福島県社会福祉協議会 関靖男 氏 福祉サービス第三者評価を受審して 発表者 (社福) たちあおい 様 福祉サービス第三者評価受審にあたって 講師 福島県社会福祉協議会 大竹伸明 氏	施設長	若林陽三	R4. 2. 24	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
74	令和3年度福祉サービス第三者評価研修会	第三者評価の実施状況と課題 福祉サービスの質の向上と第三者評価 講師 福島県社会福祉協議会 関靖男 氏 福祉サービス第三者評価を受審して 発表者 (社福) たちあおい 様 福祉サービス第三者評価受審にあたって 講師 福島県社会福祉協議会 大竹伸明 氏	課長兼 介護支援専門員 兼生活相談員	伊藤健治	R4. 2. 24	福島県社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
75	令和3年度社会福祉法人・施設「会計実務研修」新規収録プログラム	新規収録プログラム 活用できる月次報告・資金管理の実践的実務	事務課長	津川修二	R3. 3. 31	東京都社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
76	令和3年度社会福祉法人・施設「会計実務研修」新規収録プログラム	新規収録プログラム 活用できる月次報告・資金管理の実践的実務	事務係長	齋藤恵子	R3. 3. 26	東京都社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
77	令和3年度社会福祉法人・施設「会計実務研修」基礎・決算・新規収録プログラム	基礎研修 総論・会計の役立ちと複式簿記・経理規程と出納の実務・債権債務の管理・固定資産の管理・減価償却・国庫補助金等・純資産・引当金・内部取引・寄附金品の取り扱い・運営費の運用通知・月次演習・月次会計データ出力モデルの見方 決算研修 決算の主題・スケジュール・決算目的・決算書の体系・決算手続き・内部取引消去・決算書類の注記事項・附属明細書の作成・決算準備作業チェックリスト・PLとCFの整合性確認・社会福祉充実計画書の承認制度・決算整理仕訳・決算演習問題・決算書モデル 新規収録プログラム 活用できる月次報告・資金管理の実践的実務	事務員	武藤恵子	R3. 2. 25～ 3. 31	東京都社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表
78	令和3年度社会福祉法人・施設「会計実務研修」基礎・決算・新規収録プログラム	基礎研修 総論・会計の役立ちと複式簿記・経理規程と出納の実務・債権債務の管理・固定資産の管理・減価償却・国庫補助金等・純資産・引当金・内部取引・寄附金品の取り扱い・運営費の運用通知・月次演習・月次会計データ出力モデルの見方 決算研修 決算の主題・スケジュール・決算目的・決算書の体系・決算手続き・内部取引消去・決算書類の注記事項・附属明細書の作成・決算準備作業チェックリスト・PLとCFの整合性確認・社会福祉充実計画書の承認制度・決算整理仕訳・決算演習問題・決算書モデル 新規収録プログラム 活用できる月次報告・資金管理の実践的実務	事務員	山口裕太	R3. 2. 25～ 3. 31	東京都社会福祉協議会 さゆりの園会議室	復命書 職員会議にて発表

令和3年度 施設職員の研修状況(さゆりの園)

イ 施設内研修状況

研修名	研修内容	発表者・講師等	参加職種	参加人数	期間	研修結果の周知方法
施設内研修 (全職員対象)	1 消防設備の説明	防火管理委員会	新人職員	5名	R3.5.6	実施記録
	2 コンプライアンス研修(特養さゆりの園利用契約書・重要事項説明書について)	課長兼介護支援専門員兼生活相談員 伊藤健治	職員会議参加者	24名	R3.5.10	資料配布
	3 トラブルに学ぶリスク対策	事故予防対策委員会	全職員	28名	R3.5.17	会議録回覧
	4 トランスファ「当たり前だけど、新しい視点」オンライン形式	ふくしまをリハビリで元気にす 会理事長 岡本宏二氏 褥瘡予防検入浴改善委員 会主催	全職員	29名	R3.6.22 R3.6.23 R3.6.24	資料配布
	5 OJT施設内研修「身体拘束の排除」	Aグループ(新澤文枝、佐藤康弘、大沼照代) ※OJT委員会主催	職員会議参加者	25名	R3.7.6	資料配布
	6 「睡眠について」グループワーク	事故予防対策委員会	職員会議参加者	25名	R3.7.6	会議録回覧
	7 合同夜間招集・避難訓練	防火管理委員会	全職員	18名	R3.7.30	実地訓練
	8 「虐待防止マニュアル」「身体拘束廃止に関する指針」の読み合わせ	権利擁護・認知症ケア推進委員会	職員会議参加者	25名	R3.8.5	マニュアル・指針の確認
	9 OJT施設内研修「災害時の対応」	Bグループ(鈴木由紀、佐川寿美、長谷川由美子) ※OJT委員会主催	職員会議参加者	24名	R3.9.7	資料配布
	10 「脱水予防の工夫について」グループワーク	事故予防対策委員会	職員会議参加者	24名	R3.9.7	会議録回覧
	11 水消火器による消火訓練	防火管理委員会	当日勤務職員	8名	R3.9.17	実地訓練
	12 「不適切ケアのない風通しの良いチームにするには」をテーマにグループワーク	権利擁護・認知症ケア推進委員会	職員会議参加者	28名	R3.10.5	資料配布
	13 衛生委員の役割	福祉会衛生委員会 委員長 仲川公子	衛生委員	9名	R3.10.20	会議録
	14 屋内消火栓による消火訓練	防火管理委員会	当日勤務職員	9名	R3.10.22	実地訓練
	15 合同夜間通報訓練	防火管理委員会	全職員	8名	R3.11.5	実地訓練
	16 OJT施設内研修「認知症ケアの基本・ポイント」	Cグループ(石川修、小島敏夫、江川志津子) ※OJT委員会主催	職員会議参加者	26名	R3.11.8	資料配布

17	新型コロナウイルス・インフルエンザ・ノロウイルスについての勉強会	感染予防対策委員会	全職員	54名	R3.11.11 R3.11.12 R3.11.18 R3.11.29	資料配布
18	高齢者虐待防止について(動画配信)	全国老協主催 権利擁護・認知症ケア推進委員会	全職員	56名	R3.11.22 R3.11.23 R3.11.24 R3.11.25 R3.11.26	資料配布
19	発電機の使用法	防火管理委員会	当日勤務職員	8名	R3.11.26	実地訓練
20	苦情解決に向けたプロセス理解の研修会	苦情受付担当者 伊藤健治、瓜生彩香	職員会議参加者	26名	R3.12.7	資料配布
21	「危険予知訓練」グループワーク	事故予防対策委員会	職員会議参加者	26名	R3.12.7	会議録閲覧
22	OJT施設内研修「認知症に合併しやすいせん妄とうつ病」	Dグループ(斎藤まき、波部増美、渡部知香) ※OJT委員会主催	職員会議参加者	24名	R4.1.7	資料配布
23	夜間想定避難訓練	防火管理委員会	当日勤務職員	6名	R4.1.19	実地訓練
24	新型コロナウイルスオミクロン株への感染対策に係るWEB研修会	感染予防対策委員会	全職員	55名	R4.1.25 R4.1.26 R4.1.27 R4.1.28 R4.1.31 R4.2.4	資料配布 動画視聴
25	認知症ケアと権利擁護の勉強会	権利擁護・認知症ケア推進委員会	全職員	55名	R4.2.15 R4.2.18 R4.2.24 R4.2.25	資料配布
26	避難訓練のシュミレーション	防火管理委員会	当日勤務職員	6名	R4.2.16	資料配布
27	高齢者施設における新型コロナウイルス感染症のクラスター対応に係るWEB研修会	感染予防対策委員会	全職員	51名	R4.3.2 R4.3.3 R4.3.4	資料配布
28	令和3年度「施設サービス自己評価」の改善点と実践の為に検討会	OJT委員会	職員会議参加者	26名	R4.3.7	検討会議録
29	「介護事故予防マニュアル」の読み合わせ	事故予防対策委員会	職員会議参加者	26名	R4.3.7	マニュアル・指針の確認
30	「介護事故予防マニュアル」の読み合わせ	事故予防対策委員会	職員会議参加者	26名	R4.3.7	マニュアル・指針の確認
31	新型コロナウイルス感染症が疑われる状況や発生時の初動対応シュミレーション訓練	感染予防対策委員会	全職員	32名	R4.3.15 R4.3.22 R4.3.23	実地訓練
32	避難訓練のDVD視聴	防火管理委員会	当日勤務職員	6名	R4.3.16	資料配布

施設内研修 (直接処遇職員対象)	1	誤嚥予防と食事摂取の姿勢について	事故予防対策委員会 中田 崇津美	ケアスタッフ会議メンバー	18名	R3.7.15	資料配布
	2	看取り委員会勉強会 ①「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」について ②「さよりの看取りの指針」の基づきグループワーク	看取り委員会 伊藤健治、瓜生彩香	ケアスタッフ会議メンバー	22名	R3.8.17	資料配布
	3	「姿勢・ポジショニング」について	褥瘡予防排泄入浴改善委員会	ケアスタッフ会議メンバー	12名 13名	R3.12.21 R4.3.15	資料配布
栄養部門研修	1	厨房内最近臨床検査結果に基づく改善指導	福島衛生検査所 安達 亨 氏	管理栄養士 調理員	9名	R3.4.12	資料配布
	2	ノロウイルスの基礎知識(適切な手洗い方法)	福島衛生検査所 安達 亨 氏	管理栄養士 調理員	9名	R3.4.12	資料配布
	3	厨房内最近臨床検査結果に基づく改善指導	福島衛生検査所 安達 亨 氏	管理栄養士 調理員	9名	R3.7.12	資料配布
	4	調理webセミナー(スチームコンベクションオープン調理)	マルゼン株式会社専属シェフ	管理栄養士 調理員	9名	R3.9.24	資料配布 動画視聴
	5	厨房内最近臨床検査結果に基づく改善指導	福島衛生検査所 安達 亨 氏	管理栄養士 調理員	9名	R3.11.27	資料配布
	6	大腸菌群と大腸菌の違いについて	福島衛生検査所 安達 亨 氏	管理栄養士 調理員	9名	R3.11.27	資料配布
	7	「食事ととろみの基本」「食形態学会分類2021」	株式会社クリニコ	管理栄養士 調理員	9名	R4.2.14	資料配布 動画視聴
	8	厨房内最近臨床検査結果に基づく改善指導	福島衛生検査所 安達 亨 氏	管理栄養士 調理員	9名	R4.3.14	資料配布
	9	調理従事者が健康保菌者にならない為に	福島衛生検査所 安達 亨 氏	管理栄養士 調理員	9名	R4.3.15	資料配布
ケア連携委員会	1	胃瘻による経管栄養・口腔内吸引の手技確認	看護職員 (登島純子、斎藤恵美)	介護職員	13名	R3.7 R4.2	資料配布
	2	普通救命講習会	・西金津消防署等 ・応急手当普及委員	介護職員	18名	R3.6 R3.7 R3.11	心肺蘇生訓練

令和3年度 給食実績年計表

特別養護老人ホーム さゆりの園

	入所 SS 別	1ヶ月	1食平均	1か月	1人1日平均	経腸栄養	エネルギー	蛋白質	脂質	炭水化物	カルシウム	鉄	レチノール当量	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンC	食物繊維	塩分
		食数	食数	購入金額 (円)	食材料費 (円)	1食単価 (円)	kcal	g	g	g	mg	mg	ug	mg	mg	mg	g	g
令和3年 4月	入所	4,402	49	1,214,209	738	226	1,419	56.8	32.2	209.4	750	10.2	507	1.66	1.20	85	13.70	6.30
	SS	1,321	15	299,243	738													
5月	入所	4,452	48	1,221,346	750	149	1,452	58.2	35.8	207.9	765	10.6	518	1.61	1.24	86	12.80	6.40
	SS	1,199	13	275,714	750													
6月	入所	4,282	48	1,192,356	744	230	1,465	58.5	35.9	212.0	809	10.7	522	1.63	1.26	85	13.00	7.00
	SS	1,306	15	297,432	744													
7月	入所	4,465	48	1,045,556	719	158	1,480	57.9	36.9	211.6	783	10.4	521	1.58	1.29	89	13.20	6.60
	SS	461	5	105,447	719													
8月	入所	4,442	48	1,031,930	752	240	1,449	55.8	35.0	211.3	763	10.1	518	1.56	1.19	83	13.00	6.70
	SS	430	5	98,152	752													
9月	入所	4,449	49	974,153	662	158	1,438	60.1	32.6	208.2	788	10.6	573	1.60	1.29	86	13.30	6.70
	SS	478	5	100,075	662													
10月	入所	4,650	50	1,045,680	675	112	1,466	58.6	34.3	211.8	793	10.8	592	1.56	1.24	87	13.70	6.70
	SS	846	9	172,793	675													
11月	入所	4,283	48	1,186,173	747	185	1,474	57.7	36.0	211.4	782	10.6	575	1.61	1.72	90	13.40	6.90
	SS	967	11	270,271	747													
12月	入所	4,585	49	1,185,585	727	228	1,484	58.8	37.5	212.3	781	10.5	563	1.60	1.30	90	13.50	6.90
	SS	1,250	13	267,060	727													
令和4年 1月	入所	4,658	50	1,085,992	671	95	1,457	58.9	33.1	213.3	775	10.6	550	1.58	1.23	82	13.30	6.80
	SS	1,245	13	264,156	671													
2月	入所	4,169	50	1,058,880	702	204	1,460	59.7	34.1	209.4	784	10.3	577	1.56	1.26	85	13.40	6.80
	SS	1,233	15	267,060	702													
3月	入所	4,601	49	1,222,530	715	160	1,453	58.1	34.5	212.7	786	10.4	548	1.62	1.35	88	13.30	6.70
	SS	1,326	14	292,038	715													
合計	入所	53,438		13,542,048			17,497	699.1	417.9	2531.3	9,359	125.7	6,564	19.17	15.57	1,036	159.60	80.50
	SS	12,062		2,663,767		2,145												
							給与栄養目標量											
平均							1,400	50.5	35.0	200.0	600	10.0		1.20	1.00	100		8.00
							給与栄養平均量											
	入所	4,453食	49食	1,128,504円	717円	179円												
	SS	1,005食	11食	221,981円	717円		1,458	58.3	34.8	210.9	780	10.5	547	1.60	1.30	86	13.30	6.71

令和3年度行事食一覧表

特別養護老人ホームさゆりの園

実施日			行事食名	行事食内容	実施日			行事食名	行事食内容
令和3年	22日	①お花見御膳	春の散らし寿司、吸い物、桜海老の天ぷら、里芋の春菊和え	12月	23日	⑬クリスマス御膳	クリスマス散らし寿司、洋風スープ煮、チキン豆腐団子、芋サラダ		
	4月	29日	②昭和の日		御飯、こづゆ、魚の煮つけ、クルミの白和え	31日	⑭大晦日	年越しそば、かき揚げ、菜花となめこのお浸し	
5月	3日	③憲法記念日	御飯、さくさく、魚のくずあんかけ、春菊とりの和え物	令和4年	1月	1日	⑮元旦	御飯、くずし豆腐、伊達巻、五目豆、調味噌 春の散らし寿司、雑煮風煮物、紅白なます、インゲンの胡麻味噌和え 御飯、味噌汁、魚の西京焼き、きんとん	
	4日	④みどりの日	赤飯、味噌汁、魚の山椒焼き、ポテトの味噌炒め			2日	⑯正月献立	御飯、カニのスープ、松風焼き、マカロニサラダ	
	5日	⑤こどもの日	山菜寿司、あさりの潮汁、魚のフライ、ブロッコリーと海老のマヨネーズ			3日	⑰正月献立	御飯、味噌汁、三日とろろ、ごぼうの卵とじ 御飯、七福神イモ雑煮、豆腐ハンバーグ胡麻ソース、鰯なます	
	21日	⑥御田植御膳	十五穀米御飯、新じゃがと桜エビのスープ、筑前煮、アスパラの和え物			10日	⑱成人の日	赤飯、芋の子汁、魚のおろし煮、キャベツの酢の物	
6月	7日	⑦さなぶり御膳	中華おこわ、吸い物、鯛の桜エビフリッター、ふきとうどの油炒め	2月	15日	⑳小正月御膳	おはぎ、こづゆ、棒たらの甘露煮、かずのこ豆		
7月	7日	⑧七夕御膳	冷やしそうめん、栗味、精進揚げ、奴豆腐、七夕ポンチ		2日	㉑節分	大豆御飯、味噌汁、白身魚の味噌あんかけ、おさつサラダ		
	19日	⑨海の日	炊き込みチャーハン、わかめスープ、焼き餃子、青菜のおひたし		11日	㉒建国記念日	赤飯、こづゆ、煮魚、かぶの香り漬け		
8月	13日	⑩お盆入り	御飯、吸い物、精進揚げ、天つゆ、クルミの白和え		3月	14日	㉓バレンタイン	とろっとオムライス、コンソメジュリアン、ヨーグルトサラダ	
	15日	⑪終戦記念日	赤飯、こづゆ、煮魚、揚げ出し豆腐の枝豆和え	23日		㉔天皇誕生日	桜御飯、なめこ汁、魚の香味ソースがけ		
9月	20日	⑫敬老の日	赤飯、かき卵汁、魚の照り焼き、マカロニの味噌ソースかけ	3日		㉕ひなまつり	ひな祭り寿司、吸い物、魚の木の芽焼き、菜花のなめこのおひたし		
	21日	⑬秋彼岸	おはぎ、こづゆ、魚の酒粕焼き、ほうれん草と菊のくるみ和え	18日	㉖彼岸入り	おはぎ、こづゆ、魚の生巻煮、鶏ササミマリネ			
	23日	⑭秋分の日	御飯、すまし汁、天ぷら盛、天つゆ、豆腐とえびの煮物	21日	㉗春分の日	赤飯、吸い物、揚げ豆腐と野菜あんかけ、おさつサラダ			
10月	16日	⑮秋の味覚御膳	赤飯、吸い物、魚の照り焼き、秋野菜サラダ						
11月	23日	⑯勤労感謝の日	赤飯、味噌汁、魚の山椒焼き、ポテトの味噌炒め						
	24日	⑰そば会	新そば、かき揚げ、菊入なます						

令和 8 年度苦情受付・解決状況

事業所名：特別養護老人ホームさゆりの園

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質 (内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	1	1	0	0	0	0	2
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	1	1	0	0	0	0	2

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度 (接遇)	1	0	0	0	0	0	1
サービスの質 (内容)	1	0	0	0	0	0	1
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	0	0	0	0	0	2

令和3年度

さゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業所 事業報告書

<事業の概況>

令和3年度は、介護保険法及びさゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業所運営規定に基づき、利用者の身体状況または認知症の重症化が著しい状況において、施設利用中も安心して、その方らしい生活を営むことが出来るように、各専門職がその専門性を活かしながら、チームとして連携し日々の支援を実践してきた。

利用者にサービスを提供するにあたっては、家族、担当介護支援専門員、他サービス提供事業者等から心身状況に関する情報を得、施設や在宅での生活に対する意向を十分に伺い短期入所サービス計画を作成し、利用中安心して過ごして頂けるよう、統一した介護サービスの提供に努めてきた。また、居宅介護支援事業所の開催するサービス担当者会議に積極的に参加することにより、関連機関との連携を密にし、利用者を支援する一つの在宅サービス機関として、施設サービス提供内容の充実、また在宅での生活が安心して営めるよう支援してきた。

そして、令和3年度も引き続き新型コロナウイルス感染症対策を継続すると共に、この時世に合わせたサービス提供を工夫しながら、業務継続してきた。

<重点目標>

(1) 利用者の生活の豊かさ向上への関わりと実践

個別ニーズに対応する取り組みとして、コミュニケーション機会の確保とニーズの抽出を重視し、個々の習慣、楽しみ、嗜好、医療、健康増進、快適な施設生活の為の環境整備など、様々なニーズへの対応を実践してきた。

(2) 認知症ケアの向上と尊厳あるケアの実践

認知症ケアを推進・強化することで権利擁護の更なる意識向上につなげる為、権利擁護・認知症ケア推進委員会を中心に内部研修会の実施、認知症ケアスキルアップ研修会の参加と実践でセンター方式を活用したアセスメント、様々なケア場面、機能訓練、医療提供場面でのユマニチュード技法の導入を積極的に行ってきた。直接処遇職員だけでなく多職種皆で認知症の理解、関わり方を更に深められた。

(3) 法人キャリアパスに基づいたOJT実践の強化と人材育成

法人キャリアパスに基づいた職務遂行とOJTとして、新人職員への教育プログラムの見直し、介護リーダー職の課業の明確化及び役割分担と実践で、少しずつ施設内OJTが定着しているところである。又、職員の健康増進を目的として、こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用し自身の健康状態の把握と改善のための取り組みを行い、健康経営の推進を図っている。

<各係実施報告>

(1) 利用者の生活の豊かさ向上への関わりと実践

係	実施内容	結果
相談	① 入所者・ショートステイ利用者との定期個別面談を実施し、より具体的なニーズを聴取する。内容についてはチームで共有し、具体的計画を協議し実行に繋げる。	11月に個別面談を実施。個別でゆっくり話す時間を持てたことで、本音をお話し頂ける利用者もいた。抽出したニーズや要望を様々な会議等で共有し、施設サービス計画等に反映させ実践している。
	② 新型コロナウイルス感染症対策で、ご家族など利用者にとって大切な方とのつながりが希薄になるのを少しでも緩和する取り組みを実施していく。	面会については制限ある中で、窓ガラス越し面会を更に充実したものとする為、内外で会話のできるワイヤレスインターホンを導入。会話が可能となり、声が届くため利用者・ご家族等からも好評だった。
看護	係内で分担し定期的に利用者と面談、健康面の悩みや心情を傾聴する機会を作る。内容により他職種と協働で思いに寄り添える対応を検討していく。	ご利用者との面談は定期的には出来なかったが、日常の業務の中で利用者の健康面の悩みを伺い、体調を観察し変化があった場合は家族へ説明をして、思いに寄り添える対応を検討しながら関わった。又、新型コロナワクチン接種では他職種と協働して対応方法を検討し、効率的で安全な接種ができた。そして在宅利用者への迅速な接種へ繋がった。
介護	毎月、月初めに1度はゆっくりと話す機会をつくり、利用者の希望や思いを伺う。利用者を楽しみを持って生活して頂けるように、ユニット会議で具体化し、短期入所生活介護計画と連動しながら計画的に実行していく。	聞き取りを行うことで、嗜好品や趣味への対応等、希望された方には随時実施できた。洗濯物たたみ等役割を持って頂いたり、趣味の継続ができたことで、施設利用中も笑顔や会話が增え、楽しみを持ったサービス利用に繋がった方もいた。
栄養	① 既存の厨房機器を活用した調理の動画研修を受講する。その中で習得した調理方法や調理手順、利用者に適する献立があれば献立に取り入れ、栄養係全体で調理に取り組み、利用者に喜ばれる食事を提供する。	今年度はスチームコンベクションオープンの動画研修会を2回実施でき、調理技術向上に繋げることができた。ただ、調理をする上での手間や工夫がある為、実際の調理、食事提供には至らなかった。次年度に計画的に実施していく。
	② 食事量低下の利用者に対し、不足した栄養量や栄養素を補う代替食品を個別に食事に追加し、口から食べる幸せを持ち続けてもらえるような取り組みをする。	褥瘡リスク者や発生者、食事摂取量低下の方には、体重や疾病、身体状況から必要な栄養素の分析を行い、栄養補助食品の追加提供ができた。

機能訓練	① リハビリの充実を図る。 ・ リラックス効果と関節拘縮予防の促進の為、関節可動域訓練に温マッサージを取り入れる。 ・ 楽しみを持ってもらえるよう、午後離床している利用者に対して作業活動（作品を作る等）を行う。	・ 上半期では、認知機能の低下や季節や気温等で拒否される利用者が居たこともあり、温マッサージの実施には至っていなかったが、浮腫みが見られる利用者にメドマーや足台などの導入ができた。下半期では、利用者の状態や希望に応じて温マッサージを取り入れて実施する事が出来た。実施した利用者からは「気持ちいい。ありがとう」との返答が聞かれたため、今後も気温や状態に応じて導入していく。 ・ 上半期では短期利用者が減っており、作業活動を実施できる利用者が午後離床しておらず作品作成には至らなかった。ただ、一部利用者に対して作業療法としてパズルの提供は実施できた。下半期にて、地域の感染状況などを踏まえ感染予防対策をしっかりと行って出来る作業活動を検討していたが、感染状況の悪化等で実施のアイデアが出ず、機能訓練係として実施に至らなかった。
	② 他職種と協力しながら、散歩等屋外活動の支援を行っていく。	気温や気候が落ち着いた季節に、多職種と協力しさゆり公園の野球場周辺に散歩へ出かける事ができた。下半期は、気温が下がり屋外へ散歩に出ることは難しいため、施設内から外を眺める等の季節を感じられる支援を検討。特に訓練室での集団体操前などは、訓練室前から外の花を眺めて楽しまれていた。
事務	安心して明るい生活空間を維持できるよう、定期的（四半期に一度）に施設内を見回り環境維持及び整備に心掛ける。	・ 危険箇所や改善箇所等の有無を思索しながら定期的に見回りを行ない、改善が必要な場合には速やかに補強や修繕を行った。早急な修繕を要しないものは、必要時にすぐに対応できるよう準備し、利用者にとって快適な生活環境と、職員にとって働きやすい環境整備に繋がれた。 ・ 物品購入では県の補助金を活用し、有事の際に備えて簡易陰圧装置を1台購入できた。支出状況や予算計上品の購入状況を確認しながら、必要に応じて声掛けをし、経費削減の意識付けや未購入品等に関わる手続を促すことで環境整備に繋がれた。社会情勢により納品に月単位の期間を要するものもあり、計画している物品については、次年度も継続して早期の手続きを促していく。

(2) 認知症ケアの向上と尊厳あるケアの実践

係	実施内容	結果
相談	ユマニチュード技法による認知症ケアを、施設内で少しずつ浸透させる為の取り組みの一つとして、もう一度、「病態に合わせた対応」や「ユマニチュード」についての勉強会を委員会と一緒に企画・実施していく。	ユマニチュード研修受講職員と権利擁護・認知症ケア推進委員会で、虐待予防や身体拘束廃止の内容を交えた、認知症ケアについての勉強会を全職員対象で実施した。振り返りシートでは、「勉強になった」「ユマニチュードの4つの柱を意識して取り入れたら、利用者の反応が良かった」等の意見もあり、意識したケアに取り組む職員が増えた。
看護	専門的観点から認知症の病状を一人ひとり分析、表に見える化しケアスタッフ内で日々の認知症ケアに生かせるよう提案していく。	年度途中の人員不足から計画通りの遂行が難しくなり、中間評価において状況に応じた計画の変更と遂行をとのアドバイスから、認知症ケア向上と尊厳あるケアの実践に計画を変更し、ユマニチュードの関わりを意識した関わりを実践してきた。
介護	① マニチュード研修会参加者を中心に、ユマニチュード技法の勉強会を再度実施することで、知識と理解を深める。又、毎週実施しているタッチングケアの際にユマニチュード技法を取り入れ、「見て・触れて・話しかける」を実践していく。	ユマニチュード研修会参加した介護員と権利擁護委員会が中心となり勉強会を実施した。4つの柱を基本とし5つのステップに分けて実践するユマニチュード技法を、毎週実施しているタッチングケアの際に取り入れ実践している。「見て・触れて・話しかける」を意識した関わりで、普段は声も出さない、体操もしない方が、指折りをしたり歌を唄ったりするなど成果が見られている。又、利用者の尊厳を守るケアを意識した事で、利用者との関係性が密になったと感じている職員もいた。
	② 「介護指導者向け研修」で、学んだ技術のポイントをケアスタッフ会議等で周知しケアに取り入れ、実践していく。	毎月、介護指導者向け研修会での新しい情報をケアスタッフ会議でポイントとして周知した。しかし、実際のケア実践に活かすようにマッサージ等を機能訓練係と共に行い記録をするとしていたが、継続しなかった。研修会で学んだ事のポイントは今後もケアスタッフ会議で周知していく。次年度は、研修で学んだ事のポイントを1つに絞り、伝達していく事で実践に取り入れやすくなるようにしていく。
栄養	管理栄養士は認知症における摂食・嚥下障害に対する知識と安全な嚥下食の調理技術の研修会を企画・運営する。調理員は大量調理における機器を活用した嚥下食の調理技術に取り組み、その結果について栄養係と共有する。	① 管理栄養士が「食形態の学会分類」「とろみの分類」「食事ととろみの基本」の研修会を実施した。とろみの分類は厨房でとろみを使用したソフト食を提供しているので分かりやすい内容であったが、食形態の分類は係全員で理解するには難しい内容であった。次年度は

		会議内でワンポイント的な分かりやすい内容で実施していきたい。 ② 主担当調理員が「嚥下食の調理方法」の研修会を実施した。とろみ剤を使用したソフト食（焼肉）献立の提案発表があった。年度内でその献立を実際に調理し提供したかったが、作業工程が複雑であり、現時点では提供するには至っていない。
機能訓練	① ユマニチュード研修会で学んだ内容を振り返り、実践していく。機能訓練介入時に 5 つのステップを意識する。 （1. 出会いの準備 2. ケアの準備 3. 知覚の連結 4. 感情の固定 5. 再開の約束）	機能訓練の介入の際には、ユマニチュードの研修で学んだ 5 つのステップを意識したうえで、各利用者に応じた対応や介入を行ってきた。1 年間を通して、ユマニチュードの 5 ステップを意識した介入を継続して実施できた。
	② ユマニチュードの 4 つの柱（見る・話す・触れる・立つ、歩く）について職員に周知し、タッチングケアに取り入れるような仕組みを作る。	ユマニチュード研修を受けた職員との共同で、権利擁護委員会にて法定研修を実施した。そのため、職員への周知は完了。タッチングケアの際に、意識して取り入れている様子が見られている。
事務	コミュニケーション技術と対人援助技術（感情コントロール等）を含め、認知症に対する理解と知識を持ち、相手に対して傾聴の姿勢と受け止める態度で利用者やご家族の方と対応する。	施設内研修や研修復命等で認知症や利用者に対する理解を深め（基本の再確認と症状が少しでも軽減し心穏やかに過ごして頂くために、生活環境の障害を取り除くことなど）、利用者やご家族へ傾聴を行ない、依頼や質問を受けた際には受け止める態度で接するよう心掛けた。機会は少なかったが、声掛けや会話をした際に安堵感や笑顔が見られたりした。又、立ち止まりよくお話を伺うことで、内容によって直接処遇職員に繋ぐことが出来た。

(3) 法人キャリアパスに基づいた OJT 実践の強化と人材育成

係	実施内容	結果
相談	誰しものが受付ける可能性のある苦情・要望等に対応できるよう、苦情解決に向けたプロセスの理解に関する勉強会を年 1 回企画・実施する。	「苦情解決に向けたプロセスとその理解」に関する勉強会を職員会議内で実施。苦情は利用者・家族等のニーズであり、拾い上げることでサービス質向上に繋げていく為のものであること。又、だれもが受け付ける可能性があることを共有できた。

看護	看護職としての倫理観を振り返り係内で職場研修を実施、人材育成へ繋げる。	今年度は、年度途中の人員不足から予定の職場内研修の実施や外部研修参加ができなかった。次年度は外部研修に参加しキャリアアップを目指す。又、施設内研修を企画・実施し人材育成にも繋げられるようにする。
介護	OJT リーダーを担うリーダー職の課業を定め後輩への指導・助言を中心としたOJTを実行していく。	4人のリーダーにそれぞれOJTの役割分担を定め実施してきた。 ①「事故報告、ヒヤリハット等のチェックとOJT」では、対策が実践に繋がっているか確認。意識化は出来たが、改善案の具体性には課題が残る。 ②「新人・初任者教育」では、新しい教育プログラムを作成し、新人、初任者職員に対し計画的に指導を実施。社会人としての基本及び、業務については1つ1つ確実に覚え実行に繋がる内容で実施した。 ③「不適切ケアのチェック仕組み作り、随時の指導」では、特に利用者が不安や不快に感じられるようなことに対しOJTを行っていた。 ④「介護技術の再確認」では、介護技術や普段の業務で適切でないと感じたこと（トランスファー方法、口腔ケアの重要性、感染予防等など）を休憩室に掲示して周知した。 次年度も、各自OJTリーダーとしての自覚と役割を再認識し、更に効果的なOJTを実践していく。
栄養	一人ひとりの食の知識や調理技術の向上と、働く意欲を引き出す機会を作る為に料理レシピコンテストに年1回参加する。	市販の介護食を活用したレシピコンテストに1回応募した。受賞には至らなかったが、主副担当者が中心となり皆が意見を出し合い、試行錯誤しながらのプロセスが、調理員のモチベーション向上に繋がった。
機能訓練	計画的にキャリアパス対応生涯研修課程を受講し、キャリアパスの仕組みについて知識を深める。	研修の受講予定は今年度の予定に入っていたが、申し込み定員等の都合にて受講に至っていない。次年度の研修計画に受講予定を再度組み込んでいく。又、キャリアパスの推奨資格である介護支援専門員資格の取得に向けて準備を進めた結果、合格することができた。

事務	① 外部及び内部研修に計画的に参加し、人材育成や各業務のスキルアップとモラルの向上を図る。事務処理及びコミュニケーション能力や接遇マナーは、気付いた時など随時声掛けや指導を行なう。	・計画としてあげていた研修で通知があったもののほか、会計実務に関わる実践的な研修(初任者については基礎)を受講。月次処理を正確に、決算業務をスムーズに行えるよう業務に活かしていく。会計事務は毎月の月次試算表を正確に作成し適正に経理が行われるよう努めたが、提出が遅滞する月があった。声掛けをして促し、誤った処理に気づいた際には速やかに修正を行なった。社会保険や雇用保険等の申請事務においても、速やかに準備し届出るよう努めた。又、内部研修には出来る限り参加し、安全対策や利用者の権利擁護など研鑽に努めた。 ・接遇マナーについては、身だしなみや言葉遣い等気づいた際には声掛けを行ない、組織人としての自覚を促した。今後も働きやすい労働環境づくりなど、健康経営に今後も取り組んでいく。
	② 毎日5分程度の体操(ストレッチ、ラジオ体操等)を取り入れ、各自健康づくりをする。また、職員それぞれ8つの健康習慣改善(適正体重・朝食・間食・飲酒・運動・禁煙・睡眠・ストレス)等を意識し、各々にあったツール(こゆりちゃん健康ポイント手帳や様々なアプリ等)を活用し、健康状態を記録・把握し健康管理に活かす。	各自で体操等を行ない健康づくりに取り組むこととしていたが、職場での時間確保は行えていなかった。8つの健康習慣改善については、血圧等良好に維持できた者、運動不足の解消に繋がらなかった者、ストレスの自己管理等個人差があった。こゆりちゃん健康ポイント手帳やアプリの使用などを健康管理に活かすことは出来なかったが、記録・把握する意識付けは出来た。

令和3年度

さゆりの園ショートステイ指定介護予防短期入所生活介護事業所 事業報告書

<事業の概況>

令和3年度は、要支援者に対して個々の目標に合わせ、その有する能力に応じ、安心してその方らしい自立した日常生活を営むことができるよう、各専門職がその専門性を活かしながら、チームとして連携し日々の支援を実践してきた。

利用者にサービスを提供するにあたっては、家族、地域包括支援センター、他サービス提供事業者等から心身状況に関しての情報を得、施設や在宅での生活に対する意向を十分に伺い予防短期入所サービス計画を作成し、利用中安心して過ごして頂けるよう、統一した介護サービスの提供に努めてきた。また、地域包括支援センターの開催するサービス担当者会議に積極的に参加することにより、関連機関との連携を密にし、利用者を支援する一つの在宅サービス機関として、施設サービス提供内容の充実、また在宅での生活が安心して営めるよう支援してきた。

そして、令和3年度も引き続き新型コロナウイルス感染症対策を継続すると共に、この時世に合わせたサービス提供を工夫しながら、業務継続してきた。

<重点目標>

(1) 利用者の生活の豊かさ向上への関わりと実践

個別ニーズに対応する取り組みとして、コミュニケーション機会の確保とニーズの抽出を重視し、個々の習慣、楽しみ、嗜好、医療、健康増進、快適な施設生活の為の環境整備など、様々なニーズへの対応を実践してきた。

(2) 認知症ケアの向上と尊厳あるケアの実践

認知症ケアを推進・強化することで権利擁護の更なる意識向上につなげる為、権利擁護・認知症ケア推進委員会を中心に内部研修会の実施、認知症ケアスキルアップ研修会の参加と実践でセンター方式を活用したアセスメント、様々なケア場面、機能訓練、医療提供場面でのユマニチュード技法の導入を積極的に行ってきた。直接処遇職員だけでなく多職種皆で認知症の理解、関わり方を更に深められた。

(3) 法人キャリアパスに基づいた OJT 実践の強化と人材育成

法人キャリアパスに基づいた職務遂行と OJT として、新人職員への教育プログラムの見直し、介護リーダー職の課業の明確化及び役割分担と実践で、少しずつ施設内 OJT が定着しているところである。又、職員の健康増進を目的として、こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用し自身の健康状態の把握と改善のための取り組みを行い、健康経営の推進を図っている。

<各係実施報告>

(1) 利用者の生活の豊かさ向上への関わりと実践

係	実施内容	結果
相談	① 入所者・ショートステイ利用者との定期個別面談を実施し、より具体的なニーズを聴取する。内容についてはチームで共有し、具体的計画を協議し実行に繋げる。	11月に個別面談を実施。個別でゆっくり話す時間を持てたことで、本音をお話し頂ける利用者もいた。抽出したニーズや要望を様々な会議等で共有し、施設サービス計画等に反映させ実践している。
	② 新型コロナウイルス感染症対策で、ご家族など利用者にとって大切な方とのつながりが希薄になるのを少しでも緩和する取り組みを実施していく。	面会については制限ある中で、窓ガラス越し面会を更に充実したものとする為、内外で会話のできるワイヤレスインターホンを導入。会話が可能となり、声が届くため利用者・ご家族等からも好評だった。
看護	係内で分担し定期的に利用者と面談、健康面の悩みや心情を傾聴する機会を作る。内容により他職種と協働で思いに寄り添える対応を検討していく。	ご利用者との面談は定期的には出来なかったが、日常の業務の中で利用者の健康面の悩みを伺い、体調を観察し変化があった場合は家族へ説明をして、思いに寄り添える対応を検討しながら関わった。又、新型コロナワクチン接種では他職種と協働して対応方法を検討し、効率的で安全な接種ができた。そして在宅利用者への迅速な接種へ繋がった。
介護	毎月、月初めに1度はゆっくりと話す機会をつくり、利用者の希望や思いを伺う。利用者に楽しみを持って生活して頂けるように、ユニット会議で具体化し、短期入所生活介護計画と連動しながら計画的に実行していく。	聞き取りを行うことで、嗜好品や趣味への対応等、希望された方には随時実施できた。洗濯物たたみ等役割を持って頂いたり、趣味の継続ができたことで、施設利用中も笑顔や会話が増え、楽しみを持ったサービス利用に繋がった方もいた。
栄養	① 既存の厨房機器を活用した調理の動画研修を受講する。その中で習得した調理方法や調理手順、利用者に適する献立があれば献立に取り入れ、栄養係全体で調理に取り組み、利用者に喜ばれる食事を提供する。	今年度はスチームコンベクションオープンの動画研修会を2回実施でき、調理技術向上に繋げることができた。ただ、調理をする上での手間や工夫がある為、実際の調理、食事提供には至らなかった。次年度に計画的に実施していく。
	② 食事量低下の利用者に対し、不足した栄養量や栄養素を補う代替食品を個別に食事に追加し、口から食べる幸せを持ち続けてもらえるような取り組みをする。	褥瘡リスク者や発生者、食事摂取量低下の方には、体重や疾病、身体状況から必要な栄養素の分析を行い、栄養補助食品の追加提供ができた。

機能訓練	① リハビリの充実を図る。 ・リラックス効果と関節拘縮予防の促進の為、関節可動域訓練に温マッサージを取り入れる。 ・楽しみを持ってもらえるよう、午後離床している利用者に対して作業活動（作品を作る等）を行う。	・上半期では、認知機能の低下や季節や気温等で拒否される利用者が居たこともあり、温マッサージの実施には至っていなかったが、浮腫みが見られる利用者にもドマーや足台などの導入ができた。下半期では、利用者の状態や希望に応じて温マッサージを取り入れて実施する事が出来た。実施した利用者からは「気持ちいい。ありがとう」との返答が聞かれたため、今後も気温や状態に応じて導入していく。 ・上半期では短期利用者が減っており、作業活動を実施できる利用者が午後離床しておらず作品作成には至らなかった。ただ、一部利用者に対して作業療法としてパズルの提供は実施できた。下半期にて、地域の感染状況などを踏まえ感染予防対策をしっかりと行って出来る作業活動を検討していたが、感染状況の悪化等で実施のアイデアが出ず、機能訓練係として実施に至らなかった。
事務	② 他職種と協力しながら、散歩等屋外活動の支援を行っていく。 安心で明るい生活空間を維持できるよう、定期的（四半期に一度）に施設内を見回り環境維持及び整備に心掛ける。	気温や気候が落ち着いた季節に、多職種と協力しさゆり公園の野球場周辺に散歩へ出かける事ができた。下半期は、気温が下がり屋外へ散歩に出ることは難しいため、施設内から外を眺める等の季節を感じられる支援を検討。特に訓練室での集団体操前などは、訓練室前から外の花を眺めて楽しんでいた。 ・危険箇所や改善箇所等の有無を思索しながら定期的に見回りを行ない、改善が必要な場合には速やかに補強や修繕を行った。早急な修繕を要しないものは、必要時にすぐに対応できるよう準備し、利用者にとって快適な生活環境と、職員にとって働きやすい環境整備に繋がられた。 ・物品購入では県の補助金を活用し、有事の際に備えて簡易陰圧装置を1台購入できた。支出状況や予算計上品の購入状況を確認しながら、必要に応じて声掛けをし、経費削減の意識付けや未購入品等に関わる手続を促すことで環境整備に繋がった。社会情勢により納品に月単位の期間を要するものもあり、計画している物品については、次年度も継続して早期の手続きを促していく。

(2) 認知症ケアの向上と尊厳あるケアの実践

係	実施内容	結果
相談	ユマニチュード技法による認知症ケアを、施設内で少しずつ浸透させる為の取り組みの一つとして、もう一度、「病態に合わせた対応」や「ユマニチュード」についての勉強会を委員会と一緒に企画・実施していく。	ユマニチュード研修受講職員と権利擁護・認知症ケア推進委員会で、虐待予防や身体拘束廃止の内容を交えた、認知症ケアについての勉強会を全職員対象で実施した。振り返りシートでは、「勉強になった」「ユマニチュードの4つの柱を意識して取り入れたら、利用者の反応が良かった」等の意見もあり、意識したケアに取り組む職員が増えた。
看護	専門的観点から認知症の病状を一人ひとり分析、表に見える化しケアスタッフ内で日々の認知症ケアに生かせるよう提案していく。	年度途中の人員不足から計画通りの遂行が難しくなり、中間評価において状況に応じた計画の変更と遂行をとのアドバイスから、認知症ケア向上と尊厳あるケアの実践に計画を変更し、ユマニチュードの関わりを意識した関わりを実践してきた。
介護	① マニチュード研修会参加者を中心に、ユマニチュード技法の勉強会を再度実施することで、知識と理解を深める。又、毎週実施しているタッチングケアの際にユマニチュード技法を取り入れ、「見て・触れて・話しかける」を実践していく。	ユマニチュード研修会参加した介護員と権利擁護委員会が中心となり勉強会を実施した。4つの柱を基本とし5つのステップに分けて実践するユマニチュード技法を、毎週実施しているタッチングケアの際に取り入れ実践している。「見て・触れて・話しかける」を意識した関わりで、普段は声も出さない、体操もしない方が、指折りをしたり歌を唄ったりするなど成果が見られている。又、利用者の尊厳を守るケアを意識した事で、利用者との関係性が密になったと感じている職員もいた。
	② 「介護指導者向け研修」で、学んだ技術のポイントをケアスタッフ会議等で周知しケアに取り入れ、実践していく。	毎月、介護指導者向け研修会での新しい情報をケアスタッフ会議でポイントとして周知した。しかし、実際のケア実践に活かすようにマッサージ等を機能訓練係と共に行い記録をするとしていたが、継続しなかった。研修会で学んだ事のポイントは今後もケアスタッフ会議で周知していく。次年度は、研修で学んだ事のポイントを1つに絞り、伝達していく事で実践に取り入れやすくなるようにしていく。
栄養	管理栄養士は認知症における摂食・嚥下障害に対する知識と安全な嚥下食の調理技術の研修会を企画・運営する。調理員は大量調理における機器を活用した嚥下食の調理技術に取り組み、その結果について栄養係内で共有する。	① 管理栄養士が「食形態の学会分類」「とろみの分類」「食事ととろみの基本」の研修会を実施した。とろみの分類は厨房でとろみを使用したソフト食を提供しているので分かりやすい内容であったが、食形態の分類は係全員が理解するには難しい内容であった。次年度は会

		議内でワンポイント的な分かりやすい内容で実施していきたい。 ② 主担当調理員が「嚥下食の調理方法」の研修会を実施した。とろみ剤を使用したソフト食（焼肉）献立の提案発表があった。年度内でその献立を実際に調理し提供したかったが、作業工程が複雑であり、現時点では提供するには至っていない。
機能訓練	① ユマニチュード研修会で学んだ内容を振り返り、実践していく。機能訓練介入時に 5 つのステップを意識する。 (1. 出会いの準備 2. ケアの準備 3. 知覚の連結 4. 感情の固定 5. 再開の約束)	機能訓練の介入の際には、ユマニチュードの研修で学んだ 5 つのステップを意識したうえで、各利用者に応じた対応や介入を行ってきた。1 年間を通して、ユマニチュードの 5 ステップを意識した介入を継続して実施できた。
	② ユマニチュードの 4 つの柱(見る・話す・触れる・立つ、歩く)について職員に周知し、タッチングケアに取り入れるような仕組みを作る。	ユマニチュード研修を受けた職員との共同で、権利擁護委員会にて法定研修を実施した。そのため、職員への周知は完了。タッチングケアの際に、意識して取り入れている様子が見られている。
事務	コミュニケーション技術と対人援助技術(感情コントロール等)を含め、認知症に対する理解と知識を持ち、相手に対して傾聴の姿勢と受け止める態度で利用者やご家族の方と対応する。	施設内研修や研修復命等で認知症や利用者に対する理解を深め(基本の再確認と症状が少しでも軽減し心穏やかに過ごして頂くために、生活環境の障害を取り除くことなど)、利用者やご家族へ傾聴を行ない、依頼や質問を受けた際には受け止める態度で接するよう心掛けた。機会は少なかったが、声掛けや会話をした際に安堵感や笑顔が見られたりした。又、立ち止まりよくお話を伺うことで、内容によって直接処遇職員に繋ぐことが出来た。

(3) 法人キャリアパスに基づいた OJT 実践の強化と人材育成

係	実施内容	結果
相談	誰しもが受け付ける可能性のある苦情・要望等に対応できるよう、苦情解決に向けたプロセスの理解に関する勉強会を年 1 回企画・実施する。	「苦情解決に向けたプロセスとその理解」に関する勉強会を職員会議内で実施。苦情は利用者・家族等のニーズであり、拾い上げることでサービス質向上に繋げていく為のものであること。又、だれもが受け付ける可能性があることを共有できた。

看護	看護職としての倫理観を振り返り係内で職場研修を実施、人材育成へ繋げる。	今年度は、年度途中の人員不足から予定の職場内研修の実施や外部研修参加ができなかった。次年度は外部研修に参加しキャリアアップを目指す。又、施設内研修を企画・実施し人材育成にも繋がられるようにする。
介護	OJT リーダーを担うリーダー職の課業を定め後輩への指導・助言を中心としたOJTを実行していく。	4人のリーダーにそれぞれOJTの役割分担を定め実施してきた。 ①「事故報告、ヒヤリハット等のチェックとOJT」では、対策が実践に繋がっているか確認。意識化は出来たが、改善案の具体性には課題が残る。 ②「新人・初任者教育」では、新しい教育プログラムを作成し、新人、初任者職員に対し計画的に指導を実施。社会人としての基本及び、業務については1つ1つ確実に覚え実行に繋がる内容で実施した。 ③「不適切ケアのチェック仕組み作り、随時の指導」では、特に利用者が不安や不快に感じられるようなことに対しOJTを行っていた。 ④「介護技術の再確認」では、介護技術や普段の業務で適切でないと感じたこと（トランスファー方法、口腔ケアの重要性、感染予防等など）を休憩室に掲示して周知した。 次年度も、各自OJTリーダーとしての自覚と役割を再認識し、更に効果的なOJTを実践していく。
栄養	一人ひとりの食の知識や調理技術の向上と、働く意欲を引き出す機会を作る為に料理レシピコンテストに年1回参加する。	市販の介護食を活用したレシピコンテストに1回応募した。受賞には至らなかったが、主副担当者が中心となり皆が意見を出し合い、試行錯誤しながらのプロセスが、調理員のモチベーション向上に繋がった。
機能訓練	計画的にキャリアパス対応生涯研修課程を受講し、キャリアパスの仕組みについて知識を深める。	研修の受講予定は今年度の予定に入っていたが、申し込み定員等の都合にて受講に至っていない。次年度の研修計画に受講予定を再度組み込んでいく。又、キャリアパスの推奨資格である介護支援専門員資格の取得に向けて準備を進めた結果、合格することができた。

事務	① 外部及び内部研修に計画的に参加し、人材育成や各業務のスキルアップとモラルの向上を図る。事務処理及びコミュニケーション能力や接遇マナーは、気付いた時など随時声掛けや指導を行なう。	・計画としてあげていた研修で通知があったもののほか、会計実務に関わる実践的な研修(初任者については基礎)を受講。月次処理を正確に、決算業務をスムーズに行えるよう業務に活かしていく。会計事務は毎月の月次試算表を正確に作成し適正に経理が行われるよう努めたが、提出が遅滞する月があった。声掛けをして促し、誤った処理に気づいた際には速やかに修正を行なった。社会保険や雇用保険等の申請事務においても、速やかに準備し届出るよう努めた。又、内部研修には出来る限り参加し、安全対策や利用者の権利擁護など研鑽に努めた。 ・接遇マナーについては、身だしなみや言葉遣い等気づいた際には声掛けを行ない、組織人としての自覚を促した。今後も働きやすい労働環境づくりなど、健康経営に今後も取り組んでいく。
	② 毎日5分程度の体操(ストレッチ、ラジオ体操等)を取り入れ、各自健康づくりをする。また、職員それぞれ8つの健康習慣改善(適正体重・朝食・間食・飲酒・運動・禁煙・睡眠・ストレス)等を意識し、各々にあったツール(こゆりちゃん健康ポイント手帳や様々なアプリ等)を活用し、健康状態を記録・把握し健康管理に活かす。	各自で体操等を行ない健康づくりに取り組むこととしていたが、職場での時間確保は行えていなかった。8つの健康習慣改善については、血圧等良好に維持できた者、運動不足の解消に繋がらなかった者、ストレスの自己管理等個人差があった。こゆりちゃん健康ポイント手帳やアプリの使用などを健康管理に活かすことは出来なかったが、記録・把握する意識付けは出来た。

令和3年度

さゆりの園ショートステイ障害福祉サービス短期入所生活介護事業所 事業報告書

<事業の概況>

令和3年度は、障害者総合支援法及びさゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業所運営規程に基づき、身体障害者の方の身体状況とその有する能力に応じ、主体性と自立性を持ってその方らしい生活を営むことが出来るように、個々に合わせた介護の提供と、サービス内容の充実と向上を目指し、各専門職がその専門性を活かしながら、チームとして連携し日々の支援を実践してきた。

利用者にサービスを提供するにあたっては、家族、担当相談支援専門員、他サービス提供事業者等から心身状況に関する情報を得、施設や在宅での生活に対する意向を十分に伺い短期入所サービス計画を作成し、利用中安心して過ごして頂けるよう、統一した介護サービスの提供に努めてきた。また、関連機関との連携を密にし、利用者を支援する一つの在宅サービス機関として、施設サービス提供内容の充実、また在宅での生活が安心して営めるよう支援してきた。

そして、令和3年度も引き続き新型コロナウイルス感染症対策を継続すると共に、この時世に合わせたサービス提供を工夫しながら、業務継続してきた。

<重点目標>

(1) 利用者の生活の豊かさ向上への関わりと実践

個別ニーズに対応する取り組みとして、コミュニケーション機会の確保とニーズの抽出を重視し、個々の習慣、楽しみ、嗜好、医療、健康増進、快適な施設生活の為の環境整備など、様々なニーズへの対応を実践してきた。

(2) 障害者理解とサービスの質向上、尊厳あるケアの実践

障害者の病態に合わせたケアについて学ぶ機会を持つことで、権利擁護の更なる意識向上につなげる為、権利擁護・認知症ケア推進委員会を中心に内部研修会の実施を予定していたが、認知症ケアが中心となり実現出来なかった。次年度は直接処遇職員だけでなく多職種皆で障害者の理解、関わり方を更に深められる勉強会を企画・実施していく。

(3) 法人キャリアパスに基づいたOJT実践の強化と人材育成

法人キャリアパスに基づいた職務遂行とOJTとして、新人職員への教育プログラムの見直し、介護リーダー職の課業の明確化及び役割分担と実践で、少しずつ施設内OJTが定着しているところである。又、職員の健康増進を目的として、こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用し自身の健康状態の把握と改善のための取り組みを行い、健康経営の推進を図っている。

<各係実施報告>

(1) 利用者の生活の豊かさ向上への関わりと実践

係	実施内容	結果
相談	① 入所者・ショートステイ利用者との定期個別面談を実施し、より具体的なニーズを聴取する。内容についてはチームで共有し、具体的計画を協議し実行に繋げる。	11月に個別面談を実施。個別でゆっくり話す時間を持てたことで、本音をお話し頂ける利用者もいた。抽出したニーズや要望を様々な会議等で共有し、施設サービス計画等に反映させ実践している。
	② 新型コロナウイルス感染症対策で、ご家族など利用者にとって大切な方とのつながりが希薄になるのを少しでも緩和する取り組みを実施していく。	面会については制限ある中で、窓ガラス越し面会を更に充実したものとす為、内外で会話のできるワイヤレスインターホンを導入。会話が可能となり、声が届くため利用者・ご家族等からも好評だった。
看護	係内で分担し定期的に利用者との面談、健康面の悩みや心情を傾聴する機会を作る。内容により他職種と協働で思いに寄り添える対応を検討していく。	ご利用者との面談は定期的には出来なかったが、日常の業務の中で利用者の健康面の悩みを伺い、体調を観察し変化があった場合は家族へ説明をして、思いに寄り添える対応を検討しながら関わった。又、新型コロナワクチン接種では他職種と協働して対応方法を検討し、効率的で安全な接種ができた。そして在宅利用者への迅速な接種へ繋がった。
介護	毎月、月初めに1度はゆっくりと話す機会をつくり、利用者の希望や思いを伺う。利用者を楽しみを持って生活して頂けるように、ユニット会議で具体化し、短期入所生活介護計画と連動しながら計画的に実行していく。	聞き取りを行うことで、嗜好品や趣味への対応等、希望された方には随時実施できた。洗濯物たたみ等役割を持って頂いたり、趣味の継続ができたことで、施設利用中も笑顔や会話が増え、楽しみを持ったサービス利用に繋がった方もいた。
栄養	① 既存の厨房機器を活用した調理の動画研修を受講する。その中で習得した調理方法や調理手順、利用者に適する献立があれば献立に取り入れ、栄養係全体で調理に取り組み、利用者に喜ばれる食事を提供する。	今年度はスチームコンベクションオープンの動画研修会を2回実施でき、調理技術向上に繋げることができた。ただ、調理をする上での手間や工夫がある為、実際の調理、食事提供には至らなかった。次年度に計画的に実施していく。
	② 食事量低下の利用者に対し、不足した栄養量や栄養素を補う代替食品を個別に食事に追加し、口から食べる幸せを持ち続けてもらえるような取り組みをする。	褥瘡リスク者や発生者、食事摂取量低下の方には、体重や疾病、身体状況から必要な栄養素の分析を行い、栄養補助食品の追加提供ができた。

機能訓練	① リハビリの充実を図る。 ・リラックス効果と関節拘縮予防の促進の為、関節可動域訓練に温マッサージを取り入れる。 ・楽しみを持ってもらえるよう、午後離床している利用者に対して作業活動（作品を作る等）を行う。 ② 他職種と協力しながら、散歩等屋外活動の支援を行っていく。	・上半期では、認知機能の低下や季節や気温等で拒否される利用者が居たこともあり、温マッサージの実施には至っていなかったが、浮腫みが見られる利用者にメドマーや足台などの導入ができた。下半期では、利用者の状態や希望に応じて温マッサージを取り入れて実施する事が出来た。実施した利用者からは「気持ちいい。ありがとう」との返答が聞かれたため、今後も気温や状態に応じて導入していく。 ・上半期では短期利用者が減っており、作業活動を実施できる利用者が午後離床しておらず作品作成には至らなかった。ただ、一部利用者に対して作業療法としてパズルの提供は実施できた。下半期にて、地域の感染状況などを踏まえ感染予防対策をしっかりと行って出来る作業活動を検討していたが、感染状況の悪化等で実施のアイデアが出ず、機能訓練係として実施に至らなかった。 気温や気候が落ち着いた季節に、多職種と協力しさゆり公園の野球場周辺に散歩へ出かける事ができた。下半期は、気温が下がり屋外へ散歩に出ることは難しいため、施設内から外を眺める等の季節を感じられる支援を検討。特に訓練室での集団体操前などは、訓練室前から外の花を眺めて楽しまれていた。
事務	安心で明るい生活空間を維持できるよう、定期的（四半期に一度）に施設内を見回り環境維持及び整備に心掛ける。	・危険箇所や改善箇所等の有無を思案しながら定期的に見回りを行ない、改善が必要な場合には速やかに補強や修繕を行った。早急な修繕を要しないものは、必要時にすぐに対応できるよう準備し、利用者にとって快適な生活環境と、職員にとって働きやすい環境整備に繋がられた。 ・物品購入では県の補助金を活用し、有事の際に備えて簡易陰圧装置を1台購入できた。支出状況や予算計上品の購入状況を確認しながら、必要に応じて声掛けをし、経費削減の意識付けや未購入品等に関わる手続を促すことで環境整備に繋がった。社会情勢により納品に月単位の期間を要するものもあり、計画している物品については、次年度も継続して早期の手続きを促していく。

(2) 障害者理解とサービスの質向上、尊厳あるケアの実践

係	実施内容	結果
相談	施設内で少しずつ浸透させる為の取り組みの一つとして、障害の種類や程度に合わせたケアについての勉強会を委員会と一緒に企画・実施していく。	権利擁護・認知症ケア推進委員会と共に内部研修会の実施を予定していたが、認知症ケアの内容が中心となり実現出来なかった。
看護	専門的観点から障害者の病状を一人ひとり分析、表に見える化しケアスタッフ内で日々の認知症ケアに生かせるよう提案していく。	年度途中の人員不足から計画通りの遂行が難しくなり、中間評価において状況に応じた計画の変更と遂行をとのアドバイスがあった。結果、認知症ケア向上と尊厳あるケアの実践を中心に計画を変更し実践してきた為、障害者の理解に焦点を置いた取り組みにまでは至らなかった。
介護	① 委員会を中心とした障害者ケアについての勉強会を再度実施することで、知識と理解を深める。又、生活全般のニーズ等を理解し多職種と実践していく。	今年度は障害者ケアについての勉強会実施に至らなかった。ユマニチュードは認知症ケアの技法の一つであるが、日常の障害者ケアにも応用し、「見て・触れて・話しかける」を意識した関わりをすることで、利用者の尊厳を守るケアを意識でき、利用者との関係性が密になったと感じている職員もいた。
	② 「介護指導者向け研修」で、学んだ技術のポイントをケアスタッフ会議等で周知しケアに取り入れ、実践していく。	毎月、介護指導者向け研修会での新しい情報をケアスタッフ会議でポイントとして周知した。しかし、実際のケア実践に活かすようにマッサージ等を機能訓練係と共に行い記録をするとしていたが、継続しなかった。研修会で学んだ事のポイントは今後もケアスタッフ会議で周知していく。次年度は、研修で学んだ事のポイントを1つに絞り、伝達していく事で実践に取り入れやすくなるようにしていく。
栄養	管理栄養士は認知症における摂食・嚥下障害に対する知識と安全な嚥下食の調理技術の研修会を企画・運営する。調理員は大量調理における機器を活用した嚥下食の調理技術に取り組み、その結果について栄養係内で共有する。	① 管理栄養士が「食形態の学会分類」「とろみの分類」「食事ととろみの基本」の研修会を実施した。とろみの分類は厨房でとろみを使用したソフト食を提供しているので分かりやすい内容であったが、食形態の分類は係全員が理解するには難しい内容であった。次年度は会議内でワンポイント的な分かりやすい内容で実施していきたい。 ② 主担当調理員が「嚥下食の調理方法」の研修会を実施した。とろみ剤を使用したソフト食(焼肉) 献立の提案発表があった。年度内でその献立を実際に調理し提供したかったが、作業工程が複雑であり、現

		時点では提供するには至っていない。
機能訓練	可能な限り利用者の自己決定を尊重し、支援や活動を通して自信や自主性を引き出せるようなケアを実践していく。	障害者ケアまでは、勉強会を企画・実施が出来なかったようだが、障害を持つ利用者の自己決定の尊重や、その人らしさを大切にした関わりを実践してきた。
事務	コミュニケーション技術と対人援助技術(感情コントロール等)を含め、障害者に対する理解と知識を持ち、相手に対して傾聴の姿勢と受け止める態度で利用者やご家族の方と対応する。	施設内研修や研修復命等で障害者や利用者に対する理解を深め(心穏やかに過ごして頂くために、生活環境の障害を取り除くことなど)、利用者やご家族へ傾聴を行ない、依頼や質問を受けた際には受け止める態度で接するよう心掛けた。機会は少なかったが、声掛けや会話をした際に安堵感や笑顔が見られたりした。又、立ち止まりよくお話を伺うことで、内容によって直接処遇職員に繋ぐことが出来た。

(3) 法人キャリアパスに基づいた OJT 実践の強化と人材育成

係	実施内容	結果
相談	誰しものが受け付ける可能性のある苦情・要望等に対応できるよう、苦情解決に向けたプロセスの理解に関する勉強会を年1回企画・実施する。	「苦情解決に向けたプロセスとその理解」に関する勉強会を職員会議内で実施。苦情は利用者・家族等のニーズであり、拾い上げることでサービス質向上に繋げていく為のものであること。又、だれもが受け付ける可能性があることを共有できた。
看護	看護職としての倫理観を振り返り係内で職場研修を実施、人材育成へ繋げる。	今年度は、年度途中の人員不足から予定の職場内研修の実施や外部研修参加ができなかった。次年度は外部研修に参加しキャリアアップを目指す。又、施設内研修を企画・実施し人材育成にも繋げられるようにする。
介護	OJT リーダーを担うリーダー職の課業を定め後輩への指導・助言を中心とした OJT を実行していく。	4人のリーダーにそれぞれ OJT の役割分担を定め実施してきた。 ①「事故報告、ヒヤリハット等のチェックと OJT」では、対策が実践に繋がっているか確認。意識化は出来たが、改善案の具体性には課題が残る。 ②「新人・初任者教育」では、新しい教育プログラムを作成し、新人、初任者職員に対し計画的に指導を実施。社会人としての基本及び、業務については1つ1つ確実に覚え実行に繋がる内容で実施した。 ③「不適切ケアのチェック仕組み作り、随時の指導」では、特に利用者

		が不安や不快に感じられるようなことに対しOJTを行っていた。 ④「介護技術の再確認」では、介護技術や普段の業務で適切でないと感じたこと（トランスファー方法、口腔ケアの重要性、感染予防等など）を休憩室に掲示して周知した。 次年度も、各自OJTリーダーとしての自覚と役割を再認識し、更に効果的なOJTを実践していく。
栄養	一人ひとりの食の知識や調理技術の向上と、働く意欲を引き出す機会を作る為に料理レシピコンテストに年1回参加する。	市販の介護食を活用したレシピコンテストに1回応募した。受賞には至らなかったが、主副担当者が中心となり皆が意見を出し合い、試行錯誤しながらのプロセスが、調理員のモチベーション向上に繋がった。
機能訓練	計画的にキャリアパス対応生涯研修課程を受講し、キャリアパスの仕組みについて知識を深める。	研修の受講予定は今年度の予定に入っていたが、申し込み定員等の都合にて受講に至っていない。次年度の研修計画に受講予定を再度組み込んでいく。又、キャリアパスの推奨資格である介護支援専門員資格の取得に向けて準備を進めた結果、合格することができた。
事務	① 外部及び内部研修に計画的に参加し、人材育成や各業務のスキルアップとモラルの向上を図る。事務処理及びコミュニケーション能力や接遇マナーは、気付いた時など随時声掛けや指導を行なう。	・計画としてあげていた研修で通知があったもののほか、会計実務に関わる実践的な研修(初任者については基礎)を受講。月次処理を正確に、決算業務をスムーズに行えるよう業務に活かしていく。会計事務は毎月の月次試算表を正確に作成し適正に経理が行われるよう努めたが、提出が遅滞する月があった。声掛けをして促し、誤った処理に気づいた際には速やかに修正を行なった。社会保険や雇用保険等の申請事務においても、速やかに準備し届出るよう努めた。又、内部研修には出来る限り参加し、安全対策や利用者の権利擁護など研鑽に努めた。 ・接遇マナーについては、身だしなみや言葉遣い等気づいた際には声掛けを行ない、組織人としての自覚を促した。今後も働きやすい労働環境づくりなど、健康経営に今後も取り組んでいく。

② 毎日5分程度の体操（ストレッチ、ラジオ体操等）を取り入れ、各自健康づくりをする。また、職員それぞれ8つの健康習慣改善（適正体重・朝食・間食・飲酒・運動・禁煙・睡眠・ストレス）等を意識し、各々にあったツール（こゆりちゃん健康ポイント手帳や様々なアプリ等）を活用し、健康状態を記録・把握し健康管理に活かす。

各自で体操等を行ない健康づくりに取り組むこととしていたが、職場での時間確保は行えていなかった。8つの健康習慣改善については、血圧等良好に維持できた者、運動不足の解消に繋がらなかった者、ストレスの自己管理等個人差があった。こゆりちゃん健康ポイント手帳やアプリの使用などを健康管理に活かすことは出来なかったが、記録・把握する意識付けは出来た。

令和3年度SS利用者要介護度別の実人数及び延べ人数

		要支援1	要支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	その他 (障害・自立 支援)	合計
4月	実人数	1	1	13	7	9	7	4	5	47
	延べ人数	3	1	114	103	137	114	49	28	549
5月	実人数	1	0	16	7	7	4	2	4	41
	延べ人数	3	0	142	95	118	48	40	20	466
6月	実人数	0	0	16	7	6	4	5	5	43
	延べ人数	0	0	142	109	110	63	78	22	524
7月	実人数	0	0	7	5	7	1	4	4	28
	延べ人数	0	0	44	31	63	11	50	9	208
8月	実人数	0	0	9	4	5	2	4	6	30
	延べ人数	0	0	47	23	52	17	27	17	183
9月	実人数	0	0	10	6	6	0	3	5	30
	延べ人数	0	0	58	39	62	0	25	14	198
10月	実人数	0	0	11	5	7	2	3	6	34
	延べ人数	0	0	69	51	130	15	55	27	347
11月	実人数	0	0	11	5	10	4	4	5	39
	延べ人数	0	0	62	57	114	61	61	23	378
12月	実人数	0	0	11	7	11	3	4	6	42
	延べ人数	0	0	85	71	187	74	55	30	502
1月	実人数	0	0	11	8	11	2	5	5	42
	延べ人数	0	0	89	115	175	59	69	23	530
2月	実人数	0	0	10	11	9	2	5	5	42
	延べ人数	0	0	74	114	149	53	70	26	486
3月	実人数	0	0	9	12	9	2	5	4	41
	延べ人数	0	0	82	135	151	59	66	24	517
合計	実人数	2	1	134	84	97	33	48	60	459
	延べ人数	6	1	1008	943	1448	574	645	263	4888

令和3年度さゆりの園ショートステイ市町村別利用状況

《予防給付》

月	西会津町		喜多方市								全体	
	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)
4月	2	4	0	0							2	4
5月	1	3	0	0							1	3
6月	0	0	0	0							0	0
7月	0	0	0	0							0	0
8月	0	0	0	0							0	0
9月	0	0	0	0							0	0
10月	0	0	0	0							0	0
11月	0	0	0	0							0	0
12月	0	0	0	0							0	0
1月	0	0	0	0							0	0
2月	0	0	0	0							0	0
3月	0	0	0	0							0	0
合計	3	7	0	0							3	7

《介護給付》

月	西会津町		喜多方市		阿賀町						全体	
	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)
4月	39	514	1	3	0	0					40	517
5月	34	436	2	7	0	0					36	443
6月	37	499	1	3	0	0					38	502
7月	22	193	2	6	0	0					24	199
8月	22	159	2	7	0	0					24	166
9月	23	175	2	9	0	0					25	184
10月	26	309	2	11	0	0					28	320
11月	33	346	1	9	0	0					34	355
12月	34	436	1	18	1	18					36	472
1月	35	470	1	16	1	21					37	507
2月	36	438	0	0	1	22					37	460
3月	36	466	0	0	1	27					37	493
合計	377	4441	15	89	4	88					396	4618

《障害福祉サービス》

月	西会津町		喜多方市								全体	
	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)
4月	3	20	2	8							5	28
5月	2	15	2	5							4	20
6月	3	18	2	4							5	22
7月	2	3	2	6							4	9
8月	3	8	3	9							6	17
9月	2	5	3	9							5	14
10月	3	12	3	15							6	27
11月	2	9	3	14							5	23
12月	3	12	3	18							6	30
1月	2	7	3	16							5	23
2月	3	16	2	10							5	26
3月	2	14	2	10							4	24
合計	30	139	30	124							60	263

令和3年度 さゆりの園ショートステイ利用状況

《予防給付》 利用市町村(西会津町・喜多方市)

月	利用実人数(人)	利用延人数	1日平均人数
4月	2	4	0.1
5月	1	3	0.1
6月	0	0	0.0
7月	0	0	0.0
8月	0	0	0.0
9月	0	0	0.0
10月	0	0	0.0
11月	0	0	0.0
12月	0	0	0.0
1月	0	0	0.0
2月	0	0	0.0
3月	0	0	0.0
合計	3	7	年平均：0.02人

《介護給付》 利用市町村(西会津町・喜多方市・阿賀町)

月	利用実人数(人)	利用延人数	1日平均人数
4月	40	517	17.2
5月	36	443	14.3
6月	38	502	16.7
7月	24	199	6.4
8月	24	166	5.4
9月	25	184	6.1
10月	28	320	10.3
11月	34	355	11.8
12月	36	472	15.2
1月	37	507	16.4
2月	37	460	16.4
3月	37	493	15.9
合計	396	4,618	年平均：12.7人

《障害福祉サービス》 利用状況(西会津町・喜多方市)

月	利用実人数(人)	利用延人数	1日平均人数
4月	5	28	0.9
5月	4	20	0.6
6月	5	22	0.7
7月	4	9	0.3
8月	6	17	0.5
9月	5	14	0.5
10月	6	27	0.9
11月	5	23	0.8
12月	6	30	1.0
1月	5	23	0.7
2月	5	26	0.9
3月	4	24	0.8
合計	60	263	年平均：0.7人

令和3年度苦情受付・解決状況

事業所名：さゆりの園ショートステイ

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度(接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質(内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

令和3年度

さゆりの園デイサービスセンターⅡ通所介護事業所事業計画及び

さゆりの園デイサービスセンターⅡ日常生活支援総合事業第一号通所事業所事業報告

1. 基本方針

- (1) 介護保険法、及びさゆりの園デイサービスセンターⅡ通所介護運営規程、さゆりの園デイサービスセンターⅡ日常生活支援総合事業第一号通所事業所運営規程に基づき、居宅サービス計画の基に、家族と通所者のニーズにあった通所介護計画を作成し、その利用者が、可能な限り居宅において、有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう、必要な日常生活上の援助及び機能訓練を行い、利用者の社会孤立感の解消及び心身機能の維持、並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図れるように行った。
- (2) 日常生活支援総合事業第一号通所事業サービスについては、軽度者の状態を踏まえつつ、自立支援の観点に立った効果的なサービス提供体制を確保し、サービス提供を行った。

2. 重点目標

(1) 人材育成

- ・法人のキャリアパスに基づき、研修の受講や個人の目標達成、資格取得に取り組んだ。そして、内部研修・勉強会の役割を分担することで、それぞれがスキルアップすることが出来た。又、今年度は半数近く新任職員の体制となったため、新人指導に力を入れ、介護の標準化に繋げることが出来た。

(2) 利用者が楽しみを持てる通所サービスの提供

- ・新しい生活様式に基づいたレクリエーションを考え実践したり、利用者の心身の状態や性格を配慮した席の配置等を工夫し、交流や楽しみを持ち満足感が得られる様に行ってきた。又、季節を感じ、目で楽しめる食事献立の工夫を出来る限り行うと共に、利用者の感想や意見を取り入れることで喜ばれる食事作りを行った。
- ・ハイジエニックビューティシアン・ネイリストの資格者として、利用者全員の状態を把握し、利用者が心地よく生活できるようにネイルケアを行った。

(3) 利用者の機能維持

- ・利用者の身体機能を把握し、それぞれの課題について専門職より助言、技術指導を受け、実行し評価を行った。実行の内容と結果については、介護支援専門員・家族に報告や提案をしたり、直接的な家族指導も行うことで、自宅での生活に役立てられるようにした。

令和3年度 さゆりの園デイサービスセンターⅡ 重点目標に対する実施報告

(1) 人材育成

実 行 計 画	実 施 内 容
①外部研修（リモート研修も含む）資格取得研修の参加計画を立て実行する。	①上半期は職員の異動・新人の指導等があり、研修の参加は難しかった。下半期については、新型コロナウイルス感染症予防の為にリモート研修だったが、キャリアパス人材育成・管理職プリセプター運用・指導員の役割等の研修に参加することが出来た。研修内容については日頃の OJT 実践や内部研修企画に役立てたり職員教育、新人指導のプロセス作成に反映させた。
②新たに導入されたキャリアパスの推進のため、個人の目標の進捗状況確認の為、キャリアパスの面接以外に定期的（3 か月ごと）に面接等を実施し、助言・指導を行なう。 ・自己の資格取得、キャリアパス推進の必要資格について、個人で自主的に資格取得に向けて学習を行う。 ・現資格取得者は、学習についての相談やサポートを行っていく。	②個人目標の進捗状況についての確認について、面接は半年に1回になってしまったが、目標に向けての指導助言については日常的に行ってきた。 今年度は新人が4名の為、新人教育のスケジュールを作成し、チェックリストを基に指導を行い、3ヶ月ごとの面接を行うなど、新人指導に力を入れ、介護の標準化につながる様にした。 ・自己の資格取得に向けては、個人で学習に取り組んだが、資格取得には至らなかった。現資格取得者は、学習の取り組み方について助言した。
③計画的に OJT や内部研修・勉強会を行う。（2 か月に1 回程度と必要時） ・外部研修の復命・接遇・苦情受付・個人情報の扱い方・認知症の対応等、施設内研修、勉強会を行う。 ・OJT については、日頃より感じた事等を指導し、施設内研修や勉強会の司会、記録、内容、資料作成について分担を行い、職員それぞれがスキルアップ出来るようにする。	③内部研修勉強会(接遇・記録・苦情受付・虐待・感染等)を定期的に行い、勉強会の記録・司会を交代で行う事で、新人職員もスキルアップ出来た。又資料作成を行う際に自ら学習し資料を作成することで、振り返りや知識が増え自己研鑽に繋げることが出来た。 又、職員との積極的なコミュニケーション・日頃の OJT を意識することで、介護するうえで感じたこと、気がついた事を気軽に言える雰囲気作りをした。結果、お互いに注意や意見を言えるようになり、更に毎日の打合せの時間に話し合いを行い、注意喚起を促すことが出来た。

(2) 利用者が楽しみを持てる通所生活

実 行 計 画	実 施 内 容
①新しい生活様式に基づいたレクリエーションや集団体操を新たに考え計画を立てる。 ・利用者からの聞き取りを行い、レクリエーションの内容も検討し楽しみを持てるようにする。 ・利用者の心身の状態や性格、近隣者等配慮し、席の配置等の工夫を行い、交流を深められるようにする。	①利用者より聞き取りを行い、新しい生活様式に基づいた個別のレクリエーション(編み物・折り紙・アクセサリ作り・塗り絵・囲碁)等を行う事で利用者のやりがいや喜びに繋がった。また、個人が出来る手品・電子ピアノの披露やトランプ・計算ドリル・ことわざドリル等を行い、認知症予防に繋がった。 新たな集団体操については、新人教育や個別レクリエーションに重点を置いたため実行できなかった。次年度に情報を集め再度検討し実行していく。 利用者の席については、利用者の性格・近隣者等に配慮し、定期的に検討することで、利用者が交流を楽しめるように工夫した。結果、楽しみに通所される利用者が増えてきた。
②季節を感じるような行事食や、目で楽しめるお弁当等を取り入れ、献立の工夫を行う。利用者に食事の感想などを聞き取り、献立や盛り付け等に反映させ、喜ばれる食事作りを行う。	②管理栄養士が6月で退職したため、人員不足もあり、手の込んだ行事食やお弁当を取り入れることはできなかったが、季節を感じる食事の提供はできた。また、利用者に感想や意見聞き取りを行い、盛り付け等に反映させる事や、本人の食事の状況を確認し食事形態を見直すことで、食事摂取量が増える利用者もいた。 お弁当や行事食については、再度検討を行い、次年度に実行していく。
③ハイジエニックビューティシャン・ネイリストの資格者として、利用者全員の状態を把握し、職員と情報を共有・指導を行ない、利用者にネイルケアが行き届くようにチェックリストを活用する。	③利用者全員の状態の把握をするためにチェックリストを活用し、専門的ケアを必要とする利用者にネイルケアを行った。結果、爪のトラブルにて生活に支障があった利用者から「生活しやすくなった」との声が聞かれた。又、ネイルケアを行ってもらうのを楽しみにしている利用者も増えた。 職員との情報共有やアドバイスは行えたが、技術面での直接の指導までは至らなかった。次年度は、職員に対しての指導内容を検討し、家族へのアドバイスの仕方も考え実施していく。

(3) 利用者の機能維持

実 行 計 画	実 施 内 容
①利用者それぞれ身体機能を把握し、身体状態・介護上の課題について、定期的に訪問してくれる巡回リハビリにて、専門職に相談し、助言・介護技術指導を受け、デイサービスで共有し、実施評価した上で、結果について、介護支援専門員・家族に報告・提案し、連携を取り合いながら自宅での生活に繋げる。	①身体機能の状態や介護上の課題などについて、家族が悩んでいることを聞き取り、職員で話合いを行い、巡回リハビリの時に専門職に相談や指導を受け、介護支援専門員や家族に報告や家族に来所してもらい直接の指導も行った。それによって、本人の身体機能の向上や介護負担軽減に繋げることが出来た。

令和3年度

さゆりの園デイサービスセンターⅡ通所介護利用状況

1. 利用者数(令和4年3月利用者)

男 25 名 女 78 名 計 103 名

2. 介護度別利用(3月利用者)

	日常生活総合事業			介 護 度				
	事業対象者	要支援Ⅰ	要支援Ⅱ	介護Ⅰ	介護Ⅱ	介護Ⅲ	介護Ⅳ	介護Ⅴ
実人数	5	4	5	36	23	14	7	9

3. 年齢内訳

年齢	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～99	100～109	110～	計
男	1	0	0	4	9	11	0	0	25
女	0	1	1	2	33	40	1	0	78
計	1	1	1	6	42	51	1	0	103

	男	女
平均年齢	85.4 歳	89.5 歳
最高年齢	97 歳	101 歳

4. 利用実施状況

項目 月	開所 日数	利用 延べ人数	一日平均 利用者数	入浴介助	同一建物 減算	送迎減額	キャンセル	
							前日	当日
R3. 4 月	21	500	23.8	497	12	2	15	10
5 月	19	389	20.4	389	0	0	9	13
6 月	21	464	21.0	464	0	0	11	14
7 月	21	511	24.3	511	0	3	10	21
8 月	19	475	25.0	474	0	2	15	11
9 月	21	493	23.4	489	0	2	18	19
10 月	22	515	23.4	515	0	0	15	17
11 月	19	459	24.1	457	1	2	10	21
12 月	21	479	22.8	467	1	2	10	13
R4. 1 月	20	434	21.7	424	1	6	21	18
2 月	18	402	22.3	397	1	7	11	16
3 月	23	560	24.3	552	1	3	10	8
合 計	245	5,681	23.1	5,636	17	29	155	181

令和3年度

さゆりの園デイサービスセンターⅡ障害福祉サービス事業報告

1. 基本方針

- (1) 障害自立支援法、及びさゆりの園デイサービスセンターⅡ身体障害者運営規程に基づき、障害者自己決定と自己選択を尊重し、地域社会において質の高い生活が継続できるように、創作的な活動機会の提供や機能訓練を行い、身体能力、日常生活能力の維持・向上を図れるように実践してきた。

2. 重点目標

(1) 人材育成

- ・法人のキャリアパスに基づき、研修の受講や個人の目標達成、資格取得に取り組んだ。そして、内部研修・勉強会の役割を分担することで、それぞれがスキルアップすることが出来た。又、今年度は半数近く新任職員の体制となったため、新人指導に力を入れ、介護の標準化に繋げることが出来た。

(2) 利用者が楽しみを持てる通所サービスの提供

- ・新しい生活様式に基づいたレクリエーションを考え実践したり、利用者の心身の状態や性格を配慮した席の配置等を工夫し、交流や楽しみを持ち満足感が得られる様に行ってきた。又、季節を感じ、目で楽しめる食事献立の工夫を出来る限り行うと共に、利用者の感想や意見を取り入れることで喜ばれる食事作りを行った。
- ・ハイジエニックビューティシアン・ネイリストの資格者として、利用者全員の状態を把握し、利用者が心地よく生活できるようにネイルケアを行った。

(3) 利用者の機能維持

- ・利用者の身体機能を把握し、それぞれの課題について専門職より助言、技術指導を受け、実行し評価を行った。実行の内容と結果については、介護支援専門員・家族に報告や提案をしたり、直接的な家族指導も行うことで、自宅での生活に役立てられるようにした。

令和3年度 さゆりの園デイサービスセンターⅡ 重点目標に対する実施報告

(1) 人材育成

実 行 計 画	実 施 内 容
①外部研修（リモート研修も含む）資格取得研修の参加計画を立て実行する。	①上半期は職員の異動・新人の指導等があり、研修の参加は難しかった。下半期については、新型コロナウイルス感染症予防の為にリモート研修だったが、キャリアパス人材育成・管理職プリセプター運用・指導員の役割等の研修に参加することが出来た。研修内容については日頃の OJT 実践や内部研修企画に役立てたり職員教育、新人指導のプロセス作成に反映させた。
②新たに導入されたキャリアパスの推進のため、個人の目標の進捗状況確認の為、キャリアパスの面接以外に定期的（3 か月ごと）に面接等を実施し、助言・指導を行なう。 ・自己の資格取得、キャリアパス推進の必要資格について、個人で自主的に資格取得に向けて学習を行う。 ・現資格取得者は、学習についての相談やサポートを行っていく。	②個人目標の進捗状況についての確認について、面接は半年に1回になってしまったが、目標に向けての指導助言については日常的に行ってきた。 今年度は新人が4名の為、新人教育のスケジュールを作成し、チェックリストを基に指導を行い、3ヶ月ごとの面接を行うなど、新人指導に力を入れ、介護の標準化につながる様にした。 ・自己の資格取得に向けては、個人で学習に取り組んだが、資格取得には至らなかった。現資格取得者は、学習の取り組み方について助言した。
③計画的に OJT や内部研修・勉強会を行う。（2 か月に1 回程度と必要時） ・外部研修の復命・接遇・苦情受付・個人情報の扱い方・認知症の対応等、施設内研修、勉強会を行う。 ・OJT については、日頃より感じた事等を指導し、施設内研修や勉強会の司会、記録、内容、資料作成について分担を行い、職員それぞれがスキルアップ出来るようにする。	③内部研修勉強会(接遇・記録・苦情受付・虐待・感染等)を定期的に行い、勉強会の記録・司会を交代で行う事で、新人職員もスキルアップ出来た。又資料作成を行う際に自ら学習し資料を作成することで、振り返りや知識が増え自己研鑽に繋げることが出来た。 又、職員との積極的なコミュニケーション・日頃の OJT を意識することで、介護するうえで感じたこと、気がついた事を気軽に言える雰囲気作りをした。結果、お互いに注意や意見を言えるようになり、更に毎日の打合せの時間に話し合いを行い、注意喚起を促すことが出来た。

(2) 利用者が楽しみを持てる通所生活

実 行 計 画	実 施 内 容
①新しい生活様式に基づいたレクリエーションや集団体操を新たに考え計画を立てる。 ・利用者からの聞き取りを行い、レクリエーションの内容も検討し楽しみを持てるようにする。 ・利用者の心身の状態や性格、近隣者等配慮し、席の配置等の工夫を行い、交流を深められるようにする。	①利用者より聞き取りを行い、新しい生活様式に基づいた個別のレクリエーション(編み物・折り紙・アクセサリ作り・塗り絵・囲碁)等を行う事で利用者のやりがいや喜びに繋がった。また、個人が出来る手品・電子ピアノの披露やトランプ・計算ドリル・ことわざドリル等を行い、認知症予防に繋がった。 新たな集団体操については、新人教育や個別レクリエーションに重点を置いたため実行できなかった。次年度に情報を集め再度検討し実行していく。 利用者の席については、利用者の性格・近隣者等に配慮し、定期的に検討することで、利用者が交流を楽しめるように工夫した。結果、楽しみに通所される利用者が増えてきた。
②季節を感じるような行事食や、目で楽しめるお弁当等を取り入れ、献立の工夫を行う。利用者に食事の感想などを聞き取り、献立や盛り付け等に反映させ、喜ばれる食事作りを行う。	②管理栄養士が6月で退職したため、人員不足もあり、手の込んだ行事食やお弁当を取り入れることはできなかったが、季節を感じる食事の提供はできた。また、利用者に感想や意見聞き取りを行い、盛り付け等に反映させる事や、本人の食事の状況を確認し食事形態を見直すことで、食事摂取量が増える利用者もいた。 お弁当や行事食については、再度検討を行い、次年度に実行していく。
③ハイジエニックビューティシャン・ネイリストの資格者として、利用者全員の状態を把握し、職員と情報を共有・指導を行ない、利用者にネイルケアが行き届くようにチェックリストを活用する。	③利用者全員の状態の把握をするためにチェックリストを活用し、専門的ケアを必要とする利用者にネイルケアを行った。結果、爪のトラブルにて生活に支障があった利用者から「生活しやすくなった」との声が聞かれた。又、ネイルケアを行ってもらうのを楽しみにしている利用者も増えた。 職員との情報共有やアドバイスは行えたが、技術面での直接の指導までは至らなかった。次年度は、職員に対しての指導内容を検討し、家族へのアドバイスの仕方も考え実施していく。

(3) 利用者の機能維持

実 行 計 画	実 施 内 容
①利用者それぞれ身体機能を把握し、身体状態・介護上の課題について、定期的に訪問してくれる巡回リハビリにて、専門職に相談し、助言・介護技術指導を受け、デイサービスで共有し、実施評価した上で、結果について、介護支援専門員・家族に報告・提案し、連携を取り合いながら自宅での生活に繋げる。	①身体機能の状態や介護上の課題などについて、家族が悩んでいることを聞き取り、職員で話し合いを行い、巡回リハビリの時に専門職に相談や指導を受け、介護支援専門員や家族に報告や家族に来所してもらい直接の指導も行った。それによって、本人の身体機能の向上や介護負担軽減に繋げることが出来た。

令和3年度

さゆりの園デイサービスセンターⅡ障害福祉サービス利用登録状況

令和4年3月31日現在

1. 利用登録者数

男 3名 女 1名 合計 4名

2. 区分別内訳

	性 別		区 分					
	男	女	1	2	3	4	5	6
実人数	3	1	0	0	1	1	0	2

3. 年齢内訳

年 齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	1	0	0	0	2	3
女	0	0	0	0	0	1	1
計	0	1	0	0	0	3	4

平均年齢：52.2歳

4. 利用実施状況

項目 月	開所 日数	利用 延べ人数	一日平均 利用者数	入浴介助	同一建物 減算	送迎減額	キャンセル	
							前日	当日
R3. 4月	21	14	0.66	14	0	0	1	0
5月	19	12	0.63	12	0	0	0	0
6月	21	15	0.71	15	0	0	0	1
7月	21	16	0.76	16	0	0	0	0
8月	19	20	1.05	20	0	0	2	0
9月	21	23	1.09	23	0	0	1	0
10月	22	20	0.90	20	0	0	2	0
11月	19	14	0.73	14	0	0	3	0
12月	21	18	0.85	18	0	0	1	0
R4. 1月	20	13	0.65	13	0	0	2	0
2月	18	11	0.61	11	0	0	0	0
3月	23	12	0.52	12	0	0	0	0
合 計	245	188	0.76	188	0	0	12	1

令和3年度 給食実績年計表・行事食一覧

さゆりの園デイサービスセンターⅡ

	1ヵ月実食数					1日平均	1ヶ月	1人1食	エネルギー	蛋白質	脂質	炭水化物	カルシウム	鉄	ビタミンB1	ビタミンB2	食物繊維	ビタミンC	塩分	
	介護	障害	予防	検査	合計食数	食数	購入金額(円)	食材料費(円)	kcal	g	g	g	mg	mg	ug	mg	mg	g	mg	g
令和3年4月	421	11	62	21	494	16.0	164,758	321	592	25.4	18.6	77.0	368	3.6	249	0.69	0.59	4.2	31	2.5
5月	321	11	53	19	385	12.0	143,200	356	580	25.4	17.4	78.4	380	3.7	290	0.69	0.60	4.4	34	2.5
6月	393	14	53	22	460	15.0	146,976	306	581	26.1	17.3	78.8	369	3.6	266	0.68	0.63	4.4	34	2.5
7月	430	11	63	21	504	16.0	169,698	324	589	26.3	17.7	79.5	338	3.5	215	0.78	0.60	4.2	35	2.3
8月	403	15	51	20	469	15.0	172,298	354	564	24.5	16.7	76.5	340	3.6	240	0.69	0.55	4.2	31	2.2
9月	400	20	68	21	488	16.0	163,855	323	589	26.7	18.0	76.8	346	3.9	242	0.73	0.60	4.6	35	2.3
10月	423	16	71	22	510	16.0	166,465	314	615	27.3	19.0	79.6	411	4.2	271	0.61	0.69	4.6	29	2.6
11月	369	11	72	19	452	15.0	150,738	321	604	24.7	19.7	78.7	393	3.7	234	0.55	1.36	4.7	37	2.4
12月	391	14	67	21	472	15.0	160,956	328	615	26.2	18.8	82.4	401	3.7	252	0.61	0.71	5.3	35	2.5
令和4年1月	354	10	62	20	426	14.0	155,067	349	601	27.2	18.0	78.9	412	3.7	250	0.56	0.66	4.9	31	2.5
2月	328	8	57	18	393	14.0	120,106	294	607	27.1	18.7	80.1	400	3.5	237	0.60	0.63	5.1	32	2.5
3月	481	10	61	23	552	18.0	185,936	325	601	25.0	18.2	80.5	411	3.6	241	0.54	0.68	4.8	33	2.5
合 計	4,714	151	740	247	5,605	182.0	1,900,053	3,915	7,138	311.9	218.1	947.2	4,569	44.3	2,987	7.73	8.30	55.4	397	29.3
平均	393	13	62	21	467	15.2	158,337	326	給与栄養目標量											
									580	21.0	14.5	82.5	240	4.0		0.48	0.40		40	3.2
									給与栄養平均量											
									595	26.0	19.2	79.9	381	3.7		0.64	0.69		33	2.4
実施日		行事食名		行事食内容		実施日		行事食名		行事食内容										
令和3年	①	4月	8日	春の献立	稲荷寿司 沢煮碗 鮭の焼付け焼き 菜花のお浸し よもぎプリン	令和3年	⑩	12月	22日	冬至献立	御飯 白菜と肉団子のスープ 凍み豆腐の五目煮 冬至南瓜									
	②	5月	8日	御田植献立	お花の散らし寿司 豆腐の白玉汁 小松菜の胡麻和え 苺ゼリー		⑪		25日	クリスマス献立	御飯 彩り野菜のクリームスープ ハンバーグ ブロッコリーサラダ									
	③	6月	11日	入梅献立	枝豆御飯 吸い物 豚肉の梅卸煮 茄子とみょうがの醤油和え		⑫	1月	7日	七草粥	七草粥 吸い物 鯖の朝鮮焼き ぜんまいの白和え									
	④	7月	7日	七夕献立	そうめん 天ぷら盛り合わせ ピーマンと竹輪のオイスター炒め	令和4年	⑬		15日	小正月献立	おはぎ こづゆ 鱈の塩焼焼き 菜の花の煮びたし									
	⑤		28日	土用丑の日	鱧井 吸い物 枝豆とみかんのおろし和え		⑭	2月	3日	節分献立	大豆御飯 つぼみ汁 焼き魚(塩鮭) 中華風春雨サラダ									
	⑥	9月	21日	彼岸入り献立	おはぎ こづゆ 鮭の酒粕焼き ほうれん草のくるみ和え		⑮		3日	ひな祭り献立	ひな祭り寿司 吸い物 鱈の木の芽焼き 野菜となめこの和え物									
	⑦	10月	13日	秋の献立	御飯 具だくさん豚汁 卵の紅葉煮し ピーナッツ和え		⑯	3月	18日	彼岸入り献立	おはぎ こづゆ 赤魚の生姜煮 新玉ねぎの和え物									
	⑧	11月	19日	晩秋献立	舞茸御飯 吸い物 クリームコロッケ さつま芋サラダ		⑰		24日	彼岸明け献立	稲荷寿司 味噌汁 肉と野菜の旨煮 フルーツサラダ									
	⑨		24日	新そば献立	新そば(手打ち) かき揚げ 菊 なます															

ア 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	令和3年度プリセプター先進事例研修～事例から学ぼう～（オンライン研修）	【講義】 「現場を支える人財とは～実践の知を伝えるOJT～」 【先進事例発表】 「新人職員育成の取り組みについて」	介護リーダー （兼）生活相談員	小林 幸介	令和3年7月5日	社会福祉法人福島県社会福祉協議会（福島県委託） 高齢者生活支援ハウス（オンライン研修）	復命書 職員会議にて発表
2	令和3年度甲種防火管理新規講習	1日目①防火管理の意義と制度 ②防火管理の進め方と消防計画 ③火気管理 ④地震対策 2日目①施設設備の維持管理 ②自衛消防 ③危険物の安全管理 ④消防用設備の操作要領 ⑤効果測定	介護副係長 （兼）生活相談員	薄 三平	令和3年6月9日 ～6月10日	喜多方地方広域市町村圏組合消防本部 喜多方プラザ文化センター（小ホール）	復命書 職員会議にて発表
3	令和3年度 全会津介護支援専門員協会 第1回研修会	高齢者虐待の事案から考える養護者支援	看護係長 （兼）生活相談員	赤城富美江	令和3年8月24日	全会津介護支援専門員協会 特別養護老人ホールさゆりの園（オンライン研修）	復命書 職員会議にて発表
4	令和3年度キャリアパス制度課題別研修【第2回】～スキルアップに繋がる「キャリアパス」の考え、人材育成のためのツールを作る～	1. 人材育成計画とは何か 2. 新規採用者への育成 3. OJTチェックリストの作成 4. 自法人のキャリアパスを充実させるために 5. 自法人のキャリアパスから階層ごとに必要な能力を考える	介護リーダー （兼）生活相談員	小林 幸介	令和3年12月9日 ～12月10日	社会福祉法人福島県社会福祉協議会（福島県委託） 高齢者生活支援ハウス（オンライン研修）	復命書 職員会議にて発表
5	令和3年度生活相談員研修会 高齢者虐待防止について～虐待を起こさない職場作りを目指して～	高齢者虐待防止について～利用者の権利擁護実践を目指して～	看護係長 （兼）生活相談員	赤城富美江	令和3年11月8日	福島県老人福祉協議会 デイサービスセンターⅡ（オンライン研修）	復命書
6	令和3年度生活相談員研修会 高齢者虐待防止について～虐待を起こさない職場作りを目指して～	高齢者虐待防止について～利用者の権利擁護実践を目指して～	介護副係長 （兼）生活相談員	薄 三平	令和3年11月8日	福島県老人福祉協議会 デイサービスセンターⅡ（オンライン研修）	復命書

7	令和3年度生活相談員研修会 高齢者虐待防止について～虐待を起こさない職場作りを目指して～	高齢者虐待防止について ～利用者の権利擁護実践を目指して～	介護リーダー (兼)生活相談員	小林 幸介	令和3年11月8日	福島県老人福祉協議会 デイサービスセンターⅡ (オンライン研修)	復命書
8	令和3年度生活相談員研修会 高齢者虐待防止について～虐待を起こさない職場作りを目指して～	高齢者虐待防止について ～利用者の権利擁護実践を目指して～	介護リーダー (兼)生活相談員	山本あき子	令和3年11月8日	福島県老人福祉協議会 デイサービスセンターⅡ (オンライン研修)	復命書
9	令和3年度生活相談員研修会 高齢者虐待防止について～虐待を起こさない職場作りを目指して～	高齢者虐待防止について ～利用者の権利擁護実践を目指して～	看護師	佐々木由佳	令和3年11月8日	福島県老人福祉協議会 デイサービスセンターⅡ (オンライン研修)	復命書
10	令和3年度生活相談員研修会 高齢者虐待防止について～虐待を起こさない職場作りを目指して～	高齢者虐待防止について ～利用者の権利擁護実践を目指して～	介護員	矢部美佐子	令和3年11月8日	福島県老人福祉協議会 デイサービスセンターⅡ (オンライン研修)	復命書
11	令和3年度生活相談員研修会 高齢者虐待防止について～虐待を起こさない職場作りを目指して～	高齢者虐待防止について ～利用者の権利擁護実践を目指して～	介護員	五十嵐久美江	令和3年11月8日	福島県老人福祉協議会 デイサービスセンターⅡ (オンライン研修)	復命書
12	令和3年度生活相談員研修会 高齢者虐待防止について～虐待を起こさない職場作りを目指して～	高齢者虐待防止について ～利用者の権利擁護実践を目指して～	事務員	田崎 美香	令和3年11月8日	福島県老人福祉協議会 デイサービスセンターⅡ (オンライン研修)	復命書
13	令和3年度 全会津介護支援専門員協会 第2回研修会	ハラスメント対策 ～事業所に今後求められるハラスメント対応とは～	看護係長 (兼)生活相談員	赤城富美江	令和3年11月19日	全会津介護支援専門員協会 特別養護老人ホームさゆりの園 (オンライン研修)	復命書 職員会議にて発表

14	令和3年度管理職員のための プリセプター運用研修～ 業務の標準化を進め、サ ービスの質の向上と職場風土 作りをめざす～	1日目①標準化とは何を目的とするの か②標準化することで何が得られる のか ③マニュアルは4つの文書で 成り立っている ④事例研究 その 1 ⑤マニュアル作成のステップを 学ぶ ⑥今ほしい文書を考える 2日 目⑦1日目に提出された「今ほしい文 書」「仕事のフローシート」等につ いて講師からフィードバックします ⑧マニュアル(手順書)にするものを 決める ⑨マニュアル(手順書)を 作ってみる ⑩委員会活動等を活用 し、事業所内のマニュアルを管理す る ⑪業務の標準化とOJTを機 能・発展させながらサービスの質を 上げる	介護副係長 (兼)生活相談員	薄 三平	令和3年12月21日 ～12月22日	福島県社会福祉協議会 高齢者生活支援ハウス (オンライン研修)	復命書 職員会議にて発表
15	令和3年度キャリアパス制 度課題別研修第3回～「指 導職員」の役割明確化、モ チベーション向上と意識改 革～	1. キャリアパスにおける指導職の役 割を考える 2. 個々のコミュニケーションの特徴 について 3. 部下の成熟後に合わせたリーダー シップ 4. 評価者としての指導職を考える 5. 指導職としてのこれからを考える	介護リーダー (兼)生活相談員	小林 幸介	令和4年1月20日 ～1月21日	社会福祉法人福島県社会 福祉協議会(福島県委 託) 高齢者生活支援ハウス (オンライン研修)	復命書 職員会議にて発表
16	令和3年度社会福祉法人・ 施設「会計実務研修会」	「活用できる月次報告」 「資金管理の実践的実務」	事務員	田崎 美香	令和4年3月29日	東京都社会福祉協議会 高齢者生活支援ハウス (オンライン研修)	復命書 職員会議にて発表

イ 施設内研修状況

	テーマ	発表者	参加職種	参加人数	期間	研修結果の 周知方法
1	新型コロナウイルス感染症対応について	赤城富美江	全職員	10名	令和3年5月13日	マニュアルの確認
2	研修受講復命書の記入について	赤城富美江	全職員	10名	令和3年5月13日	資料全員配布
3	新型コロナウイルス感染症における通所系標準予防策について	赤城富美江	全職員	8名	令和3年6月1日	マニュアルの確認
4	高齢者虐待について	赤城富美江	全職員	10名	令和3年8月11日	マニュアル全員配布
5	苦情受付について	薄 三平	全職員	10名	令和3年9月8日	マニュアル全員配布
6	介護記録の種類とそれぞれの役割について	山本あき子	全職員	7名	令和3年11月9日	資料全員配布
7	接遇マナーについて	矢部美佐子 五十嵐久美江	全職員	8名	令和4年2月9日	資料全員配布

令和3年度苦情受付・解決状況

事業所名：さゆりの園デイサービスセンターⅡ

<なし>

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度(接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質(内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

1. 基本方針

介護保険法と西会津町訪問介護事業所運営規程に基づき、利用者の心身の状態に応じ住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活が継続でき、適正な訪問介護サービスを提供し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう入浴・排泄・食事、その他の生活全般を支援しサービス提供を行った。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、利用者の体調変化の早期発見に努めるとともに、他事業所と連携し、サービスを継続し運営することが出来た。

2. 重点目標

(1) 人材の確保と育成

年度当初は登録ヘルパーの募集を法人に依頼予定であったが、今年度は昨年度に比べ活動件数が2割減となり、現在的人数で補えると判断し募集の依頼はしなかった。

またサービス提供責任者は、新たなキャリアパスの導入のもと、職責に必要な資格取得や訪問介護事業所に必要な知識、技術を習得するため様々な研修に参加した。さらにその内容を月1回の登録ヘルパー研修会で報告し事業所全体のスキルアップを図った。

(2) 適切なサービス提供

サービス提供責任者は登録ヘルパーや介護支援専門員から常に担当ケースの情報収集・把握に努め、利用者の目標に沿った適切なサービス提供が実施できているか評価した。事業所内での事例検討会は、コロナ禍で回数が前年度より少ないものの年9回開催した。協議する中で新たに課題解決の必要が生じたケースについては速やかにそれに関わる関係者と連携し迅速な対応につなげた。

(3) リスクマネジメント

新型コロナウイルス感染症関連では、5月にサービス提供責任者1名と登録ヘルパー6名が濃厚接触者、登録ヘルパー1名が罹患者となったが、一定期間自宅待機等ののち全員復帰した。事業所内で出勤率が一時低下したものの、PPE(個人用防護具)での感染対応で接するヘルパーを固定、接触時間を短縮し訪問を続け、昨年度から継続的に行っていた感染対応の研修成果もあり、それ以上の感染拡大を防ぐことが出来た。

業務中の大きな事故はなかったが、ヒヤリと思われる事案が2件発生した。一つ目は訪問先の給湯器からの発火であった。原因としては普段から給湯器を使用していないことを個別援助計画に記載していなかったため、ねじがゆるんでいたことに気づかず使用したことでおきたためだった。二つ目は登録ヘルパーが活動後、積雪と吹雪で前方が見えない状況の中の脱輪事故だった。サービス提供責任者は登録ヘルパーが安全に統一した業務が出来るように、月1回の研修時には全員に情報を伝達し指導しつつ、全員で再確認を行った。

(4) 業務マニュアルの見直し

既存の業務マニュアルを再点検し「請求マニュアル」は作成することができたが、介護技術をはじめ他の複数の項目は、役割分担をして始めたものの定期的に進捗状況の確認をしなかったこともあり修正や更新を完成することが出来なかった。来年度は、事業所として優先順位の高い「通勤・移動マニュアル」から完成をさせつつ、各項目も整理し見やすくすることで、業務の標準化のもとで質の良いサービスの提供を継続できるようにしていく。

1. 基本方針

介護保険法と西会津町訪問介護事業所運営規程に基づき、利用者の心身の状態に応じ住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活が継続でき、適正な訪問介護サービスを提供し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう入浴・排泄・食事、その他の生活全般を支援しサービス提供を行った。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、利用者の体調変化の早期発見に努めるとともに、他事業所と連携し、サービスを継続し運営することが出来た。

2. 重点目標

(1) 人材の確保と育成

年度当初は登録ヘルパーの募集を法人に依頼予定であったが、今年度は昨年度に比べ活動件数が2割減となり、現在の人数で補えると判断し募集の依頼はしなかった。

またサービス提供責任者は、新たなキャリアパスの導入のもと、職責に必要な資格取得や訪問介護事業所に必要な知識、技術を習得するため様々な研修に参加した。さらにその内容を月1回の登録ヘルパー研修会で報告し事業所全体のスキルアップを図った。

(2) 適切なサービス提供

サービス提供責任者は登録ヘルパーや介護支援専門員から常に担当ケースの情報収集・把握に努め、利用者の目標に沿った適切なサービス提供が実施できているか評価した。事業所内での事例検討会は、コロナ禍で回数が前年度より少ないものの年9回開催した。協議する中で新たに課題解決の必要が生じたケースについては速やかにそれに関わる関係者と連携し迅速な対応につなげた。

(3) リスクマネジメント

新型コロナウイルス感染症関連では、5月にサービス提供責任者1名と登録ヘルパー6名が濃厚接触者、登録ヘルパー1名が罹患者となったが、一定期間自宅待機等ののち全員復帰した。事業所内で出勤率が一時低下したものの、PPE(個人用防護具)での感染対応で接するヘルパーを固定、接触時間を短縮し訪問を続け、昨年度から継続的に行っていた感染対応の研修成果もあり、それ以上の感染拡大を防ぐことが出来た。

業務中の大きな事故はなかったが、ヒヤリと思われる事案が2件発生した。一つ目は訪問先の給湯器からの発火であった。原因としては普段から給湯器を使用していないことを個別援助計画に記載していなかったため、ねじがゆるんでいたことに気づかず使用したことでおきたためだった。二つ目は登録ヘルパーが活動後、積雪と吹雪で前方が見えない状況の中の脱輪事故だった。サービス提供責任者は登録ヘルパーが安全に統一した業務が出来るように、月1回の研修時には全員に情報を伝達し指導しつつ、全員で再確認を行った。

(4) 業務マニュアルの見直し

既存の業務マニュアルを再点検し「請求マニュアル」は作成することができたが、介護技術をはじめ他の複数の項目は、役割分担をして始めたものの定期的に進捗状況の確認をなかったこともあり修正や更新を完成することが出来なかった。来年度は、事業所として優先順位の高い「通勤・移動マニュアル」から完成をさせつつ、各項目も整理し見やすくすることで、業務の標準化のもとで質の良いサービスの提供を継続できるようにしていく。

1. 基本方針

障害者総合支援法と西会津町訪問介護事業所運営規程に基づき、利用者の心身の状態に応じ住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活が継続でき、適正な訪問介護サービスを提供し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう入浴・排泄・食事、その他の生活全般を支援しサービス提供を行った。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、利用者の体調変化の早期発見に努めるとともに、他事業所と連携し、サービスを継続し運営することが出来た。

2. 重点目標

(1) 人材の確保と育成

年度当初は登録ヘルパーの募集を法人に依頼予定であったが、今年度は昨年度に比べ活動件数が2割減となり、現在の人数で補えると判断し募集の依頼はしなかった。

またサービス提供責任者は、新たなキャリアパスの導入のもと、職責に必要な資格取得や訪問介護事業所に必要な知識、技術を習得するため様々な研修に参加した。さらにその内容を月1回の登録ヘルパー研修会で報告し事業所全体のスキルアップを図った。

(2) 適切なサービス提供

サービス提供責任者は登録ヘルパーや介護支援専門員から常に担当ケースの情報収集・把握に努め、利用者の目標に沿った適切なサービス提供が実施できているか評価した。事業所内での事例検討会は、コロナ過で回数が前年度より少ないものの年9回開催した。協議する中で新たに課題解決の必要が生じたケースについては速やかにそれに関わる関係者と連携し迅速な対応につなげた。

(3) リスクマネジメント

新型コロナウイルス感染症関連では、5月にサービス提供責任者1名と登録ヘルパー6名が濃厚接触者、登録ヘルパー1名が罹患者となったが、一定期間自宅待機等ののち全員復帰した。事業所内で出勤率が一時低下したものの、PPE(個人用防護具)での感染対応で接するヘルパーを固定、接触時間を短縮し訪問を続け、昨年度から継続的に行っていた感染対応の研修成果もあり、それ以上の感染拡大を防ぐことが出来た。

業務中の大きな事故はなかったが、ヒヤリと思われる事案が2件発生した。一つ目は訪問先の給湯器からの発火であった。原因としては普段から給湯器を使用していないことを個別援助計画に記載していなかったため、ねじがゆるんでいたことに気づかず使用したことでおきたためだった。二つ目は登録ヘルパーが活動後、積雪と吹雪で前方が見えない状況の中の脱輪事故だった。サービス提供責任者は登録ヘルパーが安全に統一した業務が出来るように、月1回の研修時には全員に情報を伝達し指導しつつ、全員で再確認を行った。

(4) 業務マニュアルの見直し

既存の業務マニュアルを再点検し「請求マニュアル」は作成することができたが、介護技術をはじめ他の複数の項目は、役割分担をして始めたものの定期的に進捗状況の確認をしなかったこともあり修正や更新を完成することが出来なかった。来年度は、事業所として優先順位の高い「通勤・移動マニュアル」から完成をさせつつ、各項目も整理し見やすくすることで、業務の標準化のもとで質の良いサービスの提供を継続できるようにしていく。

訪問介護事業所利用状況

【令和3年度】

令和3年度実績

1.介護度別実人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	29	28	25	28	30	29	34	34	37	28	30	27
要介護2	13	13	13	13	14	14	14	11	11	10	11	13
要介護3	12	12	12	11	9	9	9	11	11	11	13	11
要介護4	17	14	11	10	11	9	12	11	7	8	9	9
要介護5	10	7	9	10	8	8	6	8	8	9	9	9
申請中等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	81	74	70	72	72	69	75	75	74	66	72	69
事業対象者	7	8	8	7	6	7	6	4	5	5	4	4
要支援1	8	7	6	7	7	8	9	9	8	6	7	8
要支援2	6	8	9	7	7	7	7	7	6	7	6	6
計	21	23	23	21	20	22	22	20	19	18	17	18
障害者自立支援	13	13	13	12	12	12	12	12	12	11	11	12
移動支援	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0
計	14	14	14	13	13	13	13	13	13	12	11	12
合計	116	111	107	106	105	104	110	108	106	96	100	99

2.延べ回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護給付	1,309	1,290	1,215	1,304	1,410	1,351	1,275	1,205	1,158	999	998	1,172	14,686
総合事業	136	121	145	141	128	134	134	119	121	95	100	110	1,484
申請中等													0
障害者自立支援	164	135	159	147	117	142	144	145	132	107	102	144	1,638
移動支援	4	8	4	4	6	4	7	5	3	3	0	0	46
合計	1,613	1,552	1,523	1,596	1,661	1,631	1,560	1,474	1,414	1,204	1,200	1,426	17,854

3.延べ時間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護給付	997:07	965:53	949:29	984:39	1,058:05	1,050:03	1,003:16	932:09	878:13	732:37	732:40	881:29	11,163:40
総合事業	129:07	113:11	160:11	146:01	133:06	138:36	137:36	121:40	125:22	98:51	104:56	114:06	1,522:43
申請中等													
障害者自立支援	169:00	135:00	161:50	148:50	119:00	144:00	143:00	144:50	134:00	108:00	114:50	145:50	1,668:10
移動支援	2:00	3:00	2:00	2:00	3:00	2:00	3:30	2:30	1:30	1:30	0:00	0:00	23:00
合計	1,297:14	1,217:04	1,273:30	1,281:30	1,312:11	1,334:39	1,287:22	1,201:09	1,139:05	940:58	952:26	1,141:40	14,377:33

4.サービス提供責任者業務

	件 数	時 間		件 数	時 間
モニタリング(介護)	961	591:02	訪問介護計画書作成	165	115:05
モニタリング(総合)	117	95:05	個別援助計画書	70	58:31
モニタリング(障害)	15	10:50	サービス担当者会議	144	299:15
モニタリング(移動)	0	0:00	カンファレンス	9	9:45
訪 問	791	417:05	訪問調整		379:51
実施報告書作成	922	227:37	その他		4,380:05

5.ヘルパー活動サービス内容別状況

活動人数	活動時間	訪問回数	全 体 (100%)	介護保険 88%	介 護 90%	身 体 30%
常勤	4 人	417:05			総合事業 10%	身体生活 50%
登録	22 人	13,960:28		障 害 12%		生活支援 20%

ア 施設外研修状況

令和3年度

西会津町訪問介護事業所

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	令和3年度甲種防火管理 新規講習	○防火管理の意義及び制度 ○防火管理の進め方と消防計画 ○火気管理 ○地震対策 ○危険物の安全管理 ○自衛消防 ○消防設備の維持管理 ○消防用設備の操作要領	事務員	小田島恵美	R3.6.9~6.10	喜多方地方広域市町村圏 組合消防本部 喜多方プラザ	復命書 朝礼で報告
2	令和2年度 新人向けOJT (プリセプター) 先進事例 研修	○講義 現場を支える人材とは～実践の知を伝えるOJT～ 講師：東北福祉大学 准教授竹ノ内章代氏 ○先進事例発表： 「新人職員育成の取組～オン・ボーディング 職場定着へ向けて～」 講師：(社福)すこやか福祉会石川剛子氏 ○先進事例発表： 「職員育成制度(プリセプター)～がんばっぺ職場研修～」 講師：(社福)太田福嗣記念会 特養玉川ホーム 佐藤有花氏 特養あみみホーム 田村早百合氏 ○先進事例発表： 「新人職員育成の取組について」 講師：(社福)北信福祉会 ハッピー 愛ランド 清野章氏 ・ 長尾篤氏	副管理者	外島裕子	R3.7.5	社会福祉法人 福島県社 会福祉協議会 オンライン研修(介護セ ンター)	復命書 朝礼で報告
3	訪問介護テーマ別技術向 上研修Ⅱ	【講義】 介護職のコミュニケーション技術・接 遇マナー - 介護技術と危険予知について～身体介 護に役立つ知識～ 【講師】 千葉県ヘルパー協会会長 境野みね子 氏	管理者	鈴木あや子	R3.9.24	社会福祉法人 福島県社 会福祉協議会 オンライン研修(介護セ ンター)	復命書 朝礼で報告

4	令和3年度キャリアパス制度過程別研修	<講義、ワーク> 1. キャリアパスに評価が必要な意味を理解する 2. 様々な評価の仕組みを学ぶ 3. キャリアパス連携型評価制度を構築する 4. 評価結果の活用方法を考える 5. 人材育成を目的とした面接の在り方を学ぶ 6. 職員のモチベーションを高める面接の実践 7. 正しい評価の手法を学び人材育成に活かす 8. 評価ケーススタディ	副管理者	外島裕子	R3.11.10~11	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 オンライン研修（介護センター）	復命書 朝礼で報告
5	令和3年度社会福祉法人事務長等研修	講義 「もっと進めよう働き方改革～関連法令の内容と対応のポイント～」 講師：福島働き方改革推進センター 社会保険労務士 丹治正夫氏	事務員	小田島恵美	R3.11.25	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 オンライン研修（介護センター）	復命書 朝礼で報告
6	福祉の職場におけるメンタルヘルズ研修「メンタル不調を予防するストレス対処法」	講義Ⅰ 「ストレスとメンタル不調」 1) ストレスとメンタル不調 2) セルフモニタリング 3) 規則正しい生活習慣 4) ストレスマネジメント 講義Ⅱ 「コミュニケーションスキルとセルフケア」 1) 傾聴とアセッション 2) セルフケア 講師：福島産業保健総合支援センター 佐藤美恵氏	管理者	鈴木あや子	R3.11.29	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 オンライン研修（介護センター）	復命書 朝礼で報告
7	令和3年度キャリアパス制度課題別研修（第2回）	1. 人材育成計画とは何か 2. 新規採用者への育成 3. OJTチェックリストの作成 4. 自法人のキャリアパスを充実させるために 5. 自法人のキャリアパスから階層ごとに必要な能力を考える	サービス提供責任者	伊藤萌美	R3.12.9~10	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 オンライン研修（介護センター）	復命書 朝礼で報告

8	高齢者施設における虐待防止研修会	「介護施設等における虐待防止体制等の整備について」 福島県高齢福祉課 坂本奨氏 ①施設等における虐待防止体制の整備について ②身体的拘束等の適正化について ③県内における高齢者虐待の状況 ④養介護施設における高齢者虐待について 「真めがねという暴力」 NPO法人ミニケアホームきみさんち 理事長 林田俊弘氏	管理者 サービス提供責任者	鈴木あや子 伊藤萌美	R3.12.14	一般社団法人 福島県社会福祉士会 介護センター (ZOOM)	復命書 朝礼で報告
9	介護事業者のためのBCP作成セミナー	・BCP作成における重要ポイント ミネルヴァベリタス顧問 本田茂樹氏 ・BCP作成の具体的な進め方 (一社) 中部産業連盟 前田和彦氏	管理者	鈴木 あや子	R4.2.2	一般社団法人 中部産業連盟業務課 介護センター (オンライン)	復命書 朝礼で報告
10	令和3年度養介護施設従事者等による高齢者虐待防止研修	1. 開会、挨拶 2. 研修会 講義 ①「福島県内における高齢者虐待の現状、各事業所において取り組むべきこと」 県高齢福祉課 主事 坂本奨氏 ②「養介護施設従事者等による高齢者虐待を未然に防ぐ」～権利擁護を实践する職場作りを目指して～ 谷川社会福祉士事務所 谷川ひとみ氏 3. 閉会	管理者 副管理者 サービス提供責任者	鈴木あや子 外島裕子 伊藤萌美	R4.2.24	福島県介護支援専門員協会 介護センター相談室 (Zoom)	復命書 朝礼で発表
11	第3回福島県認知症介護実践者研修	・認知症ケアの理念・倫理と意思決定支援 石井利幸氏 ・生活支援のためのケアの演習Ⅰ 野口康博氏、加藤大輔氏、八巻美紀氏、佐々木研二氏 ・QOLを高める活動と評価の観点 ・家族介護者の理解と支援方法 星拓太郎氏 ・権利擁護の視点に基づく支援 渡藤祐子氏 ・地域資源の理解とケアへの活用 齋藤光樹氏 ・学習成果の実践展開と共有 遠乃介氏 ・生活支援のためのケアの演習Ⅱ(行動・心理症状) 高野美枝子氏 遠乃介氏 ・アセスメントとケアの実践の基本 安西直美氏 ・職場実習の課題設定 石井利幸氏	サービス提供責任者	佐藤 千春	R4.1.18～19 R4.2.3～4 R4.3.8	福島県認知症介護指導者連絡会 介護センター (ZOOM)	復命書 朝礼で発表

12	令和3年度オンライン開催 会計実務研修会	「活用できる月次報告」 「資金管理の実践的実務」 講師:福祉会計サービスセンター 宮内眞木子氏	事務員	小田島恵美 須藤歩美	R4.3.18	東京都社会福祉協議会 介護センター（オンライン）	復命書
----	----------------------	--	-----	---------------	---------	-----------------------------	-----

令和3年度事業報告書(登録ヘルパー研修)

研修名	研修内容	参加職種	参加者名・人数	期間	場所	研修結果の報告
第1回登録ヘルパー研修会	接遇について	訪問介護員	登録ヘルパー 20名	R3.4.12	デイサービスセンター	報告書を回覧
第2回登録ヘルパー研修会	食中毒と脱水について 新型コロナ感染の振り返りについて	訪問介護員	登録ヘルパー 15名	R3.7.12	さゆりの国会議室 奥川未来交流館	報告書を回覧
第3回登録ヘルパー研修会	調理実習(夏に摂取したい栄養素) 講師 町管理栄養士 斎藤様	訪問介護員	登録ヘルパー 13名	R3.8.10	公民館調理室	報告書を回覧
第4回登録ヘルパー研修会	感染防止の再確認 (在宅におけるPPE対応)	訪問介護員	登録ヘルパー 10名	R3.9.27	デイサービスセンター	報告書を回覧
第5回登録ヘルパー研修会	感染防止について (インフルエンザ・ノロウイルス)	訪問介護員	登録ヘルパー 14名	R3.10.25	デイサービスセンター 奥川未来交流館	報告書を回覧
第6回登録ヘルパー研修会	排泄の基礎知識 講師 花王職員	訪問介護員	登録ヘルパー 17名	R3.11.29	デイサービスセンター	報告書を回覧
第7回登録ヘルパー研修会	虐待について 腰痛予防対策 厚労省のDVD鑑賞	訪問介護員	登録ヘルパー 12名	R3.12.20	デイサービスセンター	報告書を回覧
第8回登録ヘルパー研修会	緊急時の対応について	訪問介護員	登録ヘルパー 13名	R4.1.24	デイサービスセンター	報告書を回覧
第9回登録ヘルパー研修会	今年度のまとめと振り返りについて	訪問介護員	登録ヘルパー 14名	R4.3.18	さゆりの国会議室	報告書を回覧

令和3年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町訪問介護支援事業所

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度(接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質(内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

1. 基本方針についての評価

にしあい福祉社会理念・指針のもと、要介護状態になっても、住み慣れた自宅でその人らしい生活が続けられるように、利用者のおかれている環境の情報収集を行い、出来る限り利用者本人の意向に添い、安心してサービスを利用して頂けるよう、町関係機関、地域包括支援センター、サービス提供機関等との連携に努めた。

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、利用者家族への理解を得るための説明や、情報提供協力への働きかけ、サービス提供機関との情報共有を積極的に行ってきた。

2. 重点目標についての評価

(1) 利用者を支える為に地域と連携

- ①顔の見える関係づくりを目的に、民生児童委員協議会地区会議へ参加した。担当を決め参加することで、民生児童委員協議会の活動内容や、地域の実情を知ることができた。利用者の担当民生児童委員と情報交換を積極的に行い、地域の中で出来る支援について情報収集に努めた。
- ②社会福祉協議会主催のささえ愛支援会議へ年3回出席し、地域の実情や将来に向けての課題を共有した。また、提示されたテーマ「食事」「買い物」について、利用者の実情や、事業所として出来そうな支援、アイデアについて話し合いを行いささえ愛支援会議の場で報告した。

(2) ケアマネジメント力の向上

- ①社会の現状において、利用者の置かれている状況をあらゆる観点からアセスメントを行い課題整理総括表・評価表を活用することで課題を明確にし、本人、家族の意向に添った分かりやすいケアプラン作成を行うための勉強会を実施したことで、多角的な視点でのアセスメントの必要性を理解することができた。
- ②ケアマネジメントの視点や支援方法を学ぶために、ケアマネジメント研修会に年7回参加し、内3回事例提供を行った。事業所内でも定期的なカンファレンスを年30回実施した。担当ケースについて他の介護支援専門員の意見を聞く事で、多方面からの気づきを得た。また、事例提供を行うことで客観的にケースの振り返りを行うことができた。
- ③医療・保健・多職種との連携について、利用者の急な体調不良の際、医療機関への情報提供、介護状況の把握、必要なサービス調整、サービス事業所との連携に努め、状態変化時の迅速な対応を行った。なかでも看とりケースについては今年度9件対応した。終末期の状態の急な変化に対応しつつ、医療機関、サービス事業所間と情報共有し、出来る限り本人、家族の思いに添ったケアマネジメントに努めた。
- ④複合的な課題がある支援困難なケースについては、担当ケアマネージャが一人で抱え込まず事業所内で相談を行う場を随時持つようにした。さらに課題によっては行政や地域包括支援センター等必要な機関へ相談し、支援の役割分担、方向性について協議することで、

その後の支援につなげた。

(3) 専門職としての質の向上

- ①期初に事業所内での課題を話し合い、事業所内研修計画を作成し、それに基づき毎月勉強会を開催した。内容は居宅介護支援事業所の役割、ケアプラン自己点検、評価表・課題整理総括表、キャリアパス、高齢者虐待予防、感染予防対策等で、事業所全体として質の向上に努めた。事業所内でも各々のケアプランについて、お互いに気づいたことの声かけを行う場面が多くみられるようになった。
- ②他法人の居宅介護支援事業所との勉強会は、感染予防対策のため行う事は出来なかったが町主催である認知症ケアスキルアップ研修の認知症対応事例集作成ワークショップに参加し、町内の事業所等（他の法人を含め）と認知症への取り組みについてのオンラインで情報交換ができ、多様な支援について学ぶことができた。

(4) 職場環境

- ①福祉見聞録システムにある支援経過マスタメント項目の見直しを行い、記録が以前より効率よく入力出来るようになったことに加え、ケース担当者が不在でもその記録を通しケースを把握したうえで相談対応を行うことができた。
- ②感染予防対策については、事業所内で新型コロナウイルス感染症についての勉強会を実施した。感染拡大を予防するために、日々職員自身や職員家族の体調管理や感染予防対策に努めた。
- ③事業所内「報告・連絡・相談」については、コロナ禍でも事業を継続するために介護センター内で職員が2ヶ所に分けて業務をしているので、以前より職員間の情報周知を強化する必要性があったことや、業務の実行計画を作成し役割分担を明確にし、その進行状況を共有するためにも意識して行い日常的に連携に努めた。

3. 令和3年度月別活動実績状況

(1) 介護度別利用人数 (人)

年月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	92	48	37	32	22	231
5月	90	51	36	27	19	223
6月	90	53	33	28	23	227
7月	89	51	32	27	22	221
8月	92	47	34	26	19	218
9月	89	46	32	24	18	209
10月	94	45	31	26	18	214
11月	91	48	33	24	19	215
12月	95	46	35	22	19	217
1月	88	48	31	21	19	207
2月	85	49	32	20	18	204
3月	88	48	30	19	18	203
R3度累計	1,083	580	396	296	234	2,589
R2度累計	1,106	726	374	328	231	2,765

(2) ケアマネジメント対応別件数(件)

年月	電話対応件数	来所対応件数	訪問件数	サービス事業所連絡	ケアプラン作成数	担当者会議件数	モニタリング件数	福祉用具購入(数)	住宅改修
4月	315	9	326	383	53	54	275	0	0
5月	467	9	128	422	25	20	190	0	0
6月	366	13	303	477	31	24	245	1(3)	0
7月	258	5	298	379	32	27	244	0	0
8月	284	11	284	350	37	39	251	0	0
9月	233	9	255	287	15	17	206	2(2)	1
10月	218	4	268	324	36	31	277	0	0
11月	234	15	267	371	50	34	236	1(2)	1
12月	243	8	312	353	37	33	279	2(3)	0
1月	239	3	257	277	63	31	259	0	1
2月	239	3	263	291	58	27	252	0	1
3月	319	6	290	415	47	32	242	2(2)	0
合計	3,415	95	3,251	4,329	484	369	2,956	8(4)	4

(3)利用者の動向

年月	新規契約	入院	入所	退院	退所	永眠	終了 (内容)	
4月	2	6	2	1	2	5	1	有料1
5月	7	4	0	0	1	1	2	有料1、非該当1
6月	17	3	6	2	0	7	2	高陽の里1、療養型1
7月	4	2	2	0	2	1	2	特養1、高陽の里1
8月	7	7	2	2	1	2	1	特養1
9月	8	7	2	2	1	2	1	非該当1
10月	7	1	1	1	1	0	0	
11月	5	3	0	1	3	1	4	特養2、高陽1、非1
12月	9	6	5	6	0	4	2	特養1、高陽の里1
1月	5	4	1	0	0	3	2	特養1、有料1
2月	7	2	2	0	2	3	1	非該当1
3月	3	3	0	1	2	4	0	
合 計	81	48	23	16	15	33	18	

(4)認定調査・加算・住宅改修のみプラン作成

年月	認定調査 (3,780円)	初回加算 (3,000円)	入院・入所 連携加算		退院・退所 連携加算		住宅改修プラン ※住宅改修のみ のサービス (4,000円)	減算 (1/2)
			Ⅰ (2,000円)		Ⅰ (4,500円)			
			Ⅱ (1,000円)		Ⅱ (6,000円)			
			(Ⅰ)	(Ⅱ)	(Ⅰ)	(Ⅱ)		
4月	0	14	5	1	0	0	0	0
5月	0	12	0	2	0	0	0	0
6月	0	13	2	3	0	0	0	0
7月	0	13	1	2	0	0	0	0
8月	0	8	7	0	0	2	0	0
9月	0	5	7	0	0	0	0	0
10月	1	20	1	0	0	0	0	0
11月	2	15	3	0	0	0	0	0
12月	0	17	5	1	0	0	0	0
1月	3	14	4	0	0	0	0	0
2月	0	16	1	0	0	0	0	0
3月	5	12	3	0	0	0	0	0
合計	11	159	39	9	0	2	0	0

ア 施設外研修状況

令和3年度

西会津町居宅介護支援事業所

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	令和3年度 新人向けOJT (プリセプター) 先進事例研修 (オンライン研修)	1. 講義「現場を支える人材とは～実践の知を伝えるOJT～」 講師：東北福祉大学 准教授 竹ノ内章代氏 2. 先進事例発表 ①新入職員育成の取り組み ②職員育成制度 (プリセプター) ③新人職員育成の取り組みについて	介護支援専門員	加藤美世子	R3.7.5	福島県社会福祉協議会 介護センター相談室	復命書 朝礼で発表
2	全会津介護支援専門員協会 第1回研修会 高齢者虐待の事案から考える養護者支援	演題 『高齢者虐待の事案から考える養護者支援』 講師 認知症介護研究・研修仙台センター 研究部長 准教授 古川悠貴氏	管理者兼主任介護支援専門員 副管理者兼主任介護支援専門員 主任介護支援専門員 主任介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員	一登ユミ子 加藤美世子 青津千恵 佐藤小百合 薄君子 平野保子	R3.8.24	全会津介護支援専門員協会 さゆりの園会議室 (オンライン研修)	復命書 朝礼で発表
3	会津方部成年後見制度支援者向け研修会「成年後見制度と成年後見人の役割」	1. 開会 2. 挨拶 3. 講義「成年後見制度と成年後見人の役割」～判断能力の低下している方々の権利擁護支援のために支援者として取り組むべきこと～ 講師：谷川社会福祉士事務所 社会福祉士 谷川ひとみ氏 4. 質疑応答 5. 閉会	管理者兼主任介護支援専門員 副管理者兼主任介護支援専門員 主任介護支援専門員 主任介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員	一登ユミ子 加藤美世子 青津千恵 佐藤小百合 薄君子 平野保子	R3.9.29	全会津介護支援専門員協会 さゆりの園会議室 (オンライン研修)	復命書 朝礼で発表

4	令和3年度 福島県介護支援専門員 専門研修Ⅰ	○前期集合研修 ・ケアマネジメントにおける実践の振り返り及び課題の設定 ○通信学習 ・介護保険制度及び地域包括ケアシステムの現状 ・対人個別援助技術及び地域援助技術 ・ケアマネジメント実践倫理 ・ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働の実践 ・個人学習と相互学習 ・事例 ①リハビリテーション・福祉用具の活用 ②看取り等看護サービスの活用 ③認知症 ④入退院時における医療との連携 ⑤家族支援の視点が必要な事例 ⑥会資源の活用に向けた関係機関との連携事例 ⑦状態に応じた多様なサービスの活用 ○後期集合研修 ・評価テストの確認 ・ケアマネジメント演習 ・意見交換ネットワーク作り自己評価	介護支援専門員	薄 君子	R3.9.22 R3.10.14~15 他通信学習38時間	福島県介護支援専門員協会 会津若松市文化センター 会津稽古堂多目的ホール 介護センター（オンライン）	復命書 朝礼で発表
5	令和3年度喜多方地方定住自立圏 認定調査員合同勉強会	・要介護認定調査票特記事項記載ポイント ・事例検討 グループワーク ・認定調査に関する問題	主任介護支援専門員	青津千恵	R3.11.15	喜多方市・北塩原村・西会津町 喜多方プラザ 小ホール	復命書 朝礼で発表
6	令和3年度全会津介護支援専門員協会 第2回研修	演題 「ハラスメント対策」～事業所に今後求められるハラスメント対応とは～ 講師：主任介護支援専門員 松川竜也氏	管理者兼主任介護支援専門員 副管理者兼主任介護支援専門員 主任介護支援専門員 主任介護支援専門員	一登ユミ子 加藤美世子 青津千恵 佐藤小百合	R3.11.19	全会津介護支援専門員協会 さゆりの園会議室（オンライン研修）	復命書 朝礼で発表

7	令和3年度 福島県社会福祉協議会 キャリアパス制度 課題別研修①	講義 ①キャリアパスに評価が必要な意味を理解する ②様々な評価の仕組みを学ぶ ③キャリアパス連携型評価制度を構築する ④評価結果の活用方法を考える ⑤人材育成を目的とした面接の在り方を学ぶ ⑥職員のモチベーションを高める面接の実践 ⑦正しい評価の手法を学び人材育成に活かす ⑧評価ケーススタディ 講師：株式会社エイデル研究所 鷹木大輔氏 伊藤絃氏	副管理者兼主任介護支援専門員	加藤美世子	R3.11.10～11	福島県社会福祉協議会 介護センター相談室（オンライン）	復命書 朝礼で発表
8	令和3年度 福祉の職場におけるメンタルヘルス研修	「ストレスとメンタル不調」「コミュニケーションスキルとセルフケア」 福島産業保健総合支援センター メンタルヘルス対策促進員 佐藤美恵氏	管理者兼主任介護支援専門員	一登ユミ子	R3.11.29	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 介護センター（ZOOM）	復命書 朝礼で発表
9	介護支援専門員 専門研修Ⅱ	前期集合研修 ・ケアマネジメントの実践事例の研究及び発表（入退院、リハビリ、看取り） （認知症、家族、多様なサービス、社会資源） 通信学習 ・介護保険制度及び、地域包括ケアシステムの今後の展開 ・ケアマネジメントの実践事例の研究及び発表 （入退院、リハビリ、看取り、認知症、地域密着、家族支援、社会資源） 後期集合研修 ・評価テストの確認 ・ケアマネジメントの実践事例の研究及び発表（入退院、リハビリ、看取り） （認知症、家族、多様なサービス、社会資源）	介護支援専門員	薄 君子	R3.11.8 R3.12.17 他通信学習19時間	福島県介護支援専門員協会 会津アビオスペース 介護センター（オンライン）	復命書 朝礼で発表

10	BCP作成の具体的な進め方	I、BCP作成の手順 (感染症、自然災害の共通部分) II、感染症BCPの作成 III、自然災害BCPの作成 IV、BCPを有効にする訓練の実施	管理者兼主任介護支援専門員	一登ユミ子	R4.2.24	一般社団法人中部産業連盟	復命書 朝礼で発表
11	令和3年度養介護施設従事者等による高齢者虐待防止研修	1. 開会、挨拶 2. 研修会 講義 ①「福島県内における高齢者虐待の現状、各事業所において取り組むべきこと」 県高齢福祉課 主事 坂本奨氏 ②「養介護施設従事者等による高齢者虐待を未然に防ぐ」～権利擁護を实践する職場作りを目指して～ 谷川社会福祉士事務所 谷川ひとみ氏 3. 閉会	管理者兼主任介護支援専門員 副管理者兼主任介護支援専門員 主任介護支援専門員 介護支援専門員	一登ユミ子 佐藤小百合 青津千恵 高津麦子	R4.2.24	福島県介護支援専門員協会 介護センター相談室 (Zoom)	復命書 朝礼で発表
12	高齢者虐待の防止：気づきとその共有	講義：『高齢者虐待の防止：気づきとその共有』 講師：東北福祉大学 古川悠貴氏 ・養護者による高齢者虐待への気づき ・要介護施設従事者による高齢者虐待への気づき	介護支援専門員	高津麦子	R4.4.18	松川地域安心・安全ネットワーク委員会 介護センター相談室 (Zoom)	復命書 朝礼で発表

令和 8 年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町居宅介護支援事業所

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質 (内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度 (接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質 (内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

令和3年度

にしあいづ地域包括支援センター事業報告

1. 基本方針に対する評価

西会津町の業務委託実施方針のもと、単身高齢者や高齢者のみの世帯が増加する中、要介護状態や認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく人生の最期まで暮らし続けられるよう、介護や医療、生活支援、介護予防を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築推進のため、それに関わる人々、関係機関が連携する体制づくりに努めた。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で集合型の研修会等開催が難しい面はあったが、感染予防の徹底と今まで培ってきた地域のネットワークを活かし、総合相談支援をはじめ各業務を継続してきた。

2. 重点目標に対する評価

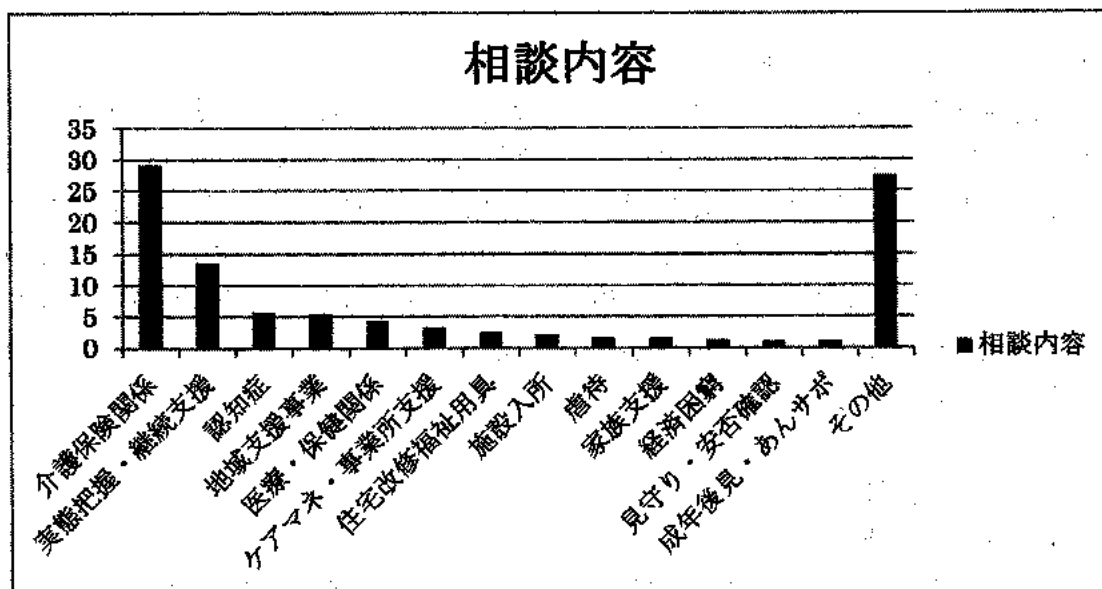
(1) 介護予防ケアマネジメント

- ①その人らしい自立した生活ができるよう、介護予防の視点にたったケアプランを作成している。本人の意向を確認、アセスメントし、その人らしい生活を視野に、必要なサービスの利用に心がけた。また地域活動への積極的参加を継続し、地域での生活が継続できるように、サロンへの参加や近隣支援者との交流も確認しながらケアマネジメントを行なった。
- ②ミニデイサービスでは定期的に検討会を開催し、利用状況の把握や情報共有を図り、サービスの向上に努めた。社会福祉協議会と連携を密にし、利用者の状態によっては随時情報共有しながら対応を行った。例年体力チェックを行っていたが、ミニデイサービス利用者は年々高齢化し、体力に個人差があるものの、結果を気にされる方もいるため、実施はせず安全に楽しく通所されるよう配慮した。今年度も理学療法士による棒体操やストレッチを安全に実施するための注意点や、効果的な実施方法等の助言指導を受けた。
- ③訪問型生活援助事業は3人の利用があった。シルバー人材センターと利用者の意向を確認し、モニタリングや報告書で利用者の状況等を評価し、利用者の生活機能の維持・向上に努めた。1人は状態改善し終了、2人は現在も利用中である。

(2) 総合相談支援業務

- ①「地域包括支援センター」が高齢者の相談窓口であることを地域住民に浸透するために、関係機関の会議に参加した時や認知症サポーター養成講座・サロン等での講話の際、また家庭訪問時に、地域包括支援センターの役割を説明しパンフレットを配り周知に努めた。

②相談内容（令和3年4月～令和4年3月）をおおまかに分類すると、下記のようなった。



昨年度実績と比べると、相談件数・相談実人数ともに減少した。相談対象の年代は85歳以上が多く、世帯は高齢者単身、高齢者同居（65歳以下の家族が同居）が高齢者のみ世帯より多くなっている。相談内容（受け付けた際の主となる内容）を分類すると、昨年度と同様で介護保険関係（認定申請やサービス利用）、次に実態把握・継続支援（民生委員や家族、行政、医療機関からの情報で生活状態の実態確認、サービス利用はしていないが継続的にモニタリングが必要なケースの訪問、会議後の継続的フォロー等）、認知症（家族・地域・警察等から対応相談、徘徊、妄想、車運転等）という順位結果になっている。

相談を受け付け後は、三職種で共有協議し適切な機関・制度・サービスにつなぎ、継続的にフォローし、必要に応じてセンター自らの各業務として対応していった。

さらに相談内容を分析すると下記のような課題が把握されたため、毎月の月次報告で町と共有してきた。

【認知症】

- ・認知症高齢者への対応（強い妄想、理解や接し方、車運転）

【介護・医療に関わること】

- ・介護サービス拒否
- ・男性介護者について（介護力不足、相談の遅れによる状態悪化、孤立）
- ・ヤングケアラー
- ・短期間のリハビリサービスの場の必要性
- ・透析患者である要介護高齢者の通院介助、付き添い支援

・精神疾患独居の医療機関受診支援 ・医療機関受診中断や拒否 ・処方薬について関係機関の連携
【複合的な課題を抱えるケース】 ・老老認認介護 ・高齢者と、その家族（ヤングケアラー、障がい、ひきこもり、アルコール依存、家計管理が困難、多重債務）も含めた支援 ・身寄りがいない、地域との関係が希薄 ・8050問題、9060問題 ・多頭飼育問題（飼い猫の繁殖）
【その他】 ・自宅近所に交流できる人がいなくなった場合の他との交流の機会 ・車運転免許返納後の意欲低下 ・コロナ禍で町外の家族の支援が難しくなった高齢者 ・終末期を在宅で過ごす支援 ・独居高齢男性の居場所作り ・知的障がいや精神疾患の方が高齢者になった時の支援 ・独居高齢者への地域の見守り

③健康支援係から毎年依頼があった介護予防事業実態調査後のフォロー訪問は、今年度はその調査事業が休止であったため行わなかった。しかし、日頃から地域の人々や各関係機関と連携をすることで深刻化する前に早期相談につながるよう努めた。

④今年度から相談受付を24時間連絡体制としたが、実際に連絡の頻度は平均月2回程度であった。殆どがすでに関わっている介護予防マネジメントの利用者や家族等から連絡で、サービス利用についての変更等連絡的なものから、不穏で対応に困っている、転倒して動けないがどうしたらという緊急的なものもあった。また治療を中断していた精神疾患をもつ高齢者から日中深夜を問わず頻回に電話が来る事態もあったため、それについては関係者間で個別ケース会議を開き対応を協議した。

(3) 権利擁護業務

①成年後見制度等に関わる相談は5件あり、多額の債務を抱えたケースについては、現在首長申立準備を進めている。債務整理の対応については、2月に予定されている県社協・法テラス主催のふくしサポート法律相談会にて弁護士に相談予定。また、町やNPO法人主催の成年後見利用促進のための中核機関設置についての検討会や成年後見事例検討会にも参加した。

- ②高齢者虐待対応事例は6件あり、内3件は認知症高齢者が対象。特にネグレクト・経済的虐待疑いケースが多く、背景には介護者の介護力不足（介護者の理判断能力低下）や債務を抱え本人の年金を頼らざるを得ない経済的問題など、世帯で多問題を抱えているため、解決に向け町や関係機関と連携しながら対応にあたった。
- ③消費者被害相談に対する個別ケース相談はなかったが、以前より警察と情報共有していた被害妄想の強い独居認知症高齢者（高額な買い物、金銭に対する執着が強い）のケースでは、投資話などの詐欺に巻き込まれる危険性も高いと警察より助言を受け、家族・ケアマネと情報共有した。

（4）包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- ①町内の介護支援専門員等からの具体的な相談は12件で、その実人数は9人である。対象者のうち高齢者独居は3人、他は家族と同居している方々だった。相談内容は、家族が家計管理難しく生活困窮で高齢者の生活に悪影響を及ぼしていたり、長年介入を拒否している人への支援、高齢者徘徊への対応などだった。事例により、地域ケア個別会議を開催し関係者間で具体的に次の支援を協議したり、包括も同行訪問し後方支援、またGPS等社会資源の紹介をした。
- ②地域ケア個別会議を主催し地域支援ネットワーク構築を目指したことに加えて、包括もそのネットワークの一員として、民生児童委員協議会定例会、須刈ふれあいネットワーク、西会津町生活支援体制整備事業ささえ愛支援会議・3者協議、サロン交流会、啓和会運営推進会議、グループホームのぞみ運営推進会議、高陽の里運営推進会議、福島県生活困窮者自立相談支援事業会議に参加した。昨年度からの新型コロナウイルス感染症の影響は続いていたが、さまざまな分野と連携し、個々の支援については途切れることがないように必要な関係者間で協働した。

（5）地域ケア会議

- ①地域ケア個別会議には、高齢者サービス調整会議、チームアプローチ研修会、ケアマネジメント研修会、個別ケース会議の4つを位置付けている。新型コロナウイルス感染症対応では3密を避ける必要があり、異なる団体から大勢の者が一つの場所に集まり協議する形をとっているチームアプローチ研修は、今年度は実施をしていない。他の3つの会議・研修会は必要性に応じ資料配布のみとしたり、集まる環境や時間を工夫することで開催してきた。
- ②高齢者サービス調整会議は月1回サービス利用の情報共有が主な内容であり、3回は集合型で開催したが、9回は資料の配布のみとした。地域の対応力アップを目的としているケアマネジメント研修会は、感染症対応を徹底し計画通り実施した。事例検討後は参加者が自身のケアマネジメントに活かし、地域課題については意見交換し町に報告した。個別ケース会議は5名の対象者について延べ7回開催し関係者間で協議し、その後の支援につなげた。

- ③「自立支援型地域ケア会議」は2回開催した。薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士、言語聴覚士より、具体的な助言をもらい新たな知識を得ることができた。介護予防に向けて、高齢者やその家族が自ら行動変容することにつながるように、その助言を活かし支援に努めた。

(6) 認知症総合支援業務

- ①改訂版認知症ケアパスを4月に全戸配布し、CATVや広報紙を活用して町民へ周知した他、ガイドブックの活用方法を住民が理解し、今後の生活の中で活用することができることを目的とした『認知症支援ガイド(ケアパス)活用講座』の出前講座を自治区やサロン等16団体に実施した。
- ②認知症ケアスキルアップ研修会は、これまで取り組んできた研修プログラムを応用し、オンラインを活用して外部講師の助言を受けながら、13事業所が事業所単位でチームを作り事例に取り組んでいる。今後取り組み成果を実践事例集として作成し、全事業所に配布予定。
- ③認知症サポーター養成講座は、前年度中止となったサロンと学校関係のみ実施。小学校では昨年度に引き続き、受講後の児童から話を聞いた保護者に振り返りシートに感想を記載してもらい、その内容を町広報紙で紹介した。また、小・中学校の講座では、学校と町内のグループホームをオンラインでつなぎ、児童生徒が実際に入居者と会話をしながら高齢者への接し方を体験する取り組みを実施した。講座受講者には今年度より新たに町独自で作成した受講証カードを配布した。
- ④認知症初期集中支援チームは、今年度相談対応ケースはなかったが、昨年度介入した1ケースの終結後のモニタリング会議を実施した。また、日頃の相談の中で認知症に係る相談の中で気になるケースはチーム員間で情報共有してきた。
- ⑤認知症カフェ(オレンジカフェいいで愛)は、町内5地区ごとに地域に出向いて開催。昨年度同様コロナ禍であるため、参加人数を限定した中での開催であったが、25名の参加があった。今年度は、送迎が必要な方でも参加ができるように、シルバー人材センターに運転業務を委託し、希望者には自宅から会場まで送迎をしたり、住民キャラバンメイト4名の協力を得て、当日の運営を行うことができた。
- ⑥認知症高齢者の見守り体制の整備では、徘徊の恐れのある方に事故防止と早期発見保護につながる捜索システム(GPS端末)を紹介。今年度は3名の方が新たにGPS端末の貸与を受けた。今後、GPS端末が有効活用されているかモニタリング予定。

にしあいづ地域包括支援センター実績報告書 令和3年4月～令和4年3月

※()は前年度4月～3月

1.相談件数(延べ件数)

	来所	電話	訪問	メール・文書	会議	その他	総計
日中	79	1,765	305	41	15	372	2,577(2,743)
夜間	0	51	5	4	0	6	66(32)
総計	79(71)	1,816(1,887)	310(393)	45(30)	15(20)	378(374)	2,643(2,775)
新規(再掲)	22(20)	224(260)	20(63)	9(3)	1(5)	46(48)	322(399)

2.相談実人数

前年度()

	男性	女性	不明	総計
継続	136	185	0	321(315)
新規	130	167	1	298(318)
総計	266(264)	352(369)	0(2)	619(633)

3.年代別(延べ件数)

前年度()

	65歳未満	65～74歳	75～84歳	85歳以上	不明	総計
相談者年齢	50(123)	445(439)	793(649)	1,348(1,552)	7(12)	2,643(2,775)

4.世帯構成(延べ件数)

前年度()

	高齢者単身	高齢者世帯	高齢者同居	その他・不明	総計
世帯構成	942(1070)	702(865)	973(702)	26(138)	2,643(2,775)

5.相談者(延べ件数)

家族	本人	454(491)	近隣 地域関係	近隣住民	33(7)
	配偶者	123(178)		親戚・知人	53(104)
	子供	388(415)		自治会・老人クラブ	0(0)
	子の配偶者	82(103)		商店・コンビニ	3(2)
	兄弟姉妹	65(58)		金融機関	6(1)
	親	9(7)		新聞店	0(0)
	甥姪	25(37)		宅配・交通機関	9(0)
	その他(家族)	42(52)		飲食店	0(0)
関係機関等	地域包括	28(17)	行政関係	その他(近隣)	4(0)
	ケアマネ	201(147)		福祉担当	114(110)
	サービス事業所	216(189)		介護保険担当	340(328)
	福祉施設	0(3)		障害者担当	2(7)
	社会福祉協議会	16(36)		健康増進課	189(167)
	シルバー人材センター	2(21)		初期集中支援チーム	0(0)
	家庭裁判所	0(0)	その他	警察・消防	23(18)
	医療機関	471(487)		NPO・団体	0(0)
	薬局	6(7)		ケース会議	1(1)
	民生委員	62(55)		その他	0(8)
	成年後見人	1(2)	総計		
	その他(関係機関)	30(9)			2,998(3,067)

6.相談内容(延べ件数)

前年度()

	件数		件数
1.日常生活相談	319(258)	14.生活保護・経済的困窮に関する事	29(20)
2.介護一般の相談	47(52)	15.成年後見制度に関する事	9(51)
3.介護保険サービスに関する事	519(529)	16.日常生活自立支援事業に関する事	6(23)
4.介護保険に関する事	581(571)	17.虐待に関する事	51(37)
5.保健・医療に関する事	646(731)	18.消費者被害に関する事	0(0)
6.介護予防事業に関する事	155(124)	19.情報提供・情報共有	1,048(1,048)
7.障害福祉に関する事	6(14)	20.継続観察・実態把握	66(138)
8.施設入所に関する事	58(46)	21.見守り相談	84(69)
9.家族間の問題に関する事	77(40)	22.安否確認	16(11)
10.住宅改修・福祉用具に関する事	83(78)	23.緊急対応	48(28)
11.認知症に関する事	297(235)	24.苦情	2(1)
12.精神疾患に関する事	93(63)	25.その他	140(140)
13.アルコール問題に関する事	9(57)	総計	4,389(4,362)

7.介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント(延べ件数)

○予防給付管理

	介護予防支援	総合事業予防ケアマネジメント
直営プラン	447(516)	289(256)
委託プラン	0(0)	0(0)

○介護予防ケアマネジメント

ミニデイ・訪問型生活援助	315(293)
--------------	----------

8.包括的・継続的ケアマネジメント支援(延べ件数)

前年度()

	ケアマネージャー	サービス事業所	その他
相談・助言	11	10	9
サービス調整	2	1	4
関係機関調整	3	4	11
同行訪問等	11	2	3
医療機関等への同行	1	0	0
担当者会議参加	0	0	0
会議開催支援	8	9	12
連絡・報告	25	26	26
その他	0	3	10
合計	61(42)	55(15)	75(60)

○介護支援専門員や事業所等からの相談内容(実件数)

	ケアマネージャー	サービス事業所等
支援困難ケースについて	1 (1)	1 (1)
ケアマネジメントについて	0 (1)	0 (0)
認知症高齢者への対応	0 (3)	2 (1)
利用者や家族からの苦情	0 (0)	0 (0)
医療・介護の連携	0 (0)	0 (0)
生活困窮・金銭管理	4 (0)	0 (0)
その他	0 (0)	1 (2)
合計	5 (5)	4 (5)

地域ケア個別会議

参加事業所（略の説明）

特養⇒特別養護老人ホームさゆりの園、DS⇒さゆりの園デイサービスセンターⅡ、のぞみ⇒グループホームのぞみ、生支ハ⇒高齢者生活支援ハウス、老健⇒老人保健施設「憩の森」、DC⇒老人保健施設「憩の森」通所リハビリテーション、訪介⇒西会津町訪問介護事業所、居宅⇒西会津町居宅介護事業所、障がい相談⇒障がい相談事業所、レンタル⇒福祉用具貸与事業者、薬局⇒さゆり調剤薬局、訪看⇒西会津町訪問看護事業所、西診⇒西会津診療所、しなのき⇒介護付き有料老人ホームしなのきホーム、しょうぶ苑⇒小規模多機能型居宅介護事業所西会津しょうぶ苑、桐⇒しょうぶ苑グループホーム桐、おとめゆり⇒しょうぶ苑グループホームおとめゆり、高陽の里⇒西会津町小規模多機能型居宅介護施設高陽の里、社協⇒西会津町社会福祉協議会、民協⇒民生児童委員協議会、福祉介護課⇒福祉係・介護係、健康増進課⇒健康支援係、包括⇒にしあいつ地域包括支援センター

【高齢者サービス調整会議】

<目的>

地域の高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるように、地域の関係機関が集まり、地域のサービス利用状況や各事業所が抱える課題等の情報を共有し、解決に向けた連絡調整や役割分担を図り、必要な地域づくり・資源開発と、政策形成につなげられるようにすることを目的に開催する。
※今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、重要議題が無い場合は書面で確認し、お知らせ等の周知がある場合は資料と共に配付し、情報共有を図った。

開催回数	参加事業所	内容
12回 (通常の会議 は4・10・11 月のみ開催)	特養・DS・のぞみ・生 支ハ・老健・DC・訪介・ 居宅・訪看・西診・薬局・ しなのき・しょうぶ苑・ おとめゆり・桐・高陽の 里・社協・民協・福祉介 護課・健康増進課・包括	・各機関の利用情報 ・各事業所からの近況 ・R3年度包括主催の会議や研修会の日程について ・第8期介護保険事業計画・第9期高齢者福祉計画（令和3～5年度）について ・緊急通報システムについて ・R3年度西会津町認知症ケアスキルアップ研修会について ・医療からみた町の課題と対策について ・KDB(国保データベースシステム)から見た町の健康課題と取組みについて ・コロナワクチン接種及び感染拡大防止に向けた取組みについて ・高齢者生活支援ハウス入居希望者について ・冬期間の憩の森入所について

【個別ケース会議（困難事例）】

<目的>

解決すべき課題や多問題を抱えた困難事例のケースについて、各専門職、団体や関係機関と連携を図り、個別支援及び地域課題を意識しながら迅速な課題解決に向けての支援につなげる。

開催回数	参加事業所	開催日・対象者	内 容	地域課題	結果・その後
7回	福祉介護課、健康増進課、特養、訪看、居宅、高陽の里、老健、のぞみ、桐、おとめゆり、訪介、DS	①4月21日 87歳（女性）	本人（要介護5）と長男（60代前半）の二人暮らし。栄養状態不良から衰弱、褥瘡が悪化しているが経済状況から十分な介護サービスを利用できない。加えて長男の介護力不足や劣悪な住環境の問題もある。現在、緊急にショートステイ利用中であるが自宅に戻れば再度衰弱死に至る心配があり、本人長男共に施設入所を希望していることから居宅、特養、訪看、福祉介護課、包括で現状を共有し課題解決について協議した。長男からの聞き取り等から多重債務や税金等の滞納、自宅が抵当に入っていることが確認され、また介護力も期待できない。そのため、今後の対応として①現在満床である特養に緊急的に入所が必要であることから措置入所を福祉介護課内で検討してもらう、②現在ショートステイ利用中だがそのまま施設入所になることもあることについて長男の意向を確認、③長男には世帯分離し母親の生活安定のため生活保護申請について福祉係に相談に行くように促していくことの3点となった。	複合的な課題（男性介護者、多重債務、地域との関係希薄）	4月23日に長男が本人の生活保護を申請。本人の生命の安全を最優先し老人福祉法に基づきやむを得ない措置入所が必要と町で判断がなされ、4月26日に特養に措置入所となった。

		②10月19日 83歳（女性）	本人（認知症・要介護2）と配偶者と長女の世帯。本人が同居家族に対して暴言や暴力行為があり、家族も精神的負担が大きく苦慮している。これまでの経過と現在のサービス利用状況（小規模多機能居宅介護を利用中。「通いサービス」中心だったが、1か月前から家族のSOSに応じ「泊りサービス」で自宅に帰るときを少なくしている。）を高陽の里、老健、のぞみ、桐・おとめゆり、福祉介護課、包括で情報共有し、今後について協議した。町内・外の老健、認知症対応グループホームには数か所申し込みはしているがそれぞれ待機者があり、すぐに入所は難しい。小規模多機能居宅介護施設は「通いサービス」がメインのため、1か月の大半を「泊りサービス」で過ごすことは適正ではないが、本人は利用中落ち着いて過ごしていることや虐待の未然防止のためにもこのまま「泊り」利用を継続しつつ、グループホームに空きができた際には速やかに入所するように家族に話していくこととした。	BPSDの強い 認知症高齢者 への対応	会議後も高陽の里の「泊りサービス」をメインで利用し、自宅には月に1～2回1泊帰宅で過ごしていた。令和4年2月7日に町内グループホームに入所した。
		③11月19日 66歳（男性）	本人（精神疾患あり）と要介護高齢者の母（要介護3）の二人暮らし。元々町内在住であったが3月に県外の弟宅に要介護の母親とともに転出、10月20日に戻ってきた。県外に行っている間、精神科通院・服薬を中断しており、帰町後母親の介護サービス支援や本人の受診再開のための支援をしていた地域包括支援センターに昼夜問わず精神不安定な状態で電話を頻繁によこすようになった。自殺企図があり精神科受診につなげたが、本人が入院を拒否し入院	精神疾患者の 継続的なフォ ロー	会議の翌日の夜間に、町内在住の姉から「本人が希死念慮で入院したいと言っている。」と地域包括支援センターに連絡あり。前日受診した医療機関と連絡調整し、同日深夜に入院となり令和4年1月7日退院。

	治療に至らなかったもので、健康増進課、福祉介護課、包括で今後について協議した。医師とは入院しない代わりに1週間後の次回受診までの約束ごと（服薬をきちんとすること、包括に昼夜問わず電話をする迷惑行為をしないこと等）をしてきており、それを破った場合は支援者である親族に連絡することや、本人は介護サービス対象ではないので今後のフォローは健康増進課が引き継いでいくこととした。		
④12月23日 90歳（女性）	本人（要介護1）と長男（60代前半）の世帯。生活困窮課題のため平成30年10月に個別ケース会議を開き生活保護受給となったが、令和3年2月に廃止。世帯の金銭管理は長男が行っているが、生保廃止後本人の介護サービス利用料や医療費等の滞納が増えサービス提供継続が困難となっているため、関係機関（居宅、DS、訪介、西診、福祉介護課、健康増進課、包括）で情報共有し、今後の対応を協議した。食事面や衛生環境面で劣悪な状況で、さらに本人は心不全が増悪し命の危険にさらされている。同居の長男は理解判断力が難しいため、今後も介護サービスを利用継続するためにも滞納状況については県外在住の子供たちに伝え、その際に成年後見制度の活用を説明していく。また、長男は知的障がい者である別居の孫の金銭も無心している状況なので孫の支援者である関係者とも情報共有していくこととした。	複合的な課題 （知的障がいのある男性介護者、適切な家計管理困難、地域との関係希薄）	介護サービス利用料の滞納分は県外の子供2人のうち一人が支払いをした。成年後見制度についても説明したが、制度を利用した場合に本人の年金をあてにして生活している長男のその後の生活を心配していた。本人の栄養・衛生状況は変わらず悪いので、再度個別ケース会議をすることになった。→⑤へ。

		⑤ 1月14日 90歳（女性） ※④と同様の対象者。	④の対象者。同居の長男は適切な金銭管理ができず、これまでの本人分の介護サービス利用料滞納分は県外の子供2人のうちの一人が支払ったが決して余裕のある状況ではない様子。本人の劣悪な自宅環境は改善されず、心不全の悪化も見られているので、居宅、DS、福祉介護課、包括で再度今後について協議した。利用料の滞納が解消されればデイサービス利用は可能であるが、一時的なサービスでは本人の生命を保護することは難しく長男の介護も期待できないため、現在おかれている劣悪な自宅環境から分離を進めることになり、施設入所し長男と世帯分離・本人の生活保護申請が望ましいとなった。	④と同様	会議後に、本人と長男、県外在住の子供の意向を確認、施設入所を希望したため、1月22日から特養へ措置入所となった。2月10日に契約入所に移行、世帯分離し、本人分の生保申請となった。
		⑥ 2月4日 72歳（男性）	独居（介護申請中）。自宅では水道契約をしていないため水が使用できないこと等で入浴できず、バスでロータスインを利用しているが便失禁や性的逸脱行為があるため利用を拒否されている。また多重負債など多くの問題を抱えているため、今後適正な生活を確保するための支援について、福祉介護課、居宅、DS、包括で協議した。当面の間、デイサービスを毎日（開館日）利用し食事や入浴・洗濯の機会とすることとした。さらにこのまま自宅での生活は環境面等から難しく、本人も自宅の生活を希望していないので、今後は支援ハウスや施設を選択肢にいれつつ生活の場をどうするかを検討していくことにした。	複合的な課題 （独居男性高齢者、多重債務、身寄りが ない、近隣との関係希薄）	デイサービスを利用するようになり、金銭管理についても成年後見制度申し立ての準備に入った。ただし本人は生活への意欲がなく、歩行の不安定や排泄の汚染があり、家計管理も難しい現状。そのため3月15日に第2回目の個別ケース会議を開催することにした。

		⑦3月15日 72歳（男性） ※⑥と同様の対象者	⑥の対象者で、要介護1。前回の会議後の対応結果と現状の共有、今後の対応を協議するため、居宅、福祉介護課、DS、包括で第2回目の会議を開催した。デイサービス利用に向けて居宅ケアマネ等が準備の支援を行い、2月16日から利用開始。多額の負債については福祉サポート法律相談会に本人とともに福祉介護課と包括が同行し参加、成年後見制度の申し立てをすることが急務となった。本人の現状は意欲低下、歩行不安定、排泄汚染、めまい等の体調不安定がある一方で、パチンコに行ったり出前で食べ物を頼むのことは自主的に行う様子あり。ただし、このまま水のでない自宅で生活することは困難なことや、本人自身も安いところを探してほしいという意向もあるため、グループホームへ入所申込をすること、入所に至るまでは在宅サービスを利用しながら支援ハウスに入居できないか町で検討してもらうことになった。	⑥と同様	グループホーム2か所、老健1か所の入所申し込みを行った。入所の順番がくるまでは支援ハウス入居より、小規模多機能型居宅介護施設の柔軟な生活支援で支えることになり、4月10日から利用開始となった。
--	--	---	--	-------------	---

【ケアマネジメント研修会】

<目的>

高齢者のみの世帯やひとり暮らしが増加するなか、介護が必要になったとしても、また認知症になったとしても、できるだけ住み慣れた地域で生活できるための仕組み作りが求められている。個別の事例の検討を通じ、個々のニーズに応じて必要とされるサービス（インフォーマルを含む）を適切に結びつけ調整を図りつつ包括的かつ継続的にサービス供給を確保できるように、地域の対応のスキルアップを目指す。

開催回数	参加事業所	内 容 ※（ ）内は事例提出事業所	地域課題
8回	居宅・包括 福祉介護課 健康増進課 特養・老健・ のぞみ・訪介・ 高陽の里・ DC・DS・社協・ 会津保健福祉 事務所	6月 77歳男性。事業対象者。家族同居。自立度J2 認知度Ⅱb。ミニデイサービス週2回通所中。ADLは自立しているが物忘れの進行が顕著。他者との交流や役割を持ちながら楽しく通所しているが、妻は本人の状況が理解できず、世間体を気にしたり悲観的になって受容できていない。認知症が進行していく本人にとっての心地良い環境づくりと、認知症の受容が進まない介護者への支援の検討。（地域包括） ※その他、令和3年1月と2月に事例検討した2ケースの振り返り報告。	認知症かもしれないと悩んでいる段階での家族への支援・介護者が気軽に相談できる場の提供
		7月 自立支援型地域ケア会議 助言者：薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士 ① 88歳女性。要支援1。独居。自立度J1 認知度Ⅰ。 テーマ「大好きな畑を続け、自分で料理をし、美味しく食べ、元気に一人暮らしが続けられるために」（地域包括） ② 81歳男性。要介護1。妻と二人暮らし。自立度A1 認知度Ⅰ。 テーマ「パーキンソン症候群と付き合いながら、自分でできることを続けるために」（居宅）	
		8月 70歳女性。要介護3。独居。自立度J1 認知度自立。アルコール依存症で入院後から、住み慣れた自宅から離れて違う環境での生活となった。飲酒をする機会を作らないように、従弟と介護サービスが支援しているが、話し相手がいなく、自由に外出することもできず「籠の鳥だ」との言葉が何度も聞かれ、精神的なストレスも増大	今までの生活場所から変化した際の人とのつながり・インフォーマルサービスを活用した人間関係の再構築

	している方へ、生きがいを持った生活を送ってもらうための支援の検討。(居宅) ※その他：R2年11月に事例検討した2ケースの振り返り報告。	
	10月 自立支援型地域ケア会議 助言者：薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士 ① 90歳男性。要支援1。妻と二人暮らし。自立度J2 認知度自立。 テーマ「下肢筋力を維持し、自立した生活を送るために」(地域包括) ② 86歳女性。要支援2。家族同居。自立度A2 認知度I。 テーマ「多くの疾患を抱え、薬を多用している高齢者の身体レベルを維持していくために」(地域包括)	
	12月 89歳男性。要介護3。グループホーム入所中。自立度J2 認知度Ⅱb。他の利用者の行動・言動に対し、苛立って怒鳴ったり、殴ろうとしたりする方に対して、施設内で何度も検討しながらケアをしてきたが、なかなか良い方向に向かない状況のため、助言やより良い支援方法の検討。(のぞみ) ※その他、6月と7月に事例検討した2ケースの振り返り報告。	介護が必要になる前の地域での様子を、気軽に開ける環境作り
	1月 68歳女性。要介護1。独居。自立度J1 認知度自立。統合失調症の診断を受けており、町外の専門科を受診している。日常生活動作は特に問題なく生活しているが、閉じこもり傾向で受診ができておらず、必要な内服もできていない。本人が受診に行く気になるためのアプローチ方法の検討。(居宅) ※その他、7月と8月に事例検討した2ケースの振り返り報告。	専門医の受診支援や診療体制・障がい支援から介護保険に移行しても切れ目のない支援を・精神障がいにも地域包括ケアシステム
	2月 71歳男性。要介護2。妻と2人暮らし。自立度A1 認知度自立。パーキンソン病があり、昨年は腰椎圧迫骨折で入院。リハビリ継続のために通所リハビリを勧めるが「人の目が気になる」と拒否し、訪問リハビリを利用中。自主トレメニューは進まず、腰痛の悪化と歩行状態の低下が見られてきた。本人がリハビリに取り組めるためにはどのような支援があるか。 ※その他、10月に事例検討したケースの振り返り報告。	年齢が比較的若い人が気軽に行ける短時間でのリハビリの場・要介護認定結果に関わらず短時間集中的にリハビリができる場・オンラインを活用したリハビリ

		3月 ①100歳女性。要介護3。家族同居。自立度B2 認知度Ⅲa。H27より介護保険サービス利用開始し、老健施設の入所やショートステイを繰り返し利用。徐々に身体状況が低下し介護負担も増していたが、R4.2月のショートステイ利用時に永眠。 ②95歳女性。要介護4。家族同居。自立度B2 認知度Ⅱa。H24より介護保険サービス利用開始。転居により生活状況や介護者にも変化があったが、ベッドから転落し骨折したためサービス利用方法について検討が必要になった。 ①・②の2ケースを通して、それぞれの立場の中での寄り添い方や寄り添えたと思える時はどんな時なのかを共有し、振り返る。 ※その他、令和3年度に実施した研修会事例から考えられた地域課題の共有。	効果的なサービス利用について・ケアマネジメント力のスキルアップ
--	--	--	--

【高齢者虐待対応事例】

対応件数	対象者	内容	対応・結果
6件	① 71歳 女性 介護申請なし	長男と要介護4の弟との3人暮らしで、弟宅で生活している。深夜まで飲酒をしていた長男に対し、本人が注意した所、憤慨した長男が就寝中の本人に水を掛け揉み合いとなり、長男から髪を引っ張られたり、リモコンで頭部を殴打などの暴行を受け、本人が警察に通報。その後、警察から町に通報があった。	長男から逃れるため、本人は要介護の弟と一緒に一晩県外のホテルに宿泊したが、弟は車椅子生活のため介護できる環境でなければ生活が難しい状況。本人は「長男にはすぐにでも家を出て行ってもらいたい」との意向であるが、長男と連絡が取れなく、今後の滞在先確保もできない状況であったため、緊急避難としての一時滞在場所として生活支援ハウスを町が提供。その後、長男が自宅を出たため、本人と弟は自宅に戻り生活を再開する。終結。
	② 92歳 女性 要介護5 認知症	長男夫婦と3人暮らし。H29年に右大腿骨転子部骨折を機に介護申請。デイサービスを利用していたが、長男の妻が就労を辞めてからは、様々な理由をつけサービス利用を休むことが多くなっていた。長男は脳梗塞の既往とアルコール依存傾向で本人に対し口調が荒い。R3年に入り自宅で転倒し頭部裂傷。家族は気づかなかったとの理由で長時間放置され翌日救急搬送。外傷性くも膜下出血・低体温症のため入院。退院後も身体に内出血や縫合する程の外傷を負うこともあり、家族に確認しても状況が分からず、家族による適切な処置も行われていないため、ネグレクトが疑われていた。久しぶりにデイサービスに通所した際、身体に内出血や外傷が多数あり、開眼・会話も出来ず衰弱状態。翌日ケアマネが自宅訪問すると、長男の妻から「本人は体調が悪いから」と訪問を拒否され安否が確認できなかったとケアマネから通報。	高齢者虐待対応緊急会議開催。健康増進課保健師と福祉介護課社会福祉士が安否確認と事実確認に訪問。本人は一部介助にて離床し、意識レベル低下はなくバイタル異常なし。顔面や腕に多数の内出血と外傷・臉の腫脹あり。長男の妻に外傷等の理由を確認すると「いつも見ている訳でないので分からない。すり傷程度で済んでいる。」との返答。施設や訪問介護等の利用について提案するも「自分達でできるので考えてない。自分が最期まで看たい。以前より動かなくなったが早く寝たきりになって欲しい。その方が楽なる。」と拒否。主治医へ状態報告し、医療的に緊急性はないため傷の状態はデイサービスで経過観察の指示あり。長男の妻の判断力・介護力不足によるネグレクトであるとの判断。継続的な支援が必要ため、長男と面談した矢先に長男が交通事故を起こし入院・死去。長男の妻のみでは介護が困難なため、本人は入院を経て長女が申込みした町外の施設に入所。終結。

③ 87歳 女性 要介護5 認知症	長男と2人暮らし。個別ケース会議①事例。 長男に介護力が不足しているが、長男は多額の負債を抱え生活が困窮し、十分な在宅サービスが利用できない状況。在宅生活は衰弱が進行し、施設入所を希望しているが、本人の年金だけでは支払いできない状況。ネグレクト・経済的虐待疑い。	個別ケース会議の結果で、本人の尊厳を守るため、世帯分離・生活保護申請・施設入所が必要なケースとして、特別養護老人ホームに措置入所。高齢者虐待対応評価会議にて、措置入所までの各事業所の関わりと、入所後の現状について関係者間で情報共有。その後、特別養護老人ホーム契約入所・生活保護申請となり措置解除。終結。
④ 73歳 女性 介護申請なし	以前は長女家族と同居していたが、現在は独居。年金支給日になると長女の夫と孫が訪問し、金融機関や買い物に送迎支援を行い、本人は長女世帯分の買い物代や長女の夫へガソリン代の援助をしていた。長女家族同居時代からの多額の水道光熱費・税・亡き夫の入院費等の債務を抱えているため、年金だけでは生活が苦しいと町に相談あり。生活保護申請手続きのため紛失している通帳を再発行した所、年金支給日に複数回に分けて払戻された形跡あり。年金の払戻は長女の夫にキャッシュカードを渡して払戻をしてもらっていたが、本人が手渡された現金以上に払戻されていることが発覚。経済的虐待疑い。	高齢者虐待対応協力者会議開催。事実確認のため福祉介護課社会福祉士と同行訪問。本人と立ち会った妹夫婦には生活保護対象外であったことと、長女の夫による金銭搾取が疑われることを説明。妹から長女に連絡し、事実確認をしてもらった結果、長女の夫は金銭搾取を認めた。本人に金銭管理能力や理解力の低下が著明であり、債務返済も長年できていないことを踏まえ、成年後見制度利用を紹介するも躊躇されたため、日常生活自立支援事業（あんしんサポート）を紹介。日常生活自立支援事業の利用は希望されたため、社協につなぐ。日常生活自立支援事業の利用開始により、適切な金銭管理と債務返済が行え、その後長女家族も県外へ転出したことにより終結。

⑤ 90歳 女性 要介護1	長男と2人暮らし。個別ケース会議④・⑤事例。 長年生活困窮した生活を送っており、一時は生活保護を受給。世帯の金銭管理は長男が行ってきたが、生活保護廃止以降、本人の介護サービス利用料や医療費の滞納が増加。心不全が増悪し個別ケース会議にて、本人の生命保護を最優先し、劣悪な自宅環境からの分離するため特別養護老人ホームへ措置入所。	高齢者虐待対応評価会議開催。措置入所後の現状共有と方向性を協議。本人は家に帰りたい強い希望はあるが、長男は介護が出来ない。自宅では心不全悪化が予測され、受診も金銭の捻出が難しく本人の望む医療・介護を受けるためには生活保護受給が求められるが、長男が生活保護受給を拒否している以上、2人世帯では申請が難しく、特別養護老人ホームまたは有料老人ホーム入所により世帯を完全分離しなければ申請はできない。結果、本人は特養入所により生活保護申請により、生活面・経済面での安定を図ると共に、本人の意思を尊重するためにも契約入所後も関係者で本人の意向を聞き向き合う時間を確保し、寄り添う支援をしていくこととし、会議結果や特養契約入所への移行については、町から長男・長女・二女へ説明。長男には契約入所手続きに町が立ち合い支援。特別養護老人ホームに契約入所となった。
⑥ 100歳 女性 要介護3 認知症	長男夫婦・孫の4人暮らし。平成27年に介護認定を受け、長年介護サービスを利用してきたが、直近ではショートステイと福祉用具貸与のみ利用。主たる介護は長男が1人で行っていた。ショートステイ入所時に低体温状態でバイタル測定不能。顔面・上腕には内出血あり。自宅は暖房もなく極寒で身体が温まると痒みが出るとの理由から電気毛布も使用していない。食事・水分も取れていなく衰弱状態。1週間前のショートステイ利用時より約3kgの減少。ショートステイ事業所より通報。	本人の状態及び施設職員より送迎時の在宅での状況を確認。入所後は全身低体温状態で保温。呼名反応あり、自ら口を開け水分を求める様子あり、ベッド上で介助にて水分を摂取。送迎時に長男から直近1週間の在宅での介護が大変だったと話を受けていた。本人は入所数時間後には経口摂取困難、呼名反応低下。主治医の診察後、長男に状態説明あり。長男より病院転送は望まず施設での対応継続希望あり。明朝、呼吸停止・死亡確認。高齢者虐待対応個別ケース会議開催。通報からの経過と世帯情報の共有と、今後の世帯への関わりについて協議。同世帯には障害を抱えた孫がいるが、障がいサービスの利用がなく、生活ぶりが確認できないため、今後は町保健師や町役場障がい担当が世帯に介入予定。

【成年後見相談事例】

相談件数	対象者	内容	対応・結果
5件	① 89歳 男性 要介護2 認知症	老夫婦世帯。子供なし。89歳男性が世帯の財産管理をしていたが、骨折により入院。要介護状態となり施設入所。所有している車や保険等の解約手続きが困難。	前年度より継続事例。夫婦共に行政書士の保佐人・補助人が選任されたため、ケアマネ主催のサービス担当者会議に同席し、保佐人（補助人）・ケアマネ・サービス事業所・民生委員・社協・行政等の関係者と保佐人等の役割や、今後の対応について話し合い引き継ぎを行った。
	② 86歳 女性 要介護1 認知症	86歳女性が独居となり世帯の財産管理を担っているが、紛失や支払い手続きができなく滞納するなど、適切な財産管理ができない状況。入院・介護サービス利用時の契約・支払い行為等も支援が必要。	
	③ 85歳 女性 要介護1 認知症	一人っ子で幼少期に両親を亡くし、身寄りなし。婚姻歴もない。以前勤めていた雇主が経営するアパートの2階で生活しているが、整形疾患があり階段昇降が困難になってきた。頼れる親族もいないため、以前入院した際の契約時はやむを得ず大家が代行した経過あり。本人より経済困難の相談があり、令和3年1月より生活保護受給となったが、収支管理や書類管理が十分にできなく、手元に現金があるとお金を使い過ぎてしまう。	本人の現状を共有し、成年後見制度の必要性について本人・大家・ケアマネ・サービス事業所・行政担当者との協議。今後身体機能が低下し、アパートでの生活が困難になった際は、介護施設入所を希望しており、入所申込等の契約行為が発生した際には後見人等が必要になる可能性があることを共有。今後の状態を確認しながら、成年後見首長申立を町で進めていく予定となった。

④ 73歳 女性 介護申請なし	高齢者虐待対応協力者会議④事例。 長女の夫による度重なる金銭搾取が疑われたため、高齢者虐待対応協力者会議が開催され、本人の金銭管理能力や理解力、滞納分の返済が長年できていないことを踏まえ、成年後見制度等の利用を紹介。	福祉介護課職員と同行訪問し、本人・妹夫婦と面談。本人の現状を考慮すると、成年後見制度利用が望ましいことと、パンフレットを用いて制度を説明。長女家族との関係性を考慮し、現時点で成年後見制度利用を親族申立てを進めることに躊躇されたが、今後も長女の夫からの金銭搾取が起こる可能性も考慮し、日常生活自立支援事業（あんしんサポート）を紹介。日常生活自立支援事業の利用は本人・親族とも希望されたため、社協につなぎ利用開始となった。
⑤ 71歳 男性 要介護1 認知症	独居。離婚・退職・親の死以後生活は乱れ、親族・地域住民との交流もない。自宅環境は水も使用できない状況にあり、長年公衆浴場へ行って入浴と飲酒・食事をしながら1日過ごすことが日課。光熱通信費の支払い遅れや税滞納・消費者金融等からの貸付など、多額の負債を抱え、介護サービス利用にあたっては契約行為に課題がある。	バスの車内や公衆浴場での便汚染等、公共の場での多問題が確認され相談が相次いだことより、行政と介入。居住環境・健康面・経済面・契約行為等複数の課題を把握。入浴の機会を通所サービスで確保するため介護認定申請支援を行うが、金銭管理・契約行為に対する理解・判断能力が乏しい。実子とは離婚後より疎遠。姉妹も高齢になり遠方在住で本人の支援は不可な状態であるため、成年後見制度首長申立準備中。

【西会津町地域包括支援センター連絡会】

西会津町における地域包括ケアの構築のため、にしあいづ地域包括支援センターの業務が円滑に運営できるよう「西会津地域包括支援センター連絡会」を行う。

開催回数	参加事業所	内容
12回	福祉介護課（地域包括支援センター担当者）、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員	毎月、ミニデイサービス、生活支援体制整備事業に関すること、認知症対策と認知症地域支援推進員、地域ケア会議、地域福祉活動、新総合事業に関すること等について情報共有や検討した。 ※上記のほか、主な内容 （4月）認知症サポーター養成講座（学校関係や自治区・職域関係、オレンジリングや受講証明書の検討）、認知症ケアパス改訂版の周知について、認知症カフェの開催について （5月）新型コロナウイルス感染拡大防止対策について、自治区における移動販売実施状況について、6月開催の自立支援型地域ケア会議について （6月）認知症サポーター養成講座（小学校・自治区対象）、令和3年度認知症カフェ実施計画について、緊急連絡カード配備対象者の明確化と内容更新について、自治区主催での食事会アンケート集計結果報告 （7月）認知症サポーター養成講座（役場職員を対象とした検討）、認知症ケアスキルアップ研修会について（先進地の事例を参考に）、認知症カフェ開催について、地域包括支援センター運営協議会について （8月）西会津中学校の認知症サポーター養成講座オンラインを活用した研修について、サロン交流会について、広報9月号特集記事掲載について （9月）認知症ケアスキルアップ研修会の取組みについて検討、徘徊高齢者・障がい者検索システム（GPS 端末機）貸与について、10月開催の自立支援型地域ケア会議について （10月）認知症サポーター養成講座（西会津高校）、認知症ケアスキルアップ研修における取組みの説明方法等の検討、認知症カフェについて （11月）認知症サポーター養成講座について、認知症ケアスキルアップ研修におけるオンラインワークショップについて、認知症カフェ開催について （12月）認知症サポーター養成講座結果報告、キャラバンメイト事務局打合せについて、認知症初期集中支援チームの会津管内の相談状況について、ミニデイにおける理学療法士の助言指導について （1月）認知症キャラバンメイト連絡会について、要支援者・事業対象者のサロン参加状況について、コロナ感染症拡大防止に向けた通いの場の開催における留意点について

		(2月) 令和4年度にしあいづ地域包括支援センター事業計画(案)について、要支援者・事業対象者でサロンに通っている人数について、ミニデイサービスでの足湯について、令和4年度生活機能チェックリストに関する検討、チームオレンジの設置について (3月) 地域包括支援センター運営推進会議について、認知症キャラバンメイト打ち合わせ会について、認知症ケアスキルアップ研修取り組み事例集の進行状況について、地域ケア個別会議からの地域課題への対応について
--	--	--

【令和3年度 各種団体やサロン等における講話実施状況】

開催回数	実施月及び団体等（参加人数）		内容及びトピックス
9回	5月	健康運動推進員（26人）	テーマ「認知症支援ガイド（ケアパス）活用講座」 5年前に配付された支援ガイドが今年改定され、本人や家族、地域の心構えについて、新たなサービスや事業について説明。認知症予防の大切さを伝えた。
	7月	新郷いきいき倶楽部教養講座（2人）	テーマ「認知症支援ガイド（ケアパス）活用講座」 介護の経験があった参加者より自身の経験話をされたり、町外に住む親族に認知症の初期症状があるので、まめに連絡をし、声掛けをしていきたいとの声が聞かれた。
	9月	サロン交流会（全5回）	令和3年3月に改訂された西会津町認知症支援ガイド（ケアパス）についての周知、及び地域包括支援センターで行っているサロンメニューについて紹介。併せて地域包括の事業内容、活動状況等について説明し、高齢者の身近な相談窓口である事を紹介した。
	9月	民生児童委員高齢者部会（6人）	テーマ「認知症の高齢者との接し方・相談の受け方」 9月は世界アルツハイマー月間で、町の広報にも認知症について紹介されている事にも触れつつ、間違った接し方は症状を悪化させてしまうため、様々な場面や状況での対応のポイントについて紹介した。
	11月	須刈ふれあいネットワーク（17人）	テーマ「認知症支援ガイド（ケアパス）活用講座」 日頃の見守り活動の中で気になる人がいるがどのように声掛けし、どこに相談したらいいのかとの質問があった。協力員や世話人、民生委員、区長等の役員と情報共有しながら、ケアパスに記載されている相談窓口に相談して貰うよう伝えた。
開催回数	実施月及びサロン（参加人数）		内容及びトピックス
17回 ※延べ参加人数は175人	4月	縄沢サロン（12人）	テーマ「もしものときのために」 人生会議は国が推奨し、コロナ禍で更に重要視されている事を伝えた。元気な時に大切にしている事や希望する治療・ケアを自分の信頼している人に話したり、エンディングノート等を書いておくことで、自分の気持ちを表現できなくなった時に残された人達の判断の助けになる事を伝えた。また生前にエンディングノートの的なものを書いていた事で遠方在住の子供達がそれに基づき葬儀や家の整理をする事ができたエピソードを紹介した。

4月	中町サロン (10人)	テーマ「認知症支援ガイド (ケアパス) 活用講座」 本人や家族、地域の心構えについて、今回追加記載されている新たなサービスや事業について説明。見方や相談先等について分かりやすく説明した。
5月	小杉山サロン (8人)	テーマ「認知症支援ガイド (ケアパス) 活用講座」 小人数の自治区だが、今後はデジタルを活用した見守りができれば良い事や、つながりがあることで認知症になっても安心して生活できるという感想が聞かれた。
6月	原町しあわせサロン (13人)	テーマ「認知症支援ガイド (ケアパス) 活用講座」 独居の高齢者の支援や SOS の察知の仕方について質問があった。地域の方々が日頃から行っている見守りや気づきが大切である事を伝え、夜になっても電気がつかなくなったり、新聞が何日も溜まっている等、いつもと様子がおかしいと感じたら役場や包括、警察に連絡を頂くよう伝えた。
6月	森野サロン (11人)	テーマ「認知症支援ガイド (ケアパス) 活用講座」 認知症の方を介護する家族が抱え込み、虐待するような時の対応について質問があった。介護者が孤立しないように、地域の中でも日頃から声掛けや見守り合える関係を築いていく事が大切である事を伝えた。
6月	1町内サロン (16人)	テーマ「認知症支援ガイド (ケアパス) 活用講座、介護保険及び介護施設について」 認知症サポーター養成講座を過去に受講したが忘れてしまったと話があった。数年後に再受講を希望される自治区やサロンもある事を伝えた。
6月	いいでサロン (8人)	テーマ「認知症支援ガイド (ケアパス) 活用講座」 離れて暮らす子供にも支援ガイドを読ませたいとの感想が聞かれた。サロン以外でも見守りを兼ねたお茶飲みや外出をする習慣があり、高齢でも役割や交流があり、お互いの事を気にかけている風土があった。
6月	健康ふれあいサロン (12人)	テーマ「認知症支援ガイド (ケアパス) 活用講座」 親しい関係ではない近隣の立場で、関わって欲しくないと思っているかもしれないが気になるケースの場合、包括に相談しても良いのか？との質問があった。相談者が特定されないように、介入の方法についても関係機関と検討しながら対応している事を伝えた。

6月	極入サロン (7人)	テーマ「もしものときのために」 何種類かのエンディングノートの紹介をし、興味深く見入っていた。参加者に大切にしたい事や生活の中で工夫している事等についても情報共有した。参加者からは男性の参加者が居ない事を心配されていた。
6月	中ノ沢サロン (8人)	テーマ「認知症支援ガイド (ケアパス) 活用講座」 認知症ケアパスの使い方が分かり、困っている方への相談対応、相談先も分かり良かったとの声が聞かれた。
7月	芝草いきいきサロン (13人)	テーマ「認知症支援ガイド (ケアパス) 活用講座」 認知症予防に生活習慣病対策、血管を労わるように薄味を心がけ、低栄養にならないように蛋白質もしっかり摂取するよう伝えた。心も体も元気でいられるようサロンに参加したり運動も続けるよう伝えた。
7月	中野サロン (7人)	テーマ「認知症支援ガイド (ケアパス) 活用講座」 ケアパスの見方を説明した際、内容が盛りだくさんで忘れてしまうとの声が聞かれたため、目次を見て必要な部分を随時見て頂くよう伝えた。
8月	黒沢サロン (15人)	テーマ「認知症支援ガイド (ケアパス) 活用講座」 独居の認知症の方がいるが、周囲の協力の下、生活出来ているとの話があった。普段の生活の中でも食事や運動、つながり (サロン) を大事にしたいとの声が聞かれた。
8月	西林サロン (10人)	テーマ「認知症支援ガイド (ケアパス) 活用講座」 認知症の家族を介護されている方より、徘徊をした際は自治区の人達に探して貰い大変お世話になったとの話があったが、万が一外出したまま戻らない、行方が分からない場合は早めに警察に相談する事が早期発見につながり、命を守る事につながる事を伝えた。
8月	大久保サロン (6人)	テーマ「認知症予防」 認知症予防にはサロンに楽しく参加・交流を続け、運動をする事を今後も続けて欲しいと伝えた。認知症カフェについても触れたが、機会があれば参加したいとの声も聞かれた。
11月	滑沢さくらサロン (10人)	テーマ「認知症支援ガイド (ケアパス) 活用講座」 自分の最期の時にはどうしたいか、伝えられるうちに信頼できる人に伝えておく事が大切であると伝えた。また介護者は一人で抱え込まないように、周囲に相談・支援を受ける事も大事であると伝えた。

	R4. 3月	高目サロン (9人)	テーマ「もしものときのために」 病気をしたり介護が必要になった場合に、どのような治療を望み、どこで治療や介護を受けたいかを、元気なうちに大切な人と話し合っていくことが必要であることを伝えた。「もしものとき」に備えて、国が人生会議を推奨していることと、エンディングノートを紹介し、実際に自身の「大切なこと」を各自記入し3人の方に発表してもらった。
--	-----------	------------	--

【令和3年度認知症サポーター養成講座実施状況】

開催回数	対象者	トピックス
4回	上谷サロン 10人	前年度実施予定としていたが、豪雪のため急遽当日中止となり今年度開催。平成25年開催以降8年経過しており、改めて他人事でなく自分事として聞いてもらえた。数年経過している自治区には積極的に実施していく必要を感じた。耳の遠い方や認知症初期の方も参加されており、従来のやり方を実施していくと共に、参加された方ができるだけ理解できる講座にするための工夫も必要であり、高齢化率が高い地域住民のためチームオレンジへの次のステップアップは難しい地区であると感じた。
	西会津小学校6学年(児童・教員) 40人	高齢者と同居し認知症という言葉を知っている児童もいれば、知らない児童も半数程いた。演習では小学校とグループホームのぞみをオンラインでつなぎ、児童たちが実際に入所者と会話をしながら高齢者との接し方を体験した。代表児童が声掛けの例を参考にタブレットの画面から話し掛けると、グループホームの利用者と上手に会話を交わすことができた。マスクを付けて会話する時と、マスクをとって笑顔で会話する時の高齢者の表情の違い等も感じとってもらえた。今年度よりオレンジリングに代わり新たに受講証を作成し、『西会津町キッズサポーター』の受講証を配布。ふり返しシートでは、講座で学んだことを家族に伝え、保護者にも子供の話を聞いてコメントを記載して頂いた。オンラインを活用して実際に施設入所者と会話して接し方を体験する取組みは初めての企画であったが、事前打ち合わせとオンラインテストを実施し、当日はスムーズに演習が実施できた。講座には町に実習に来ていた県立医大看護学部の実習生も見学で参加した。
	西会津高校3学年(生徒・教員) 16人	前半の講義では認知症の理解(認知症の種類・症状・治療・予防)を説明し、後半は演習で認知症の当事者の思いと認知症の人を介護する家族の気持ちを理解することや、認知症の方への接し方については徘徊場面のロールプレイで実演や対応方法の意見発表を行ってもらった。講座を担当した住民メイトから、認知症の人の気持ちについて実例等も踏まえた説明があり、振り返りシートからも認知症の人の気持ちや接し方について深く印象が残った感想が多かった。家族が高齢者施設勤務している生徒は、家族に講座の話をして認知症について聞いてみたいという感想や、介護福祉士を目指している生徒やアルバイト先で高齢者に接することが多い生徒からは今後の対応に活かしたいと感想があった。

	西会津中学校2・3学年（児童・教員） 70人	2年ぶりに中学校で講座を実施。今年の2・3年生は小学校5・6年生で講座を受講した生徒が大半であったが、講義では小学校での講座内容のふり返りの他、小学校用の講座内容にはなかった『認知症の早期発見・早期治療』『介護をしている家族の気持ち』も学んだ。演習は学校とグループホーム桐・おとめゆりをオンラインでつなぎ、生徒が実際に入居者と会話をしながら高齢者への接し方を体験した。当日オンライン接続にトラブルがあり、接続までの時間は保健師による認知症予防体操等に参加。接続準備に時間を超過してしまったため、各学年2名ずつの体験予定が時間の都合上3年生2人のみの体験になってしまった。限られた時間ではあったが、体験した生徒は接し方の心得やポイントを意識しながら対応できた。高齢者側は生徒との会話を心待ちにしていたため、予定より短い会話になり、もう少し話をしたかったと残念に思っていた。グループワークでは認知症の方への接し方のみならず、日頃から地域の中での人との関わりやコミュニケーションを図ることや、町民みんなが認知症について理解し支えていく町づくりの必要性まで感じとり各々考えてくれた有意義な講座となった。今回学んだことを家族や周りの人にも伝えたいという生徒の感想もあった。
合計	全 4回 延べ参加者数	136人 <学校：3 自治区：1 職域：0 各種団体：0>
令和2年度	全 5回 延べ参加者数	146人 <学校：2 自治区：2 職域：0 各種団体：1>

【令和3年度 認知症カフェ（オレンジカフェいいで愛）実施状況】

開催回数	開催月	会 場	参加人数	トピックス
5回	6月	西会津国際芸術村	当事者 2名 家族（介護者）2名 専門職 1名 地域住民 3名 合計8名	新郷地区住民を対象に実施。参加者はキャラバンメイト・健康増進課保健師・ケアマネからの紹介や、以前介護者だった方に声掛けした。送迎がなければ来場出来ない方のために、今年度はシルバー人材センターへ運転業務を委託。町の公用車で自宅から会場までの送迎対応を行ってもらい、包括職員が添乗した。参加者の中には、会場の旧新郷小学校が母校であったり、子供が通っていた際に保護者として来校していた時代のことや、昔の道具などの展示品を見学することで昔の記憶を思い出しながら会話していた。
	7月	まちなか再生拠点施設	当事者 2名 家族（介護者）2名 地域住民 1名 合計5名	野沢地区住民を対象に実施。健康増進課保健師から紹介があった方に開催案内チラシを配布。参加者同士顔見知りの関係でもあり、声を掛け合い会場まで徒歩で来場。運営スタッフにキャラバンメイトの協力もあり、飲み物の準備・配膳の他、参加者との会話にも一緒に参加。キャラバンメイトは当事者の方への接し方も慣れており、さりげなく声掛けをしたり話し相手にもなって活躍して頂けた。会場内では参加者同士自由に会話を楽しまれていた。途中、前回新郷地区のカフェに参加された家族が近くを通りかかった際にカフェの開催に気づき、介護サービス利用の相談に来所された。
	9月	まちなか再生拠点施設	当事者 2名 家族（介護者）1名 地域住民 1名 合計4名	尾野本地区住民を対象に実施。包括やケアマネが関わりのある家族介護者と当事者に個別に声掛けし、開催案内チラシを配布。当事者・家族・住民（シルバー運転手）が参加。当事者は昔話に花を咲かせ、介護者も当事者達と話をしたり、運営スタッフのキャラバンメイトや専門職と認知症介護について情報交換した。当日は交通安全鼓笛パレードがあったため沿道で見学し、子供達の姿に当事者達は喜んでいた。

	10月	西会津国際芸術村	当事者 2名 地域住民 1名 合計 3名	奥川地区住民を対象に実施。健康増進課からの紹介で、奥川元気クラブ通所者とその方の支援者（元介護経験者）と包括で関わっている高齢者が参加。キャラバンメイトも運営に協力。3名とも同地区の顔なじみであるため、久しぶりに新郷地区に来られ参加者同士の会話も弾み、旧新郷中学校の閉校記念誌の展示があったため、地元の人達の話題に触れながら、思い出話をされていた。2名は杖歩行で歩行に見守りや一部介助が必要であったため、館内の展示品は1階のみ見学された。
	11月	旧群岡中学校	当事者 4名 地域住民 1名 合計 5名	群岡地区住民を対象に実施。参加者5名のうち昨年カフェに参加された当事者2名と地域住民1名は今年も参加。参加者は上野尻在住または上野尻出身者であり、運営に協力したキャラバンメイトも地元のことを知っている方であったため、地元の昔話で盛り上がった。男性参加者は日頃からサイホンコーヒーを入れる趣味を活かして参加者にコーヒーを振舞って頂いたり、特技のピアノ演奏と手品の披露で会場は盛大に盛り上がり、参加者もスタッフも一緒に楽しい時間を過ごした。地域住民の方からは、「デイサービスが週1回のみで寂しそうなので、今後可能であればカフェを月1回程度開催できれば良いと思う」と感想があった。

ア 施設外研修状況

令和3年

にしあいづ地域包括支援センター

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	令和3年度全会津介護支援専門員協会総会・記念講演	記念講演 ※ハイブリット形式 演題「令和3年度介護報酬改定の解説」 講師 一般社団法人あたご研究所 代表理事 後藤佳苗氏	社会福祉士兼認知症地域支援推進員	鈴木朋美	R3.4.16	全会津介護支援専門員協会 アビオスペース	復命書 朝礼で発表
2	令和3年度福島県認知症対応型サービス事業開設者研修	6/29 ○講義・演習 「認知症高齢者の基本的理解」 特定非営利活動法人豊心会 橋本好博氏 ○講義 「家族の理解・高齢者との関係の理解」 認知症の人と家族の会 佐藤和子氏 ○講義 「家族が求める事業所とは」 ライフ・タイム・福島 ロングライフフクチャンち 高橋英明氏 ○講義 「認知症高齢者のケアのあり方」 特定非営利活動法人豊心会 橋本好博氏 ○講義 「労働環境について」 きらり健康生活協同組合 本部 6/30 ○体験実習	管理者兼主任介護支援専門員	秦千香子	R3.6.29～6.30	福島県高齢福祉課 福島県男女共生センター	復命書 朝礼で発表
3	令和3年度全会津介護支援専門員協会 第1回研修会	講演「高齢者虐待の事案から考える養護者支援」 講師：東北福祉大学総合福祉学部 社会福祉学科 准教授 古川悠貴氏	管理者兼主任介護支援専門員 社会福祉士兼認知症地域支援推進員	秦千香子 鈴木朋美	R3.8.24	全会津介護支援専門員協会 さゆりの国会議室 (オンライン)	復命書 朝礼で発表

4	会津方部成年後見制度支援者向け研修会「成年後見制度と成年後見人の役割」	講義「成年後見制度と成年後見人の役割」 講師：谷川社会福祉士事務所 社会福祉士 谷川 ひとみ氏	管理者兼主任介護支援専門員 社会福祉士兼認知症地域支援推進員	秦千香子 鈴木朋美	R3.9.29	特定非営利活動法人あいづ安心ネット さゆりの園会議室（オンライン）	復命書 朝礼で発表
5	令和3年度リスクマネジメント研修	講義 防災の基本と福祉防災計画（BCP）入門 1. 防災の基本とは 2. BCPって何？ 3. 防災クイズでBCPを考えよう	管理者兼主任介護支援専門員	秦千香子	R3.10.5	福島県社会福祉協議会 介護センター相談室（オンライン）	復命書 朝礼で発表
6	令和3年度東北ブロック地域包括・在介支援センター職員研修会	「地域共生社会の実現に向けた介護予防・地域づくりの推進」 ①ケアマネジャーと連携した地域づくり ②住民と連携した介護予防 ③認知症を支える地域づくり	管理者兼主任介護支援専門員	秦千香子	R3.11.11・12	岩手県地域包括・在宅介護支援センター 介護センター相談室（オンライン）	復命書 朝礼で発表
7	令和3年度全会津介護支援専門員協会 第2回研修会	演題 「ハラスメント対策」～事業所に今後求められるハラスメント対応とは～ 講師：ツクイグループ顧問兼コンプライアンス室 室長・主任介護支援専門員 松川竜也氏	管理者兼主任介護支援専門員 社会福祉士兼認知症地域支援推進員	秦千香子 鈴木朋美	R3.11.19	全会津介護支援専門員協会 さゆりの園会議室（オンライン）	復命書 朝礼で発表
8	令和3年度地域包括・在介センター協議会職員研修（現任者）	1. 講義「高齢者虐待の防止と認知症の人の権利擁護」 2. グループワーク「事例から考える認知症の人への虐待防止・対応」 3. 発表・解説・まとめ	保健師	齋藤美香	R3.11.26	地域包括・在介センター協議会 介護センター相談室（オンライン）	復命書 朝礼で発表
9	令和3年度地域包括・在介センター協議会会津支部研修会	講義 「精神障がいにも対応した地域包括システムの構築について」～会津地域でどのように築いていくのか～ 講師：会津保健福祉事務所 大関 浩美氏	管理者兼主任介護支援専門員 保健師 社会福祉士兼認知症地域支援推進員	秦千香子 齋藤美香 鈴木朋美	R3.11.29	地域包括・在介センター協議会会津支部 支援ハウス（オンライン）	復命書 朝礼で発表

10	令和3年度地域支援関係者認知症対応力向上研修	1. 会津地域認知症疾患医療連携協議会 認知症疾患医療センター事務局 2. 地域関係者認知症対応力向上研修 (1) 実践報告 ハブニングラメン〜間違っても楽しむラメン店〜 特定非営利活動法人 豊心会 統括介護長 橋本好博氏 (2) 意見交換	社会福祉士兼認知症地域支援推進員	鈴木朋美	R3.12.1	福島県会津保健福祉事務所 道の駅あいづ 湯川・会津坂下会議室	復命書 朝礼で発表
11	令和3年度福島県障がい者相談支援従事者養成研修	【共通講義】 ・相談支援（障害児者支援）の目的 ・相談支援（障害児者支援）の基本的視点 ・相談支援に必要な技術 ・障害者総合支援法及び児童福祉法の理念・現状とサービス提供のプロセス及びその他関連する法律等に関する理解 ・障害者総合支援法及び児童福祉法における相談支援（サービス提供）の基本 ・相談支援におけるケアマネジメント手法とそのプロセス ・相談支援における家族支援と地域資源の活用への視点 【演習】 ・ケアマネジメントプロセスに関する講義及び演習	社会福祉士兼認知症地域支援推進員	鈴木朋美	R3.7.13~14 R3.9.8~9・29 R3.10.13~14 R3.11.15・25	福島県保健福祉部障がい福祉課 Web研修（共通講義） 郡山市総合福祉センター（演習） 福島県ばんだい荘（実地研修）	復命書 朝礼で発表
12	令和3年度第2回成年後見制度利用促進における市町村情報交換会	講義「地域の将来を見通した権利擁護支援〜中核機関の機能と役割〜」 講師：社会福祉法人絆ヶ沢町社会福祉協議会 権利擁護センターあじがさわセンター長 井上雅哉氏	管理者兼主任介護支援専門員 社会福祉士兼認知症地域支援推進員	秦千香子 鈴木朋美	R4.1.18	社会福祉士会 西会津町役場（オンライン）	復命書 朝礼で発表
13	令和3年度市町村・地域包括支援センター向け高齢者虐待対応スキルアップ研修会	講義「高齢者虐待対応法的根拠の再確認」 講師：福島県高齢者虐待対応専門職チーム 弁護士 安部孝祐氏 県談「虐待対応は難しい？困難に感じることの乗り越え方」	社会福祉士兼認知症地域支援推進員	鈴木朋美	R4.1.27	福島県社会福祉士会 ZOOM研修	復命書 朝礼で発表
14	介護事業者のためのBCP作成セミナー	「BCP作成における重要ポイント」 ミネルヴァベリタス株式会社顧問 信州大学 特任教授 本田茂樹氏 「BCP作成の具体的な進め方」 一般社団法人中部産業連盟主任コンサルタント 前田和彦氏	管理者兼主任介護支援専門員	秦千香子	R4.2.2	一般社団法人中部産業連盟業務課 介護センター（オンライン）	復命書 朝礼で発表

令和3年度苦情受付・解決状況

事業所名：にしあいづ地域包括支援センター

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度(接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質(内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

令和3年度

障がい相談事業所にしあいづ事業報告

1. 基本方針

障害者総合支援法に定める基本理念に基づき、障がい者本人が希望する生活の場で生活できるよう新たなサービス利用の提案などを勧め支援を行った。社会参加については、本人等に事前説明し不安なく参加できるよう、関係機関との連携を図りながら定期的に外出する機会を作り、地域との関わりを持つことができた。全般的に、現存する社会資源を有効に活用した支援を行うことができた。

2. 重点目標

(1) 相談支援と連携

障がい者本人やその家族、民生委員などから相談を受け、自宅への訪問や来所や電話などで対応してきた。

具体的な相談内容の中で、福祉用具の購入については福祉介護課障がい担当へ給付対象となるかの確認をし進めた。支援学校卒業後の進路については、迅速に学校や障がい福祉サービス事業所と連絡調整を行い、卒業後スムーズにサービス利用を開始することで、本人や家族の不安を取り除くことができた。権利擁護についての相談は無かった。

(2) 個別支援

サービス利用時に不穏になった利用者について、サービス事業所と自宅訪問を行い、自宅での様子や対応方法などを聞き、本人の特性の理解や保護者の要望等を確認しながらサービス利用継続することができた。

現在の生活状況を自らの言葉で報告することが難しい利用者については、病院受診の間診に同行支援を行い、主治医へ正確な情報を提供する支援を行った。精神に特化した訪問看護を利用していた引きこもりの本人については、自身で収入を得たいという意向があったので、本人と家族が揃った場で協議し、関係者の協力を得て作業所で就労することに繋げることができた。

(3) 心身の変化に合わせたサービス利用支援

モニタリングの際、自宅やサービス事業所へ出向き、本人の希望するサービスが円滑に提供されているか直接確認を行い、必要時サービス等利用計画の見直しを行った。

さらにサービスを増やすことが必要になった児童のケースでは、保育士・サービス事業所・保健師と情報共有の場を設け、本人と家族の支援について今後

保育所等訪問支援を追加予定である。

(4)相談支援専門員の質の向上

今年度の相談支援ワーキンググループは初回から ZOOM で開催され、年 8 回参加したことで、会津圏域の相談支援専門員間のつながりを深めることができた。

頻度の少ない障がい児支援の専門コース別研修は、申し込み後新型コロナウイルス感染拡大の為中止となってしまった為、来年度開催時には再度参加申し込みをする予定である。

(計画相談支援を利用している障害者等の人数)

障がい相談事業所にしあいつ
(令和3年4月～令和4年3月)

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児	障害者	障害児
身体障害	3	0	2	0	3	0	3	0	2	0	3	0	3	0	4	0	4	0	1	0	2	0	3	0	33	0
重度心身障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
知的障害	9	0	4	0	11	0	9	0	5	0	13	0	8	0	4	0	13	0	11	0	4	0	11	0	102	0
精神障害	4	0	5	0	3	0	4	0	4	0	4	0	3	0	7	0	4	0	6	0	7	0	5	0	56	0
発達障害	1	1	1	2	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	2	0	0	1	1	1	2	1	1	7	12
高次脳機能障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	17	1	12	2	17	1	16	0	12	1	20	0	14	1	16	2	21	0	19	1	14	2	20	1	198	12

(計画相談支援月別状況)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
障害者	1	3	3	2	0	4	6	5	3	7	2	1	37
障害児	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
計	1	4	3	2	0	4	6	5	3	7	3	2	40

(障害福祉サービス利用実施状況) ※重複利用あり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
就労	1	1	1	1	0	2	4	4	2	6	2	0	24
居宅	0	0	1	0	0	3	2	2	0	1	0	0	9
生活介護	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1	6
短期入所	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	1	0	5
施設入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
グループホーム	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
療育	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
計	1	4	4	3	0	6	6	7	4	9	3	2	49

ア 施設外研修状況 令和3年度 障がい相談事業所にしあいづ

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	相談支援事業に関するワーキンググループ	・オンラインによる顔合わせ ・報酬改定について (厚労省の動画視聴)	相談支援専門員	佐藤 千春	R3. 5. 25	会津障がい保健福祉圏域 連合会 ZOOMにて	復命書 朝礼で発表
2	相談支援事業に関するワーキンググループ	「ニーズ整理・100文字要約」 ・ストレングスシート作成 (事前課題) ・ニーズ整理表作成 (グループワーク) ・100文字要約作成 (グループワーク)	相談支援専門員	佐藤 千春	R3. 8. 24	会津障がい保健福祉圏域 連合会 ZOOMにて	復命書 朝礼で発表
3	会津方部成年後見制度支援者向け研修	「成年後見制度と成年後見人の役割」 ～判断能力の低下している方々の 権利擁護支援のために支援者として 取り組むべきこと～ 谷川社会福祉士事務所 社会福祉士 谷川ひとみ氏	相談支援専門員	佐藤 千春	R3. 9. 29	特定非営利活動法人あい づ安心ネット ZOOMにて	復命書 朝礼で発表
4	相談支援事業に関するワーキンググループ	サービス等利用計画及びサービス 担当者会議について	相談支援専門員	佐藤 千春	R3. 10. 12	会津障がい保健福祉圏域 連合会 ZOOMにて	復命書 朝礼で発表
5	令和3年度福島県障がい者 相談支援従事者養成研修	【共通講義】 ・相談支援（障害児者支援）の目的 ・相談支援（障害児者支援）の基本的視 点 ・相談支援に必要な技術 ・障害者相談支援法及び児童福祉法の理 念・現像とサービス提供プロセス及びそ の他関連する法律等に関する理解 ・障害者総合支援法及び児童福祉法にお ける相談支援（サービス提供）の基本 ・相談支援におけるケアマネジメントの 手法とプロセス ・相談支援における家族支援と地域資源 の活用への視点 【演習】 ・ケアマネジメントプロセスに関する講 義及び演習	管理者	秦千香子	R3.7.13～14 R3.9.8～9・29 R3.10.13～14 R3.11.15・25	福島県保健福祉部障がい 福祉課 Web研修（共通講義） 郡山市総合福祉センター （演習） 福島県ばんだい荘（実地 研修）	復命書 朝礼で発表

令和3年度苦情受付・解決状況

事業所名：障がい相談事業所にしあいづ

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質 (内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度 (接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質 (内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

令和3年度

グループホームのぞみ事業報告

<事業の概況>

普段はゆっくりと過ごして頂き、床のモップがけ、洗濯物たたみ、タオルたたみ、食器拭き等、「役割」を持って生活して頂いた。月に2回は行事等の催しを行い、楽しんで頂けるように取り組んだ。

発声がある入居者もあり、「うるさい」等と入居者同士のトラブルもあるが、そのような場合は職員が間に入り、お互いに距離をとり早期に対応した。

令和3年度もコロナ渦で様々な影響があった。直接会っての面会ができない為、オンライン面会、窓越し面会を実施し、入居者様とご家族様との時間を作った。コロナ渦だから、何でもダメではなく、入居前に住んでいた地元へドライブに出掛けたり、柳津町にも出掛けた。外部との接触ができないため、法人内の他事業所職員の協力を得て交流できる催しを実施した。

今年度も、建物の修繕箇所が多く見られたが、早急に対応した。次年度も老朽化による修繕箇所は出ると予想されるが、入居者の生活に支障がでないように速やかに対応していく。

<重点目標について>

(1) 入居者の生活意欲の向上

畑作業全般をできる方はいないが、芋の種蒔き、草むしり、芋の収穫、アサガオの種取り等できる事をやって頂いた。散歩等で外に出た時に「育ってきたな。」「立派にできたな。」等、畑や花を見て、季節感を感じて頂けた。入居者の誕生日会には、その方の食べたい物を聞き取り、メニューに反映した。コロナ渦で外出が出来ない為、出前や弁当等も希望を取り提供した。誕生日会も含めて、月に2回は催しを企画し実施した。福社会恒例の「盆踊り大会」、町の恒例行事の「雪国まつり」が中止になってしまったため、「のぞみ夏祭り」、「のぞみ冬祭り」を法人内の他事業所に協力を得て実施した。のぞみの職員以外の接触は、ほとんどない状況の為、良い交流になった。また、床屋もコロナ渦で家族が連れて行けなかった為、入居者のなじみの床屋さんに来て頂き散髪をした。「新そば会」では、入居者の近所の方にそばを打ってもらい提供した。いづれも、地域とのつながりを継続させる為の活動が行えた。

(2) 入居者の機能の維持

部屋で1人になる時間が長くないよう、また、横になっている時間が長くないように、「散歩」や「外に出る事」を意識して接した。また、普段の生活の中で、床のモップがけ、洗濯物たたみ、タオルたたみ、食器拭き等、「役割」を持って生活して頂く事を意識して実施した。日常生活の中で、できる事はやって頂く等で残存機能は維持してきたが、施設外での活動の際、散歩が困難な方は、日光浴をするなど、気分転換できるような機会を作るよう心掛け実施した。

(3) 職員の資質向上と人材育成

コロナ禍の為、オンラインでの研修がメインとなった。内容としては、「認知症高齢者のケア」、「高齢者虐待予防・身体拘束防止」等の研修を受講した。受講した職員が講師となり、ケア会議で勉強会を開催し、他の職員へ伝達することで、職員のスキルアップにつなげた。また、法人職員としての意識を高める為、1日2回(14時・19時)、勤務者全員での法人の理念と指針の復唱を毎日実施した。

令和3年度 要介護度別実人数

(単位：人)

	要支援2		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
R3. 4月	0	0	1	0	1	0	2	5	0	0	0	0	4	5
5月	0	0	1	0	1	0	2	5	0	0	0	0	4	5
6月	0	0	1	0	1	0	2	5	0	0	0	0	4	5
7月	0	0	1	0	1	0	2	5	0	0	0	0	4	5
8月	0	0	1	0	1	1	2	5	0	0	0	0	4	6
9月	0	0	2	0	0	1	1	5	0	0	0	0	3	6
10月	0	0	2	0	0	1	1	4	0	1	0	0	3	6
11月	0	0	2	0	0	1	1	4	0	1	0	0	3	6
12月	0	0	1	0	0	0	2	4	0	1	0	0	3	6
R4. 1月	0	0	1	0	0	0	2	4	0	1	0	0	3	6
2月	0	0	1	0	0	0	2	4	0	1	0	0	3	6
3月	0	0	1	0	0	0	2	4	0	1	0	0	3	6

平均要介護度 要介護2(2.6)

令和3年度 年齢別利用人数

	65～75歳	75～85歳	85歳～	合計	平均年齢
R3. 4月	1	3	5	9	84
5月	1	3	5	9	84
6月	1	3	5	9	84
7月	1	3	5	9	84
8月	1	3	6	9	84
9月	1	3	5	9	84
10月	1	3	5	10	85
11月	1	3	5	9	85
12月	1	3	5	9	85
R4. 1月	1	3	5	9	85
2月	1	3	5	9	85
3月	1	3	5	9	85
	12	36	61	119	

最高年齢 98歳 最低年齢67歳 平均年齢84.5歳

令和3年度 利用状況

(単位：人)

	在 籍 者 数		入 退 所		入 退 院		合 計
	男性	女性	入所	退所	入院	退院	
R3. 4月	4	5	0	0	0	0	9
5月	4	5	0	0	0	0	9
6月	4	5	0	0	0	0	9
7月	4	5	0	0	0	0	9
8月	4	6	1	1	1	0	10
9月	3	6	0	0	0	0	9
10月	3	6	0	0	0	0	9
11月	3	6	0	0	0	0	9
12月	3	6	0	0	0	0	9
R4. 1月	3	6	0	0	0	0	9
2月	3	6	0	0	0	0	9
3月	3	6	0	0	0	0	9

令和3年度 延べ利用人数

(単位：人)

月	実人数	延べ人数
R3. 4月	9	270
5月	9	279
6月	9	270
7月	9	275
8月	10	275
9月	9	270
10月	9	279
11月	9	270
12月	9	277
R4. 1月	9	266
2月	9	252
3月	9	279
合 計		3,262

令和3年度 延べ利用人数 3,262人 前年比23人減

ア 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	高齢者虐待予防・身体拘束防止について	「身体拘束を必要としないケアへの取り組み」 講師：東日本国際大学健康福祉学部教授 松本喜一氏	介護員	佐藤さおり	R3.9.10	NPO法人 福島県福祉サ ービス振興会 福島県男女共生センター	復命書 職員会議で報告
2	令和3年度苦情解決責任者・第 三者委員研修	①「苦情解決制度の仕組みと意義について」 ②「安全配慮義務違反の予防について」 ～具体的な事例を通しての事前予防～ ③「福祉サービスの信頼を高めるために」 ～ジェントルティーチングの理念と実践～	管理者	江川正樹	R3.10.20	福島県運営適正化委員会 福島県総合社会福祉セン ター	復命書 職員会議で報告
3	令和3年度認知症高齢者のケ ア	・基本的な関わり方と支援 ・困難事例における対処法とケアの展開等 ・利用者とのコミュニケーションの取り方 ・利用者の視点や立場に立つ	介護員	長谷川利子	R3.11.5	NPO法人 福島県福祉サ ービス振興会 福島文化センター	復命書 職員会議で報告
4	高齢者虐待予防・身体拘束防 止について	①介護施設における虐待防止体制等の整備に ついて 講師：福島県高齢福祉課 坂本奨氏 ②鼻めがねと言う暴力 講師：林田俊弘氏	介護員	佐藤さおり	R3.12.14	一般社団法人福島県社会 法人福祉士会	復命書 職員会議で報告
5	新型コロナウイルスのオミク ロン株への感染対策に係る Web研修	「オミクロン株と施設内感染」 講師：福島県立医科大学感染制御学 講座 金光 啓二氏	管理者	江川正樹	R4.1.19	福島県高齢福祉課・障害福 祉課 グループホームのぞみ(オ ンライン)	復命書 職員会議で報告
6	令和3年度 福島県小規模多 機能型サービス等計画作成担 当者研修	「総論・小規模多機能ケアの視点」 「ケアマネジメント論」 「地域生活支援とチームアプローチ」 「ケアマネジメントと居宅介護支援計画作成の 実際」	計画作成担当者	岩原祐美	R4.2.8	福島県 グループホームのぞみ(オ ンライン)	復命書 職員会議で報告

令和3年度苦情受付・解決状況

事業所名：グループホーム のぞみ

<なし>

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質 (内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度 (接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質 (内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

令和3年度

こゆりこども園業務報告書

<事業の概要>

就学前の子どもに関する教育・保育等の総合的な提供の推進に関する法律に基づき教育・保育を必要とする乳幼児を保育し、養護と教育の一体化を図りながら豊かな人間性を持った子どもを育成することを基本としたこども園運営に努力してきた。

<重点事項>

1. 児童保育について

- ①個々の子どもの健康状態や発達段階を把握し、個々に応じた保育に努めてきた。
- ②施設内の環境保全に十分留意し、快適に過ごせるように努めてきた。
- ③個々の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、保育者との信頼関係を作り情緒の安定を図ってきた。
- ④自発性を大切にし、興味や要求を受け入れ、生活経験に即した総合的な指導に努めてきた。
- ⑤運動や表現遊びなどいろいろな活動を通して、集団活動が出来るように努めてきた。
また、運動会や発表会等で発表する機会を作り、子どもの成長した姿を保護者に伝えるようにしてきた。
- ⑥七夕祭り・団子さし・節分・ひな祭り等の伝統行事を実施し、由来などを知らせ社会の事象に関心を持たせてきた。
- ⑦発達障がいと思われる児童についての相談業務を子育て支援センターや児童相談所・耶麻福祉相談コーナーの相談員と協力し、保護者の支援に努めてきた。
- ⑧延長保育の児童に対しては、温かな雰囲気の中で心穏やかに遊ぶことが出来るような環境を整え、個人的な配慮が行き届くように努めてきた。

2. 児童の健康管理について

- ①常に子どもの健康状態を把握するため、登園時の視診により病気やけがの有無やその状態について観察し、健康管理に努めてきた。
- ②園内での感染症防止のため、感染症対応マニュアルに基づいて全職員が的確かつ迅速に対応してきた。
- ③楽しい雰囲気の中で、友達と一緒に食事をし、嫌いな食べ物でも少しずつ食べれるように指導してきた。
- ④天気の良い日は出来る限り戸外遊びを取り入れ（野外保育・固定遊具・砂場等）心身の発達に努めてきた。
- ⑤各種診察の実施（尿検査・歯科検診・内科検診・身体計測）

3. 児童の食事について

- ①離乳の進行にあたっては、町栄養士と相談しながら栄養バランスに気をつけ、一人ひとりの発育・発達状態、食べ方や健康状態に配慮してきた。

- ②様々な人と一緒に食べる楽しさを味わうことができた。
- ③園での食事の状況について、家庭との連絡を十分に取り合うことができた。
- ④毎月の給食委員会でアレルギー児への対応について職員間での情報共有を図った。

4. 防火・安全体制について

- ①施設内外における危険箇所、危険なものがないか等の点検を常に行い安全の確保に努めてきた。
- ②安全な教育・保育環境を確保するため、子どもの年齢・場所・活動内容に留意し、事故予防対策マニュアルに基づきながら安全の確認を行ってきた。
- ③災害時における組織体制づくりを明確にし、避難方法に習熟するため毎月1回の避難訓練と年2回の防災訓練を実施してきた。
- ④登園あるいは野外保育における交通安全には特に重点をおき、絶対に事故が発生しないよう日頃からの指導を行ってきた。

5. 小学校との連携

- ①幼児教育・保育アドバイザーを配置し、小学校との交流連携事業を強化し、スムーズな進学を図った。
- ②学校活動や学校の見学などを通じて異年齢児との交流により豊かな人間性と社会性を育んできた。

6. 職員の研修について

- 保育者としての意識の高揚と専門知識・保育技術の向上、更にはこども園運営と保育の充実を図るため計画的に各種研修会には積極的に参加させた。(別紙1アのとおり)
- 職員間のコミュニケーションを活発化し、知識・情報の共有化を図るため、園内研修を行った。(別紙1イのとおり)

7. 保護者との連携について

- 保護者に、こども園での生活や各種行事等を「園便り・クラス便り・連絡帳」でお知らせし、家庭との連携を強化し、円滑な運営に努めてきた。
- また、保護者会が組織されており、行事には積極的に協力を頂き親子との触れ合いの場として成果を挙げることが出来た。

8. 月別保育児童数について(別紙2のとおり)

9. 月別保育業務内容について(別紙3のとおり)

10. 子育て支援事業について(別紙4のとおり)

①放課後児童健全育成事業

保護者が昼間に就労等により家庭にいない小学校児童に、適切な遊びと生活の場を提供し、保護者の子育て支援を行った。

②一時預り保育

保護者の就労形態に伴う一時的な保育や、保護者の傷病による緊急時の保育を行い、児童の福祉の増進と健全育成を図るとともに、保護者の子育て支援を行った。

③子育てサークル事業

子どもの遊び、親子の触れ合いを通して、子育てのあり方について学習活動を行い、また保護者同士の仲間づくりの交流の場を提供した。

11. ICTの導入と活用

保護者との情報連携のひとつとして、スマートフォン用アプリ「コドモン」を導入し、業務の効率化と利便性の向上を図った。

別紙1-ア 施設外研修状況

西会津町こゆりこども園

NO.	研 修 名	研 修 内 容	参加職種	参加者名	期 間	場 所	研修結果の報告方法
1	保育をどうしよう未来会議	講義「保育の質向上に向けた初めの一歩とは」 講師 東京大学名誉教授 汐見稔幸 氏	保育副保長 保育リーダー 保育士	伊藤洋子 五十嵐津奈子 三留望 菊地恵	R3. 5. 18	こゆりこども園職員室 (リモート研修)	復命書
2	令和3年度福祉施設職員キャリアパス 対応生涯研修課程中堅職員研修	講義「中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理 他」 講師 金山町社会福祉協議会 事務局長 加藤ゆき 氏	保育士	橋本まどか	R3. 6. 17～18	福島市 (福島県総合社会福祉センター)	復命書
3	令和3年度福祉施設職員キャリアパス 対応生涯研修課程中堅職員研修	講義「中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理 他」 講師 福島県社会福祉協議会 斉藤知道 氏	保育士	五十嵐唯	R3. 6. 24～25	福島市 (福島県総合社会福祉センター)	復命書
4	令和3年度福祉施設職員キャリアパス 対応生涯研修課程中堅職員研修	講義「中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理 他」 講師 福島県社会福祉協議会 大和田誠 氏	事務員	目黒はるか	R3. 7. 1～2	福島市 (福島県総合社会福祉センター)	復命書
5	令和3年度福祉施設職員キャリアパス 対応生涯研修課程中堅職員研修	講義「中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理 他」 講師 特別養護老人ホーム会津みどり 大島一浩 氏	保育士	伊藤麻衣子	R3. 7. 8～9	福島市 (福島県総合社会福祉センター)	復命書
6	令和3年度第1回会津若松市保育 士会研修会	講義「カンセリングスキルを活用した保護者支援」 講師 会津短期大学幼児教育科 吉田亜矢 氏	保育士	薄上マリ	R3. 7. 10	こゆりこども園職員室 (リモート研修)	復命書
7	令和3年度保育所指導管理者研 修	講義「保育危機管理実践事例から対応策を学ぶ」 講師 株式会社こども保育環境研究所 斎木里奈 氏	副園長	星菜保子	R3. 8. 2	こゆりこども園職員室 (リモート研修)	復命書
8	令和3年度福祉施設職員キャリアパス 対応生涯研修課程初任者研修	講義「福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理 他」 講師 福島県社会福祉協議会 伊藤忠伯 氏	保育士	薄上マリ	R3. 8. 18～20	福島市 (福島県総合社会福祉センター)	復命書
9	令和3年度福祉施設職員キャリアパス 対応生涯研修課程初任者研修	講義「福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理 他」 講師 社会福祉法人いわき福音協会 佐藤護 氏	保育士	矢部穂乃香	R3. 8. 25～27	福島市 (福島県総合社会福祉センター)	復命書
10	令和3年度第2回会津支部保育士 部会研修会	講義「あそびの中で子どもは育つ」 講師 玉川大学幼児教育科 田澤里喜 氏	保育士	長谷川紀子 中島奈津美 佐藤沙羅	R3. 8. 28	こゆりこども園職員室 (リモート研修)	復命書
11	令和3年度保育所新任保育士研 修	講義「特別支援保育における保護者理解と支援」 講師 臨床発達心理士スーパーバイザー 橋場隆 氏	保育士	真部美咲	R3. 8. 31	こゆりこども園職員室 (リモート研修)	復命書
12	令和3年度福祉施設職員キャリアパス 対応生涯研修課程初任者研修	講義「福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理 他」 講師 社会福祉法人みしま 秦千代栄 氏	保育士	田部みさき	R3. 9. 1～3	福島市 (福島県総合社会福祉センター)	復命書
13	令和3年度福祉施設職員キャリアパス 対応生涯研修課程初任者研修	講義「福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理 他」 講師 福島県社会福祉事業団事務局 柴田尚己 氏	保育士	真部美咲	R3. 9. 7～9	福島市 (福島県総合社会福祉センター)	復命書

NO.	研 修 名	研 修 内 容	参加職種	参加者名	期 間	場 所	研修結果の報告方法
14	令和3年度福祉施設職員キャリアパス対応生涯研修課程管理職員研修	講義「管理職員としてのキャリアアップと環境整備 他」 講師 株式会社エイデル研究所 社会保険労務士 田中幹也 氏	保育係長	五十嵐育代	R3.10.14.15	こゆりこども園職員室 (リモート研修)	復命書
15	令和3年度福祉施設職員キャリアパス対応生涯研修課程初任者基礎研修	講義「社会福祉施設等の職員としての心構え 他」 講師 社会福祉法人郡山清和救護園 理事長 難波朝重氏	保育士	真部美咲	R3.10.29	こゆりこども園職員室 (リモート研修)	復命書
16	令和3年度福島県保育協議会会津支部施設長・保育者研修会	講義「今後の保育内容と運営」 講師 社会福祉法人こども園ひがし 理事長 坂崎隆浩氏	副園長 保育士	星菜保子 岩原雅子	R3.10.12	こゆりこども園職員室 (リモート研修)	復命書
17	令和3年度福島県保育士等キャリアアップ研修	講義「乳児保育の意義・保育内容」 講師 仙台青葉学院短期大学 講師 鈴木孝之 氏	保育係長	須藤博子	R3.11.3.22	こゆりこども園職員室 (リモート研修)	復命書
18	令和3年度福島県保育士等キャリアアップ研修	講義「リーダーシップ・人材育成」 講師 いわき短期大学 講師 綿引清勝 氏	保育係長	五十嵐育代	R3.11.6.13	こゆりこども園職員室 (リモート研修)	復命書
19	令和3年度発達障がい児支援者スキルアップ研修会	講義「愛着障害と発達障害」 講師 福島県立医科大学 教授 横山浩之 氏	保育士	五十嵐美穂	R3.11.24	会津若松市 (ヒ・カリホール)	復命書
20	令和3年度福島県保育士等キャリアアップ研修	講義「幼児の発達に応じた保育内容・幼児教育の環境」 講師 郡山女子短期大学部 講師 安部高太郎 氏	保育士	岩原雅子	R3.11.25.28	会津若松市 (会津アビオ展示ホール)	復命書
21	令和3年度発達障がい児支援者スキルアップ研修会	講義「愛着障害と発達障害」 講師 福島県立医科大学 教授 横山浩之 氏	保育士	石川育子	R3.12.2	会津若松市 (ヒ・カリホール)	復命書
22	令和3年度福祉施設職員キャリアパス対応生涯研修課程チームリーダー研修	講義「福祉職員としてのキャリアアップと自己管理 他」 講師 福島県社会福祉事業団事務局 柴田尚己 氏	保育リーダー	五十嵐津奈子	R312.2	福島市 (福島県総合社会福祉センター)	復命書
23	令和3年度福島県保育士等キャリアアップ研修	講義「保護者支援・子育て支援の意義」 講師 会津大学短期大学部 講師 吉田重矢 氏	保育副係長	伊藤洋子	R3.12.4.16	こゆりこども園職員室 (リモート研修)	復命書
24	令和3年度児童虐待防止に係る学校等との連携強化研修会	講義「児童虐待の現状と対応について」 講師 会津児童相談所	保育副係長	渡部千佳子	R3.12.7	会津若松市 (ヒ・カリホール)	復命書
25	令和3年度福島県保育士等キャリアアップ研修	講義「事故防止及び健康安全管理 他」 講師 保育の安全研究・教育センター 掛札逸美 氏	保育リーダー	五十嵐津奈子 塚原由紀	R4.1.20.27 2.3	こゆりこども園職員室 (リモート研修)	復命書
26	令和3年度福島県保育士等キャリアアップ研修	講義「障がい児の発達の援助・指導計画・記録 他」 講師 会津大学短期大学部 教授 市川和彦 氏	保育副係長	渡部千佳子	R4.2.27-28	こゆりこども園職員室 (リモート研修)	復命書
27	会計実務研修	講義「活用できる月次報告・資金管理の実践的実務」 講師 福祉会計サポーター 代表 宮内真木子 氏	事務員	目黒はるか	R4.3.22	こゆりこども園職員室 (リモート研修)	復命書

別紙1-イ 施設内研修状況

西会津町こゆりこども園

	研 修 名	研 修 内 容	発表者	参加職種	参加人数	期間	研修結果の周知方法
1	施設内研修	子どものよりよい保育のために（クラス発表）	伊藤洋子	保育士	19名	R3.4.28	資料全員配布
2		子どものよりよい保育のために（クラス発表）	五十嵐津奈子	保育士	20名	R3.5.26	資料全員配布
3		子どものよりよい保育のために・夏の感染症	塚原由紀	保育士	18名	R3.6.22	資料全員配布
4		子どものよりよい保育のために（クラス発表）	長谷川紀子	保育士	20名	R3.7.28	資料全員配布
		子どものよりよい保育のために（クラス発表）	三留望	保育士	20名	R3.8.26	資料全員配布
5		子どものよりよい保育のために（クラス発表）	渡部千佳子	保育士	15名	R3.9.30	資料全員配布
6		子どものよりよい保育のために（クラス発表）	橋本まどか	保育士	19名	R3.10.29	資料全員配布
7		子どものよりよい保育のために（クラス発表）	石川育子	保育士	20名	R3.11.29	資料全員配布
8		子どものよりよい保育のために（クラス発表）	岩原雅子	保育士	17名	R3.12.21	資料全員配布
11		子どものよりよい保育のために（クラス発表）	渡部穂乃香	保育士	16名	R4.3.22	資料全員配布

(別紙2)

令和3年度 月別保育児童数

(基準日 毎月末日現在) (単位 人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
138	138	138	137	137	139	139	141	142	143	143	143
(13)	(15)	(15)	(17)	(17)	(17)	(17)	(21)	(21)	(21)	(21)	(23)

()は、延長保育人数

【内訳】 ※令和4年3月31日現在

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
男児	4	6	6	13	16	11	56
女児	6	6	16	17	27	15	87
合計	10	12	22	30	43	26	143

月別保育業務内容

(R3.4~R4.3)

西会津町こゆりこども園

(別紙3)

月 日	保 育 業 務 内 容	月 日	保 育 業 務 内 容
4. 2	入園式	7. 17	夕涼み会 ※保護者会主催
14	身体計測	21~28	英語教室 (4歳児)
15~22	健康診断	30	総合訓練
16	新入児歓迎会	8. 3	すいか割り
20	誕生会	5	運動教室 (4歳児)
21~23	歯科検診	17	身体計測
28	避難訓練	18	ダンス教室 (5歳児)
5. 11	交通安全教室 (3~5歳児)	20	誕生会
12~26	英語教室 (4・5歳児)	26	お話の会
13~27	お話の会 (4・5歳児)・野外保育	31	避難訓練
14	体位計測	9. 2	運動教室 (4歳児)
15	誕生会	9~16	お話の会 (4歳児)
31	避難訓練	15	体位計測
6. 2~23	英語教室 (4・5歳児)	17	誕生会
10~17	お話の会 (3・4歳児)	21	運動会予行練習
15	身体計測	25	運動会
18	誕生会	29	給食試食会
24	プール開き	30	避難訓練
30	避難訓練	10. 6	引き渡し訓練 (保小中合同)
7. 1~13	個別懇談	7~28	野外保育
2	音楽教室 (3歳児)	13	ダンス教室 (5歳児)
7	七夕誕生会	14~18	健康診断
8	運動教室 (4歳児)	15	身体計測
14	ダンス教室 (5歳児)	18~22	歯科検診
15	身体計測	19	遠足
15~29	お話の会 (1・2歳児)	20	誕生会

月 日	保 育 業 務 内 容	月 日	
2 2	マラソンごっこ	1. 1 4	身体計測
2 7	英語教室 (5歳児)	1 9 ~ 2 6	英語教室 (4歳児)
3 0	非常食体験	2 0	誕生会
1 1. 4	運動教室 (4歳児)	2 1	お店屋さんごっこ
5	音楽教室 (3歳児)	2 7	お話の会 (4歳児)
9	ちびっこ防災教室	3 1	避難訓練
1 0	ダンス教室 (5歳児)	2. 2 ~ 1 6	英語教室 (4. 5歳児)
1 0 ~ 2 4	英語教室 (4・5歳児)	3	豆まき
1 1 ~ 2 5	お話の会 (2. 3歳児)	4 ~ 1 5	個別懇談 (0 ~ 4歳児)
1 5	身体計測	1 0	運動教室 (4歳児)
1 8	誕生会	1 5	身体計測
3 0	誕総合訓練	1 7	入園説明会
1 2. 1	発表会予行練習	1 8	誕生会
2 ~ 2 2	運動教室 (4・5歳児)	2 8	避難訓練
3	観劇会	3. 2 ~ 1 6	英語教室 (4. 5歳児)
8	発表会撮影	3	ひなまつり誕生会
9 ~ 1 6	お話の会 (1・4歳児)	1 1	お別れ会
1 5	身体計測	1 5	身体計測
1 6	個別懇談 (5歳児)	1 7	避難訓練
2 3	クリスマス誕生会	1 8	卒園式予行練習
2 7	避難訓練	2 5	卒園式
1. 4	保育始め		
6	運動教室 (4歳児)		
7	音楽教室 (3歳児)		
1 2	ダンス教室 (5歳児)		
1 3	だんごさし		

(別紙4)

子育て支援事業報告(令和3年度)

西会津町こゆりこども園

【子育てサークル】

開所日時:毎週水曜日 10:00~12:00

開所場所:こゆりこども園内 子育て支援室

(利用人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用延べ人数(組)	20	13	12	9	10	18	19	8	6	6	2	27	150

(活動内容)

月 日	内 容	参加人数
4. 14	絵本読み聞かせ	5
5. 12	風船遊び	6
6. 30	絵本読み聞かせ	5
7. 7	七夕飾り作り	2
8. 4	触れ合い遊び	7
9. 15	触れ合い遊び	4
10. 27	触れ合い遊び	7
11. 24	親子クッキング教室	4
12. 22	手遊び	2
1. 26	ごっこ遊び	2
2. 16	触れ合い遊び	2
3. 23	折り紙製作	4

【健診サポート】

(赤ちゃん栄養教室)

月 日	開催場所	担当者
4. 13	こゆりこども園 子育て支援室	鈴木房
6. 25		
8. 19		
10. 12		
12. 21		

(1歳6ヶ月・3歳健診)

月 日	開催場所	担当者
7. 15	こゆりこども園 子育て支援室	鈴木房
9. 16		
11. 25		
1. 20		

【放課後児童健全育成事業(ひだまり子どもクラブ)】

開所場所:西会津小学校内 みんなの広場

(開所日数・利用人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	23	19	23	21	22	21	22	21	21	20	19	23	255
利用延べ人数	818	836	973	918	789	881	864	870	753	670	697	758	9,827

(特別活動内容)

月 日	内 容	参加人数
4. 26	お誕生会	47
5. 17	お誕生会	52
6. 21	お誕生会	45
8. 4	俳句教室	48
8. 6	七夕会	45
8. 17	お誕生会	41
8. 18	俳句教室	48
8. 24	夏祭り製作	36
9. 27	お誕生会	46
10. 27	お誕生会	50
10. 29	ハロウィン会	44
11. 29	お誕生会	43
12. 22	お誕生会	41
12. 24	クリスマス会	33
1. 31	お誕生会	41
2. 25	お誕生会	33
3. 23	お誕生会	36

【一時保育】

実施場所:こゆりこども園

利用期間	延べ人数	満年齢	理由
4/8-4/22	2	3	仕事の為
5/6-5/27	4	3	仕事の為
6/3-6/30	9	1-3	仕事の為
7/1-7/29	14	1-4	仕事の為
8/5-8/26	7	1-4	仕事の為
9/2-9/30	4	3	仕事の為
10/4-10/22	15	1-3	仕事の為
11/11-11/18	5	1-3	仕事の為
12/2-12/23	7	1-3	仕事の為
1/6-1/27	4	1-3	仕事の為
2/9-2/25	5	1-3	仕事の為
3/3-3/29	26	0-4	仕事の為

令和3年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町こゆりこども園

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度(接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質(内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

令和 3 年度

西会津町小規模多機能型居宅介護施設 高陽の里 事業報告書

重点目標

(1) 利用者の生活の豊かさの実践

○利用者の家庭環境や背景等を把握し十分に意向を踏まえた上でサービス提供に努めた。
楽しんで通所され、まずは楽しかった・良い場所だったと印象に残るような雰囲気づくりに努め利用者同士が互いに声をかけるよう交流を図った。

季節毎にドライブや花見、地域の紅葉がきれいな場所に出かけ気分転換を図った。

○独居生活をされている利用者が、休みの場合には安否確認の為電話連絡し必要に応じ対応し生活に不自由の無いよう見守りしてきた。

(2) 人材の確保と働きがいのある風土づくり

○新しい施設として、通い・泊り・訪問における小規模独自のサービスの内容における勉強会を開催しキャリアパスの職位を意識し職務内容の把握を一つ一つ確認しながら業務にあたってきた。

○コーチング・ティーチングの技法を意識していたが、明確な指示や助言ができないままで取り組んだとまではいかなかった。今後技法をさらに意識し取り組んでいきたい。

令和3年度 要介護度別実人数

	要支援2		要支援1		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
R3.4月	1	0	1	1	0	3	1	1	1	0	1	0	0	0	5	5	10
5月	2	0	1	1	0	4	0	1	1	0	0	0	0	0	4	6	10
6月	2	0	1	1	0	4	2	1	1	0	0	0	0	0	6	6	12
7月	2	0	1	1	3	5	2	1	1	0	0	0	0	0	9	7	16
8月	1	1	1	1	3	5	3	1	1	0	0	0	0	0	9	8	17
9月	2	0	1	1	3	5	3	1	0	1	0	0	0	0	9	8	17
10月	2	0	1	1	3	5	3	1	0	1	0	0	0	0	9	8	17
11月	2	0	1	1	3	5	3	1	0	2	0	0	0	0	9	9	18
12月	2	0	1	2	4	6	3	1	0	3	0	0	0	0	10	12	22
R4.1月	2	0	1	2	5	5	2	1	0	3	0	1	0	0	10	12	22
2月	2	0	1	2	4	5	2	1	0	3	0	1	0	0	9	12	21
3月	2	0	1	2	4	3	2	1	0	3	0	0	0	0	9	9	18

令和3年度 要介護度別延べ人数

	要支援2		要支援1		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
R3.4月	8	0	8	6	0	26	5	43	74	0	0	0	45	0	140	75	215
5月	37	0	18	5	0	47	4	38	71	0	0	0	0	0	130	90	220
6月	62	0	0	28	0	56	11	45	0	86	0	0	0	0	73	215	288
7月	64	0	25	7	43	56	17	101	85	0	0	0	0	0	234	164	398
8月	40	0	15	34	90	32	14	59	80	0	0	0	0	0	239	125	364
9月	60	0	18	9	94	80	38	42	0	2	0	0	0	0	210	133	343
10月	58	0	21	8	87	45	31	104	0	19	0	0	0	0	197	176	373
11月	58	0	19	15	81	47	38	100	0	103	0	0	0	0	196	265	461
12月	41	0	1	12	55	23	12	110	0	49	0	0	0	0	109	194	303
R4.1月	56	0	19	15	43	62	28	104	0	114	0	50	0	0	146	345	491
2月	15	0	20	42	56	64	31	51	50	44	0	116	0	0	172	317	489
3月	19	0	15	13	55	57	26	54	52	52	0	86	0	0	167	262	429
合計	518	0	179	194	604	595	255	851	412	469	0	252	45	0	2,013	2,361	4,374

令和3年度 年齢別利用人数

	65～79歳	80歳～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	計	平均年齢
R3.4月	0	4	3	2	1	10	87.6
5月	0	4	3	3	1	11	88.0
6月	0	4	4	3	1	12	88.0
7月	3	3	5	3	2	16	86.4
8月	4	3	5	3	2	17	85.8
9月	5	3	5	4	1	18	84.7
10月	5	3	5	3	1	17	84.7
11月	5	2	7	6	1	21	85.6
12月	4	3	7	7	1	22	89.7
R4.1月	3	3	7	6	1	20	86.8
2月	2	4	8	6	1	21	91.0
3月	2	1	8	5	1	17	87.8

施設外研修状況

NO	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	甲種防火管理新規講習	防火管理の意義及び制度 防火管理、施設・設備の維持管理について防火管理に係る消防計画など	管理者兼介護員	鈴木芳夫	R3.6.9～6.10	喜多方プラザ	復命書職員会議で報告
2	苦情解決責任者・第三者委員研修	苦情解決制度の仕組みと意義 安全配慮義務違反の予防について	管理者兼介護員	鈴木芳夫	R3.10.29	福島県総合社会福祉センター	復命書職員会議で報告
3	養介護施設従事者等による高齢者虐待防止研修会	・通所系事業所及び訪問系事業所における福島県内の虐待の現状及び今後各事業所等において取り組むべき課題等について	介護員	佐藤真由美	R4.2.24	ZOOMライブ配信	復命書職員会議で報告

令和3年度苦情受付・解決状況

事業所名:小規模多機能型居宅介護施設 高陽の里

1.苦情受付状況

		苦情趣旨						合計
		説明・情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの質 (内容)	サービスの量	権利侵害	被害・損害事故	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0

2.苦情受付状況

	苦情解決責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度(接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質(内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

令和3年度

西会津町介護老人保健施設「憩の森」事業報告

1. 基本方針

運営規程及び平成27年1月に、町とにしあいつ福祉会が協働し共同公表した介護老人保健施設「憩の森」基本方針に則り、以下の重点目標に基づき事業を展開した。具体的な実施報告は、別紙の「実施報告」の通りである。

2. 入所定員

50名(短期入所療養介護を含む)。

3. 利用対象者

要介護1から要介護5までの認定を受けた者。

4. 重点目標

(1) 健康・健全経営への取り組み

職員が健康で長く働けることが職場を活性化し健全な経営につながるため、健康経営に取り組んだ。主の取り組みとしては、西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用して健康づくりを啓発した。さらに、定時にラジオ体操等を実施し運動の機会を増やし、「栄養だより」を職員会議にて配布し食生活改善への啓発も行ってきた。また、労働時間、年休取得状況を把握し、勤怠管理を行うことで法令を順守した休暇取得を促す体制も推進した。

健全経営の取り組みとして、各法令や制度への理解を深め介護報酬の適正な運用により財政安定化を推進した。在宅復帰・在宅療養支援等指標においては、在宅復帰率70%、ベッド回転率5.57%、重度者割合(要介護4・5の割合)61.6%となり、加算型介護報酬の算定体制を維持することができた。また、科学的介護推進体制加算(I)、栄養マネジメント強化加算、所定疾患施設療養費加算等の各種加算報酬の取得体制を整備した。

(2) 在宅復帰・在宅療養への積極的な支援と連携強化

施設サービス計画に基づき、身体機能・認知機能の維持向上を目的とした生活リハビリテーションの提供、栄養管理、在宅医療の継続支援を実施し、在宅復帰・在宅療養の支援と連携強化を行ってきた。入所の要請があった場合には、ベッドの調整を可能な限り行い受入れを実施した。また、適時、入退所前後訪問を行い、関係機関と服薬方法等の在宅療養上の留意点を共有できる体制も推進した。さらに、退所時指導書においても家族や介護者の視点に立った具体的で分かりやすい言葉で記載していくようにした。その他にもタブレット等のデジタル機器を活用することで、介護動作やリハビリの指導、住環境設定等にて効果的で分かりやすい伝達を行える工夫も行った。

(3) 職員の専門性の向上

キャリアパスに基づき職員研修計画を策定し、OJT・OFF-JT・SDS(自己啓発援助制度)を推進することで、専門性・資質の向上を推進した。OJTについては、各係にて業務手順書の改訂や整備を進めた。また虐待防止に関する自己評価等を実施し、施設内の権利擁護意識向上を啓発した。Off-JTについては、新型コロナウイルス感染症予防のため、外部研修においてオンライン研修として開催される場合も多くなり、その環境整備も行った。また、法定研修や事例検討会等の内部研修も定期的の実施してきた。SDS(自己啓発支援制度)については、介護支援専門員試験の勉強会を実施し1名の合格者を出すことが出来た。

根拠に基づいた介護(evidence-based care EBC)を実施していく取り組みとしては、科学的介護推進体制の整備に力を入れ、介護技術指導者向け研修会の内容を介護・看護職員にて共有し技術の導入を進めた。また認知症ケアの統一や改善を図るために、センター方式のアセスメントシートを活用し、それぞれの病状に合わせたケアを提供できる体制を推進した。さらに、ふるさとまつりの八代亜紀オンラインコンサートに向けて“雨の慕情体操”を多職種協働にて考案し実施した。栄養係では、介護食レシピコンテストに参加し、専門技術向上の啓発につなげた。事務係では「社会福祉法人・施設会計実務研修会」に参加し、「社会福祉会計簿記初級」認定試験の合格者を出すことが出来た。

(4) 環境の整備

施設設備の充実とICTの活用による事務処理の効率化を図り、利用したい・働きやすい環境の一層の整備を推進した。ICT活用における主な取り組みとして、福祉見聞録システムを使用したモニタリングの同一様式化、オンライン面会の体制整備等を行った。介護業務においては、パソコン端末を活用した事務処理の効率化を進め、パソコン入力に不慣れな職員への指導を実施した。さらに、タブレットを活用した映像や音楽による回想法のアプローチを加えたリハビリ体制を推進した。また、感染症予防や事故予防における主な取り組みとしては、処置室内の消毒と清掃を定期的の実施し、感染予防に必要な物品管理を徹底する体制を整備した。厨房内の事故予防対策として、危険箇所を点検し作成したポスターにて啓発を行った。

令和3年度西会津町介護老人保健施設「憩の森」入所 実施報告

(1) 健康・健全経営への取り組み

係・部門	実行計画内容	実施報告
相談	①健康づくりの推進のため、西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用し、毎日の健康状態を記録し管理していく。 ②在宅復帰・在宅療養支援等指標における加算型の運用を継続する。また、月単位の計画的な入退所管理を実施し、主要要件である在宅復帰率、ベッド回転率の安定化を図っていく。	①西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用することで、血圧や体温などのバイタルを測定し、適度な運動や野菜中心の食生活を心がけながら生活することができた。部門内での体調不良者はなく、皆勤で職務にあたることができた。 ②ケアマネ連絡会議にて入退状況を確認し、計画的に在宅復帰の調整を行うことができた。結果、在宅復帰・在宅療養支援等指標においては、在宅復帰率70%(内訳：在宅18名、死亡12名、他11名、延41名)、ベッド回転率5.75%、重度者割合(要介護4・5の割合)61.6%となり、加算型の体制を継続することができた。
医療看護	①各係内へ出退勤時に血圧測定をすすめ「はかる・わかる・きづく・かわる」を効果的にする。 ②健康を維持し利用者に「笑顔」で接するために、朝のラジオ体操に参加することで、骨・筋肉・関節をまんべんなく動かし、食生活改善では、健康を意識して糖分や塩分を控えるように声がけしていく。 ③医師の指示のもと必要な対応を行い、適正な加算が取れるように係内で確認する。 ④日々「施設内感染拡大」に繋がらないように、他の係と連携して啓発していく。	①こゆりちゃん健康手帳ポイントの活用でスタッフの血圧測定の意識づけをすることが出来た。その結果、朝夕の出退勤時には、自宅で血圧測定を実施して出来るようになった。また、係内での手帳の活用も進み、約7割のスタッフが活用して健康管理に取り組めるようになった。次年度は手帳の全員活用につなげていく。 ②利用者に常に「笑顔」で接し、傾聴の姿勢を忘れず対応してきた。また、緊急時以外の情報共有の時間帯を調整したため、スタッフが朝のラジオ体操に参加できるようになり、運動による健康への取り組みを進めてきた。さらに、食生活改善においても、健康を意識して糖分や塩分を控えるように声がけを行った。 ③健全運営に繋がられるように、所定疾患施設療養費加算については担当医と協議して計6件取得できた。

		④令和3年5月に施設で発生したコロナウイルス感染症については、感染拡大防止に努め収束させることが出来た。日頃の感染予防対策と啓発が重要であるため、感染対策委員会・リハビリ係と連携し朝のラジオ体操時にて、手洗いやマスク着用のアナウンスを行い感染予防対策の啓発を行なった。
介護	①職員の健康維持のため、西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用し、記録することで食生活改善につなげる。一日2回ラジオ体操の音楽を流し、勤務者全員で意識的に運動する機会を設ける。 ②介護報酬改定に対応した介護体制を整備するために、ケアスタッフ会議等にて介護保険制度や介護報酬改定の情報共有や勉強会を行うと共に、各係と連携し加算報酬を取得できる運営を行っていく。	①西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用し、毎日の体温や血圧を記録することを心掛け、毎朝のラジオ体操を行うことも継続できた。また、レクリエーションの時間に合わせて午後にもラジオ体操や、ふるさとまつりのオンラインコンサートに向けた八代亜紀の“雨の慕情体操”を利用者とともにいった。コンサート終了後もレクリエーションとして組み入れ実施している。 ②厚労省からの通知をケアスタッフ間で回覧することで、最新の介護保険情報を共有することができた。また、介護保険制度・介護保険法についての勉強会を3月のケアスタッフ会議で行い、制度の基本について学び直す機会となった。
リハビリテーション	①スタッフの健康づくりを推進していくために、西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用して、体調を管理し運動や食生活の改善に取り組む。また、継続のモチベーションを保つため、定期的に実施状況について確認し合う機会を設けていく。 ②老健加算型介護報酬を取得し健全な経営を行っていくために、在宅復帰・在宅療養支援機能指標におけるリハビリ職員配置点数を確保していく。また、入所退所前後訪問指導割合点数の安定確保のために、在宅訪問が出来る勤	①西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を用い、健康づくりに取り組んだ。ポイント手帳利用に関するオリエンテーションを実施し、毎月1回のスタッフミーティング時に実施状況を確認する機会を設ける等の支援体制を作った。また、健康経営への取り組みを推進していくため、健康経営アドバイザー（東京商工会議所）の資格取得を推奨し2名の合格者を出した。 ②加算型報酬取得の要件であるリハビリ専門職配置割合の安定運用のため、取得条件を満たせる勤務体制を整備した。入退所前後訪問についても他職種と連携し実施した。

	務体制を整備する。 ③令和 3 年度介護報酬改定に対応するために、厚生労働省や全老健からの情報等を把握し、体制整備を行っていく。	③厚生労働省通知や全老健からの情報等を把握し、スタッフミーティングの際に共有することにした。報酬改定情報を適時確認できるように、改定資料をまとめたファイルを設置し電子媒体の資料もパソコンにて閲覧できる体制とした。
栄養給食	①職員の食生活改善を促すため、毎月の職員会議で栄養だよりを配布し、健康で働くための食習慣について啓発していく。また、朝礼で定期的に栄養や食事に関する情報の発信を行っていく。 ②安全に業務が行えるよう、始業前・業務中・休憩中に簡単なストレッチを取り入れる。	①職員会議で毎月ごとにテーマを決めて配布を行った。4月～8月については食事内容の基本的な摂り方を中心とした内容をテーマに、10月～12月については職員健康診断の結果を基に、より栄養素に焦点を絞ったテーマで「栄養だより」の作成を行った。朝礼での情報発信については、業務都合により参加職員が少ない為、カウンター周辺に職員会議で配布した「栄養だより」を掲示し、栄養に関する啓発を行った。また、健全経営の取り組みとして、栄養マネジメント強化加算を算定する体制を整備した。 ②厨房入り口の検収室にストレッチのポスターを掲示し、始業前・業務中・休憩後に実施出来るように声かけや栄養係会議前にも体操の実施を行った。しかし、定着にはまだ至っていない為、次年度も継続していく。
事務	①職員が健康に働ける環境を整備するため、労働時間、年休取得状況を把握し速やかに報告・連携を図り、法令を順守した休暇取得を促進する。 ②介護報酬の適切な管理・回収を行う。また、利用料未納発生防止の仕組みをつくる。	①各職員の付与日や、取得実績を記載した一覧表を作成し、勤怠管理者に活用してもらう事で、法令を順守した休暇の促進をより計画的に実施できるようにした。実績や取得予定について毎月確認を行い、勤怠管理者へ報告連絡を行う事で計画的な休暇の促進に繋げる事が出来た。 ②料金納入期日に回収できていない事例もあったが、未納を確認した時点で速やかに電話連絡を行い、翌月に必ず回収を行う事が出来た。相談部門と連携し情報共有を行う事で利用料未納防止、早期解

		決に努める事ができた。
--	--	-------------

(2) 在宅復帰・在宅療養への積極的な支援と連携強化

係・部門	実行計画内容	実施報告
相談	①在宅復帰・在宅療養継続を想定したケアプランを策定のため入所前後訪問指導を継続する。在宅復帰にあたっては、多職種で退所前後訪問指導を行い、退所後の生活状況や病状等を評価し他機関と連絡調整を行う。 ②町や診療所からの要請による緊急入所が必要なときの受入れ先として対応していく。また、速やかに情報を収集し関係機関と共有することで連携強化を図っていく。	①多職種での入退所前後訪問指導は2件実施(新規実態調査は43件実施)。3ヵ月に1回サービス担当者会議を開催し、モニタリングの結果から在宅復帰のタイミングを多職種で協議し、在宅復帰につなげている。また、居宅介護支援専門員と連携・協議し、在宅復帰後のサービス利用の見通しを立てることで、支援する家族が在宅での生活を想定できるように支援した。 ②要請があった場合は、ベッドの調整が可能な限り受入れを実施した。各関係機関と連携し協働アセスメントから、利用後のフォローアップについても協議をしている。
医療看護	①在宅復帰の支援のため、療養上の留意点を各関係機関と共有し連携を強化していく。 ②在宅療養継続のため、各関係機関と共有した療養上の留意点を家族が実施できるように指導する。	①在宅復帰支援のため、各関係機関とは内服薬服用方法や対処療法等の療養上の留意点についての情報共有をしてきた。また、専門職としてカンファレンス等に参加した際には、内服薬の飲み方や褥瘡等の皮膚トラブル回避のために福祉用具を活用した方法等を直接家族へ助言を行った。 ②退所時指導書への在宅療養上の留意点の記載は、家族等の介護者が実施できるように、指導時にわかりやすい言葉で伝えるように工夫した。次年度も継続していく。
介護	①身体機能、認知機能の維持・向上を目指したサービスを提供するために、入所前の在宅訪問等を通して他機関からの情報を収集し、家屋状況や生活状況を把握する。	①入所前訪問については、病院やショートステイ先からの受け入れがほとんどではあったが、在宅(4件)と他病院や施設(5件)へ出向き、本人の状態と入所前の在宅での介護情報や家屋状況を把握し、家

	②利用者が安心、安全に在宅生活を再開するために、入所中の生活状況を各関係機関と共有し、退所前の在宅訪問により本人、家族への助言・指導を行う。	族の話を直接聞くことができた。紙面での情報だけでなく、介護スタッフが直接見たり聞いたりした情報を共有し、個別援助計画書にも具体的に反映することができた。 ②福祉見聞録内の評価表に状態やケア内容を記載することによって、各係とのより密な情報共有を行うことができ、在宅復帰のタイミングを協議することができた。退所時指導書には、家族や介護者の視点に立った具体的な助言内容を記載できるようになった。在宅復帰に向けて現状の伝達とそれに合わせた過ごしやすい環境設定などを目的とし、3件の退所前訪問を実施した。
リハビリテーション	①在宅復帰・在宅療養支援機能指標に基づくリハビリ体制を継続していくために、リハビリテーションマネジメント体制とリハ専門職配置割合の安定運用を行っていく。また、各職種と連携し入退所前後訪問に取り組む。 ②在宅復帰・在宅療養を支援していくチームアプローチを実践するために、ICT（情報通信技術）を活用した各職種との連携強化を図っていく。また、利用者の在宅生活や住環境について、映像を通して各職種と共有し、在宅を想定した効果的なリハビリや住環境の設定を実施していく。 ③各職種と連携し、心身機能の評価に基づいた根拠のある個別リハビリテーション、生活リハビリテーションを実施していく。また、適切な福祉用具の選定や調整を実施していく。	①加算型報酬獲得の要件であるリハビリマネジメント体制とリハ専門職配置割合の安定運用を実施した。また、入退所前後訪問についても、感染症予防対策を見据えながら各職種と連携し取り組んだ（5件実施）。 ②在宅復帰を支援するために、タブレット等を用い、ご家族や各職種と映像で情報共有し、効果的な指導助言を行うことができた。また、タブレット等で撮影した映像をもとに報告書等を作成し、各職種へ伝達出来たことで在宅を想定した効果的なリハビリや住環境の設定に繋げることが出来た。 ③介護技術指導者向け研修会で得た医学的根拠のある介護技術を入所現場に導入すると共に、生活の中でリハビリが実施出来るように促した。また、個別リハビリの際にも、文献や論文等を参照し医学的根拠をもとに取り組み、福祉用具の選定・調整でも介護・看護係と連携しながら実施した。

栄養給食	①在宅生活が継続できるために、根拠に基いた指導に加え、市販品の活用や簡単にできる調理方法の提案・紹介等、各関係機関と連携して栄養・食事指導を行う。	①利用者が退所後に利用する訪問介護事業所へ、食事内容の注意点をまとめたリーフレットを活用し、情報共有と食事内容の提案を行った。また、退所時の指導内容に役立てる為、入所時の栄養ケア計画の説明の際に、これまでの食習慣や在宅での食事について改めて聞き取り、アセスメントを行った。
事務	①即座に利用者の情報を把握するために、入所検討会資料等を確認する。	①入所検討会資料や、基本情報シートの定期的な確認を行い、新規利用前に利用者情報を把握する事ができた。しかし、業務において円滑な情報収集までは至っていない為、今後も情報収集を継続し、スムーズな連携と収納業務に活かしていく。

(3) 職員の専門性の向上

係・部門	実行計画内容	実施報告
相談	①人権擁護員等の外部評価を受けることで、施設での取り組みが人権へ配慮できているか確認していく。内部評価においては、全職員を対象に虐待防止に関する自己評価を年2回実施し、施設内の権利擁護意識を確認し啓発していく。 ②人生の最終段階における医療・ケア決定プロセスにおいて、意思表示が困難な利用者の代弁機能を果たし、アドバンス・ケア・プランニングを推進していく。	①新型コロナウイルス感染症流行に伴い、感染予防のため、人権擁護員訪問外部評価は未実施。人権擁護員から提供された啓発ポスター(うちわ)を利用者へ配布する啓発活動は実施することが出来た。内部評価としては、令和3年6月に虐待防止に関する自己評価(職員のストレス蔓延度チェックリスト)、令和4年3月には虐待の芽チェックリストを実施し、施設内の権利擁護意識の向上に努めた。 ②事前に本人・家族の意向を確認し、ケアプラン第一表に記載することで各職種との共有を図っている。希望があり、状態が安定していれば、外出・外泊の支援を行い、医療的なフォローをしながら自宅で過ごす時間を設けられるようにしている。また、最期を家族と迎えられよう、ターミナル期は個室を準備する等の環境を整備した。

医療看護	①地域医療を支えるため、訪問看護事業所との連絡体制がスムーズに取れるように、在宅研修を継続する。 ②看護の視点から療養上の留意点を管理するために、個人の抱える疾患や認知症に起因する合併症を把握する。 ③独居・老老介護等の理由で施設看取り件数が多くなっているため、「手順書」を改正し、多様なニーズに対応できる体制をつくる。	①コロナ感染予防対策の為、在宅研修を実施出来ていない。しかし、訪問看護事業所との連絡体制は継続しており、円滑に連携できている。 ②個人の疾患や認知機能低下に起因した合併症を把握することで、食事摂取状態が低下してきている利用者には管理栄養士と連携し、食事形態や姿勢・補助具の工夫、嗜好品の把握等に取り組んだ個別ケアを行った。 ③看取りプランに変更となった時は早急に計画書を作成できる体制を整えた。また、「看取り業務手順書」の改正を行い体制の強化に繋げた。
介護	①認知症ケアの向上のために、センター方式の焦点情報シートを活用し、本人を理解して、できる可能性を引き出す支援する。また、スキルアップのため積極的に施設内事例検討会へ事例を提供する。 ②介護職全体の資質向上を図るために、係内にて根拠に基づいた介護技術の研修会を実施すると共に、OJT 体制を強化する。 ③利用したい施設を目指すために、小さな要望等にも迅速、かつ丁寧に対応し意向をくみ取って行くことで、質の高いサービスを実施していく。	①本人の想いや生活パターンを良く知り、ケア方法の統一や改善を図るため、センター方式の焦点情報シート（D-4 24 時間生活変化シート）を使用しアセスメントを行った。施設内事例検討会への事例提供を1件行い、集団でなく個別的な関わりによって、『どこにアプローチをすると効果的か』を検討する材料とすることができた。 ②根拠に基づいたケアを提供するため、外部指導者の作業療法士による介護技術指導者向け研修会の内容を介護副係長からケアスタッフ会議で介護・看護職員へ伝達した。介護技術に関する課題は、随時相談することでタイムリーに介助方法等の再検討ができており、実践につなげることができた。骨折事故が集中して起きてしまったため、再発予防に焦点を当て、3月に介護技術研修会を行った。骨粗鬆症や人工関節置換術後の骨折リスクを改めて確認することで、移乗時や排泄介助時の注意点等の理解が深まった。 ③利用したい施設を目指すため、利用者、家族より要望等があった際は、苦情・要望相談票の内容について毎月のケアスタッフ会議内で再度周知し、今後の対応の確認を行った。また、現場レベルでの要望等を聞き取り、利用者の声を直接確認も行った。次年度も定期的に行い、サ

		サービスの質の向上を目指したい。
リハビリ テーショ ン	①質の高いサービスに向け、在宅生活支援において的確な助言と医学的根拠のあるリハビリを実施していくために SDS（自己啓発援助制度）・Off-JT への支援体制の中、職業団体の研修等へ参加し専門技術の習得に励む。また、係内において習得したリハビリ技術を伝達する研修会を開催する。 ②キャリアパスの適切な運用を実施していくために、スタッフ同士がスキルとキャリアプランを把握していくと共に、それに基づいた OJT 体制を、リーダーを中心に強化していく。 ③チームアプローチによる認知症ケアを実現するために、センター方式を活用したアセスメントを実施し、ユマニチュードによる利用者それぞれの生活歴や性格に合わせた認知症ケアを行っていく。また介護技術指導者研修会による根拠に基づいた介護技術体制との連携をとっていく。	①新型コロナウイルス感染症対策のため、各種団体の研修・学会等にはオンライン研修にて参加した。（日本理学療法士協会・生涯学習制度に関わる研修等）オンライン研修が増加しているため、ZOOM アプリ（オンライン会議ソフト）を使用した情報共有や情報発信の勉強会を行い、接続方法の確認等も実施した。係内の勉強会については、栄養リハビリやリハビリマネジメント等のテーマにて実施した。SDS（自己啓発援助制度）においては、介護支援専門員試験の勉強会を立ち上げ実施し、1名の合格者を出すことが出来た。 ②スタッフ各々が習得したい専門スキル（技術）やキャリア（業務遂行能力）について共有し、それに対応した業務進捗表や業務手順書を刷新し、OJT 体制の強化を推進した。 ③「見る」「話す」「触れる」「立つ」からなるユマニチュード技法による認知症ケアについては、日常のケアやリハビリ業務上にて実践してきたが、センター方式を活用したアセスメント（評価）については実施できなかった。しかし、センター方式の視点を活かしたアセスメントには取り組むことができ情報共有に役立った。また、介護技術指導者研修会との連携については、介護係と共に研修会で学んだ技術を業務に導入した。
栄養給食	①知識・技術の向上と係内のチームワークの醸成を図るため、給食献立や介護食等の料理・レシピコンテストへ係全体で取り組み、参加する。 ②根拠に基づいた栄養管理（EBM）を実践していくため、SDS（自己啓発援助制度）を活用して職業団体の研修等に	①既製品のソフト食を活用した介護食レシピコンテストに9月に参加した。担当調理員を中心に係内全体でレシピの案を募集し、試作等を行ったことで、調理方法や盛り付けについて改めて考える良い機会となった。 ②対象となる研修の開催が無かった為、SDS（自己啓発援助制度）を活

	参加し、食事摂取基準や栄養に関する各種ガイドラインの理解を深める。	用した研修の参加は実施できなかった。しかし、自己研鑽としてオンラインで行われた各種栄養・食事に関する研修会（高齢者の栄養管理、食品成分表 2020 の活用、嚥下調整食学会分類 2021 の活用等）を受講し、理解を深めることはできた。
事務	①社会福祉会計簿記の知識向上のため、キャリアパスに基づいた研修会に参加し、社会福祉会計簿記初級取得を目指す。	キャリアパスに基づいた研修会である、「社会福祉法人・施設会計実務研修会」に参加し、会計の基礎から決算までの知識を習得することができた。また、「社会福祉会計簿記初級」認定試験に合格することができたため、今後の業務に活かしていく。

(4) 環境の整備

係・部門	実行計画内容	実施報告
相談	①多職種とのケース共有の円滑化のため、福祉見聞録システム上のアセスメントシート、モニタリング評価表を活用する。 ②CHASE・VISIT(科学的介護情報システム：LIFE)の運用にあたり、操作方法やフィードバックの活用についての勉強会を企画し、科学的介護の理解と浸透を図っていく。 ③利用者の QOL 向上のため、オンライン面会の体制を整備していく。	①福祉見聞録システム上で、モニタリング結果を同一様式に入力することで相互共有を図りプランニングへ繋げることが出来た。 ②令和 3 年 4 月より科学的介護推進体制加算(Ⅰ)を算定している。福祉見聞録システム上での LIFE 運用までは至らなかったため、次年度には体制を整備していく予定である。 ③新たにオンライン面会の手順書を作成し、これまで 8 件のオンライン面会を実施し、顔を見ながら会話ができることで本人、家族の満足度が向上した。次年度も感染症の状況に応じながらオンライン面会を継続して実施していく。
医療看護	①日常の記録と申し送り内容を一本化するために、「福祉見聞録」を活用し係内にて体制を整備する。 ②清潔な環境での業務遂行にあたるために、日常の 5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を継続する。	①状態不良時や指示変更時の確認などは、「福祉見聞録」のケース記録を印刷し文面にて確認することで、申し送りの漏れを防ぐ体制を整備した。しかし、さらなる業務効率化のため、「福祉見聞録」を活用した看介護日誌と申し送りの内容を一本化した体制までには至らな

		ったので、次年度には整備したい。 ②日常の5Sとして、処置室内の感染予防対策に力を入れた。アルコールでの拭き掃除と日曜日の床掃除、処置用品の管理・補充を継続してきた。また、感染拡大に備えた必要物品の管理を徹底した。
介護	①事務処理の効率化のために、福祉見聞録内の評価表を活用し、作業手順の見直しを行っていく。 ②気持ち良く働ける職場作りのために、職員一人ひとりが細やかな気遣いや心配りを意識できるよう毎月標語を掲示する。 ③常に清潔な施設を保つために、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を実行する。	①3ヶ月ごとのサービス担当者会議の際に各担当職員が直接パソコンへ入力することで事務処理の効率化を図ることができた。新人職員やパソコン入力に不慣れな職員に対しては、入力方法の説明や指導を行い、確実に遂行できるようにした。 ②職員同士の呼び方についての課題を改善するため、標語を作成し施設内への掲示を行った。また、マスクを常時つけた状態でも笑顔が伝わるように新たな標語も作成し、気持ちよく働けるよう呼びかけることができた。 ③毎朝カウンター付近の清掃を行い、仕事がしやすい環境を整えることができた。感染予防として、手の触れる場所の消毒を毎日行うことを徹底した。
リハビリテーション	①事務業務の効率化と働きやすい職場を整備するために、ICTを活用し、作業手順の見直しと業務の集約・簡素化を実施していく。それらの取り組みの実施状況について、係内で、その評価と改善を定期的に行っていく体制も整備していく。 ②利用者の認知機能への刺激を促すために、リハビリ室において季節感のある飾り付け等を行い、四季を感じる音楽を流していく。また、デジタル機器を活用した映像や音楽による回想法のアプローチも実施できる環境を整備する。	①リハビリ実施記録などにおいては、福祉見聞録の活用を継続している。また、業務内容のスタッフミーティングの場を週一回設け、利用者情報を共有し、業務情報の集約を推進した。様々な取り組みの実施状況についてもスタッフミーティングの場で評価を実施した。 ②季節感のある飾り付けについては、感染予防対策に留意しながら実施できた。リハビリ室屋外における野菜栽培についても昨年に引き続き実施できた。体操や音楽については、八代亜紀オンラインコンサートに向けて「雨の慕情体操」を各係と連携して考案した。昭和の懐メロを流すと同時に季節感のある曲も流してきたため、入所者に四季を感じていただいた。デジタル機器を活用した映像や音楽による回想法の

	③清潔感のあるリハビリ環境づくりを行っていくために、スタッフ内にて整理・整頓・清掃の役割分担を行い、定期的な点検を実施していく。	アプローチについては、主にタブレットを使用して実施した。 ③清潔感のあるリハビリ環境づくりを行っていくためにリハビリ終了後には掃除を実施し、定期的にリハビリ室内や物品倉庫等の整理整頓を実施した。
栄養給食	①労働災害防止のため、厨房内の危険箇所を示したポスターの掲示と毎月の係会議において厨房内の危険箇所の確認・共有を継続して行う。	①栄養係内のヒヤリハット事故防止担当者を中心に毎月の係会議において、厨房内の危険箇所の確認・共有を行った。また、会議内で確認・共有をした危険箇所を新たに追加した厨房内の危険箇所ポスター作成し、厨房と休憩室の2ヵ所に掲示を行った。それにより、今年度業務中の調理員の事故（転倒・骨折等）を防ぐことができた。
事務	①施設内外の修繕・劣化状況を軽微なものから固定資産にかかるものまで、確実に把握・情報収集できるよう整備していく。また、修繕・劣化・危険箇所がある際は、各部門から吸い上げ対応する仕組みを整え、快適な環境に整備する。	①施設内外の点検において、昨年度作成したチェックリストを使用し劣化・修繕箇所の把握を行った。さらに次年度には、定期的に施設内外の点検作業も業務の中に組み入れ確実に実施していく。また、新型コロナウイルス感染症予防対策の観点から、感染対策に必要な施設の整備を行い、入所者や職員が利用しやすく快適に過ごせる環境とすることを優先した。

令和3年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」利用実績

①入所利用実績

	実人数						延べ日数
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	
令和3年4月	4	3	9	11	11	38	959
令和3年5月	2	2	10	12	10	36	1,062
令和3年6月	3	2	11	13	11	40	991
令和3年7月	2	2	8	12	10	34	1,010
令和3年8月	2	0	9	12	11	34	986
令和3年9月	2	0	10	11	14	37	996
令和3年10月	2	0	10	11	13	36	1,078
令和3年11月	3	0	8	12	11	34	931
令和3年12月	4	1	7	13	10	35	994
令和4年1月	5	2	7	11	9	34	989
令和4年2月	5	2	6	12	9	34	922
令和4年3月	5	2	4	14	10	35	998
合計	39	16	99	144	129	427	11,916
前年度	(28)	(32)	(140)	(106)	(105)	(411)	(11,503)

②介護度年齢別状況

※〇内は前年度実績

		～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳～	合計
男性	要介護1	0	0	1	0	0	0	2	0	0	3
	要介護2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	要介護3	0	0	0	0	2	2	1	0	0	5
	要介護4	0	0	0	1	2	2	0	0	0	5
	要介護5	0	0	0	1	0	1	2	1	1	6
	小計	0	0	1	2	4	5	5	2	1	20(23)
平均		0	0	1	4.5	3.5	3.8	3	3.5	5	(3.7)
女性	要介護1	0	0	0	0	0	2	2	0	0	4
	要介護2	0	1	0	0	1	0	1	0	0	3
	要介護3	0	0	0	0	0	1	3	1	0	5
	要介護4	0	0	0	0	0	3	9	3	0	15
	要介護5	1	0	0	1	0	5	4	4	1	16
	小計	1	1	0	1	1	11	19	8	1	43(41)
平均		5	2	0	5	2	3.82	3.63	4.38	5	3.8(3.5)
合計		1	1	1	3	5	16	24	10	2	63(64)
平均		5	2	1	4.67	3.2	3.81	3.5	4.2	5	3.7(3.6)

男性平均 87.1歳 女性平均 90.2歳 全体平均 89.2歳 最高 最低
87.1歳 90.2歳 89.2歳 103歳 60歳

③入退所状況

	自宅		GH		小規模		有料等		老健		特養		病院		永眠		合計	
	入所	退所	入所	退所	入所	退所	入所	退所	入所	退所	入所	退所	入所	退所	退所	入所	退所	
令和3年4月	3	3	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	3	0	2	8	6	
令和3年5月	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	1	
令和3年6月	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	3	5	11	
令和3年7月	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3	2	
令和3年8月	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	2	
令和3年9月	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	5	2	
令和3年10月	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	2	2	7	
令和3年11月	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	3	
令和3年12月	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	2	
令和4年1月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	1	
令和4年2月	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	
令和4年3月	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	2	2	
合計	24	17	0	1	1	0	2	0	1	0	0	3	15	8	12	43	41	
前年度	(36)	(19)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(5)	(3)		(21)	(42)	(43)	

④市町村別年間実人数

市町村名	男性	女性	計
西会津町	20	41	61
会津坂下町	0	1	1
柳津町	0	1	1
計	20	43	63

令和3年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」利用実績

⑤短期入所療養介護利用実績

	実人数								延べ日数
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	
令和3年4月	0	3	7	12	11	11	6	50	526
令和3年5月	0	0	6	11	10	7	5	39	420
令和3年6月	1	0	5	10	11	10	5	42	451
令和3年7月	0	2	7	8	11	14	4	46	515
令和3年8月	0	1	8	8	14	11	6	48	549
令和3年9月	0	2	7	8	12	11	7	47	473
令和3年10月	0	1	6	9	12	12	5	45	446
令和3年11月	1	3	6	10	14	9	9	52	530
令和3年12月	1	1	7	9	17	9	8	52	535
令和4年1月	0	2	7	8	9	11	9	46	543
令和4年2月	0	1	5	9	13	10	8	46	473
令和4年3月	0	2	5	8	10	10	8	43	538
合計	3	18	76	110	144	125	80	556	5,999
前年度	(6)	(19)	(63)	(165)	(139)	(118)	(59)	(569)	(6,429)

⑥短期入所介護度年齢別状況

※()内は前年度実績

		～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳～	合計
男性	要介護1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
	要介護2	0	0	1	0	2	1	2	1	0	7
	要介護3	0	0	0	0	3	3	3	1	0	10
	要介護4	0	1	0	0	1	5	1	0	0	8
	要介護5	1	0	0	1	1	2	0	2	0	7
	要支援1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	要支援2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	小計	1	1	1	1	8	11	10	4	0	37(42)
平均		5	4	2	5	3.14	3.73	2.22	3.75	0	3.26(2.9)
女性	要介護1	0	0	0	0	2	5	3	1	0	11
	要介護2	0	0	0	0	3	1	0	1	1	6
	要介護3	1	1	0	0	1	1	3	2	1	10
	要介護4	0	0	0	1	2	5	7	2	0	17
	要介護5	0	0	0	1	0	2	3	3	0	9
	要支援1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	要支援2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	小計	1	1	0	3	8	15	16	10	2	56(48)
平均		3	3	0	4.5	2.38	2.86	3.44	3.56	2.5	3.13(2.8)
合計		2	2	1	4	16	26	26	14	2	93(90)
平均		4	3.5	2	4.67	2.73	3.24	3	3.62	2.5	3.18(2.8)

⑦入所・短期入所療養介護合算実績

※()内は前年度実績

	ロング		ショート		計		平均	
令和3年4月	959	(984)	526	(484)	1,485	(1,471)	49.5	(48.9)
令和3年5月	1,062	(972)	420	(555)	1,482	(1,508)	47.8	(49.2)
令和3年6月	991	(937)	451	(537)	1,442	(1,453)	48.0	(49.1)
令和3年7月	1,010	(936)	515	(582)	1,525	(1,536)	49.1	(48.9)
令和3年8月	986	(918)	549	(604)	1,535	(1,507)	49.5	(49.0)
令和3年9月	996	(870)	473	(602)	1,469	(1,470)	48.9	(49.0)
令和3年10月	1,078	(899)	446	(628)	1,524	(1,528)	49.1	(49.2)
令和3年11月	931	(884)	530	(573)	1,461	(1,469)	48.7	(48.5)
令和3年12月	994	(1,024)	535	(506)	1,529	(1,521)	49.3	(49.3)
令和4年1月	989	(1,127)	543	(413)	1,532	(1,519)	49.4	(49.6)
令和4年2月	922	(951)	473	(431)	1,395	(1,439)	49.8	(49.3)
令和4年3月	998	(1,001)	538	(514)	1,536	(1,527)	49.5	(48.8)
合計	11,916	(11,106)	5,999	(6,429)	17,915	(17,948)	49.1	(49.1)

令和3年度

医療処置一覧

西会津町介護老人保健施設「憩の森」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処置人数	134	166	118	221	303	443	397	231	309	201	161	209
経管栄養者人数	61	62	51	62	62	60	62	60	62	33	27	30
PEG・Mチューブ'交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Hr.カテ挿入者人数	48	36	28	31	31	54	65	59	62	42	28	28
Hr.カテ交換	3	1	2	1	1	1	1	1	0	0	1	1
膀胱洗浄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
定期検査(採血・Bx-p・EKG)	1	0	6	6	7	5	2	4	6	4	11	6
臨時検査	2	5	6	4	2	6	6	1	9	7	2	10
点滴 Div	22	9	36	25	73	54	70	32	18	33	14	8
抗生剤 iv	6	19	17	10	13	28	8	0	1	29	9	16
インスリン	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1
受診	1	0	0	0	1	0	2	0	2	1	1	4

処置人数 2893件

経管栄養者人数 632件

PEG・Mチューブ'交換 0件

Hr.カテ挿入者人数 512件

Hr.カテ交換 13件

膀胱洗浄 0件

定期検査(採血・Bx-p・EKG) 58件

臨時検査 60件

点滴 Div 394件

抗生剤 iv 156件

インスリン 4件

受診 12件

令和3年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」施設外研修実施状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	令和3年度第一回新任認定調査員研修会	福島県における介護保険制度の運営状況 要介護認定に関する基本的事項 認定調査の実施方法	支援相談員兼 介護支援専門員	近藤貴之	R3.4.22	福島県高齢福祉課 福島市	研修復命書 職員回覧
2	令和3年度 新人向けOJT先進事例研修	現場を支える人材とは 新人教育育成の取り組み 職員育成制度 新人職員育成の取り組みについて	介護リーダー 介護リーダー 介護リーダー リハビリリーダー 栄養リーダー	長谷川良三 佐藤 留美 國分幸夫 長嶺耕一 佐藤明日香	R3.7.5	福島県社会福祉協議会 リモート研修	研修復命書 職員回覧
3	令和3年度 福祉職員キャリアパス対応 生涯研修過程 中堅職員研修	中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念と倫理の理解を深める 中堅職員としてのフォローアップの醸成 チームケアと問題解決、遭遇要因分析 啓発科目の講義と演習 行動指針の策定 キャリアデザインとアクションプランの策定	准看護師 介護員	伊藤美和子 小島美津江	R3.7.15～16	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 福島県総合社会 福祉センター	研修復命書 職員回覧
4	令和3年度福島県主任介護支援専門員更新研修	1日目 介護保険制度及び地域包括ケアシステムの動向 主任介護支援専門員としての実践振り返りと指導・支援 の実践(入退院、リハビリ、看取り) 主任介護支援専門員としての実践振り返りと指導・支援 の実践(認知症、家族、社会資源、地域密着) 2日目 評価テスト確認 主任介護支援専門員としての実践振り返りと指導・支援 の実践(入退院、リハビリ、看取り) 主任介護支援専門員としての実践振り返りと指導・支援 の実践(認知症、家族、社会資源、地域密着)	副施設長兼 事務長兼 主任介護支援専門員	伊勢亀久美子	R3.7.20 R3.10.11・26	福島県介護 支援専門員協会 喜多方プラザ文化セン ターアビオスペース	研修復命書 職員回覧
5	令和3年度福祉職員キャリアパス対応 生涯研修過程 初任者研修	福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念・倫理の基礎を理解する 組織の一員としてのフォローアップの醸成 対人関係マナーとコミュニケーション 啓発科目の講義と演習 行動指針の策定 キャリアデザインとアクションプランの策定	理学療法士 介護員	渡部嘉奈子 江川友子	R3.8.4～6	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 福島県総合社会 福祉センター	研修復命書 職員回覧

令和3年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」施設外研修実施状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
6	令和3年度社会福祉施設看護等職員研修	社会保障制度「2025年問題から現在」 社会福祉施設の特徴と課題について 福祉施設における看護師の重要な役割について	看護副係長 准看護師	佐藤かつ子 伊藤美和子	R3.8.23	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 リモート研修	研修復命書 職員回覧
7	令和3年度全会津介護支援専門員協会第一回研修会	演題「高齢者虐待の事実から考える擁護者支援」	副施設長兼事務長兼 主任介護支援専門員 看護係長兼 介護支援専門員 介護副係長兼 介護支援専門員 介護リーダー 介護リーダー 支援相談員兼 介護支援専門員	伊勢亀久美子 八幡一子 小林榮里 佐藤留美 國分幸夫 近藤貴之	R3.8.24	全会津 介護支援専門員協会 リモート研修	研修復命書 職員回覧
8	福島県認知症実践者研修	1日目 認知症ケアのための理念・倫理と意思決定支援 生活支援のためのケアの演習1 2日目 生活支援のためのケアの演習1 QOLを高める活動と評価の観点 家族介護者の理解と支援方法 権利擁護の視点に基づく支援 地域資源の理解とケアへの活用 3日目 学習成果の実践展開と共有 生活支援のためのケアの演習2(行動・心理症状) 生活支援のためのケアの演習2(行動・心理症状) 生活支援のためのケアの演習2(行動・心理症状) 4日目 アセスメントとケアの実践の基本 アセスメントとケアの実践の基本 職場実習の課題設定 5日目 報告会(職場実習評価)	介護係長	大田真紀	R3.7.2・3・20・ 21・9.3	福島県とうほう みんなの文化センター	研修復命書 職員回覧

令和3年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」施設外研修実施状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
9	会津方部成年後見制度支援者向け研修会 成年後見制度と成年後見人の役割	講義「成年後見人と成年後見人の役割」 ～判断能力の低下している方々の権利擁護支援のために支援者として取り組むべきこと～	介護副係長兼 介護支援専門員	小林榮里	R3.9.29	特定非営利活動法人 安心ネット リモート研修	研修復命書 職員回覧
10	口腔ケアセミナー	口腔ケアに対しての基礎知識 口腔ケアを行う事の意義 口腔リハビリについて	介護係長 介護副係長兼 介護支援専門員 介護員 介護員 介護員	大田真紀 小林榮里 長谷川良三 黒澤裕明 青津泰平	R3.10.15	福島県介護福祉会会津方部 リモート研修	研修復命書 職員回覧
11	令和3年度喜多方地方定住自立圏認定調査員合同勉強会	要介護認定調査票特記事項記載ポイント 事例の検討 認定調査に関する問題を出題	介護副係長兼 介護支援専門員	小林榮里	R3.11.15	西会津町 喜多方プラザ小ホール	研修復命書 職員回覧
12	令和3年度 全会津介護支援専門員協会第2回研修会	ハラスメント対策 ～事業所に今後求められるハラスメント対応とは～	副施設長兼事務長兼 主任介護支援専門員 介護副係長兼 介護支援専門員 介護係長	伊勢亀久美子 小林榮里 大山俊	R3.11.19	全会津介護 支援専門員協会 リモート研修	研修復命書 職員回覧
13	令和3年度介護支援専門員再更新・再研修	自立支援のためのケアマネジメントの基本 ケアマネジメントの基礎理解 ケアマネジメントの展開 内臓機能不全に関する事例 ケアマネジメントの展開 脳血管疾患に関する事例 ケアマネジメントの展開 筋骨格系疾患及び廃用症候群に関する事例 ケアマネジメントの展開 認知症に関する事例 ケアマネジメントの展開 看取りに関する事例 アセスメント及び居宅サービス計画等作成の総合演習	課長兼リハビリ係長	横谷貴之	R3.11.9～11 R3.11.15～16	郡山ビックパレット	研修復命書 職員回覧
14	令和3年度「退職共済事業」事務説明会	福島県社会福祉協議会共済事業事務説明 福利厚生センター事業の説明について	事務員	渡部飛鳥	R3.11.29	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 リモート研修	研修復命書 職員回覧
15	令和3年度社会福祉栄養士研修	低栄養について 加齢で食べにくくなった [※] の食事提供 不足しがちな栄養を [※] 摂るレシピ 感染症に負けない体をつくるためのレシピ	栄養リーダー兼 管理栄養士	佐藤 1香	R3.12.8	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 リモート研修	研修復命書 職員回覧

令和3年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」施設外研修実施状況

No	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
16	令和3年度 介護支援専門員研修Ⅱ	ケアマネジメントの実践事例と研究及び発表(集合研修) 介護保険制度及び地域包括ケアシステムの今後の展開 ケアマネジメントの実践事例の研究及び発表(リモート研修) ケアマネジメントの実践事例の研究及び発表(集合研修)	看護部長兼 介護支援専門員	八幡一子	R 2.12. 2～3 R 3. 6.30	福島県 介護支援専門員協会 ビックバレット 会津アビオ リモート研修	研修復命書 職員回覧
17	令和3年度 介護支援専門員研修Ⅱ	ケアマネジメントの実践事例と研究及び発表(集合研修) 介護保険制度及び地域包括ケアシステムの今後の展開 ケアマネジメントの実践事例の研究及び発表(リモート研修) ケアマネジメントの実践事例の研究及び発表(集合研修)	介護副部長兼 介護支援専門員	小林栄里	R 2.12.14～15 R 3. 6.18	福島県 介護支援専門員協会 ビックバレット 会津アビオ リモート研修	研修復命書 職員回覧
18	令和3年度管理職員のためのプリセプター運用研修【1班】 業務の標準化を進め、サービスの質の向上と職員風土作りをめざす	1日目 業務の標準化総論 事業をきちんと進めるためのマニュアル よりよいマニュアルづくり ステップ1 2日目 よりよいマニュアルづくり ステップ1 講師からのフィードバック よりよいマニュアルづくり ステップ2 よりよいマニュアルづくり ステップ3 まとめ	栄養リーダー兼 管理栄養士 介護リーダー	佐藤明日香 國分幸夫	R3.12.21～22	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 リモート研修	研修復命書 職員回覧
19	令和3年度老人福祉施設職員研修Ⅱ	「施設における身体拘束廃止の取り組み等について」	介護員 介護員	長谷川寿 神田春佳	R3.12.24	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 リモート研修	研修復命書 職員回覧

令和3年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」施設外研修実施状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
20	新型コロナウイルスのオミクロン株への感染対策研修	オミクロン株に係る最新情報と感染拡大対策について	副施設長兼事務長兼主任介護支援専門員 看護係長兼介護支援専門員 栄養リーダー兼管理栄養士	伊勢亀久美子 八幡一子 佐藤明日香	R4.1.19	福島県高齢福祉課 リモート研修	研修復命書 職員回覧
21	令和3年度福島県介護支援専門員実務研修(前期研修)	自立支援のためのケアマネジメントの基本 ケアマネジメントに必要な基礎知識及び技術② アセスメント及びニーズの把握の方法 居宅サービス計画の作成 サービス担当者会議の意義及び進め方 モニタリング及び評価 相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎 利用者、多くの種類の専門職等への説明及び合意 介護支援専門員に求められるマネジメント	理学療法士	渡部嘉奈子	R4.1.12～13 R4.1.18～19	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 ビックバレットふくしま	研修復命書 職員回覧
22	令和3年度キャリアパス制度課題別研修「指導職員」の役割の明確化モチベーション向上と意識改革	キャリアパスにおける指導職の役割を考える 個々のコミュニケーションの特徴について 部下の成熟度に合わせたリーダーシップ 評価者としての指導職を考える 指導職としてのこれからを考える	介護係長 介護副係長兼介護支援専門員	大田真紀 小林栄里	R4.1.20～21	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 リモート研修	研修復命書 職員回覧
23	令和3年度管理職員のためのプレゼンター運用研修【1班】 業務の標準化を進め、サービスの質の向上と職員風土作りをめざす	1日目 業務の標準化総論 事業をきちんと進めるためのマニュアル よりよいマニュアルづくり ステップ1 2日目 よりよいマニュアルづくり ステップ1 講師からのフィードバック よりよいマニュアルづくり ステップ2 よりよいマニュアルづくり ステップ3 まとめ	リハビリリーダー兼作業療法士 介護リーダー 介護リーダー	長嶺耕一 長谷川良三 佐藤留美	R4.1.24～25	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 リモート研修	研修復命書 職員回覧
24	介護サービス事業所における業務継続計画(BCP)	介護事業者におけるBCPとは そもそもBCPとは何か 自然災害と感染症で異なる対応 防災を考える BCPを考える まとめ	介護係長 介護リーダー 支援相談員兼介護支援専門員	大山俊 長谷川良三 近藤 乙	R4.2.2	一般社団法人 中部産業連盟 リモート研修	研修復命書 職員回覧

令和3年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」施設外研修実施状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
25	あなたを助ける介護記録～記録の書き方・記録の読み方～	ただ書くだけの記録から、利用者と現場に役立つ記録へ～まず無駄な記録をなくそう～役に立つ記録の書き方を具体的に説明(認知症ケアに活用する記録など)	介護員 介護員	佐藤美里 大山 諒	R4.2.22	株式会社日本ケア コミュニケーションズ リモート研修	研修復命書 職員回覧
26	令和3年度西会津町認知症ケアスキルアップ研修会	事例シートの提出	介護副係長兼 介護支援専門員 介護員	小林栄里 長谷川ウタ子	R4.2.28	西会津町 リモート研修	研修復命書 職員回覧
27	令和3年度福島県介護支援専門員実務研修(後期研修)	1日目 第14章実習の振り返り 第15章ケアマネジメントの展開① 基礎理解 2日目 第15章ケアマネジメントの展開④ 筋骨格系疾患及び廃用症候群に関する事例 脳血管疾患に関する事例 3日目 第15章ケアマネジメントの展開⑤ 内臓の機能不全に関する事例 認知症に関する事例 4日目 第16章 アセスメント及び居宅サービス計画等作成の総合演習 5日目 第15章ケアマネジメントの展開⑥ 看取りに関する事例 第17章 研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り	理学療法士	渡部嘉奈子	R4.3.3～4 R4.3.8～10	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 リモート研修	研修復命書 職員回覧

令和3年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」施設外研修実施状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
28	介護事業者のための災害・感染症BCP入門セミナー	事業継続計画(BCP)とは 事業継続計画(BCP)作成のポイント 善光会の取り組み	副施設長兼 事務長兼 主任介護支援専門員 栄養リーダー兼 管理栄養士	伊勢亀久美子 佐藤明日香	R4.3.16	社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究所 リモート研修	研修復命書 職員回覧
29	介護事業所のBCP策定オンラインセミナー	介護事業所における業務継続計画(BCP)策定について 介護報酬改定におけるBCP策定の位置づけ 厚生労働省による「業務継続ガイドライン」のポイント BCP策定における「優先業務」と「経営資源」の考え方 実用性の高いBCPを策定するために	看護副係長 栄養リーダー兼 管理栄養士	佐藤かつ子 佐藤明日香	R4.3.24	株式会社 スターパートナーズ リモート研修	研修復命書 職員回覧
30	「便秘の三大要素別アプローチ」 ～看護師を中心にアセスメントしてみよう～	便秘の三大要素 見極めのアセスメントポイント 課題にあわせた排便ケア	准看護師 准看護師	中島愛 伊藤美和子	R4.3.25	メディバンクス株式会社 リモート研修	研修復命書 職員回覧
31	令和3年度社会福祉法人・施設「会計実務研修」基礎・決算	会計実務研修 基礎編 決算編 新規プログラム 活用できる月次報告 資金管理の実践的実務	事務員	渡部飛鳥	R4.3.4・7・8・18・ 26	社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 リモート研修 憩の森相談室	研修復命書 職員回覧

令和3年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」 在宅研修実施状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	場所	研修結果の報告方法
1	在宅研修	デイケア業務「レクリーダー」を遂行する。 送迎、入浴着脱介助、食事介助、排泄介助、集団体操、レクリエーション、見守り、送迎、記録等	介護リーダー	長谷川良三	R3.10.18	憩の森通所リハビリテーション事業所	研修復命書 職員回覧
2	在宅研修	デイケア業務「レクリーダー」を遂行する。 送迎、入浴着脱介助、食事介助、排泄介助、集団体操、レクリエーション、見守り、送迎、記録等	介護員	佐藤広也	R3.10.19	憩の森通所リハビリテーション事業所	研修復命書 職員回覧
3	在宅研修	デイケア業務「レクリーダー」を遂行する。 送迎、入浴着脱介助、食事介助、排泄介助、集団体操、レクリエーション、見守り、送迎、記録等	介護員	青津泰平	R3.10.26	憩の森通所リハビリテーション事業所	研修復命書 職員回覧
4	在宅研修	デイケア業務「レクリーダー」を遂行する。 送迎、入浴着脱介助、食事介助、排泄介助、集団体操、レクリエーション、見守り、送迎、記録等	介護員	黒澤裕明	R3.11.4	憩の森通所リハビリテーション事業所	研修復命書 職員回覧
5	在宅研修	デイケア業務「レクリーダー」を遂行する。 送迎、入浴着脱介助、食事介助、排泄介助、集団体操、レクリエーション、見守り、送迎、記録等	介護員	尾形亮太	R3.11.17	憩の森通所リハビリテーション事業所	研修復命書 職員回覧
6	在宅研修	デイケア業務「レクリーダー」を遂行する。 送迎、入浴着脱介助、食事介助、排泄介助、集団体操、レクリエーション、見守り、送迎、記録等	介護リーダー	佐藤留美	R3.11.25	憩の森通所リハビリテーション事業所	研修復命書 職員回覧

令和3年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」ケアマネジメント研修会参加状況

NO.	日時	参加者	研修内容	場所
1	R3. 8. 23	伊勢亀 久美子 近藤 貴之	R2. 11. 13 自立支援型地域ケア会議振り返り報告 ①テーマ「冬に向かうにあたり腰痛が再発しないために」 ②テーマ「冬期間の身体機能低下を予防し、在宅生活を維持していくためには」 ◆事例検討テーマ「アルコール依存症の利用者が生きがいをもって生活を続けるために」	さゆりの園デイサービスセンターⅡ
2	R3. 12. 20	小林 栄里	R3. 6. 21 研修後の振り返り報告 テーマ「認知症が進行していく本人と受容が進まない家族の支援」 R3. 7. 13 自立支援型地域ケア会議振り返り報告 テーマ「パーキンソン症候群と付き合いながら、自分でできることを続けるために」 ◆事例検討テーマ「他者を怒鳴って、苛立って生活している入所者へのより良い支援とは」	さゆりの園会議室
3	R4. 1. 17	近藤 貴之	R3. 7. 13 自立支援型地域ケア会議振り返り報告 テーマ「大好きな畑を続け、自分で料理し、美味しく食べ、元気に一人暮らしが続けられるために」 R3. 8. 23 研修後の振り返り報告 テーマ「アルコール依存症の利用者が生きがいを持って生活を続けるために」 ◆事例検討テーマ「本人の気持ちが向かないと受診に行けない利用者に対してのアプローチの仕方について」	さゆりの園デイサービスセンターⅡ

4	R4. 2. 21	小林 栄里	R3. 10. 19 自立支援型地域ケア会議振り返り報告 テーマ「多くの疾患を抱え、薬を多用している高齢者の身体レベルを維持していくために」 ◆事例検討テーマ「本人がリハビリに取り組めるためにどのように支援すればよいか」	さゆりの園デイサービスセンターⅡ
5	R4. 3. 14	伊勢亀 久美子 八幡 一子 近藤 貴之	◆事例検討テーマ「利用者や家族に寄り添うとは、どんなこと？」	さゆりの園デイサービスセンターⅡ

1.令和3年度西会津町介護老人保健施設「憩の森」施設内研修会実施状況

テーマ	開催主体	参加職種	参加人数	開催日	研修結果の周知方法
「利用者同士のもめごとの仲裁」	施設内研修委員会	全職種	32名	令和3年4月20日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「新型コロナウイルス感染防止」について	感染対策推進委員会	全職種 パート職員を含む	36名	令和3年4月28日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「高齢者虐待防止」について	権利擁護委員会	全職種 パート職員を含む	41名	令和3年6月23日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「衛生管理」について(食中毒含む)	管理栄養士/感染対策委員会	全職員 パート職員を含む	41名	令和3年7月28日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「苦情への対応」について	施設内委員会	全職員	29名	令和3年8月17日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「介護事故防止」について	リスクマネジメント委員会	全職員 パート職員を含む	39名	令和3年9月29日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「介護観の違いによる意見の食い違い」について	施設内研修委員会	全職員	29名	令和3年10月19日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「褥瘡予防・排泄ケア」について	褥瘡対策委員会	全職員	26名	令和3年10月27日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「感染症対策」について(インフル・ノロを含む)	感染対策委員会	全職員	32名	令和3年11月24日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧

「情報共有の不備が招いたリスク」について	施設内研修委員会	全職員	29 名	令和 3 年 12 月 21 日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「身体拘束廃止」について	権利擁護委員会	全職員 パート職員を含む	41 名	令和 4 年 1 月 26 日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「新型コロナウイルスのオミクロン株への感染対策についての動画研修会」	感染対策委員会 感染対策推進委員会	全職員 パート職員を含む	20 名 15 名 11 名	令和 4 年 2 月 25 日(金) 令和 4 年 2 月 28 日(月) 令和 4 年 3 月 2 日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
令和 3 年度成果報告会	各係	全職員	29 名	令和 4 年 3 月 15 日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
「介護事故防止」について(傾向と対策)	リスクマネジメント委員会	全職員 パート職員を含む	24 名 20 名	令和 4 年 3 月 23 日(水) 令和 4 年 3 月 25 日(金)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧

2.令和 3 年度西会津町介護老人保健施設「憩の森」事例検討会

テーマ	事例提供者	参加職種	参加人数	開催日	研修結果の周知方法
「ネガティブからポジティブに」	デイケア係 山口 百合子	全職員	28 名	令和 3 年 9 月 21 日(火)	資料全員配付 グループワーク内容まとめ、振り返りシートまとめ回覧
「排泄の不安なく安心して生活が出来るための支援について」	介護係 長谷沼 和則	全職員	28 名	令和 3 年 11 月 16 日(火)	資料全員配付 グループワーク内容まとめ、振り返りシートまとめ回覧
「看取り期の利用者様とのかかわりを通してのケアの振り返りについて」	看護係 伊藤 美和子	全職員	27 名	令和 4 年 1 月 18 日(火)	資料全員配付、グループワーク内容まとめ、振り返りシートまとめ回覧

「ターミナル対応で入所した事例へのかかわり方の検討」	リハビリ係 渡部 嘉奈子	全職員	29名	令和4年2月15日(火)	資料全員配付 グループワーク内容まとめ、振り返りシートまとめ 回覧
----------------------------	-----------------	-----	-----	--------------	---

3.令和3年度西会津町介護老人保健施設「憩の森」 自己啓発支援制度(SDS)状況

内容	主催	対象職員	参加人数	期間	支援内容と結果
令和3年度福島県介護支援専門員実務研修受講試験勉強会	リハビリ係他	受験予定者	5名	令和3年8月～ 令和3年10月	場所(デイケア室) 資料印刷の提供 ⇒1名合格
令和4年3月ケアマネジメント研修会	にしあいづ地域包括支援センター	介護支援専門員	1名	令和4年3月14日(月)	休日における自主参加の承認

令和3年度 行事食一覧表

西会津町介護老人保健施設憩の森		
実施日	行事食名	行事食内容
4月	22日 ①お花見御膳	春の散らし寿司、吸い物、桜海老の天ぷら、里芋の春菊和え
	29日 ②昭和の日	御飯、こづゆ、魚の煮つけ、クルミの白和え
5月	3日 ③憲法記念日	御飯、さくさく、魚のくずあんかけ、春菊とりのりのお和え物
	4日 ④みどりの日	赤飯、味噌汁、魚の山椒焼き、ポテの味噌炒め
	5日 ⑤こどもの日	山菜寿司、あさりの潮汁、魚のフライ、ブロッコリーと海老のマヨネーズ
	21日 ⑥御田植御膳	十五穀米御飯、新じゃがと桜エビのスープ、筑前煮、アスパラの和え物
6月	7日 ⑦さなぶり御膳	中華おこわ、吸い物、鯛の桜エビフリッター、ふきとうどの油炒め
7月	7日 ⑧七夕御膳	冷やしそうめん、薬味、精選揚げ、奴豆腐、七夕ポンチ
	19日 ⑨海の日	炊き込みチャーハン、わかめスープ、焼き餃子、青菜のおひたし
8月	13日 ⑩お盆入り	御飯、吸い物、精選揚げ、天つゆ、クルミの白和え
	15日 ⑪終戦記念日	赤飯、こづゆ、煮魚、揚げ出し豆腐の枝豆あん
9月	20日 ⑫敬老の日	赤飯、かき卵汁、魚の照り焼き、マカロニの味噌ソースかけ
	21日 ⑬秋彼岸	おはぎ、こづゆ、魚の酒粕焼き、ほうれん草と菊のくるみお和え
	23日 ⑭秋分の日	御飯、すまし汁、天ぷら盛、天つゆ、豆腐とえびの煮物
10月	16日 ⑮秋の味覚御膳	赤飯、吸い物、魚の照り焼き、秋野菜サラダ
11月	23日 ⑯勤労感謝の日	赤飯、味噌汁、魚の山椒焼き、ポテの味噌炒め
	24日 ⑰そば会	新そば、かき揚げ、菊入なます
12月	23日 ⑱クリスマス御膳	クリスマス散らし寿司、洋風スープ煮、チキン豆腐団子、芋サラダ
R4 1月	31日 ⑲大晦日	年越しそば、かき揚げ、菜花となめこのお浸し
	1日 ⑳元旦	御飯、くずし豆腐、伊達巻、五目豆、鯛味噌
		春の散らし寿司、雑煮風煮物、紅白なます、インゲンの胡麻味噌和え
	御飯、味噌汁、魚の西京焼き、きんとん	
	2日 ㉑正月献立	御飯、カニのスープ、松風焼き、マカロニサラダ
	3日 ㉒正月献立	御飯、味噌汁、三日とろろ、ごぼうの卵とじ
		御飯、七福神イモ雑煮、豆腐ハンバーグ胡麻ソース、錦なます
	10日 ㉓成人の日	赤飯、芋の子汁、魚のおろし煮、キャベツの酢の物
	15日 ㉔小正月御膳	おはぎ、こづゆ、棒たらの甘露煮、かずのこ豆
	2月	2日 ㉕節分
11日 ㉖建国記念日		赤飯、こづゆ、煮魚、かぶの香り漬け
14日 ㉗バレンタイン		とろっとオムライス、コンソメジュリアン、ヨーグルトサラダ
23日 ㉘天皇誕生日		桜御飯、なめこ汁、魚の香味ソースがけ
3月	3日 ㉙ひなまつり	ひな祭り寿司、吸い物、魚の木の芽焼き、菜花のなめこのおひたし
	18日 ㉚彼岸入り	おはぎ、こづゆ、魚の生炊煮、鶏ササミマリネ
	21日 ㉛春分の日	赤飯、吸い物、揚げ豆腐と野菜あんかけ、おさつサラダ

令和3年度給食栄養実績年計表

西会津町介護老人保健施設 憩の森

		1ヶ月	1食平均	1か月	1人1日平均	経費栄養	エネルギー	蛋白質	脂質	炭水化物	カルシウム	鉄	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンC	食物繊維	塩分		
		食数	食数	購入金額(円)	食料費(円)	1食単価(円)	kcal	g	g	g	mg	mg	ug	mg	mg	mg	g	g	
4月	入所	2,610	29	648,785	746	246	1,424	57.1	32.5	209.8	751	10.2	508	1.66	1.20	85	13.10	6.40	
	SS	1,380	15	375,411	751														
5月	入所	3,216	35	744,568	737	271	1,452	58.2	35.8	207.8	765	10.5	518	1.61	1.24	86	12.80	6.40	
	SS	1,143	12	286,328	751														
6月	入所	2,764	31	675,304	735	209	1,464	58.5	35.8	212.0	809	10.7	522	1.63	1.26	85	13.00	7.00	
	SS	1,109	12	280,368	758														
7月	入所	2,833	30	639,542	677	203	1,480	57.9	36.9	211.6	783	10.4	521	1.58	1.29	89	13.20	6.60	
	SS	1,356	15	311,359	690														
8月	入所	2,700	29	657,954	731	248	1,449	55.8	34.9	211.3	763	10.1	518	1.56	1.19	83	8.70	13.00	
	SS	1,359	15	327,433	722														
9月	入所	2,764	31	672,128	729	280	1,429	59.7	32.1	207.6	774	10.6	568	1.59	1.27	86	13.30	6.70	
	SS	1,220	14	305,754	752														
10月	入所	2,972	32	707,666	711	271	1,472	59.1	34.8	212.2	805	10.8	695	1.56	1.27	87	13.60	6.80	
	SS	1,108	12	259,951	701														
11月	入所	2,544	28	667,616	787	210	1,477	57.7	36.2	211.5	782	10.6	575	1.61	1.72	90	13.40	6.90	
	SS	1,366	15	357,516	785														
12月	入所	2,766	30	685,911	744	214	1,486	58.9	37.6	212.5	781	10.5	564	1.61	1.30	90	13.50	6.90	
	SS	1,434	15	359,638	753														
令和4年 1月	入所	2,857	31	630,071	662	113	1,458	58.9	33.1	213.4	775	10.6	550	1.58	1.23	82	13.30	6.80	
	SS	1,393	15	306,750	661														
2月	入所	2,691	32	616,148	687	375	1,460	59.7	34.1	209.4	784	10.3	577	1.56	1.26	85	13.40	6.80	
	SS	1,209	14	278,226	690														
3月	入所	2,882	31	687,498	716	301	1,454	58.2	34.5	212.8	786	10.4	548	1.62	1.35	88	13.30	6.70	
	SS	1,415	15	337,096	714														
合計	入所	35,259		8,033,191			16,051	642	384	2,319	8,572	115	6,016	18	14	948	141	80	
	SS	15,491		3,785,830															
		平均					目標値												
	入所	2,938人	33人	669,432	722	245	1,400	60	35.0	170.0	600	6.5		1.00	1.10	100	18.00	6.50	
	SS	1,291人	14人	315,486	727		平均値												
							1,338	53.5	32.0	193.3	714	9.6	501	1.50	1.17	79	11.75	6.67	

令和3年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町介護老人保健施設「憩の森」

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質 (内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度 (接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質 (内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

令和3年度

西会津町介護老人保健施設「憩の森」短期入所(予防)療養介護事業所事業報告

1. 基本方針

運営規程及び平成27年1月に、町とにしあい福祉会が協働し共同公表した介護老人保健施設「憩の森」基本方針に則り、以下の重点目標に基づき事業を展開した。具体的な実施報告は、別紙の「実施報告」の通りである。

2. 入所定員

50名(短期入所療養介護を含む)。

3. 利用対象者

要支援1から要介護5までの認定を受けた者。

4. 重点目標

(1) 健康・健全経営への取り組み

職員が健康で長く働けることが職場を活性化し健全な経営につながるため、健康経営に取り組んだ。主の取り組みとしては、西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用して健康づくりを啓発した。さらに、定時にラジオ体操等を実施し運動の機会を増やし、「栄養だより」を職員会議にて配布し食生活改善への啓発も行ってきた。また、労働時間、年休取得状況を把握し、勤怠管理を行うことで法令を順守した休暇取得を促す体制も推進した。

健全経営の取り組みとして、各法令や制度への理解を深め介護報酬の適正な運用により財政安定化を推進した。在宅復帰・在宅療養支援等指標においては、在宅復帰率70%、ベッド回転率5.57%、重度者割合(要介護4・5の割合)61.6%となり、加算型介護報酬の算定体制を維持することができた。また、科学的介護推進体制加算(I)、栄養マネジメント強化加算、所定疾患施設療養費加算等の各種加算報酬の取得体制を整備した。

(2) 在宅生活・在宅療養への積極的な支援と連携強化

居宅サービス計画に基づき、在宅生活・在宅療養への積極的な支援と連携強化を実施してきた。西会津診療所、訪問看護事業所と連携し、在宅療養上必要となる医療処置の継続や在宅サービスの調整を総合的に行うことが出来た。また、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、町のワクチン接種対応に協力し、ワクチン接種後の経過観察が必要とされた独居高齢者の受け入れ等の支援も行ってきた。

医療的入所へ取り組みとしては、関係機関と連携し、事前に体調や病状を把握することで、利用中も継続して適切なケアや医療対応が出来る体制を整備した。退所後においても介護負担の軽減と在宅療養が継続できるように助言と指導を行なった。緊急を要する医療的入所においても受け入れ体制を継続してきた。

(3) 職員の専門性の向上

キャリアパスに基づき職員研修計画を策定し、OJT・OFF-JT・SDS(自己啓発援助制度)を推進することで、専門性・資質の向上を推進した。OJTについては、各係にて業務手順書の改訂や整備を進めた。また虐待防止に関する自己評価等を実施し、施設内の権利擁護意識向上を啓発した。Off-JTについては、新型コロナウイルス感染症予防のため、外部研修においてオンライン研修として開催される場合も多くなり、その環境整備も行った。また、法定研修や事例検討会等の内部研修も定期的の実施してきた。SDS(自己啓発支援制度)については、介護支援専門員試験の勉強会を実施し1名の合格者を出すことが出来た。

根拠に基づいた介護(evidence-based care EBC)を実施していく取り組みとしては、科学的介護推進体制の整備に力を入れ、介護技術指導者向け研修会の内容を介護・看護職員にて共有し技術の導入を進めた。また認知症ケアの統一や改善を図るために、センター方式のアセスメントシートを活用し、それぞれの病状に合わせたケアを提供できる体制を推進した。さらに、ふるさとまつりの八代亜紀オンラインコンサートに向けて“雨の慕情体操”を多職種協働にて考案し実施した。栄養係では、介護食レシピコンテストに参加し、専門技術向上の啓発につなげた。事務係では「社会福祉法人・施設会計実務研修会」に参加し、「社会福祉会計簿記初級」認定試験の合格者を出すことが出来た。

(4) 環境の整備

施設設備の充実とICTの活用による事務処理の効率化を図り、利用したい・働きやすい環境の一層の整備を推進した。ICT活用における主な取り組みとして、福祉見聞録システムを使用したモニタリングの同一様式化、オンライン面会の体制整備等を行った。介護業務においては、パソコン端末を活用した事務処理の効率化を進め、パソコン入力に不慣れな職員への指導を実施した。さらに、タブレットを活用した映像や音楽による回想法のアプローチを加えたリハビリ体制を推進した。また、感染症予防や事故予防における主な取り組みとしては、処置室内の消毒と清掃を定期的の実施し、感染予防に必要な物品管理を徹底する体制を整備した。厨房内の事故予防対策として、危険箇所を点検し作成したポスターにて啓発を行った。

令和3年度西会津町介護老人保健施設「憩の森」短期(予防)入所療養介護 実施報告

(1) 健康・健全経営への取り組み

係・部門	実行計画内容	実施報告
相談	①健康づくりの推進のため、西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用し、毎日の健康状態を記録し管理していく。 ②在宅復帰・在宅療養支援等指標における加算型の運用を継続する。また、月単位の計画的な入退所管理を実施し、主要要件である在宅復帰率、ベッド回転率の安定化を図っていく。	①西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用することで、血圧や体温などのバイタルを測定し、適度な運動や野菜中心の食生活を心がけながら生活することができた。部門内での体調不良者はなく、皆勤で職務にあたることができた。 ②ケアマネ連絡会議にて入退状況を確認し、計画的に在宅復帰の調整を行うことができた。結果、在宅復帰・在宅療養支援等指標(令和4年3月末時点)においては、在宅復帰率70%(内訳:在宅18名、死亡12名、他11名、延41名)、ベッド回転率5.75%、重度者割合(要介護4・5の割合)61.6%となり、加算型の体制を継続することが出来た。
医療看護	①各係内へ出退勤時に血圧測定をすすめ「はかる・わかる・きづく・かわる」を効果的にする。 ②健康を維持し利用者に「笑顔」で接するために、朝のラジオ体操に参加することで、骨・筋肉・関節をまんべんなく動かし、食生活改善では、健康を意識して糖分や塩分を控えるように声がけしていく。 ③医師の指示のもと必要な対応を行い、適正な加算が取れるように係内で確認する。 ④日々「施設内感染拡大」に繋がらないように、他の係と連携して啓発していく。	①こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用し係内にて血圧測定の意識づけを行った。その結果、スタッフの血圧測定の習慣化につながった。また、係内での手帳の活用も進み、約7割のスタッフが活用して健康管理に取り組めるようになった。次年度は手帳の全員活用につなげていきたい。 ②利用者に常に「笑顔」で接し、傾聴の姿勢を忘れず対応してきた。また、緊急時以外の情報共有の時間帯を調整したため、スタッフが朝のラジオ体操に参加できるようになり、運動による健康への取り組みを進めてきた。さらに、食生活改善においても、健康を意識して糖分や塩分を控えるように声がけしていく。 ③健全運営に繋がられるよう他部門と連携を図り、療養食加算・在宅復帰在宅療養支援加算を算定することができた。 ④令和3年5月に施設で発生したコロナウイルス感染症については、

		感染拡大防止に努め収束させることが出来た。日頃の感染予防対策と啓発が重要であるため、感染対策委員会・リハビリ係と連携し朝のラジオ体操時にて、手洗いやマスク着用のアナウンスを行い感染予防対策の啓発を行なった。
介護	①職員の健康維持のため、西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用し、記録することで食生活改善につなげる。一日2回ラジオ体操の音楽を流し、勤務者全員で意識的に運動する機会を設ける。 ②介護報酬改定に対応した介護体制を整備するために、ケアスタッフ会議等にて介護保険制度や介護報酬改定の情報共有や勉強会を行うと共に、各係と連携し加算報酬を取得できる運営を行っていく。	①西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用し、毎日の体温や血圧を記録することを心掛け、毎朝のラジオ体操を行うことも継続できた。また、レクリエーションの時間に合わせて午後にもラジオ体操や、ふるさとまつりのオンラインコンサートに向けた八代重紀の“雨の慕情体操”を利用者とともにいった。コンサート終了後もレクリエーションとして組み入れ実施している。 ②介護保険制度や介護報酬に関する最新の情報を確認することができた。また、介護保険制度・介護保険法についての勉強会を3月のケアスタッフ会議で行い、制度の基本について学び直す機会となった。
リハビリテーション	①スタッフの健康づくりを推進していくために、西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用して、体調を管理し運動や食生活の改善に取り組む。また、継続のモチベーションを保つため、定期的に実施状況について確認し合う機会を設けていく。 ②老健加算型介護報酬を取得し健全な経営を行っていくために、在宅復帰・在宅療養支援機能指標におけるリハビリ職員配置点数を確保していく。また、入所退所前後訪問指導割合点数の安定確保のために、在宅訪問が出来る勤務体制を整備する。 ③令和3年度介護報酬改定に対応するために、厚生労働省や全老健からの情報等を把握し、体制整備を行っていく。	①西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を用い、健康づくりに取り組んだ。ポイント手帳利用に関するオリエンテーションを実施し、毎月1回のスタッフミーティング時に実施状況を確認する機会を設ける等の支援体制を作った。また、健康経営への取り組みを推進していくため、健康経営アドバイザー（東京商工会議所）の資格取得を推奨し2名の合格者を出した。 ②加算型報酬獲得の要件であるリハビリ専門職配置割合の安定運用のため、取得条件を満たせる勤務体制を整備した。入退所前後訪問についても他職種と連携し実施した。 ③厚生労働省通知や全老健からの情報等を把握し、スタッフミーティングの際に共有することにした。報酬改定情報を適時確認できるように、改定資料をまとめたファイルを設置し電子媒体の資料もパ

		ソコンにて閲覧できる体制とした。
栄養給食	①職員の食生活改善を促すため、毎月の職員会議で栄養だよりを配布し、健康で働くための食習慣について啓発していく。また、朝礼で定期的に栄養や食事に関する情報の発信を行っていく。 ②安全に業務が行えるよう、始業前・業務中・休憩中に簡単なストレッチを取り入れる。	①職員会議において、各月ごとにテーマを決めて配布を行った。4月～8月については食事内容の基本的な摂り方を中心とした内容をテーマに、10月～12月については職員健康診断の結果を基に、より栄養素に焦点を絞ったテーマで栄養だよりの作成を行った。朝礼での情報発信については、業務都合により参加職員が少ない為、カウンター周辺に職員会議で配布した栄養だよりを掲示し、栄養に関する啓発を行った。 ②厨房入り口の検収室にストレッチのポスターを掲示し、始業前・業務中・休憩後に実施出来るように声がけや栄養係会議前にも体操の実施を行った。しかし、定着にはまだ至っていない為、次年度も継続していく。
事務	①職員が健康に働ける環境を整備するため、労働時間、年休取得状況を把握し速やかに報告・連携を図り、法令を順守した休暇取得を促進する。 ②介護報酬の適切な管理・回収を行う。また、利用料未納発生防止の仕組みをつくる。	①各職員の付与日や、取得実績を記載した一覧表を作成し、勤怠管理者に活用してもらう事で、法令を順守した休暇の促進をより計画的に実施できるようにした。実績や取得予定について毎月確認を行い、勤怠管理者へ報告連絡を行う事で計画的な休暇の促進に繋げる事が出来た。 ②料金納入期日に回収できていない事例もあったが、未納を確認した時点で速やかに電話連絡を行い、翌月に必ず回収を行う事が出来た。相談係と連携し情報共有を行う事で利用料未納防止、早期解決に努める事ができた。

(2) 在宅生活・在宅療養への積極的な支援と連携強化

係・部門	実行計画内容	実施報告
相談	①治療管理を目的としたショートステイの受入れを継続し、医療機関や在宅サービスと連携しながら総合的に在宅療養を支援する。 ②町や診療所からの要請による緊急入所が必要なときの受入れ先として対応していく。また、速やかに情報を収集し関係機関と共有することで連携強化を図っていく。	①西会津診療所、訪問看護事業所と連携し、在宅療養上必要となる医療処置の継続や在宅サービスの調整を総合的に行うことが出来た。 ②要請があった場合は、ベッドの調整が可能な限り受入れを実施し、各関係機関と協働アセスメントから、利用後のフォローアップについて継続協議し連携強化を図れた。
医療看護	①家族や利用者の事情による緊急的入所や医療的緊急入所の受け入れに柔軟に対応していくために、入所時には、迅速に治療経過・内服薬等の医療情報と自宅での介護状況を把握し、適切なケアを提供できる体制を整備する。また、利用者が自宅へ帰る際には、入所時の療養経過を伝えると共に、家族の在宅療養や介護負担の軽減が図れるように助言や指導を行なっていく。 ②入所前から治療・処置が必要であるケースへの対応力を強化していくために、西会津診療所や訪問看護事業所と連携し入所前の治療経過を把握し、退所時には療養経過を申し送る情報共有の体制を、書面や画像等を通して正確かつ効率的に実施していく。	①感染予防対策の促進のため、新型コロナウイルス予防ワクチン接種対応に協力した。その結果、本人およびご家族の負担軽減も図ることができ大いに喜ばれた。新型コロナウイルス予防ワクチン接種後の経過観察にて利用された独居生活利用者のケースもあり、随時対応した。また、ショートステイ利用前に事前に体調や病状を把握することで、利用中にも継続して適切なケアや医療対応が出来る体制を整備した。退所後も家族介護が継続できるように助言指導を実施した。自宅で転倒され動けなくなった利用者や食事時の誤嚥により熱発した利用者等を緊急で受け入れた場合にも、適切な医療対応やケアを実施した。 ②利用前において、西会津診療所や訪問看護事業所から事前に病状や指示を受けることで、利用中にも継続した医療的処置を実施した。退所時にも利用中の状態や経過を西会津診療所や訪問看護事業所に伝達し共有できる体制を整えた。また、皮膚トラブルの場合には、改善前後の状態を比較できるように画像を用いた報告を担当医に行い、内服薬や軟膏の処方に繋げられるように工夫した。さらに、療養経過の情報共有や連絡が漏れることを予防するために、職員同士

		で注意喚起の声をかけ合い、さらに書面等による点検も加えることで、連絡の漏れを無くす体制とした。
介護	①できる限り本人の望む生活を継続できるようにするために、住環境や家族の介護力を勘案し、在宅生活を想定した日常生活動作・生活リハビリを個別計画に組み入れ実施する。 ②各関係機関と協働し、在宅療養支援を行うために、居宅サービス担当者会議に参加した際は、施設での生活の状況を的確に伝え個別援助計画の評価を共有する。	①インテークシートやケアプラン内容を把握し、自宅の環境に近い空間やケアが提供できるように個別援助計画に組み入れた。在宅生活の継続とより良いサービス提供のため、居宅サービス担当者会議に介護係から参加できるよう、入所検討会の際に調整を行い参加できた。週間予定表に日程や参加者を記入することで、全介護スタッフが予定を把握できた。 ②居宅サービス担当者会議に参加し、施設での生活状況を詳しく伝えた。参加後は内容をすぐに申し送り、在宅での様子や意向等をすぐに閲覧できる体制とし、個別援助計画に沿ったサービスを提供することができた。
リハビリ テーショ ン	①各関係機関・専門職と在宅生活を意識した協働アセスメントや情報共有を行うために、ICT（情報通信技術）を活用し、利用者の在宅生活や環境を映像等にて確認できる体制を整備する。 ②在宅生活を想定したリハビリプログラムの作成や日常生活の指導を行うために、必要時には在宅訪問を行い、効果的な福祉用具の選定や住環境設定を実施していく。 ③多職種との情報共有や連携の円滑化を図るために、福祉見聞録システムや ICT を活用した記録管理を実施する。	①在宅生活を支援するために利用者の様子を多職種連携して撮影し、ご家族へ映像を元にして説明を実施した。また、タブレット等を利用して情報共通を図った。 ②在宅生活を想定したリハビリプログラムの作成を実施し、日常生活の指導を行うため在宅訪問（1件）を実施し、福祉用具の選定や住環境設定に取り組んだ。内容については、映像や書面を用い情報共有を実施した。 ③福祉見聞録システムや ICT を活用した記録管理については、福祉見聞録にて情報共有を図り、記録も実施した。
栄養給食	①在宅生活が継続できるように、根拠に基づいた指導に加え、市販品の活用や簡単にできる調理方法の提案・紹介等、各関係機関と連携して栄養・食事指導を行う。	①食事量の少ない利用者の家族へ、施設利用中の状況を基に在宅での食事内容の提案などの指導を行った。また、指導内容については、居宅ケアマネージャーと利用する事業所（デイサービスや訪問介護事業所等）へ報告を行い、情報共有を行った。

事務	①即座に利用者の情報を把握するために、入所検討会資料等を確認する。	①入所検討会資料や、基本情報シートの定期的な確認を行い、新規利用前に利用者情報を把握する事ができた。しかし、業務において円滑な情報収集までは至っていない為、今後も情報収集を継続し、スムーズな連携と収納業務に活かしていく。
----	-----------------------------------	--

(3) 職員の専門性の向上

係・部門	実行計画内容	実施報告
相談	①人権擁護員等を招き外部評価を受けることで、施設での取り組みが人権へ配慮できているか確認していく。内部評価においては、全職員を対象に虐待防止に関する自己評価を年2回実施し、施設内の権利擁護意識を確認し啓発していく。 ②人生の最終段階における医療・ケア決定プロセスにおいて、意思表示が困難な利用者の代弁機能を果たし、アドバンス・ケア・プランニングを推進していく。	①新型コロナウイルス感染症流行に伴い、感染予防のため、人権擁護員訪問外部評価は未実施。人権擁護員から提供された啓発ポスター(うちわ)を利用者へ配布する啓発活動は実施することが出来た。内部評価としては、令和3年6月に虐待防止に関する自己評価(職員のストレス蔓延度チェックリスト)、令和4年3月には虐待の芽チェックリストを実施し、施設内の権利擁護意識の向上に努めた。 ②事前に本人・家族の意向を確認し、医療的なフォローをしながら自宅で過ごす時間を設けられるようにしている。また、最期を家族と迎えられるよう、ターミナル期は個室を準備する等の環境を整備した。
医療看護	①地域医療を支えるため、訪問看護事業所との連絡体制がスムーズに取れるように、在宅研修を継続する。 ②看護の視点から療養上の留意点を管理するために、個人の抱える疾患や認知症に起因する合併症を把握する。 ③独居・老老介護等の理由で施設看取り件数が多くなっているため、「手順書」を改正し、多様なニーズに対応できる体制をつくる。	①コロナ感染予防対策の為、在宅研修を実施出来ていない。しかし、訪問看護事業所との連絡体制は継続しており、円滑に連携できている。 ②個人の疾患や認知機能低下に起因した合併症を把握することで、食事摂取状態が低下してきている利用者には栄養士と連携し、食事形態や姿勢・補助具の工夫、嗜好品の把握等に取り組んだ個別ケアを提供できた。 ③ショートステイから看取りプランに変更となった時は、早急に計画書を作成できる体制を整えた。また、「看取り業務手順書」の改正

		を行い体制強化に繋げた。
介護	①認知症ケアの向上のために、センター方式の焦点情報シートを活用し、本人を理解して、できる可能性を引き出す支援する。また、スキルアップのため積極的に施設内事例検討会へ事例を提供する。 ②介護職全体の資質向上を図るために、係内にて根拠に基づいた介護技術の研修会を実施すると共に、OJT 体制を強化する。 ③利用したい施設を目指すために、小さな要望等にも迅速、かつ丁寧に対応し意向をくみ取って行くことで、質の高いサービスを実施していく。	①本人の想いや生活パターンを良く知り、ケア方法の統一や改善を図るため、センター方式の焦点情報シート（D-4 24 時間生活変化シート）を使用しアセスメントを行った。係内での事例検討会を1件行い、集団でなく個別的な関わりによって、『どこにアプローチをすると効果的か』を検討する材料とすることができた。 ②根拠に基づいたケアを提供するため、外部指導者の作業療法士による介護技術指導者向け研修会の内容を介護副保長よりケアスタッフ会議で介護・看護職員へ伝達することができた。介護技術に関する課題は、随時相談することでタイムリーに介助方法等の再検討ができており、実践につなげることができた。また、在宅酸素の使用方法について業者から説明を受け、介護リーダーより職員へ伝達することができた。骨折事故が集中して起きてしまったため、再発予防に焦点を当て、3月に介護技術研修会を行った。骨粗鬆症や人工関節置換術後の骨折リスクを改めて確認することで、移乗時や排泄介助時の注意点等の理解が深まった。 ③利用したい施設を目指すため、利用者、家族より要望等があった際は、苦情・要望相談票の内容について毎月のケアスタッフ会議内で再度周知し、今後の対応の確認を行った。また、現場レベルでの要望等を聞き取り、利用者の声を直接確認することも行った。今後も定期的に行い、サービスの質の向上を目指したい。
リハビリテーション	①質の高いサービスに向け、在宅生活支援において的確な助言と医学的根拠のあるリハビリを実施していくために、SDS・Off-JT への支援体制の中、職業団体の研修等へ参加し専門技術の習得に励む。また、係内において習得したり	①新型コロナウイルス感染症対策のため、各種団体の研修・学会等にはオンライン研修にて参加した。（日本理学療法士協会・生涯学習制度に関わる研修等）オンライン研修が増加しているため、ZOOM アプリ（オンライン会議ソフト）を使用した情報共有や情報発信の勉強会

	ハビリ技術を伝達する研修会を開催する。 ②キャリアパスの適切な運用を実施していくために、スタッフ同士がスキルとキャリアプランを把握していくと共に、それに基づいたOJT体制を、リーダーを中心に強化していく。 ③チームアプローチによる認知症ケアを実現するために、センター方式を活用したアセスメントを実施し、ユマニチュードによる利用者それぞれの生活歴や性格に合わせた認知症ケアを行っていく。また、介護技術指導者研修会による根拠に基づいた介護技術体制との連携をとっていく。	を行い、接続方法の確認等も実施した。係内の勉強会については、栄養リハビリやリハビリマネジメント等のテーマにて実施した。SDS(自己啓発援助制度)においては、介護支援専門員試験の勉強会を立ち上げ実施し、1名の合格者を出すことが出来た。 ②スタッフ各々が習得したい専門スキル(技術)やキャリア(業務遂行能力)について共有し、それに対応した業務進捗表や業務手順書を刷新し、OJT体制の強化を推進した。 ③「見る」「話す」「触れる」「立つ」からなるユマニチュード技法による認知症ケアについては、日常のケアやリハビリ業務上にて実践してきたが、センター方式を活用したアセスメント(評価)については実施できなかった。しかし、センター方式の視点を活かしたアセスメントには取り組むことができ情報共有に役立った。また、介護技術指導者研修会との連携については、介護係と共に研修会で学んだ技術を業務に導入した。
栄養給食	①知識・技術の向上と係内のチームワークの醸成を図るため、給食献立や介護食等の料理・レシピコンテストへ係全体で取り組み、参加する。 ②根拠に基づいた栄養管理(EBM)を実践していくため、SDS(自己啓発援助制度)を活用して職業団体の研修等に参加し、食事摂取基準や栄養に関する各種ガイドラインの理解を深める。	①既製品のソフト食を活用した介護食レシピコンテストに9月に参加した。担当調理員を中心に係内全体でレシピの案を募集し、試作等を行ったことで、調理方法や盛り付けについて改めて考える良い機会となった。 ②対象となる研修の開催が無かった為、SDS(自己啓発援助制度)を活用した研修の参加は実施できなかった。しかし、自己研鑽としてオンラインで行われた各種栄養・食事に関する研修会(高齢者の栄養管理、食品成分表2020の活用、嚥下調整食学会分類2021の活用等)を受講し、理解を深めることができた。

事務	①社会福祉会計簿記の知識向上のため、キャリアパスに基づいた研修会に参加し、社会福祉会計簿記初級取得を目指す。	①キャリアパスに基づいた研修会である、「社会福祉法人・施設会計実務研修会」に参加し、会計の基礎から決算までの知識を習得することができた。また、「社会福祉会計簿記初級」認定試験に合格することができたため、今後の業務に活かしていく。
----	--	--

(4) 環境の整備

係・部門	実行計画内容	実施報告
相談	①多職種とのケース共有の円滑化のため、福祉見聞録システム上のアセスメントシート、モニタリング評価表を活用する。 ②CHASE・VISIT(科学的介護情報システム:LIFE)の運用にあたり、操作方法やフィードバックの活用についての勉強会を企画し、科学的介護の理解と浸透を図っていく。 ③利用者のQOL向上のため、オンライン面会の体制を整備していく。	①福祉見聞録システム上で、モニタリング結果を同一様式に入力することで相互共有を図りプランニングへ繋げることが出来た。 ②令和3年4月より科学的介護推進体制加算(I)を算定している。福祉見聞録システム上でのLIFE運用までは至らなかったため、次年度には体制を整備していく予定である。 ③オンライン面会の手順書を作成した。これまで8件のオンライン面会を実施し、顔を見ながら会話ができることで本人、家族の満足度が向上した。次年度も感染症の状況に応じながらオンライン面会を継続して実施していく。
医療看護	①日常の記録と申し送り内容を一本化するために、「福祉見聞録」を活用し保内にて体制を整備する。 ②清潔な環境での業務遂行にあたるために、日常の5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を継続する。	①状態不良時や指示変更時の確認などは、「福祉見聞録」のケース記録を印刷し文面にて確認することで、申し送りの漏れを防ぐ体制を整備した。しかし、さらなる業務効率化のため、「福祉見聞録」を活用した看介護日誌と申し送りの内容の一本化した体制までには至らなかったため、次年度には整備したい。 ②日常の5Sとして、処置室内の感染予防対策に力を入れた。アルコールでの拭き掃除と日曜日の床掃除、処置用品の管理・補充を継続してきた。また、感染拡大に備えた必要物品の管理を徹底した。

介護

- ①事務処理の効率化のために、福祉見聞録内の評価表を活用し、作業手順の見直しを行っていく。
- ②気持ち良く働ける職場作りのために、職員一人ひとりが細やかな気遣いや心配りを意識できるよう毎月標語を掲示する。
- ③常に清潔な施設を保つために、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を実行する。

- ①福祉見聞録の掲示板を活用することで、各係との情報共有ができた。また、送迎方法を含めたショートステイ利用者の決まり事や手順等をまとめ、データをパソコン内に置くことでいつでも閲覧、修正ができ、作業の効率化につながっている。
- ②職員同士の呼び方についての課題を改善するため、標語を作成し施設内への掲示を行った。また、マスクを常時つけた状態でも笑顔が伝わるように新たな標語も作成し、気持ちよく働けるよう呼びかけることができた。
- ③毎朝カウンター付近の清掃・整理整頓を行うことで、効率よく仕事ができるよう環境を整えた。感染予防として、毎日、手が触れる場所の消毒を徹底した。

リハビリ
テーショ
ン

- ①事務業務の効率化と働きやすい職場を整備するために、ICTを活用し、作業手順の見直しと業務の集約・簡素化を実施していく。それらの取り組みの実施状況について、係内で、その評価と改善を定期的に行っていく体制も整備していく。
- ②利用者への認知機能への刺激を促すために、リハビリ室において季節感のある飾り付け等を行い、四季を感じる音楽を流していく。また、デジタル機器を活用した映像や音楽による回想法のアプローチも実施できる環境を整備する。
- ③清潔感のあるリハビリ環境づくりを行っていくために、スタッフ内にて整理・整頓・清掃の役割分担を行い、定期的な点検を実施していく。

- ①リハビリ実施記録などにおいては、福祉見聞録の活用を継続している。また、業務内容のスタッフミーティングの場を週一回設け、利用者情報の情報を共有し、業務の集約に向けて動いている。取り組みの実施状況についてもスタッフミーティングの場で評価を実施している。
- ②季節感のある飾り付けについては、感染対策のため最低限の飾り付けとしている。リハビリ室屋外における野菜栽培については昨年同様実施できた。音楽については、八代亜紀のオンラインコンサートに向けての曲を流す一方で、季節感のある曲も流してきた。デジタル機器を活用した映像や音楽による回想法のアプローチについては、主にタブレットを使用して実施した。
- ③清潔感のあるリハビリ環境づくりを行っていくために、リハビリ終了後には掃除を実施し、定期的にリハビリ室内や物品倉庫等の整理整頓を実施した。

栄養給食	①労働災害防止のため、厨房内の危険箇所を示したポスターの掲示と毎月の係会議において厨房内の危険箇所の確認・共有を継続して行う。	①栄養係内のヒヤリハット事故防止担当者を中心に毎月の係会議において、厨房内の危険箇所の確認・共有を行った。また、会議内で確認・共有をした危険箇所を新たに追加した厨房内の危険箇所ポスター作成し、厨房と休憩室の2ヵ所に掲示を行った。それにより、今年度業務中の調理員の事故（転倒・骨折等）を防ぐことができた。
事務	①施設内外の修繕・劣化状況を軽微なものから固定資産にかかるものまで、確実に把握・情報収集できるよう整備していく。また、修繕・劣化・危険箇所がある際は、各部門から吸い上げ対応する仕組みを整え、快適な環境に整備する。	①施設内外の点検において、昨年度作成したチェックリストを使用し劣化・修繕箇所の把握を行った。さらに次年度には、定期的に施設内外の点検作業も業務の中に組み入れ確実に実施していく。また、新型コロナウイルス感染症予防対策の観点から、感染対策に必要な施設の整備を行い、入所者や職員が利用しやすく快適に過ごせる環境とすることを優先した。

令和3年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」短期入所療養介護利用実績

①短期入所療養介護利用実績

	実人数								延べ日数
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	
令和3年4月	0	3	7	12	11	11	6	50	526
令和3年5月	0	0	6	11	10	7	5	39	420
令和3年6月	1	0	5	10	11	10	5	42	451
令和3年7月	0	2	7	8	11	14	4	46	515
令和3年8月	0	1	8	8	14	11	6	48	549
令和3年9月	0	2	7	8	12	11	7	47	473
令和3年10月	0	1	6	9	12	12	5	45	446
令和3年11月	1	3	6	10	14	9	9	52	530
令和3年12月	1	1	7	9	17	9	8	52	535
令和4年1月	0	2	7	8	9	11	9	46	543
令和4年2月	0	1	5	9	13	10	8	46	473
令和4年3月	0	2	5	8	10	10	8	43	538
合計	3	18	76	110	144	125	80	556	5,999
前年度	(6)	(19)	(63)	(165)	(139)	(118)	(59)	(569)	(6,429)

②短期入所介護度年齢別状況

※〇内は前年度実績

		～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳～	合計
男性	要介護1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
	要介護2	0	0	1	0	2	1	2	1	0	7
	要介護3	0	0	0	0	3	3	3	1	0	10
	要介護4	0	1	0	0	1	5	1	0	0	8
	要介護5	1	0	0	1	1	2	0	2	0	7
	要支援1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	要支援2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	小計	1	1	1	1	8	11	10	4	0	37(42)
平均		5	4	2	5	3.14	3.73	2.22	3.75	0	3.26(2.9)
女性	要介護1	0	0	0	0	2	5	3	1	0	11
	要介護2	0	0	0	0	3	1	0	1	1	6
	要介護3	1	1	0	0	1	1	3	2	1	10
	要介護4	0	0	0	1	2	5	7	2	0	17
	要介護5	0	0	0	1	0	2	3	3	0	9
	要支援1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	要支援2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	小計	1	1	0	3	8	15	16	10	2	56(48)
平均		3	3	0	4.5	2.38	2.86	3.44	3.56	2.5	3.13(2.8)
合計		2	2	1	4	16	26	26	14	2	93(90)
平均		4	3.5	2	4.67	2.73	3.24	3	3.62	2.5	3.18(2.8)

③入所・短期入所療養介護合算実績

※〇内は前年度実績

	ロング		ショート		計		平均	
令和3年4月	959	(984)	526	(484)	1,485	(1,471)	49.5	(48.9)
令和3年5月	1,062	(972)	420	(555)	1,482	(1,508)	47.8	(49.2)
令和3年6月	991	(937)	451	(537)	1,442	(1,453)	48.0	(49.1)
令和3年7月	1,010	(936)	515	(582)	1,525	(1,536)	49.1	(48.9)
令和3年8月	986	(918)	549	(604)	1,535	(1,507)	49.5	(49.0)
令和3年9月	996	(870)	473	(602)	1,469	(1,470)	48.9	(49.0)
令和3年10月	1,078	(899)	446	(628)	1,524	(1,528)	49.1	(49.2)
令和3年11月	931	(884)	530	(573)	1,461	(1,469)	48.7	(48.5)
令和3年12月	994	(1,024)	535	(506)	1,529	(1,521)	49.3	(49.3)
令和4年1月	989	(1,127)	543	(413)	1,532	(1,519)	49.4	(49.6)
令和4年2月	922	(951)	473	(431)	1,395	(1,439)	49.8	(49.3)
令和4年3月	998	(1,001)	538	(514)	1,536	(1,527)	49.5	(48.8)
合計	11,916	(11,106)	5,999	(6,429)	17,915	(17,948)	49.1	(49.1)

令和3年度

医療処置一覧

西会津町介護老人保健施設「憩の森」短期入所療養介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処置人数	118	63	23	84	201	231	172	162	161	235	242	303
経管栄養者人数	11	7	12	7	26	15	18	20	17	16	16	13
PEG・Mチューブ交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
Hr.カテ挿入者人数	0	0	0	0	0	5	0	0	7	0	12	0
Hr.カテ交換	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
膀胱洗浄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
定期検査(採血・Bx-p・EKG)	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0
臨時検査	1	2	4	0	1	3	1	1	6	13	5	6
点滴 Div	1	10	4	3	2	17	4	12	3	20	21	27
抗生剤 iv	1	10	5	2	8	20	4	0	8	10	6	8
インスリン	2	3	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1
受診	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0

処置人数	1995件
経管栄養者人数	178件
PEG・Mチューブ交換	1件
Hr.カテ挿入者人数	24件
Hr.カテ交換	2件

膀胱洗浄	0件
定期検査(採血・Bx-p・EKG)	3件
臨時検査	43件
点滴 Div	124件
抗生剤 iv	82件
インスリン	9件
受診	2件

令和3年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町介護老人保健施設「憩の森」短期入所療養介護

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	2	0	0	0	0	0	2
	家族	0	0	0	0	0	0	1	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	2	0	0	0	0	1	3

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度(接遇)	2	0	0	0	0	1	3
サービスの質(内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	0	0	0	0	1	3

令和3年度

西会津町介護老人保健施設「憩の森」通所(予防)リハビリテーション事業所事業報告

1. 基本方針

運営規程及び平成27年1月に、町とにしあい福祉会が協働し共同公表した介護老人保健施設「憩の森」基本方針に則り、以下の重点目標に基づき事業を展開した。具体的な実施報告は、別紙の「実施報告」の通りである。

2. 通所定員

一日あたり20名。

3. 利用対象者

要支援1から要介護5までの認定を受けた者。

4. 重点目標

(1) 健康・健全経営への取り組み

健康経営の取り組みとして、係内において食生活改善の啓発活動を実施した。また、健全経営の取り組みとして、介護報酬改定についての勉強会を実施し、利用者や家族からの問い合わせに迅速に対応できるように体制を整備した。しかし、要支援利用者の円滑な利用循環については、体制を整備することが出来なかった。次年度以降には社会資源との連携を強化し体制を整備していく予定である。

(2) 在宅生活・在宅療養への積極的な支援と連携強化

居宅サービス担当者会議で、利用者自身の達成できる目標を確認し、事業所内カンファレンスにて多職種協働で計画書を作成・実施することが出来た。また、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、希望した利用者を対象に、デイケア利用時間内にてワクチン接種を実施した。

ICT（情報伝達技術）を活用し、利用者の在宅生活や環境を映像等にて情報共有できる環境を整備した。それにより、各関係機関と連携し、在宅生活・在宅療養支援に向けての協働アプローチが出来る体制を推進した。

(3) 職員の専門性の向上

キャリアパスに基づき職員研修計画を策定し、OJT・OFF-JTを推進することで、専門性・資質の向上が出来た。また、根拠に基づいた介護技術を導入するために、介護技術指導者向け研修会の伝達を係内にて実施し、骨粗鬆症による骨折を予防する介助方法や負担の少ない移乗介助の方法等の技術や知識を共有した。さらに、利用者を対象に集団体操・合同

レクリエーションと職員の接遇についてのアンケート調査を実施し、その調査を分析した研究成果を「憩の森」成果報告会で発表した。次年度には、研究成果を基に改善に取り組んでいく予定である。

(4) 環境の整備

ICT（情報通信技術）の活用として、福祉見聞録を利用した個別ケース記録業務の見直しを行った。その結果、個別ケース記録業務における事務作業の集約・簡素化が出来た。

コロナ感染症予防対策を踏まえた清潔な事業所作りとして、ソーシャルディスタンスに配慮し、感染予防パーテーションや仕切りを設置した。また、デイケア室と事務室の消毒や清掃を行う担当者を決めて、清潔で整理整頓された事業所作りを推進した。

令和3年度西会津町介護老人保健施設「憩の森」通所(予防)リハビリテーション 実施報告

(1) 健康・健全経営への取り組み

係・部門	実行計画内容	実施報告
デイケア	①健康で働くために、西会津町健康応援プログラムを活用し、職員同士健康に気遣う職場風土を作る。 ②要支援利用者の円滑な利用循環を促していくために、機能訓練事業等の社会資源との連携を強化する。 ③令和3年度介護報酬改定に対応するために、厚生労働省等の通知を把握し体制整備していく。	①西会津町健康応援プログラムの活用には至らなかったが、食生活改善のために、味噌汁に野菜などの具を多めに入れることや塩分を控えることなどを係内で啓発した。係内で傷病者や持病者がいる事から、職員同士体調確認を行いながら業務遂行することが出来た。 ②要支援利用者の評価を実施した結果、移行できる段階ではないため、機能訓練事業等の社会資源に繋げることが出来なかった。次年度は社会資源につなげられるように連携を強化していく。 ③4月の係会議で、介護報酬改定についての勉強会を実施した。また、改定された料金表をファイルに綴り閲覧できるようにし、利用者や家族からの問い合わせに迅速に対応できるように整備した。
リハビリテーション	①スタッフの健康づくりを推進していくために、西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を活用して、体調を管理し運動や食生活の改善に取り組む。また、継続のモチベーションを保つため、定期的に実施状況について確認し合う機会を設けていく。 ②令和3年度介護報酬改定にて、リハビリテーションマネジメント体制が報酬獲得の必須要件となったため、厚生労働省通知や全老健からの情報等を把握し、体制整備を行っていく。	①西会津こゆりちゃん健康ポイント手帳を用い、健康づくりに取り組んだ。ポイント手帳利用に関するオリエンテーションを実施し毎月1回のスタッフミーティング時に実施状況を確認する機会を設ける等の支援体制を作った。また、健康経営への取り組みを推進していくため、健康経営アドバイザー（東京商工会議所）の資格取得を推奨し2名の合格者を出した。 ②加算型報酬取得の要件であるリハビリ専門職配置割合の安定運用のため、取得条件を満たせる勤務体制を整備した。入退所前後訪問についても他職種と連携し実施した。また、厚生労働省通知や全老健からの情報等を把握し、スタッフミーティングの際に共有することにした。報酬改定情報を適時確認できるように、改定資料をまとめたファイルを設置し電子媒体の資料もパソコンにて閲覧できる体制とした。

栄養給食	①職員の食生活改善を促すため、毎月の職員会議で栄養だよりを配布し、健康で働くための食習慣について啓発していく。また、朝礼で定期的に栄養や食事に関する情報の発信を行っていく。 ②安全に業務が行えるよう、始業前・業務中・休憩中に簡単なストレッチを取り入れる。	①職員会議において、毎月ごとにテーマを決めて配布を行った。4月～8月については食事内容の基本的な摂り方を中心とした内容をテーマに、10月～12月については職員健康診断の結果を基に、より栄養素に焦点を絞ったテーマで「栄養だより」の作成を行った。朝礼での情報発信については、業務都合により参加職員が少ない為、カウンター周辺に職員会議で配布した「栄養だより」を掲示し、栄養に関する啓発を行った。 ②厨房入り口の検収室にストレッチのポスターを掲示し、始業前・業務中・休憩後に実施出来るように声がけや栄養係会議前にも体操の実施を行った。しかし、定着にはまだ至っていない為、次年度も継続していく。
事務	①職員が健康に働ける環境を整備するため、労働時間、年休取得状況を把握し速やかに報告・連携を図り、法令を順守した休暇取得を促進する。 ②介護報酬の適切な管理・回収を行う。また、利用料未納発生防止の仕組みをつくる。	①各職員の付与日や、取得実績を記載した一覧表を作成し、勤怠管理者に活用してもらう事で、法令を順守した休暇の促進をより計画的に実施できるようにした。実績や取得予定について毎月確認行い、勤怠管理者へ報告連絡を行う事で計画的な休暇の促進に繋げる事が出来た。 ②料金納入期日に回収できていない事例もあったが、未納を確認した時点で速やかに電話連絡を行い、翌月に必ず回収を行う事が出来た。通所利用者の場合、請求書を通所利用日に手渡ししているため、隔週利用されている方や、週1回のご利用でお休みされた場合は請求書をお渡しするのが遅くなり、納入が期日より遅れる傾向にあった。現金納入の方については、請求書を郵送し利用日に納入して頂く事で速やかな回収に繋げる事が出来た。契約担当者と連携し情報共有を行う事で利用料未納防止、早期解決に努める事ができた。

(2) 在宅生活・在宅療養への積極的な支援と連携強化

係・部門	実行計画内容	実施報告
デイケア	①在宅生活の継続を支援していくために、生活目標が達成できるようサービス内容を精査し、作成した個別計画に基づき実施する。 ②利用者の体調や生活環境に変化が見られた場合は、家族、各関係機関と情報共有し、対応方法を協議し支援していく。	①居宅サービス担当者会議で、利用者自身の達成できる目標を確認し、事業所内カンファレンスにて多職種協働で計画書を作成・実施することが出来た。さらに、次年度の課題は、利用者の医療面や栄養面を含めた多角的な視点の計画書を作成していく。 ②利用時に湿疹や発赤があった方や自宅で転倒し表皮剥離が出来た方の写真を撮り主治医に報告した。合わせて指示内容を担当介護支援専門員に連絡し在宅でのケアにつなぐことが出来た。また、新型コロナウイルス感染症予防対策のため西会津診療所看護師および憩の森入所看護師に依頼し、希望した利用者を対象に、デイケア利用時間内にてワクチン接種を実施した。その結果、ご利用者本人とご家族の負担軽減にもつながり喜ばれた。
リハビリテーション	①各関係機関・専門職と在宅復帰・在宅療養を意識した協働アセスメントや情報共有を行うために、ICT（情報通信技術）を活用し、利用者の在宅生活や環境を映像等にて確認できる体制を整備する。 ②個別リハビリプログラムと在宅リハビリプログラムの効果的な連動を行っていくために、在宅リハビリプログラムを体系的に整備し、画像により根拠を示した分かりやすい内容に再編する。また、適時、在宅訪問を行うことで住環境と福祉用具を評価し、指導助言を実施していく。 ③憩の森「基本方針」に基づき、地域におけるリハビリ体制を支援するために、町の事業である訪問看護事業所リハ	①ICTを活用し、利用者の在宅生活や環境を映像等にて確認できる体制を整備した。各関係機関と写真や動画等を用いて適宜住環境や身体機能についての情報共有を行った。また、外部訪問看護事業所と連携し、在宅生活支援・在宅療養を意識した協働アプローチを実施した。 ②在宅訪問時に住環境や福祉用具について、助言指導を実施した。在宅リハビリプログラム体系化については、車椅子レベルや歩行自立レベル等に合わせたプログラムや下肢筋力やストレッチ等の目的別にしたプログラムを作成し、サービス提供を実施した。 ③訪問看護事業所リハビリ、機能訓練事業、地域リハビリ活動支援等に参画し、町憩の森の定期連絡会議で成果を例月報告している。

	ビリ、機能訓練事業、地域リハビリ活動支援事業等に参画し協力していく。	
栄養給食	①在宅生活が継続できるために、根拠に基いた指導に加え、市販品の活用や簡単にできる調理方法の提案・紹介等、各関係機関と連携して栄養・食事指導を行う。	①診療所の医師と連携し、受診時の状況から食事生活について本人・その家族からの聞き取りを行い、サービス利用時に栄養指導及び助言を行った。また、食生活上の問題点についてはデイケア職員・居宅ケアマネージャーと情報共有を行った。
事務	①即座に利用者の情報を把握するために、通所検討会資料等を確認する。	①通所検討会資料や、基本情報シートの定期的な確認を行い、新規ご利用前に利用者情報を把握する事ができた。しかし、業務において円滑な情報収集までは至っていない為、今後も情報収集を継続し、スムーズな連携と収納業務に活かしていく。

(3) 職員の専門性の向上

係・部門	実行計画内容	実施報告
デイケア	①認知症ケアの向上のために、センター方式アセスメントシートを活用し、本人のニーズや病状の評価に基づいたケアを実践していく。 ②根拠に基づいた介護を実践して行くために、係内で介護技術指導研修会に沿った勉強会を行うことで、技術や知識を共有し、質の高いサービスが出来るように実施していく。 ③集団体操や合同レクリエーションにおける利用者の満足度の向上を図っていくために、その調査と分析を実施し研究成果としてまとめ、プログラム内容の改善に活かしていく。また、研究成果については発表出来る機会を設けていく。	①センター方式シートB-3（暮らしの情報、私の暮らし方シート）とD-1（焦点情報、私が出来ること、出来ない事シート）を活用し、本人の趣向や馴染の物等を把握した。その結果、認知症利用者が不穏となった際に、把握していた馴染の品を身に付けてもらったところ、落ち着つかれ不穏な症状が軽減した事例もあった。 ②介護技術指導者向け研修会の伝達勉強会を係内にて実施し、骨粗鬆症による骨折を予防するケア、身体に負担のかからない移乗介助についての技術や知識を共有することが出来た。 ③新型コロナウイルス感染症予防対策を実施しながら、利用者各自で出来る塗り絵や間違いさがし等の合同レクリエーションや棒体操等を実施した。また、全国ふれあい短歌大会に利用者4名が応募できたことやクリスマスツリーの飾りつけに用いる電飾張子を作成し

		て西会津町ふるさと祭りに出品する等の活動も行った。それらの取り組みを踏まえ、利用者に、集団体操・合同レクリエーションおよび職員の接遇についてのアンケート調査と研究を行った。研究については全国老健大会で取り組んだ内容を発表する機会は無かったが、「憩の森」事業成果報告会で発表することができた。しかし、研究によるプログラム内容の改善には至っておらず、次年度に調査研究を基に改善に取り組んでいく。
リハビリテーション	①質の高いサービスに向け、在宅生活支援において的確な助言と医学的根拠のあるリハビリを実施していくために SDS（自己啓発援助制度）・Off-JT への支援体制の中、職業団体の研修等へ参加し専門技術の習得に励む。また係内において研修等にて習得したリハビリ技術を伝達していただける勉強会を開催して係全体の技術力向上に取り組む。 ②転倒予防体操、介護予防運動器機能向上訓練における満足度向上のために、今までの調査と分析の結果を下に、認知機能維持に効果があるとされるデュアルタスク（認知課題と運動課題を同時に行う）の要素を取り入れたプログラムの改善を行っていく。また、改善における満足度の効果についても、実証研究を行い、発表できる機会を設けていく。 ③自立支援型地域ケア会議やカンファレンスにおいて的確な助言を実施していくために、係内の SDS・Off-JT への支援体制の中、職業団体の研修等へ参加していく。	①新型コロナウイルス感染症対策のため、各種団体の研修・学会等にはオンライン研修にて参加した。（日本理学療法士協会・生涯学習制度に関わる研修等）オンライン研修が増加しているため、ZOOM アプリ（オンライン会議ソフト）を使用した情報共有や情報発信の勉強会を行い、接続方法の確認等も実施した。係内の勉強会については、栄養リハビリやリハビリマネジメント等のテーマにて実施した。 ②転倒予防体操や介護予防運動器機能向上訓練の際に認知機能維持に効果があるとされるデュアルタスク（認知課題と運動課題を同時に行う）の要素を取り入れたプログラムを実施した。プログラム改善における満足度の調査研究（概ね昨年度同様の満足度であった）については、「憩の森」事業成果報告会で発表を行った。 ③自立支援型地域ケア会議への参画や助言に向けた研修については、新型コロナウイルス感染症の影響のため、当初参加予定であった研修が延期となった。職業団体の研修については、オンラインにて各自、参加し、映像を保存したものを後日、視聴できるような体制を整えた。

栄養給食	①知識・技術の向上と係内のチームワークの醸成を図るため、給食献立や介護食等の料理・レシピコンテストへ係全体で取り組み、参加する。 ②根拠に基づいた栄養管理(EBM)を実践していくため、SDS(自己啓発援助制度)を活用して職業団体の研修等に参加し、食事摂取基準や栄養に関する各種ガイドラインの理解を深める。	①既製品のソフト食を活用した介護食レシピコンテストに9月に参加した。担当調理員を中心に係内全体でレシピの案を募集し、試作等を行ったことで、調理方法や盛り付けについて改めて考える良い機会となった。 ②対象となる研修の開催が無かった為、SDS(自己啓発援助制度)を活用した研修の参加は実施できなかった。しかし、自己研鑽としてオンラインで行われた各種栄養・食事に関する研修会(高齢者の栄養管理、食品成分表2020の活用、嚥下調整食学会分類2021の活用等)を受講し、理解を深めることはできた。
事務	①社会福祉会計簿記の知識向上のため、キャリアパスに基づいた研修会に参加し、社会福祉会計簿記初級取得を目指す。	キャリアパスに基づいた研修会である、「社会福祉法人・施設会計実務研修会」に参加し、会計の基礎から決算までの知識を習得することができた。また、「社会福祉会計簿記初級」認定試験に合格することができたため、今後の業務に活かしていく。

(4) 環境の整備

係・部門	実行計画内容	実施報告
デイケア	①働きやすい職場作りのために、思いやりや感謝の気持ちを持ちお互い認めあい、伝え合う機会を会議等で設けていく。 ②事務効率化を行うために、ICT(情報通信技術)を活用し、作業手順の見直しと業務の集約・簡素化を実施していく。 ③清潔感のある事業所作りを行っていくために、整理・整頓・清掃を常に心がけ実施していく。	①普段から職員同士が思いやりや感謝の気持ちを認め合うことを啓発してきた。また、年度末の「憩の森」成果報告会において、職員同士が感謝の気持ちを伝え合う機会を設けた。そのことが利用者への思いやりのある配慮やケアの向上にも波及し、接遇の向上にもつながることができた。 ②ICT(情報通信技術)の活用として福祉見聞録を利用した個別ケース記録業務の見直しを行った。その結果、個別ケース記録業務における事務作業の集約・簡素化を図ることができ、業務時間の軽減につながった。

		③コロナ感染症予防対策を踏まえた清潔な事業所作りとして、デイケア室とデイケア事務所のテーブルやソファを、ソーシャルディスタンスに配慮したレイアウトに変更し、感染予防パーテーションや仕切りを設置した。また、デイケア室と事務室の消毒・清掃を行う担当者を決めて、清潔で整理整頓された事業所作りを推進した。
リハビリ テーショ ン	①事務業務の効率化と働きやすい職場を整備するために、ICTを活用し、作業手順の見直しと業務の集約・簡素化を実施していく。それらの実施状況について、係内で、その評価と改善を定期的に行っていく体制も整備していく。 ②利用者の認知機能への刺激を促すために、リハビリ室において季節感のある飾り付け等を行い、四季を感じる音楽を流していく。また、デジタル機器を活用した映像や音楽による回想法のアプローチも実施できる環境を整備する。 ③清潔感のあるリハビリ環境づくりを行っていくために、スタッフ内にて整理・整頓・清掃の役割分担を行い、定期的な点検を実施していく。	①事務効率化のためのICTの導入については、評価用紙の電算化や福祉見聞録を利用した記録管理体制を整え、実施している。定期的な評価と改善については、その都度実施しており、システム面の問題があれば管理業者来所時に相談している。 ②季節感のある飾り付けについては、感染対策のため最低限の飾り付けとしている。リハビリ室屋外における野菜栽培については昨年同様実施できた。音楽については、八代亜紀のオンラインコンサートにて歌われた曲を流す一方で季節感のある曲も流してきた。デジタル機器を活用した映像や音楽による回想法のアプローチについては、主にタブレットを使用して実施した。 ③清潔感のあるリハビリ環境づくりを行っていくために、リハビリ終了後には消毒・掃除を実施し、定期的にリハビリ室内や物品倉庫等の整理整頓を実施した。
栄養給食	①労働災害防止のため、厨房内の危険箇所を示したポスターの掲示と毎月の係会議において厨房内の危険箇所の確認・共有を継続して行う。	①栄養係内のヒヤリハット事故防止担当者を中心に毎月の係会議において、厨房内の危険箇所の確認・共有を行った。また、会議内で確認・共有をした危険箇所を新たに追加した厨房内の危険箇所ポスター作成し、厨房と休憩室の2ヵ所に掲示を行った。それにより、今年度業務中の調理員の事故（転倒・骨折等）を防ぐことができた。

事務	①施設内外の修繕・劣化状況を軽微なものから固定資産にかかるものまで、確実に把握・情報収集できるよう整備していく。また、修繕・劣化・危険箇所がある際は、各部門から吸い上げ対応する仕組みを整え、快適な環境に整備する。	①施設内外の点検において、昨年度作成したチェックリストを使用し劣化・修繕箇所の把握を行った。さらに次年度には、定期的に施設内外の点検作業も業務の中に組み入れ確実に実施していく。また、新型コロナウイルス感染症予防対策の観点から、感染対策に必要な施設の整備を行い、通所者や職員が利用しやすく快適に過ごせる環境とすることを優先した。
-----------	---	--

①通所リハビリテーション利用実績

(令和4年3月31日現在)

項目 月	開所日数	実 績 人 員			実 人 数	1日平均 利用者人数
		男 性	女 性	合 計		
4月	25	214	260	474	103	19
5月	12	90	120	210	102	17.5
6月	25	182	244	426	106	17
7月	25	200	262	462	106	18.5
8月	24	177	236	413	101	17.2
9月	24	190	248	438	101	18.3
10月	26	201	282	483	98	18.6
11月	24	181	245	426	102	17.8
12月	24	178	247	425	99	17.7
1月	23	152	224	376	97	16.3
2月	22	153	246	399	98	18.1
3月	26	179	275	454	93	17.5
合 計	280	2097	2889	4986		
平 均						17.8

②介護度別利用状況

(令和4年3月31日現在)

	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
男	0	7	14	6	5	2	2	36
女	9	16	20	6	5	1	0	57
計	9	23	34	12	10	3	2	93

③通所リハビリテーション年齢内訳

(令和4年3月31日現在)

年 齢	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	合 計
男性	6	3	2	11	6	8	36
女性	3	7	4	11	18	14	57
合計	9	10	6	22	24	22	93
比率(%)	9.6%	10.7%	6.4%	23.7%	25.9%	23.7%	100%

男 性	80.3 歳	最高 95歳	最低 54歳
女 性	87.2 歳	最高 100歳	最低 57歳
平 均	83.8 歳		

④通所リハビリテーション地区別年間通所者実人数

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

性 別	野 沢	尾野本	群岡	新郷	奥川	合計
男性	30	20	9	11	21	91
女性	36	30	15	8	10	99
合 計	66	50	24	19	31	190

令和3年度行事食一覧表

西会津町介護老人保健施設 憩の森 通所リハビリテーション

実施日	行事食名	行事食内容	実施日	行事食名	行事食内容
4月	22日 ①お花見御膳	春の散らし寿司、吸い物、桜海老の天ぷら、里芋の春菊和え	12月	23日 ⑮クリスマス御膳	クリスマス散らし寿司、洋風スープ煮、チキン豆腐団子、芋サラダ
	29日 ②昭和の日	御飯、こづゆ、魚の煮つけ、クルミの白和え		31日 ⑯大晦日	年越しそば、かき揚げ、菜花となめこのお浸し
5月	3日 ③憲法記念日	御飯、さくさく、魚のくずあんかけ、春菊とりのりのお和え	R4 1月	1日 ⑰元旦	御飯、くずし豆腐、伊達巻、五目豆、鯛味噌 春の散らし寿司、雑煮風煮物、紅白なます、インゲンの胡麻味噌和え 御飯、味噌汁、魚の西京焼き、きんとん
	4日 ④みどりの日	赤飯、味噌汁、魚の山椒焼き、ポテトの味噌炒め		2日 ⑱正月献立	御飯、カニのスープ、松風焼き、マカロニサラダ
	5日 ⑤こどもの日	山菜寿司、あさりの潮汁、魚のフライ、ブロッコリーと海老のマヨネーズ		3日 ⑳正月献立	御飯、味噌汁、三日とろろ、ごぼうの卵とじ 御飯、七福神イモ雑煮、豆腐ハンバーグ胡麻ソース、錦なます
	21日 ⑥御田植御膳	十五穀米御飯、新じゃがと桜エビのスープ、筑前煮、アスパラの和え物		10日 ㉒成人の日	赤飯、芋の子汁、魚のおろし煮、キャベツの酢の物
6月	7日 ⑦さなぶり御膳	中華おこわ、吸い物、鱈の桜エビフリッター、ふきとうどの油炒め		15日 ㉓小正月御膳	おはぎ、こづゆ、棒たらの甘露煮、かずのこ豆
7月	7日 ⑧七夕御膳	冷やしそうめん、薬味、精進揚げ、奴豆腐、七夕ポンチ		2日 ㉔節分	大豆御飯、味噌汁、白身魚の味噌あんかけ、おさつサラダ
	19日 ⑨海の日	炊き込みチャーハン、わかめスープ、焼き餃子、青菜のおひたし		11日 ㉕建国記念日	赤飯、こづゆ、煮魚、かぶの香り漬け
8月	13日 ⑩お盆入り	御飯、吸い物、精進揚げ、天つゆ、クルミの白和え	2月	14日 ㉖バレンタイン	とろっとオムライス、コンソメジュリアン、ヨーグルトサラダ
	15日 ⑪終戦記念日	赤飯、こづゆ、煮魚、揚げ出し豆腐の枝豆あん		23日 ㉗天皇誕生日	桜御飯、なめこ汁、魚の香味ソースがけ
9月	20日 ⑫敬老の日	赤飯、かき卵汁、魚の照り焼き、マカロニの味噌ソースかけ		3日 ㉘ひなまつり	ひな祭り寿司、吸い物、魚の木の芽焼き、菜花のなめこのおひたし
	21日 ⑬秋彼岸	おはぎ、こづゆ、魚の酒粕焼き、ほうれん草と菊のくるみお和え		18日 ㉙彼岸入り	おはぎ、こづゆ、魚の生姜煮、鶏ササミマリネ
	23日 ⑭秋分の日	御飯、すまし汁、天ぷら盛、天つゆ、豆腐とえびの煮物	3月	21日 ㉚春分の日	赤飯、吸い物、揚げ豆腐と野菜あんかけ、おさつサラダ
10月	16日 ⑮秋の味覚御膳	赤飯、吸い物、魚の照り焼き、秋野菜サラダ			
11月	23日 ⑯勤労感謝の日	赤飯、味噌汁、魚の山椒焼き、ポテトの味噌炒め			
	24日 ⑰そば会	新そば、かき揚げ、菊入なます			

令和3年度給食栄養実績年計表

西会津町介護老人保健施設 憩の森 通所リハビリテーション

	1ヶ月	1食平均	1か月	1食平均	エネルギー	蛋白質	脂質	炭水化物	カルシウム	鉄	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンC	食物繊維	塩分	
	食数	食数	購入金額 (円)	食料費 (円)	kcal	g	g	g	mg	mg	μg	mg	mg	mg	g	g
4月	501	20	154,453	328	468	20.0	9.8	68.5	173	3.5	161	0.55	0.35	31	4.40	2.40
5月	216	18	132,325	641	478	18.5	12.4	68.3	178	3.5	163	0.45	0.34	30	4.70	2.70
6月	439	17	144,694	374	476	18.9	11.7	67.8	171	3.4	134	0.49	0.32	30	4.50	2.70
7月	472	19	158,849	338	498	19.6	12.7	70.9	181	3.5	142	0.52	0.33	34	5.00	2.70
8月	433	19	158,849	412	600	25.0	18.8	79.1	388	3.3	212	0.54	0.61	31	4.60	3.00
9月	435	18	148,171	377	590	27.0	17.9	75.3	393	3.7	257	0.55	0.64	30	4.70	2.70
10月	499	19	161,259	367	697	30.9	25.1	82.9	551	3.9	321	0.58	0.85	29	4.60	3.10
11月	441	18	159,466	407	611	25.0	19.4	80.2	393	3.8	263	0.56	1.17	38	5.00	3.00
12月	429	18	161,109	427	627	26.8	19.6	83.0	403	3.7	268	0.55	0.71	33	5.20	2.90
令和4年 1月	397	17	129,998	367	615	28.3	18.0	79.9	987	3.8	233	0.56	0.65	31	4.80	3.20
2月	407	19	132,882	370	615	26.2	19.5	80.5	409	3.3	244	0.54	0.63	31	3.30	4.80
3月	463	19	149,391	362	606	26.4	18.7	80.0	411	3.5	251	0.56	0.67	36	3.30	4.90
合計	6,132		1,777,161		6,275	266	184.9	836.4	4,227	39	2,398	5.89	6.6	348	51	33
	平均				目標値											
	427.7	18	148,097	346	580	21	14.5	82.5	240	4.0		0.48	0.40	40	9.00	3.20
					平均値											
					523	22.2	15.4	69.7	352	3	200	0.5	0.58	29	4.25	2.75

令和3年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町介護老人保健施設「憩の森」通所リハビリテーション

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度(接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質(内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

令和3年度 社会福祉法人にしあい福祉会
西会津町地域ふれあいセンター居住部門事業報告

〈事業報告〉

西会津町地域ふれあいセンター条例及び管理運営に関する規則に基づき、高齢のため、居宅において生活することに不安のある者に対し、介護支援機能や居宅機能及び、交流機能を総合的に提供し、利用者が安心して生活を送れるよう支援し、健康で明るくそして自分らしく過ごせるよう、高齢者の福祉を図るよう努めた。

〈重点事項〉

(1) 利用者の生活支援

- ・冬期間、居宅において生活することが困難な高齢者に対し住居を提供し、自立支援を踏まえた適切な援助を行うよう努めた。
- ・入居者の方が快適な生活を営めるよう、毎週水曜日には町内のスーパーへの買い物の送迎や、生活用品や食料品の代理購入等を行った。また、隔週月曜日には移動販売の手配をし、足が不自由でスーパーに行くことができない入居者においても、実際に自分で品物を見て買い物する事ができ、大変喜ばれた。

(2) 異常の早期発見と緊急時の連絡体制の強化

- ・毎日朝と夕方の居室訪問の際には、入居者の検温の実施と健康状態の聞き取りを行い、異状の早期発見に努めた。また、普段から業務日誌や申し送りノートを活用し、入居者の状態について職員間で情報共有を行い、有事に備えることができた。
- ・緊急時に適切に対応できるよう業務マニュアルを作成し、常勤職員が不在となる夜間や休日においても迅速に対応できるよう努めた。また、有事の際にすぐに家族に連絡が取れるよう入居時の聞き取りを強化するとともに、各関係機関にも普段から入居者の様子について情報提供を行った。

(3) 生活環境及び施設整備

- ・入居者が快適に生活できるよう施設内の美化に努めるとともに、年々高齢化している入居者の身体状況に合わせ共同浴室への手すりの設置等、安心して生活できるよう対応した。
- ・施設内感染防止では、職員全体で感染症に関する正確な知識を持ち、感染防止に努めた。

令和3年度社会福祉法人にしあいづ福祉会
西会津町地域ふれあいセンター事業報告

月	日	地域ふれあいセンター利用状況・事業報告
4	1 6 7 8 9 11 17 18 26 28 29 30	辞令交付式 サービス調整会議 サービス連携会議 事務会議 職員会議〔デイサービスセンター・GH合同〕 退居者1名 退居者1名 退居者1名 退居者1名 事務局会議 退居者1名 退居者1名
5	6 12 13	事務会議 サービス連携会議 職員会議〔デイサービスセンター・GH合同〕
6	2 3 9 16 22 24	サービス連携会議 事務会議 職員会議〔デイサービスセンター・GH合同〕 評議員会・理事会 エレベーター点検 事務局会議
7	1 1 7 9 29	辞令交付式 事務会議 サービス連携会議 職員会議〔デイサービスセンター・GH合同〕 事務局会議
8	3 4 5 11 26	エレベーター点検 サービス連携会議 事務会議 職員会議〔デイサービスセンター・GH合同〕 事務局会議
9	2 8 8 30	事務会議 サービス連携会議・事務会議 職員会議〔デイサービスセンター・GH合同〕 事務局会議
10	5 6 7 13 28	サービス調整会議 サービス連携会議 事務会議 職員会議〔デイサービスセンター・GH合同〕 事務局会議

月	日	地域ふれあいセンター利用状況・事業報告
11	2 4 8 10 10 15 21 23 25 27 28	サービス調整会議 事務会議 エレベーター点検 サービス連携会議 職員会議〔デイサービスセンター・GH合同〕 支援ハウス職員オリエンテーション 入居者 2名 入居者 1名 事務局会議 入居者 1名 入居者 1名
12	8 8 9 9 13 23 27	サービス連携会議 理事会 事務会議 職員会議〔デイサービスセンター・GH合同〕 移動販売 事務局会議 移動販売
1	4 7 12 12 14 27	仕事始め 事務会議 サービス連携会議 職員会議〔デイサービスセンター合同〕 入居者 1名 事務局会議
2	2 4 7 9 21 25	サービス連携会議 事務会議 移動販売 職員会議〔デイサービスセンター・GH合同〕 移動販売 事務局会議
3	2 3 9 9 24 29	サービス連携会議 事務会議 理事会 職員会議〔デイサービスセンター・GH合同〕 事務局会議 評議員会

○利用者の買い物援助を毎週水曜日、受診援助は必要に応じて行った。
〔受診援助は西診の場合に限り〕

令和3年度 地域ふれあいセンター居住部門利用状況

1・年齢内訳 【月初日現在】

単位：人

		男				小計	女				小計	合計
		66~70	81~85	86~90	91以上		81~85	86~90	91~95	96以上		
4月		0	0	2	0	2	0	1	3	0	4	6
5月		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
8月		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月		0	1	1	0	2	1	1	0	1	3	5
1月		0	1	1	0	2	1	1	0	1	3	5
2月		0	1	2	0	3	1	2	0	1	4	7
3月		0	1	2	0	3	1	2	0	1	4	7
合 計		1	4	8	0	13	4	7	3	4	18	31

月平均利用者数(前年度)：6.0名(8.0名)

2・介護度別利用 【月初日現在】

単位：人

		男				小計	女				小計	計
	自立	事業	要支援2	要介護4	事業		要支援1	要支援2	要介護1			
4月	1	1	0	0	2	0	0	3	1	4	6	
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
7月	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
12月	1	0	1	0	2	0	1	2	0	3	5	
1月	1	0	1	0	2	0	1	2	0	3	5	
2月	1	0	1	1	3	0	2	2	0	4	7	
3月	1	0	1	1	3	0	2	2	0	4	7	
合計	5	1	4	3	13	0	6	11	1	18	31	

3・入居の状況 【月初日現在】

単位：人

	～3ヶ月以内	4～6ヶ月以内	7～12ヶ月以内	1年以上	計
男	1	3	0	0	4
女	4	3	0	0	7
計	5	6	0	0	11

4・退居状況 【月末現在】

単位：人

	男					小計	女					小計	計
	自宅	入院	死亡	その他	自宅		入院	死亡	その他				
4月	2	0	0	0	2	3	0	0	1	4	6		
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
7月	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	2		
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
合 計	3	0	0	0	3	4	0	0	1	5	8		

令和3年度苦情受付・解決状況

事業所名：高齢者生活支援ハウス

なし

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度(接遇)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質(内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0